

千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書 XXI

— 印旛村向辺田遺跡 —

平成21年3月

独立行政法人都市再生機構千葉地域支社
千葉ニュータウン事業本部

財団法人 千葉県教育振興財団

千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書 XXI

- 印旛村 向辺田遺跡 -



序 文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを目的とし、昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第621集として、独立行政法人都市再生機構千葉地域支社の千葉北部地区新住宅市街地開発事業に伴って実施した印旛村向辺田遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代の石器をはじめ、縄文時代、弥生時代、奈良・平安時代の住居跡や近世野馬土手・猪垣が検出されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。この報告書が学術資料として、また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成21年3月

財団法人千葉県教育振興財団

理 事 長 福 島 義 弘

凡　　例

- 1 本書は、独立行政法人都市再生機構による千葉北部地区新市街地造成整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県印旛郡印旛村造谷字堀尻238ほかに所在する向辻田遺跡（遺跡コード CN-713）である。
- 3 発掘調査から報告書刊行に至る業務は、独立行政法人都市再生機構（住宅・都市整備公団、さらに都市基盤整備公団から名称変更）の委託を受け、財團法人千葉県教育振興財団（旧財團法人千葉県文化財センター）が実施した。
- 4 発掘調査および整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、第1・2章を高橋博文、第3章第2節1～3を宮 重行、以上のほかを田形孝一が行い、香取正彦が編集を担当した。
- 6 発掘調査から報告書刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、独立行政法人都市再生機構千葉地域支社千葉ニュータウン事業本部及び印旛村教育委員会の御指導、御協力を得た。
- 7 石材については、（有）考古石材研究所 柴田 徹氏の鑑定を得た。
- 8 本書で使用した地図は、下記のとおりである。

第1図 國土地理院発行 1/50,000地形図「小林」(NI-54-19-14-3)

第2～6図 本埜村役場発行 1/2,500 本埜村都市計画基本図

- 9 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。
- 10 本書で使用した座標値は、旧日本測地系に基づく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北である。
- 11 本書で使用した遺構番号の略号は、以下のとおりである。なお、発掘調査時は、遺構番号は通し番号とし、略号は付けずに実施した（第2表参照）。

S I : 竪穴住居跡 S K : 土坑・陥穴・炉穴 S D : 構造遺構

S M : 塚 S A : 野馬土手・猪垣

- 12 図面等におけるスクリーントーンおよび記号等の凡例はそれぞれに明示した。

遺構 炉・焼土



カマド・山砂



遺物 炭化物



本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の経緯と経過	1
1 調査の経緯と経過	1
第2節 遺跡の位置と環境	2
1 遺跡の地理的環境	2
2 遺跡周辺の歴史的環境	2
第3節 調査の方法と概要	2
第2章 旧石器時代	12
第1節 概要	12
第2節 基本層序	12
第3節 遺構と遺物	13
1 集中地点	13
2 単独出土	50
第3章 繩文時代	66
第1節 遺構	66
1 壺穴住居跡	66
2 炉穴	66
3 陷穴	70
第2節 遺物	75
1 遺構出土土器	75
2 遺構外出土土器	78
3 土製品	88
4 石器	89
第4章 弥生時代	102
第1節 遺構	102
1 壺穴住居跡	102
第2節 遺物	114
1 土器	114
2 土製品	123
3 石製品	123
第5章 古墳時代	130
第1節 遺構	130
1 壺穴住居跡	130
第6章 奈良・平安時代	132

第1節 遺構	132
1 堪穴住居跡	132
2 土壙墓	136
第2節 遺物	139
1 遺構出土遺物	139
第7章 中・近世	148
第1節 遺構	148
1 土坑	148
2 溝状遺構	159
3 塚	169
4 野馬土手・猪垣	171
第2節 遺物	178
第8章 おわりに	189
報告書抄録	

挿図目次

第1図 周辺地形図 (1/25,000)	3
第2図 遺跡地形図・調査範囲・大グリッド設定図	4
第3図 小グリッド配置図 (1/1,000)	5
第4図 上層確認トレンチ・上層本調査範囲図	6
第5図 下層確認トレンチ・下層本調査範囲図	7
第6図 野馬土手・猪垣配置図	8
第7図 上層遺構位置図 (1)	9
第8図 上層遺構位置図 (2)	10
第9図 基本層序	12
第10図 石器集中1出土状況 (器種・石材別)	14
第11図 石器集中1出土石器	15
第12図 石器集中2出土状況 (器種・石材別)	16
第13図 石器集中2出土石器	17
第14図 石器集中3出土状況 (器種・石材別)	18
第15図 石器集中3出土石器	19
第16図 石器集中4出土状況 (器種・石材別)	20
第17図 石器集中4出土石器	21
第18図 石器集中5出土状況 (器種別)	22
第19図 石器集中5出土状況 (石材別)	23
第20図 石器集中5出土石器	24
第21図 石器集中6出土状況 (器種別)	25
第22図 石器集中6出土状況 (石材別)	26
第23図 石器集中6出土石器 (1)	27
第24図 石器集中6出土石器 (2)	28
第25図 石器集中7出土状況 (器種・石材別)	29
第26図 石器集中7出土石器	30
第27図 石器集中8出土状況 (器種別)	31
第28図 石器集中8出土状況 (石材別)	33
第29図 石器集中7・8・9間の石器接合状況	35
第30図 石器集中8出土石器 (1)	36
第31図 石器集中8出土石器 (2)	37

第32図	石器集中8出土石器（3）	38		土）	81
第33図	石器集中8出土石器（4）	39	第60図	遺構外出土縄文土器（4）（グリッド出土）	83
第34図	石器集中8出土石器（5）	40	第61図	遺構外出土縄文土器（5）（グリッド出土）	84
第35図	石器集中9出土状況（器種・石材別）	41	第62図	遺構外出土縄文土器（6）（グリッド出土）	85
第36図	石器集中9出土石器（1）	42	第63図	遺構外出土縄文土器（7）（グリッド出土）	87
第37図	石器集中9出土石器（2）	43	第64図	縄文時代土製品	88
第38図	石器集中9出土石器（3）	44	第65図	遺構出土石器	90
第39図	石器集中10出土状況（器種・石材別）	45	第66図	遺構外出土石器（1）	91
第40図	石器集中10出土石器	46	第67図	遺構外出土石器（2）	92
第41図	石器集中11出土状況（器種・石材別）	47	第68図	遺構外出土石器（3）（縛）	93
第42図	石器集中11出土石器	48	第69図	SI048	103
第43図	石器集中12出土状況（器種・石材別）	49	第70図	SI049	104
第44図	石器集中12出土石器	50	第71図	SI050	105
第45図	単独出土状況（器種・石材別）（1）	51	第72図	SI051・052	106
第46図	単独出土状況（器種・石材別）（2）	52	第73図	SI053	108
第47図	単独出土状況（器種・石材別）（3）	53	第74図	SI059・060	109
第48図	単独出土石器（1）	54	第75図	SI061	111
第49図	単独出土石器（2）	55	第76図	SI064	112
第50図	SI066	67	第77図	SI065・068	113
第51図	炉穴（SK100・101・118・120）	68	第78図	SI048～051出土土器	115
第52図	炉穴（SK119）	69	第79図	SI052・053出土土器	117
第53図	陥穴（SK001～003・008・041～043）	71	第80図	SI059～061出土土器	119
第54図	陥穴（SK046・106・108・112・113）	73	第81図	SI064出土土器	121
第55図	SI066出土土器	76	第82図	SI065・068およびグリッド出土土器	122
第56図	炉穴（SK101・119・120）、陥穴（SK046・108・113）出土土器	77	第83図	弥生時代土製品	122
第57図	遺構外出土縄文土器（1）（別時代遺構出土）	78	第84図	弥生時代石製品（1）	124
第58図	遺構外出土縄文土器（2）（グリッド出土）	80	第85図	弥生時代石製品（2）	125
第59図	遺構外出土縄文土器（3）（グリッド出		第86図	SI069	131

第91図	SK011・015	138
第92図	SI012・014出土遺物	139
第93図	SI013出土遺物	141
第94図	SI062出土遺物	142
第95図	SI063出土遺物	143
第96図	SK011・015出土遺物	144
第97図	土坑（1）(SK010・016～022)	149
第98図	土坑（2）(SK021～024・027～040)	151
第99図	土坑（3）(SK026・044・045・058)	152
第100図	土坑（4）(SK054～056・067・075～077・081・082)	153
第101図	土坑（5）(SK057・070～074・103・104)	155
第102図	土坑（6）(SK078～080)	156
第103図	土坑（7）(SK083～093)	157
第104図	土坑（8）(SK094～099・102・105・107・115・117)	158
第105図	SD025	161
第106図	SD004（1）	162
第107図	SD004（2）	163
第108図	SD005	164
第109図	SD006	165
第110図	SD007	166
第111図	SD009	167
第112図	SD110・114	168
第113図	SM047（塚）	170
第114図	野馬土手・猪垣地形図	179
第115図	野馬土手・猪垣（1）(N1・3・5区)	180
第116図	野馬土手・猪垣（2）(N4区)	181
第117図	野馬土手・猪垣（3）(N6～8・10・11区)	182
第118図	野馬土手・猪垣（4）(N2・6・9区)	183
第119図	野馬土手・猪垣（5）(N6区)	184
第120図	野馬土手・猪垣構造図	185
第121図	銭 貨	186

表 目 次

第1表	発掘調査・整理経過	1
第2表	遺構対照表	11
第3表	旧石器時代石器属性表	56
第4表	石器集中2疊接合表	64
第5表	旧石器時代石器組成一覧表	65
第6表	遺構出土縄文土器観察表	94
第7表	遺構外出土縄文土器観察表	95
第8表	縄文時代土製品観察表	101
第9表	遺構出土縄文時代石器観察表	101
第10表	遺構出土外縄文時代石器観察表	101
第11表	弥生時代土器観察表	126
第12表	弥生時代土製品観察表	129
第13表	弥生時代石製品観察表	129
第14表	奈良・平安時代遺物観察表	146
第15表	中・近世土坑観察表	187

図 版 目 次

図版1	航空写真	
図版2	C区空撮(東から) C区空撮(北から) C区空撮(西から)	
図版3	A区確認調査トレンチ B区確認調査トレンチ C区調査前(野馬土手・猪垣)	
図版4	石器集中1 石器出土状況(2D-30)	

	石器集中2 石器出土状況 (2D-64) 右 石器出土状況 (2D-64中心) 左 石器出土状況 (2D-64中心部)	図版16 SI069 上 SI012遺物出土状況 左 SI012 SI013
図版5	石器集中3 石器出土状況 (5J-27) 石器集中4 左 石器出土状況(5K-81) 右 石器出土状況 (5K-81中心部)	図版17 SI013カマド SI013遺物出土状況 SI014遺物出土状況 SI014 上 SI062 右 SI062遺物出土状況
	石器集中4 左 石器出土状況 (5K-81 中心下部) 右 石器出土状況 (5K-81 中心部)	図版18 DI063 左 SI063遺物出土状況 SK011 SK011遺物出土状況 SK015 SK015遺物出土状況
図版6	石器集中5 石器出土状況 (6H-62) 左 土層断面 (6H-62) 右 土層断面 (7C-11) 石器集中6 石器出土状況 (7C-11) 石器集中6 石器出土 状況 (7C-11)	図版19 SK016 SK017 SK018 SK019 SK020 SK021 SK022 SK026
図版7	石器集中7 石器出土状況 (7H-53) 石器集中8 石器出土状況 (7H-48) 石器集中9 石器出土状況 (8H-07・17) 土層 (7H-53) 土層 (7H-48) 土層 (8H-07· 17)	図版20 SK021~ SK024 SK031~ SK037 SK028 SK037 SK038 SK039 SK040 SK044
図版8	石器集中10 石器出土状況 (10Z-39) 土層 (10Z-39) 単独出土石器 石器出 土状況 (9A-97) 土層 (9A-97) 单 独出土石器 石器出土状況 (10H-86) 土層 (10H-86) 石器集中12 石器出土 状況 (11F-90) 土層 (11F-90)	図版21 SK045 SK058 SK056 SK054・055 SK057 SK115 SK117 空 操
図版9	SI066 SK100 SK101 SK118 SK119 SK120 SK001	図版22 SD004 SD004土層 (G-G') SD004土 層 (H-H')
図版10	SK002 SK003 SK008 SK041 SK042 SK043	図版23 SD025
図版11	SK046 SK106 SK106土層 SK108 SK108土層 SK109 SK112 SK113 SK113土層	図版24 SM047調査前 SM047全景 SM047土 層断面
図版12	SI048 SI049 SI050	図版25 野馬土手・猪垣 N1南から N3コーナー 一南から N3南端南から N3 (コーナー 一) 東から N5屈折部南から N5南部 南北方向北から N5コーナー南から N5北部東西方向南から
図版13	SI051 SI052 SI053	図版26 N6・N2接合部西から N6・N2接合部北 から N2北部東から N6北部東西方向 東から N9・N6接合部南から N9コーナー北東から N9南部南から N6屈折 部北東から
図版14	SI059 SI059遺物出土状況 SI060 SI061	図版27 N8・N6接合部東から N8北から N8コ ーナー北から N8東端部北から N7・ N8・N10接合部西から N10北端部北か ら N10北から N10東端部北東から
図版15	SI064 SI065 SI068	図版28 N6北部カーブ東から N6コーナー、 N6・N4接合部西から N4北東から N4 南端部南東から N6屈折部西から C

- 区中央部（N6南部）南から N6屈折部
東から N7南東から
- 図版29 N11・N6接合部北から N6最南端部南
西から C区（N6）西から C区（N6）
西から C区（N6）谷側西から C区
(N6) 谷側西から C区（N6）南から
中央区（N11）最南端北から
- 図版30 石器集中1 石器集中2
- 図版31 石器集中3 石器集中4 石器集中7
- 図版32 石器集中5 石器集中6 (1)
- 図版33 石器集中6 (2) 石器集中8 (1)
- 図版34 石器集中8 (2)
- 図版35 石器集中9
- 図版36 石器集中10 石器集中11 石器集中12
- 図版37 単独出土
- 図版38 SI066出土土器 SK120出土土器
- 図版39 炉穴・陥穴出土縄文土器
- 図版40 遺構外出土縄文土器 (1) (別時代遺構
出土) 縄文時代土製品
- 図版41 遺構外出土縄文土器 (2) (グリッド出土)
- 図版42 遺構外出土縄文土器 (3) (グリッド出土)
- 図版43 遺構外出土縄文土器 (4) ① (グリッド
出土)
- 図版44 遺構外出土縄文土器 (4) ②・(5) ① (グ
リッド出土)
- 図版45 遺構外出土縄文土器 (5) ② (グリッド
出土)
- 図版46 遺構外出土縄文土器 (6) (グリッド出土)
- 図版47 遺構外出土縄文土器 (7) ① (グリッド
出土)
- 図版48 遺構外出土縄文土器 (7) ② (グリッド
出土)
- 図版49 縄文時代石器 (1) (遺構出土・遺構外
出土 (1))
- 図版50 縄文時代石器 (2) 遺構外出土 (2)
遺構出土 (3) (標)
- 図版51 SI048・SI049・SI050・SI051出土土器
- 図版52 SI052・SI053出土土器
- 図版53 SI059・SI060・SI061出土土器
- 図版54 SI064出土土器
- 図版55 SI065・SI068およびグリッド出土土器
- 図版56 SI048・053・061・064出土土器
- 図版57 SI053・064出土土器 弥生時代土製品
弥生時代石製品 (2)
- 図版58 弥生時代石製品 (1)
- 図版59 SI012・013出土遺物
- 図版60 SI013・014・062出土遺物
- 図版61 SI062・063出土遺物・墨書き赤外線写真
- 図版62 SK011出土遺物・鉄製品・銭貨

第1章 はじめに

第1節 調査の経緯と経過

1 調査の経緯と経過（第1表）

千葉北部地区新市街地開発事業関連の埋蔵文化財調査は、財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）が、当初千葉県企業庁の委託を受けて開始した。後に事業主体者が日本住宅公団（住宅・都市整備公団、都市基盤公団と組織、名称を変更した後、現独立行政法人都市再生機構）に代わったが、業務委託を受け継続して実施している。

本書に収録した向辺田遺跡の発掘調査は、平成7年度に本塹村に所在するA地区から開始し、印旛村に所在するB・C地区の調査を翌平成8年度に実施し終了した。整理作業は、平成18年度から実施し平成19年・20年と継続して実施した。本遺跡の発掘調査及び整理作業に係る各年度の組織、担当職員及び作業内容は、下記のとおりである。

第1表 発掘調査・整理経過

年度	期間	地区	対象 m ²	上層 m ²		下層 m ²		調査（研究） 部長	所長	担当職員
平成7	9/1~12/26	A	20,000	確認	2,100	確認	896	西山太郎	谷 匂	雨宮龍太郎 佐藤 隆立 和名明美
						本調査	1,088			
平成7	11/1~3/29	B	40,500	確認	4,100	確認	1,684	西山太郎	谷 匂	雨宮龍太郎 猪股 昭喜 糸川 道行 佐藤 隆立 和名明美
				本調査	5,020					
平成8	4/1~11/29	C	33,500	確認	3,350	確認	1,404	西山太郎	谷 匂	猪股 昭喜 柄原 弘二
				本調査	17,800	本調査	1,503			
平成18	4/1~3/31	A B C	94,000	水洗注記の一部、記録整理の一部、分類・選別の一部、接合・復元の一部、実測・拓本の一部、トレースの一部				矢戸三男	古内 茂	香取 正彦
平成19	4/1~3/31	A B C	94,000	水洗注記の一部、記録整理の一部、分類・選別の一部、接合・復元の一部、実測・拓本の一部、トレースの一部～原稿執筆・編集の一部				矢戸三男	豊田佳伸	香取 正彦 井上 哲朗 田形 孝一
平成20	4/1~3/31	A B C	94,000	原稿執筆・編集の一部～報告書印刷刊行				大原正義	豊田佳伸	宮 高橋 重行 博文

※平成18年度から調査研究部長

第2節 遺跡の位置と環境（第1図）

1 遺跡の地理的環境

向辺田遺跡が所在する台地は、千葉県の北部に広がる洪積台地である下総台地の北端に近く、西印旛沼の北側に位置する。南へ飛び出した舌状台地を北に望み西からやがて南に方向を変え4kmほど流れて、印旛沼に注ぐ師戸川とその支流に解析された標高約27mの台地である。現利根川本流から最も近くで南へ7kmほどの位置にある。現在の北総鉄道車両基地の南側に隣接する。

2 遺跡周辺の歴史的環境

水を豊富に湛えたであろう印旛沼を取り囲む台地には実に数多くの遺跡が存在する。西印旛沼に近い本遺跡が立地する台地周辺には多くの遺跡の存在が知られている。特に本遺跡の東側や南側に位置し、印旛沼により近い台地には比較的の密集して遺跡が存在する。本遺跡（1）の立地する台地は印旛沼より多少奥に位置し、密集するほど多くの遺跡は存在しない。2は角田台遺跡である。小支谷を挟んで本遺跡の東に対峙する。本遺跡同様旧石器時代から奈良・平安時代を経て中・近世までの遺構・遺物を検出している。3は式ト込遺跡である。角田台遺跡の東側に谷を挟んで立地する。旧石器時代から奈良・平安時代までの遺構・遺物を検出している。4は荒久遺跡である。式ト込遺跡の東小支谷を経て立地する。旧石器時代と縄文時代の遺構・遺物を検出している。5は天王台西遺跡である。本遺跡の北側に位置する。本遺跡と同様旧石器時代から奈良・平安時代を経て中・近世までの遺構・遺物を検出している。

上記以外の遺跡の分布については、千葉県埋蔵文化財分布地図（1）－東葛飾・印旛地区（改訂版）－（1997年5月 財団法人千葉県文化財センター）を基に時代を追って概観してみるとしよう。

旧石器時代：遺跡の分布は少ない。本遺跡を含む千葉ニュータウン関連の発掘調査での検出・報告例が多い。分布調査での発見は難しく将来的に増加することは考えられる。

縄文時代：各時代のなかでは最も多くの遺跡が分布している。遺跡の立地の影響もあるのだろうか、早期・中期・後期が比較的多く見られる。また、印旛沼を望める台地には貝塚も点在する。

弥生時代：印旛沼周辺の遺跡からは比較的多くの遺構・遺物を検出している。印旛沼の周囲または印旛沼を望む周辺の大きな谷津に隣接する台地縁辺に分布する傾向にある。

古墳時代：古墳の分布も印旛沼を望む台地縁辺部比較的多くに見られるが、広い地域に散在して分布している。古墳以外の当該期の遺跡については、縄文時代の遺跡に次いで多く分布する。

奈良・平安時代：古墳時代の遺跡と同じような分布が見られ、比較的多くの遺跡が分布する。

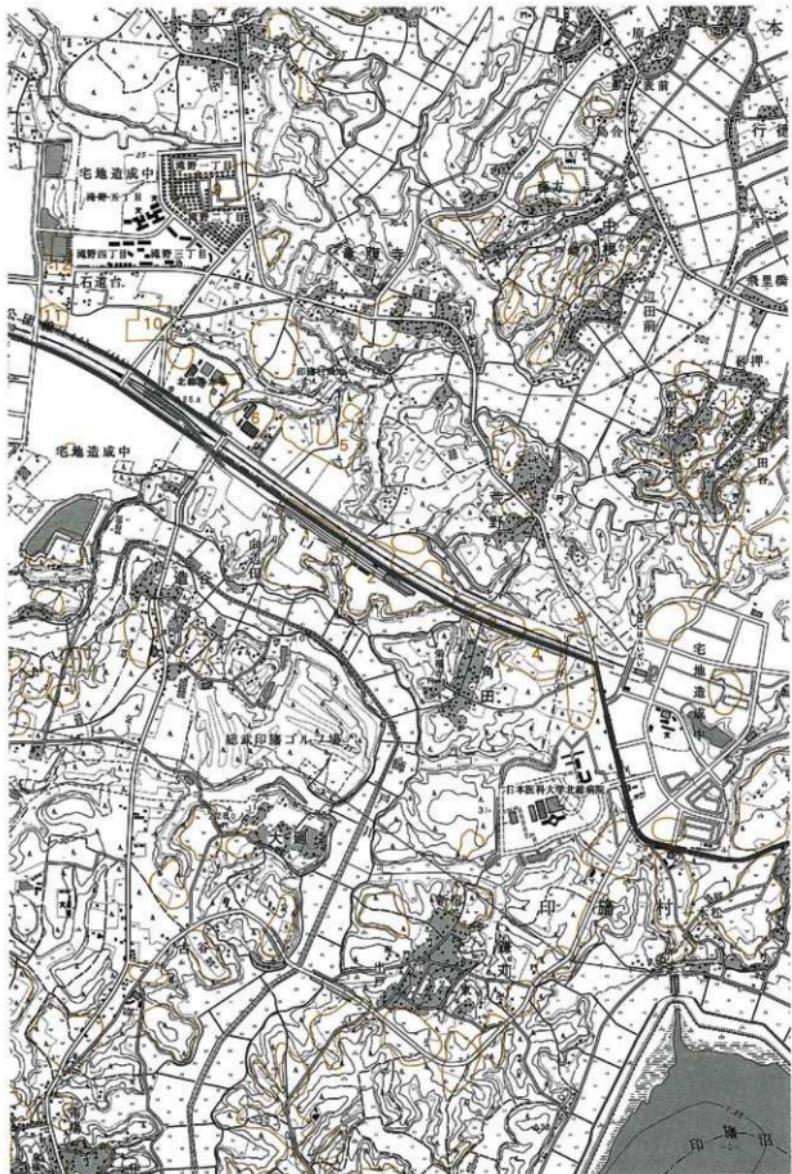
中・近世：印旛沼周辺の台地、および広い谷津の見通しよい台地に城館遺跡が見られる。また、本遺跡でも見られるが、野馬土手が巡っているのが確認される遺跡等もある。

以上、本遺跡周辺には、多くの遺跡が分布している。

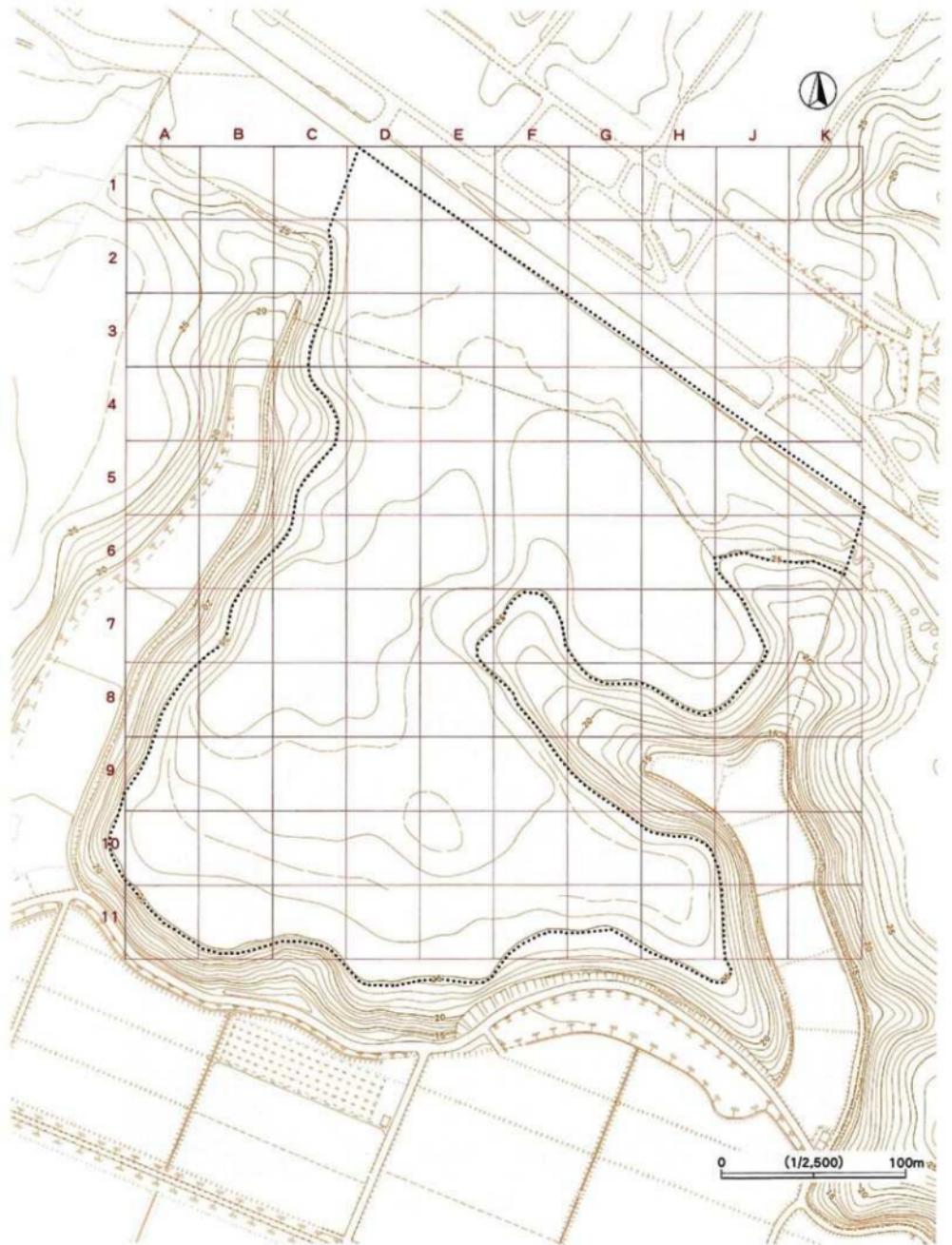
第3節 調査の方法と概要

（1）発掘調査（第2～8図）

遺跡全域を覆うようグリッドを設定した。公共座標である旧日本測地系（国家標準直角座標第IX系）に基づいて一辺40m×40mの方眼を基準（大グリッド）に設定し、北西隅を基点として西から東へ向かってA・B・C…としたアルファベットを附し、Z以降についてはAA・BB…とした。北から南へ向かっては1・2・



第1図 周辺地形図 (1/25,000)



第2図 遺跡地形図・調査範囲・大グリッド設定図

3…と算用数字を附した。大グリッドはさらに一辺4m×4mの小さな方眼に100分割して小グリッドとし、大グリッド同様に北西隅を基点に西から東へ向かって00・01・02…、北から南に向かって10・20・30…と呼称する。

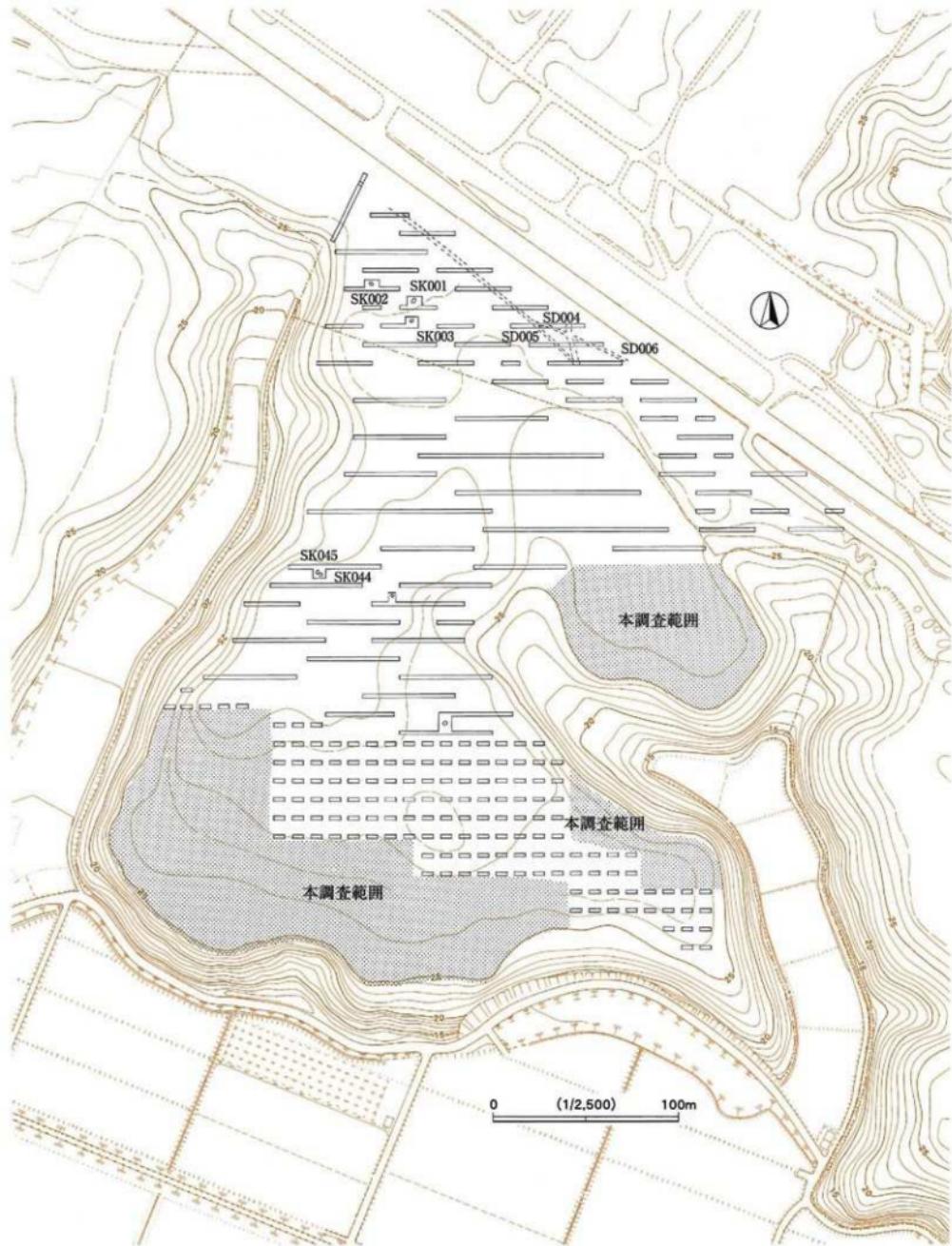
発掘調査は、上層については調査対象面積9,400m²の10%を基本的に幅2mのトレチを状況に合わせ設定し確認調査を行い、遺構・遺物の分布状況の把握を行った。そのほかに、遺跡のほぼ全域にわたって野馬土手が存在することを確認した。また、南側の地区において縄文時代～奈良・平安時代にわたる遺構を多数検出した22,820m²について本調査を実施した。下層については調査対象面積の4%を基本に2m×2mのグリッドを設定し確認調査を行った。その結果、台地縁辺部の多くの所から遺物の出土が認められ、2,591m²について本調査を実施した。

(2) 整理作業

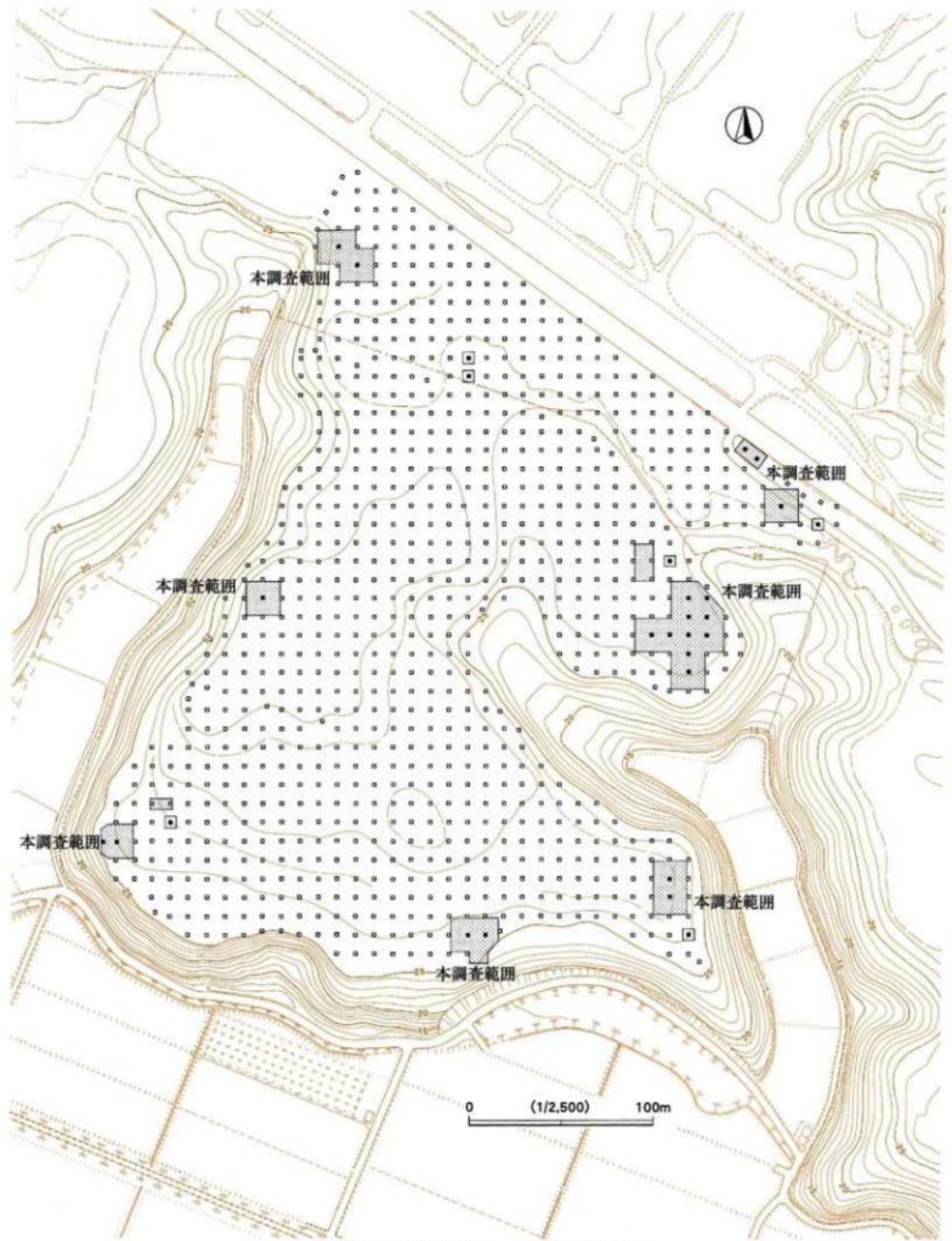
整理作業は、平成18年度に基づき基礎整理の一部から開始し、平成19年度にはほぼ整理を終了し、平成20年度の原稿執筆・編集を経て報告書の刊行となった。

4m										
5	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
10	11									
20		22								
30			33							
40				44						
50					55					
60						66				
70							77			
80								88		
90									99	

第3図 小グリッド配置図 (1/1,000)



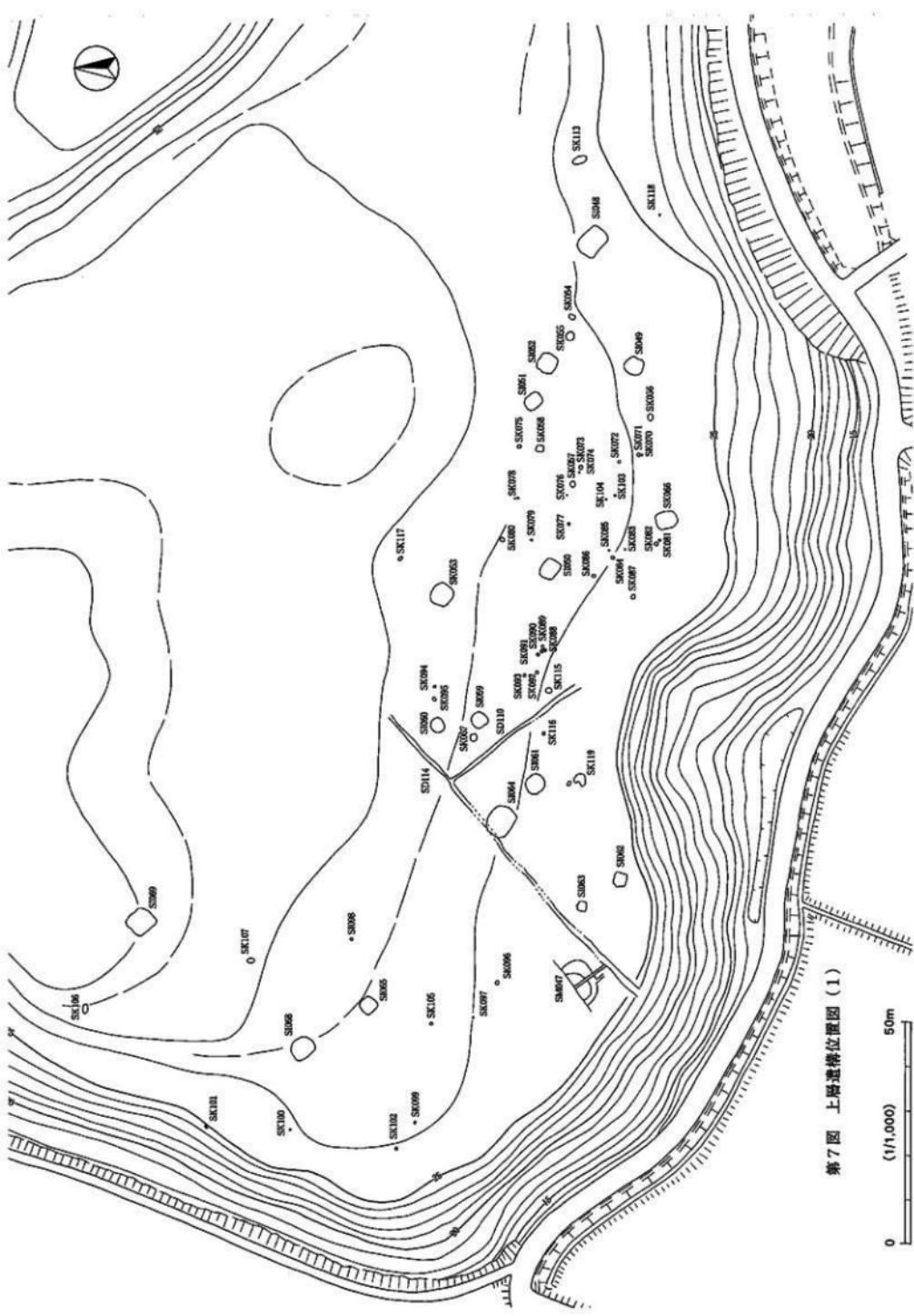
第4図 上層確認トレンチ・上層本調査範囲図



第5図 下層確認トレンチ・下層本調査範囲図



第6図 野馬土手・堀垣配置図



第7回 上場選手登録図(1)



第8図 上層造構位置図（2）

第2表 遺構対照表

	整理時追加番号	測定時追加番号	種別	時代
竪穴建物	SI	012	竪穴住居	奈良
	SI	013	*	*
	SI	014	*	*
	SI	045	*	弥生
	SI	049	*	*
	SI	050	*	*
	SI	051	*	*
	SI	052	*	*
	SI	053	*	*
	SI	059	*	*
土坑	SK	037	施土	中・近世
	SK	044	*	中・近世
	SK	097	*	中・近世
	SK	098	*	中・近世
	SK	099	*	中・近世
	SK	102	*	中・近世
	SK	105	*	中・近世
	SK	037	施土	中・近世
	SK	044	*	中・近世
	SK	097	*	中・近世
土坑	SK	001	陶火薬	奈良
	SK	010	土坑	中・近世
	SK	011	土壙壺	奈良
	SK	015	*	*
	SK	016	土坑	中・近世
	SK	017	*	中・近世
	SK	018	*	中・近世
	SK	019	*	中・近世
	SK	020	*	中・近世
	SK	021	*	中・近世
土坑	SK	022	*	中・近世
	SK	023	*	中・近世
	SK	024	*	中・近世
	SK	025	*	中・近世
	SK	027	*	中・近世
	SK	028	*	中・近世
	SK	029	*	中・近世
	SK	030	*	中・近世
	SK	031	*	中・近世
	SK	032	*	中・近世
深・暫時複合物	SK	033	*	中・近世
	SK	034	*	中・近世
	SK	035	*	中・近世
	SK	036	*	中・近世
	SK	038	*	中・近世
	SK	039	*	中・近世
	SK	040	*	中・近世
	SK	041	陶火薬	縄文
	SK	042	*	*
	SK	043	*	*
野馬・木・漆塗	SK	045	土坑	中・近世
	SK	046	陶火薬	縄文
	SK	054	土坑	中・近世
	SK	055	*	中・近世
	SK	056	*	中・近世
	SK	057	*	中・近世
	SK	058	*	中・近世
	SK	067	*	中・近世
	SK	070	土塊	中・近世
	SK	071	*	*
野馬・木・漆塗	SK	072	*	中・近世
	SK	073	*	中・近世
	SK	074	*	中・近世
	SK	075	*	中・近世
	SK	076	*	中・近世
	SK	077	*	中・近世
	SK	078	*	中・近世
	SK	079	*	中・近世
	SK	080	*	中・近世
	SK	081	*	中・近世
野馬・木・漆塗	SK	082	*	中・近世
	SK	083	*	中・近世
	SK	084	*	中・近世
	SK	085	*	中・近世
	SK	086	*	中・近世
	SK	087	*	中・近世
	SK	088	*	中・近世
	SK	089	*	中・近世
	SK	090	*	中・近世
	SK	091	*	中・近世
野馬・木・漆塗	SK	092	*	中・近世
	SK	093	*	中・近世
	SK	094	*	中・近世
	SK	095	*	中・近世
	SK	096	*	中・近世
	SK	100	炉穴	縄文
	SK	101	*	*
	SK	103	土塊	中・近世
	SK	104	*	中・近世
	SK	106	陶火薬	縄文
野馬・木・漆塗	SK	107	土坑	中・近世
	SK	108	陶火薬	縄文
	SK	109	*	*
	SK	112	*	*
	SK	113	*	*
	SK	115	土塊	中・近世
	SK	116	*	中・近世
	SK	117	*	中・近世
	SK	118	炉穴	縄文
	SK	119	*	*
野馬・木・漆塗	SD	004	*	中・近世
	SD	005	*	中・近世
	SD	006	*	中・近世
	SD	007	*	中・近世
	SD	009	*	中・近世
	SD	025	*	中・近世
	SD	110	*	中・近世
	SD	114	*	中・近世
	SA001	N1	*	中・近世
		N2	*	中・近世
野馬・木・漆塗		N3	*	中・近世
		N4	*	中・近世
		N5	*	中・近世
		N6	*	中・近世
		N7	*	中・近世
		N8	*	中・近世
		N9	*	中・近世
		N10	*	中・近世
		N11	*	中・近世
	整理時追加番号	測定時追加番号	種別	時代
壁	SM	047	*	中・近世

111は欠番

第2章 旧石器時代

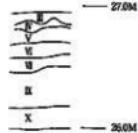
第1節 概要

3次にわたる調査のなかで、旧石器時代の石器が検出された地点は遺跡の立地する台地を東・南・西と取り囲む谷へ下りる台地肩にあたりに沿って散在する形で検出された。単独出土および3点以上の複数の石器を出土した地点は計22地点を数える。このうちまとまって50点以上の石器群が4地点、うち1地点は100を超える。10点以上の石器群が6地点、9点以下の石器群が3地点、2点以下を含む単独出土地点が9地点検出されている。出土した遺物総数は463点とやや小規模である。

石器群は、始良Tn火山灰層（AT層）を包含する立川ロームVI層以下のVII層～IX層のいわゆる第Ⅱ黒色帯といわれる層からの出土と始良Tn火山灰層（AT層）を包含する立川ロームVI層上位のIII層を中心とする層位にほぼ二分される。単独での出土石器についても石器群と同様である。概観すると立川ロームVI層より上位層からの出土は単独・石器群を含め10地点から出土している。残り11地点は始良Tn火山灰層より下位層からの出土となる。

第2節 基本層序（第9図）

本遺跡は、周辺地区も含めて耕作等による擾乱が激しく表土層からの基本層序の検出は難しかった。そこで基本層序としてグリッド7C-11の土層断面図を示すことにする。



第9図 基本層序

表土層：黒（暗）褐色土、本遺跡では最上層が一様に耕作されており本来の有機物蓄積層はほとんど見られないことからI層としての表記は避けた。

II層：暗黄褐色土、立川ロームへの漸位層。ところにより二層に分層できるところもある。

※土層断面は立川ローム層を中心でIII層以下の断面のみを示した。

III層：黄褐色土、いわゆるソフトローム層に相当。

IV層：明褐色土、硬質ロームである。ソフトロームが入り込んでいることが多く、一断面ではブロックが連続するように見える。

V層：黄褐色土、硬質ロームである。赤色スコリアを含む、微量にガラス質の粒子を含む。武藏野台地での第I黒色帯に相当。

※遺跡のすべての地域で明確にIV層とV層が分層できることはなく、両層合せ一層としてとらえ観察される場所も多く見られる。

VI層：明黄褐色土、硬質ロームである。始良Tn火山灰層（TA）を多く含む。

VII層：褐色土、硬質ロームである。VI層と比べ若干柔らかく赤色スコリアを含む。第Ⅱ黒色帯の上部に相当。

VIII層：暗褐色土、硬質ロームである。VII層と比べて堆積も厚く色調も黒く、下層に向かって黒さを増す。赤色スコリア・黑色スコリアを多く含む。第Ⅱ黒色帯下部に相当。

本Ⅳ層は、以下のとおりa～cの三層に区分されることが多いが、本遺跡においてはほぼ遺跡全域で明瞭に観察できなかった。

IXa層：暗褐色を呈する。赤色スコリア・黒色スコリア

IXb層：褐色を呈する。厚さはそれほどでもない。ブロック状に観察される所もある。

IXc層：IXaと比べて黒い。

X層：黄褐色土、硬質ロームである。スコリアはあまり見られなくなり、Ⅳ層と比べても若干ではあるが柔らかい。

以上、立川ローム層を中心として基本層序を述べたわけだが、距離を置いた地点の層序の様相が異なることがあり、特にⅢ層からV層にかけてとⅣ層の分層の状況が大きく変わる。また、立川ロームX層以下に統く武藏野ローム層の存在は、ほぼ遺跡全域で確認されている。

第3節 遺構と遺物（第3～5表）

旧石器時代の出土石器総数は463点であることは先に述べたとおりである。この数は旧石器時代の遺跡として出土する点数としてはそれほど多くはないであろう。単独での出土地点を含め総計22地点で遺物出土が見られた。

一石器群最大の遺物点数は、石器集中8の105点、最も少いのは石器集中12の4点である。また、同グリッド又は隣接するグリッドから出土し点数が2点の地点も見られたが、今回は単独出土分として扱っている。

石器群のなかには近接して検出されることもあるが、総体的には散在して台地の縁辺部分に分布している。それも台地を取り囲む谷津に台地が下り始める肩口附近にある。台地周辺部から離れた台地奥の検出はグリッド4E-18の1地点のみである。立川ローム層の鍵層である始良Tn火山灰層を含むVI層の上位層からの遺物出土は、9地点154点、VI層を含む下位層とくにⅣ層を中心とする遺物出土は11地点289点を数え点数では出土石器全体の6割にあたる。以下にその概要について述べることとする。

1 石器集中地点

石器集中1（第10・11図 図版4・30）

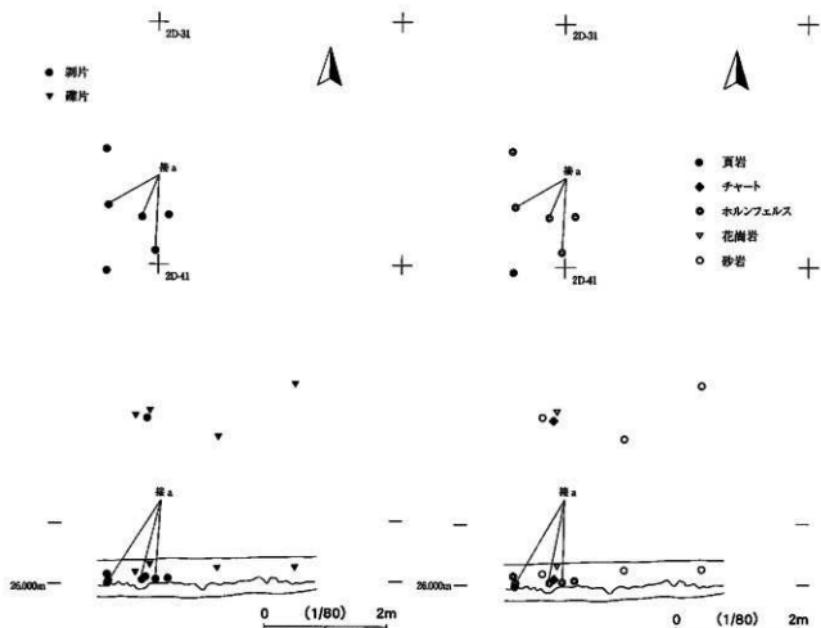
グリッド2D-30・31・40・41に展開する石器群である。径5mの範囲に分布するが、北西側と南東側に少し間をあけ分布する。出土層順はIV層からV層にわたるが、垂直分布の状況から中心はV層であると考える。

石 材

検出された11点の石器のうち5点がホルンフェルス、3点が砂岩、1点がチャート、1点が頁岩、1点が花崗岩である。

器 種

ホルンフェルス・チャート・頁岩の7点が剥片で、残り4点は砂岩・花崗岩の礫破片である。1～5は同一個体（母岩）のホルンフェルスの剥片である。模様面での剥離が多い。2と3・2と5の様に3点が接合する。6はチャートの剥片である。7は頁岩の小剥片である。礫は一様に熱を受けており赤く変色し



第10図 石器集中1出土状況（器種・石材別）

ている。砾同士の接合はない。

石器集中2（第12・13図 図版4・30）

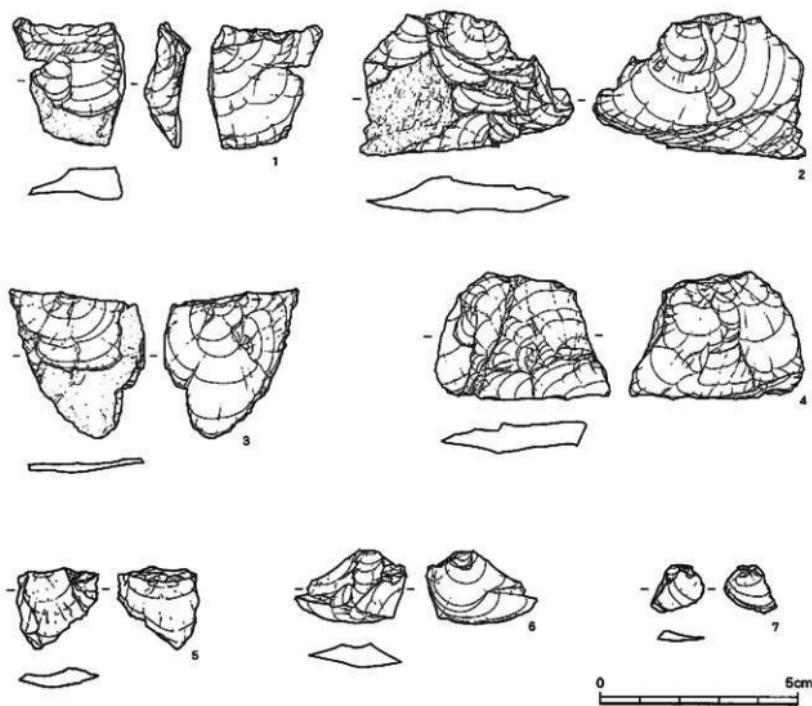
グリッド2D-53・63・64に展開する砾群である。そのほとんどが熱を受け変色している砾破片である。なかには接合し元の砾を復元できるものもあるが多くは接合もしないものである。石器集中地点1の南東側に隣接するように79点の遺物が分布する。径5mの範囲に分布するが、遺物の多くが北東側の径2mの範囲に密集する。出土層順の中心はⅢ層である。

石 材

79点の石材の内訳は、硬砂岩が27点と最も多く、次に花崗岩の24点、砂岩15点、チャート5点、黒色安山岩5点、ホルンフェルス2点、頁岩1点が構成石材である。このうち74点が砾または砾破片である。

器 種

1は頁岩の二次加工のある剥片である。2・3は黒色安山岩の剥片である。図示できるのはこの3点でのこり2点は黒色安山岩の碎片である。4～8は砾である。4は花崗岩の砾破片2点が接合して原形が復



第11図 石器集中1出土石器

元できたもの被熱し変色している。5は黒色安山岩の完形砾である。6は花崗岩の完形砾である。被熱し赤く変色している。7・8は砾破片が接合し、ほぼ原形が復元できるいすれも被熱し赤く変色している。このほかの砾のうちいくつかは接合するものの原形まで復元できない破片が多い。

石器集中3（第14・15図 図版5・31）

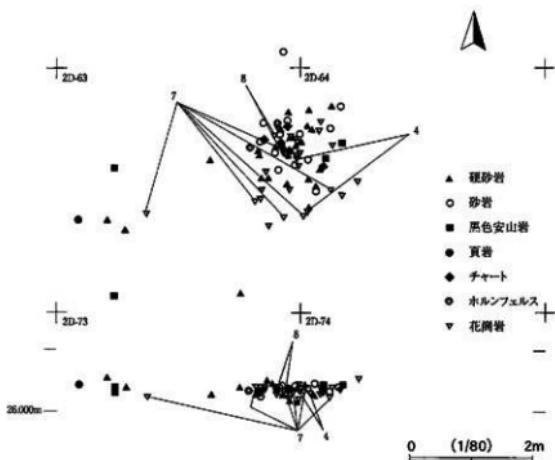
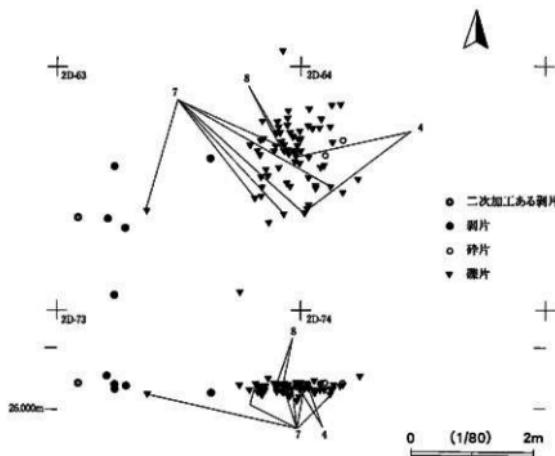
グリッド5J-17・18・27・28から検出された計7点の石器群である。径約5mの範囲に散在する。出土層順はⅢ層である。

石 材

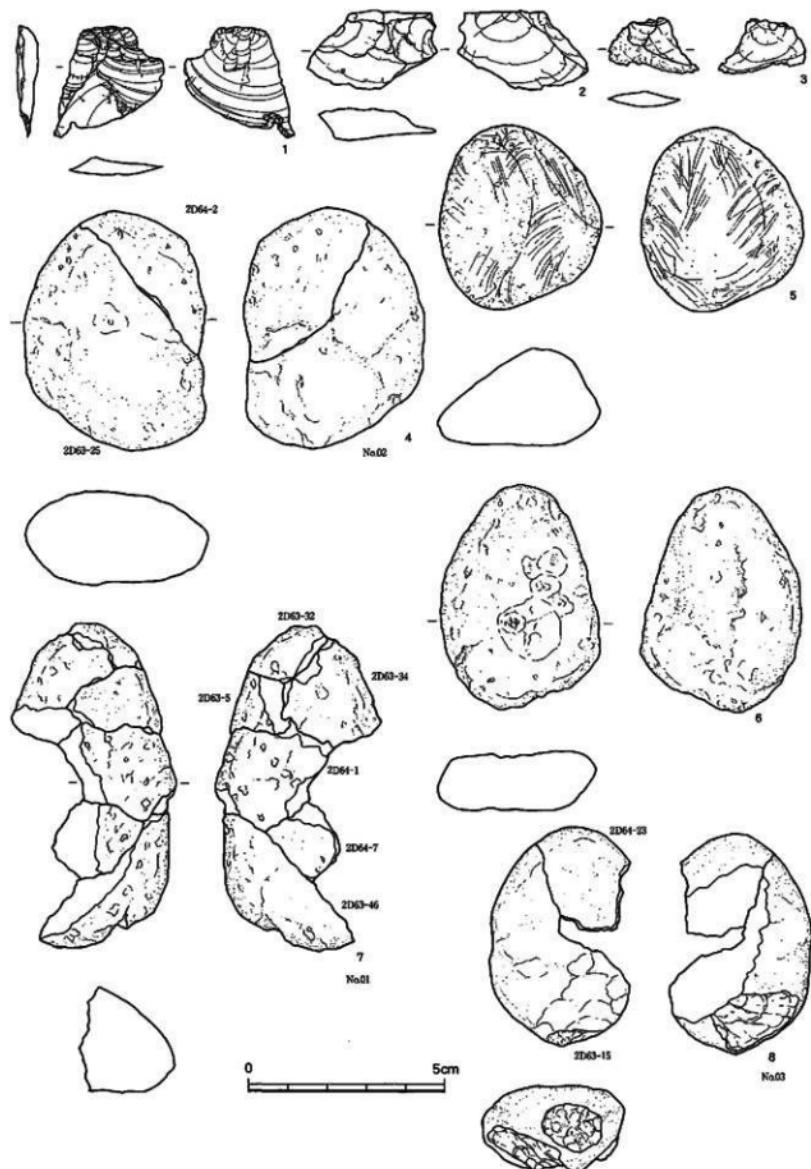
黒色安山岩が4点、頁岩3点である。

器 種

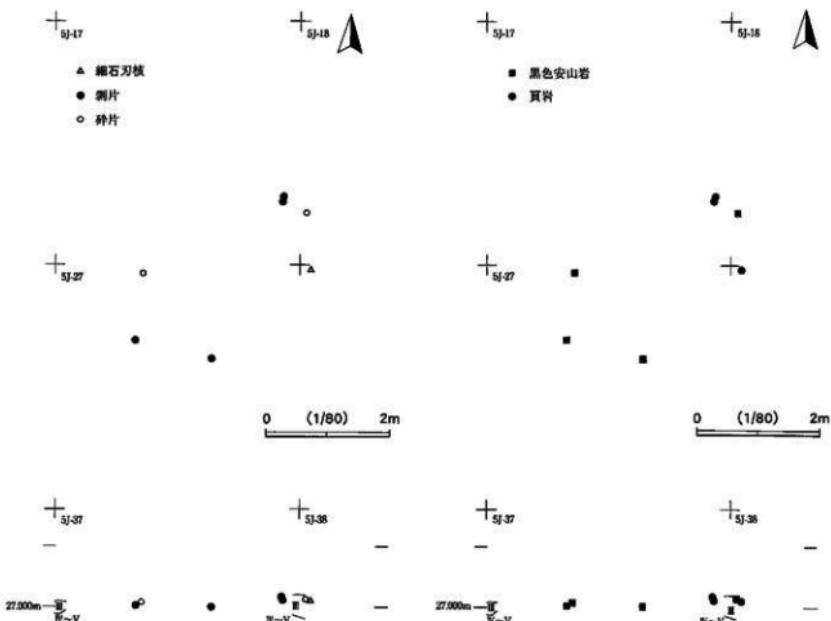
1は頁岩の細石刃核である。一部に砾原面を残し、形状は円錐状である。打面を作り出し、細石刃の剥



第12図 石器集中2出土状況（器種・石材別）



第13図 石器集中2出土石器



第14図 石器集中3出土状況（器種・石材別）

離が行われている。この石核から剥離された製品である細石刃または剥片は出土していない。2は頁岩の剥片である。やや厚みがあり、多方向からの剥離の痕が見られることから残核の可能性がある。3は頁岩の剥片である。4は黒色安山岩の剥片である、本来は横長であったものがほぼ中央から切断している。一部に素材原面を残している。5は黒色安山岩の剥片である。背面に石材の原面を全面に残している。

石器集中4（第16・17図 図版5・31）

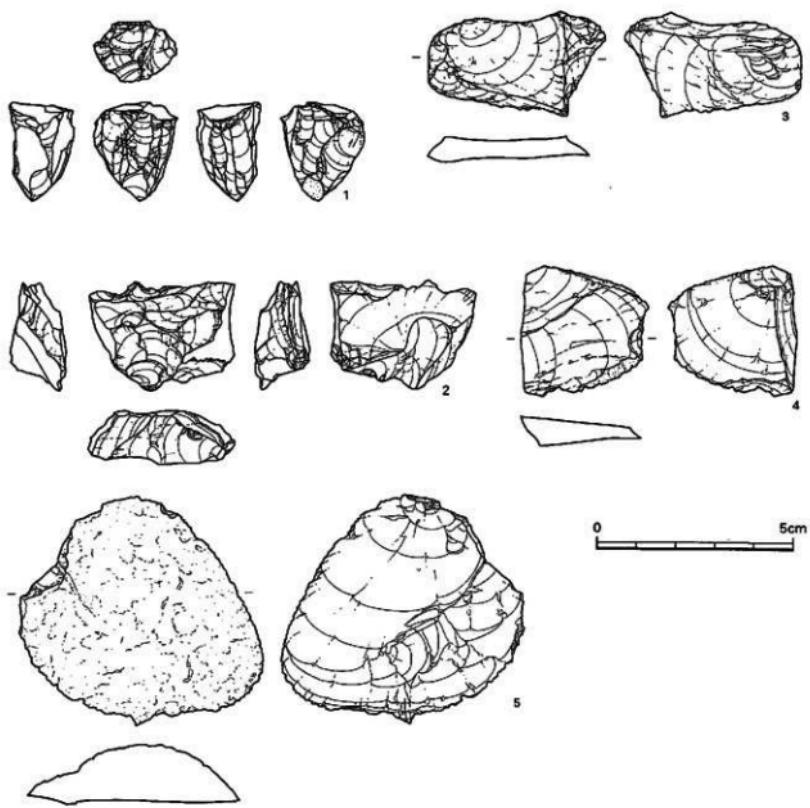
グリッド5K-80・81から検出された石器群であるが、そのほとんどが5K-81に集中する。全体は径約6mの範囲に計48点の遺物が分布する。出土層順は、V層～VI層であるが中心はV層である。

石 材

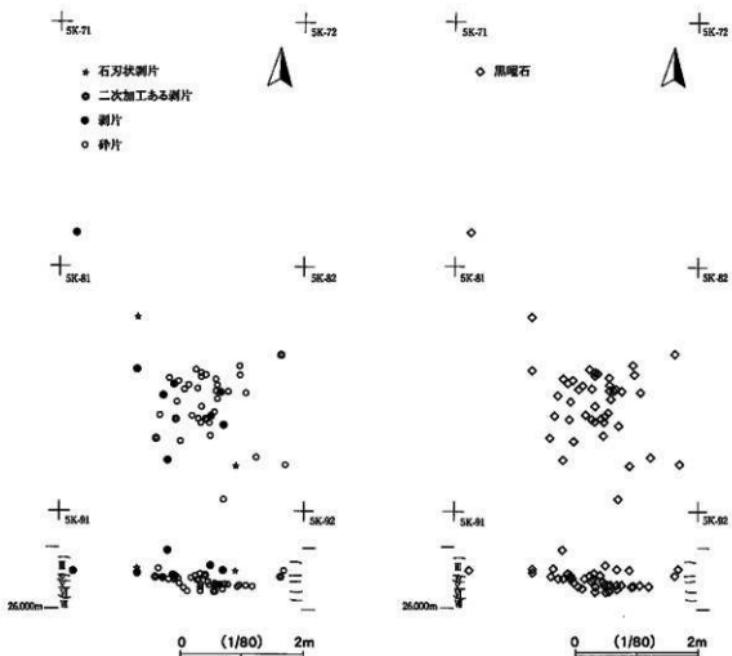
すべて黒曜石である。

器 種

1～3は細石刃である。幅は1cm以下であるが、現在の長さは幅の2倍を超えないが、いずれも先端側が切断しており本来はもう少し縦長であり石刃の型をなしていたと考えられる。4は二次加工ある剥片で



第15圖 石器集中3出土石器



第16図 石器集中4出土状況（器種・石材別）

ある。5は二次加工ある縦長剥片である。左側縁のほか中央付近に腹面より打撃を加えノッチ状に調整している。6は石刃様剥片の背部に横方向からの調整を加えている。7は縦長の剥片である。8は二次加工ある縦長の剥片である。左側縁基部附近に腹面側へ調整が加えられている。9は石刃様剥片である。先端部が折れている。10は縦長の剥片である。11は剥片であるが、基部附近で折れており本来は石刃であった可能性がある。

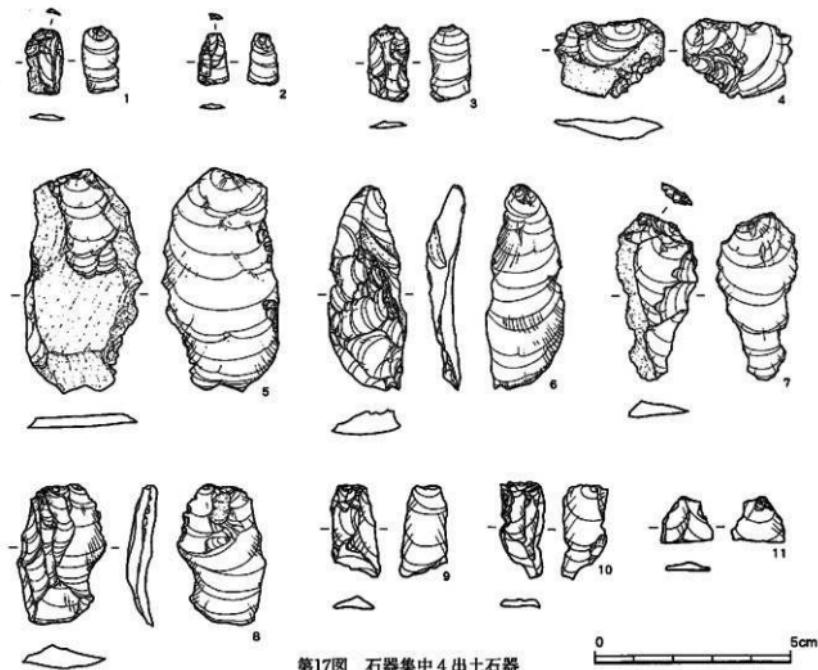
石器集中5（第18~20図 図版6・32）

グリッド6H-52・61・62・63・72から検出された遺物が計31点の石器群である。径約8mの範囲のなかに散漫に分布する。出土層順はⅡ層である。

石 材

黒色安山岩18点、黒曜石6点、トロトロ石2点、メノウ2点、チャート1点、流紋岩1点、砂岩1点である。トロトロ石を含め、安山岩系の石材が全体の6割を占める。

器 種



第17図 石器集中4出土石器

石核1点、二次加工ある剥片1点のほかは剥片と碎片である。

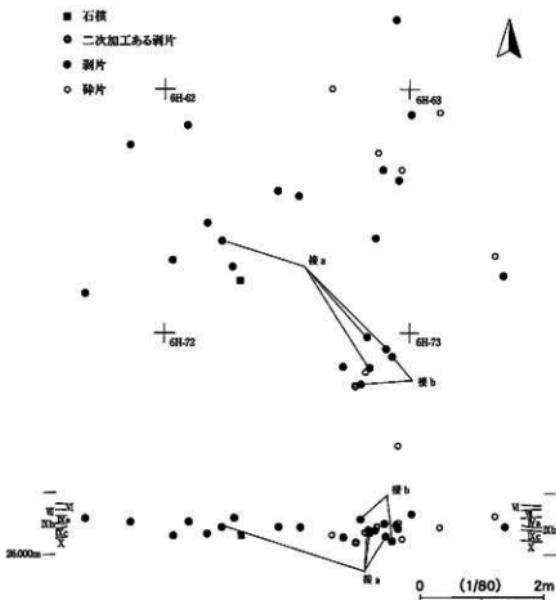
1は黒色安山岩の石核である。2は黒曜石の剥片である。3・4・5・6は黒色安山岩の接合資料である。接近する3点(4・5・6)とやや離れた1点(3)の4点が接合した。すべて剥片であり、背面に石材の原面を残している。打面形成のための剥離か。7・8はメノウの接合資料である。接近して出土した2点の剥片が接合する。本来は綾長の剥片である。打面(点)は欠損している。先端部に石材原面が残る。9はやや大きい黒色安山岩の剥片である。石材の原面が一部に残る。10はチャートの剥片である。一部に石材原面が残る。11・12・13は黒色安山岩の剥片である。

石器集中6 (第21~24図 図版6・32・33)

グリッド7B-09・19・29, 7C-00・10・11・20・21から検出された遺物が計51点の石器群である。径約9 mの範囲のなかに散漫に分布する。出土層順はIX層である。

石 材

凝灰岩が23点と最も多く、次に頁岩が18点、以下ホルンフェルス3点、黒色安山岩・硬砂岩2点、チャ

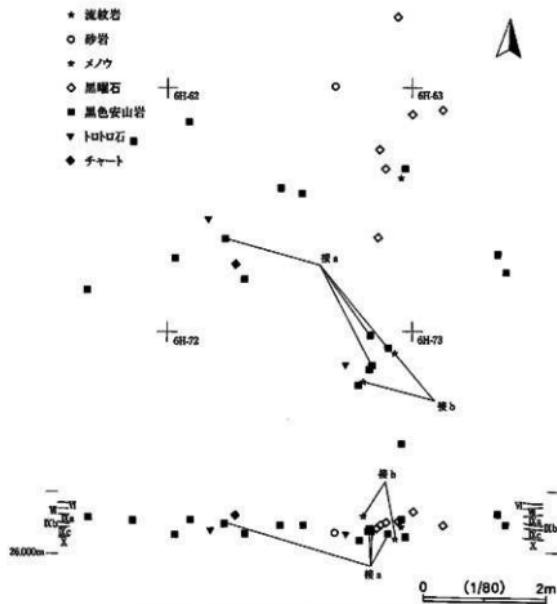


第18図 石器集中5出土状況（器種別）

一ト・流紋岩・砂岩が各1点である。

器種

石核が1点、両極剥片7点（接合aを含む）、台石が1点のほかは剥片と碎片である。1は頁岩の石核である。一部に素材原面を残すものの打面調整を何回も行い剥片を作り出している。残核である。2は頁岩の両極打法による剥片である。一部に素材原面を残すが剥片の基部側と先端側の平行する両極に潰れによる階段状の剥離が見られる。3は頁岩の両極打法による剥片である。厚みが薄いところを考えると、打撃時の衝撃によって本体から剥離してしまったのであろうか、基部側と先端側には潰れのような階段状の剥離が見られる。4は凝灰岩の両極打法による剥片である。横に長く残る剥片の基部側と先端側の平行する二辺に潰れのような階段状の剥離が見られる。5は頁岩の両極打法による剥片である。厚みがなく3と同様に打撃時の衝撃により本体から剥離した剥片であろう。6・7・8は凝灰岩の接合資料である。接合された縦長の剥片には基部側と先端側の両極に潰れのような階段状の剥離が見られることから切断する前の本来の形状は両極打法による剥片としてよいであろう。6は縦長剥片の基部側の上半分である。基部附近に階段状の剥離が見られる。7は縦長剥片の先端側の下半分である。先端部に階段状の剥離が見られる。本来の縦長剥片が腹面方向への加圧によって中央付近から折れ、6・7と剥離したものである。8は縦に長い剥片である。6と7が切断する時の衝撃によって本体から剥がれ、本来はもっと長かった剥片からさらに折れて、小破片となったと考える。9は凝灰岩の剥片である。一部に石材原面を残す。10は凝灰岩の



第19図 石器集中5出土状況(石材別)

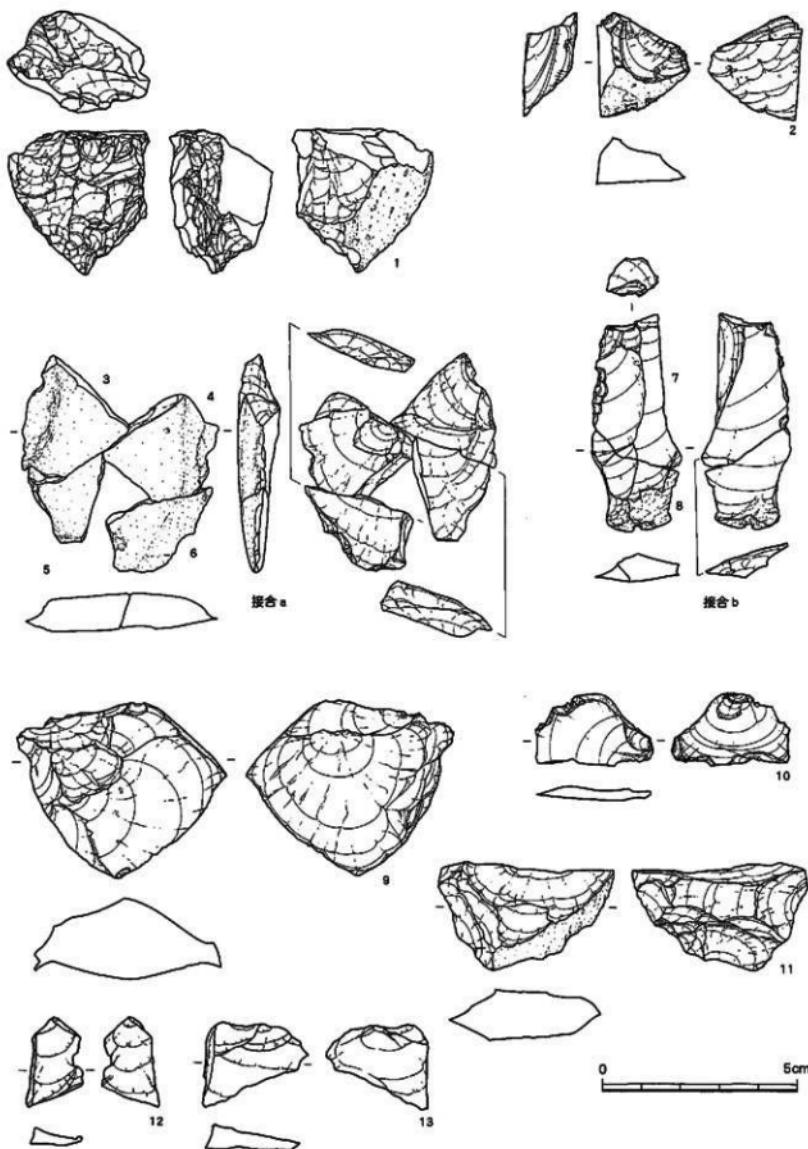
縦長の剥片であるが、中央付近で切断している。9と接合する。11は凝灰岩の剥片である。先の2~5のように明確な階段状剥離は観察されないが、平行する二辺が打撃により潰れ、一方がやや凹んでいる状況からも両極打法による剥片と考えられる。12は頁岩の種を持つ厚めの縦長の両極打法による剥片である。基部側と先端側の両極に潰れ、あるいは階段状の剥離が見られる。13はチャート製のやや厚めの剥片である。14は流紋岩の縦長の剥片である。15・16は黒色安山岩の接合資料である。いずれも石材原面を持つ剥片である。17・18は硬砂岩の接合資料である。17は台石の一部と考えられ、平坦な面には打撃によると思われる細かな凹凸が集中的に残り、また一部には擦った跡か浅く短い溝も観察される。さらに側面には平坦面よりやや深い細かな凹凸が多く見られ、台石のほかハンマーとしても使用されていたと考えられる。

本石器群には、両極剥片として分類した石器が7点出土しているが、これらの石器は他の石器群には見られないもので、本石器群を特色づける石器といえる。

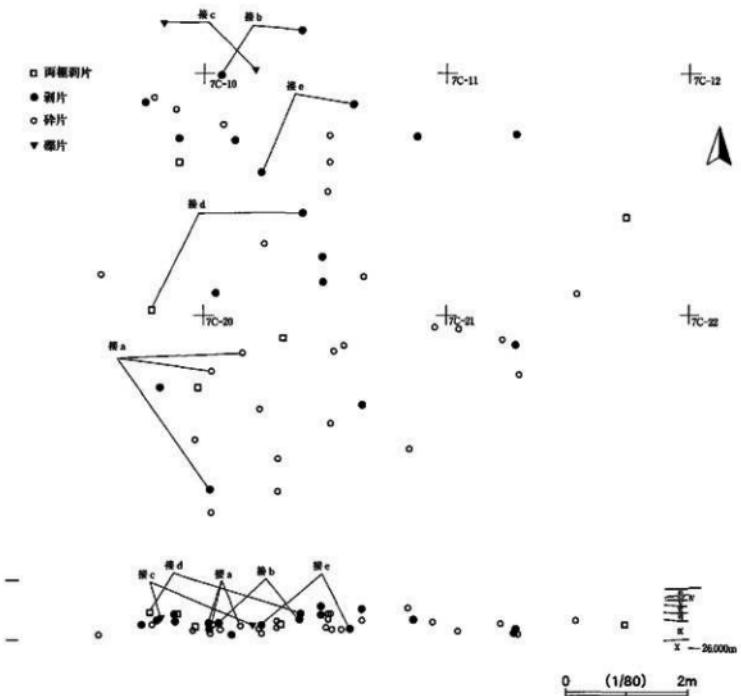
石器集中7 (第25・26・29図 図版7・31)

グリッド7H-43・44・53・54・63から検出された遺物が計16点の石器群である。径約4mの範囲のなかに分布する。出土層順はⅣ層である。

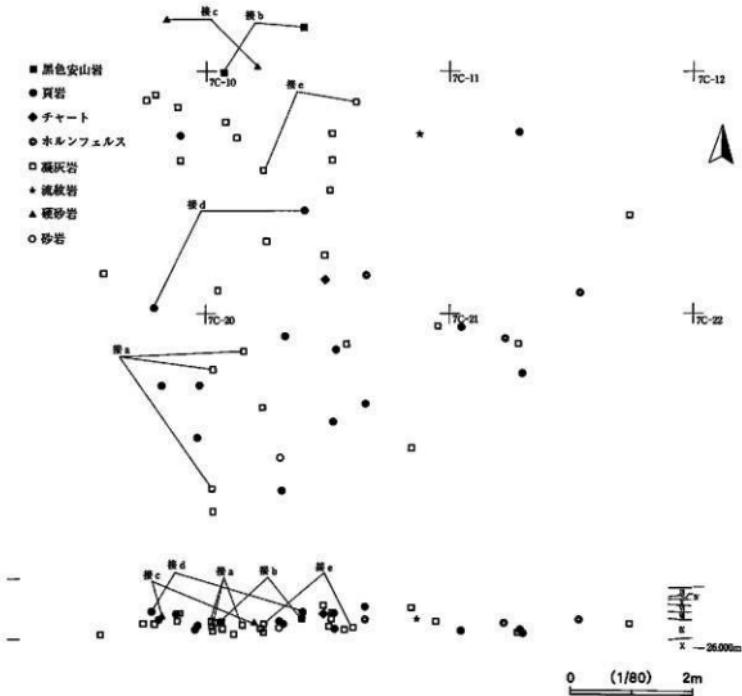
石 材



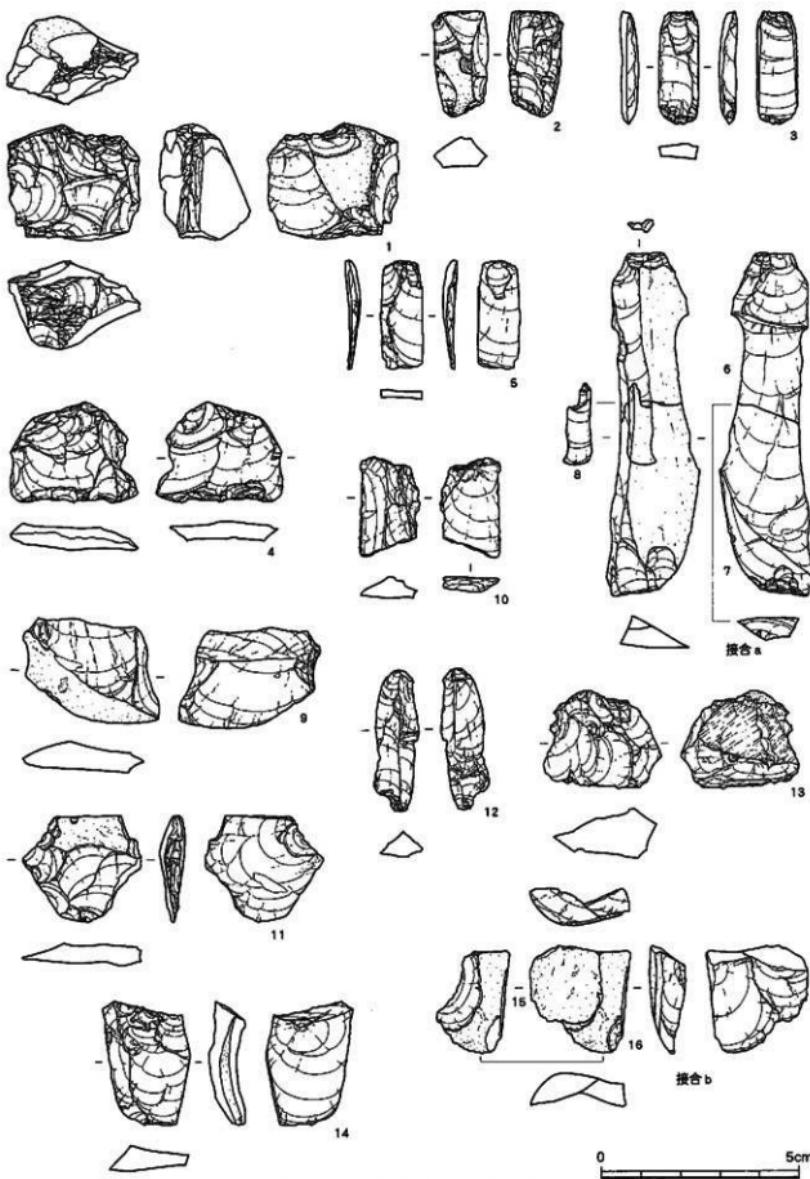
第20図 石器集中5出土石器



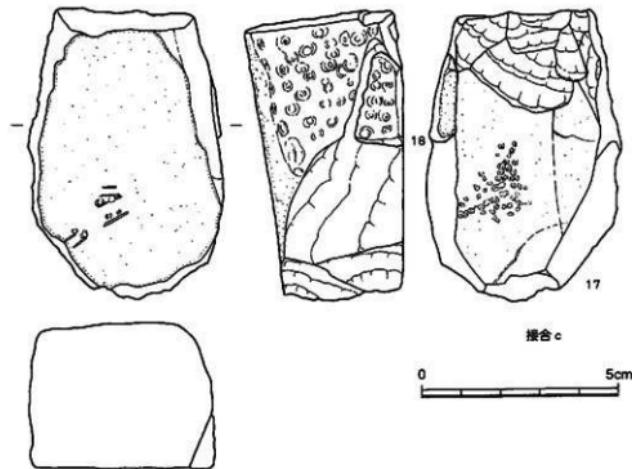
第21図 石器集中6出土状況（器種別）



第22図 石器集中 6 出土状況 (石材別)



第23図 石器集中6出土石器（1）



第24図 石器集中6出土石器（2）

黒色安山岩が9点と最も多く、続いてホルンフェルス4点、黒曜石・トロトロ石・硬砂岩が各1点である。

器種

石核1点を除くと剥片と碎片である。1・2は黒色安山岩の接合資料である。1は石核である。石材原面を多く残す大きめの破片を利用した石核である。2は1の石核から剥離された横長剥片の一部である。3は黒色安山岩の剥片である。4は黒曜石の剥片である。相対するか所に階段状の剥離が残っていることから両極打法による剥片の一部とも考えられる。5は黒色安山岩の剥片である。6はトロトロ石の剥片である。石材原面を残す。

石器集中8（第27～34 図版7・33・34）

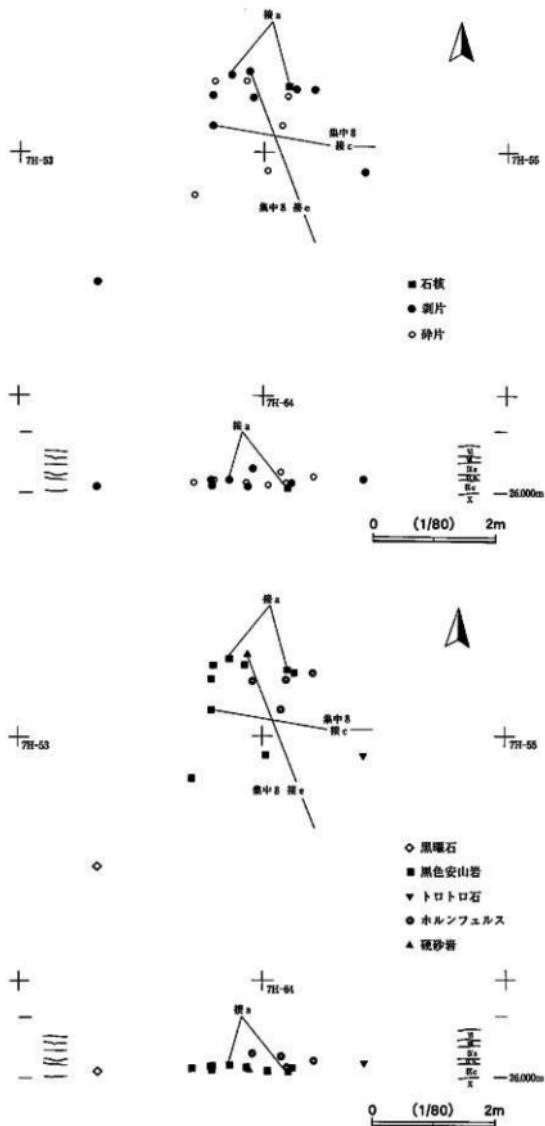
グリッド7H-18・27・28・29・37・38・39・47・48・49・59、7J-30・40・50・51から検出された遺物が計108点と最も点数が多い石器群である。北西から南東へ幅7m、長さ28mの範囲のなかに細長く散漫に分布する。出土層順はIX層～X層である。

石材

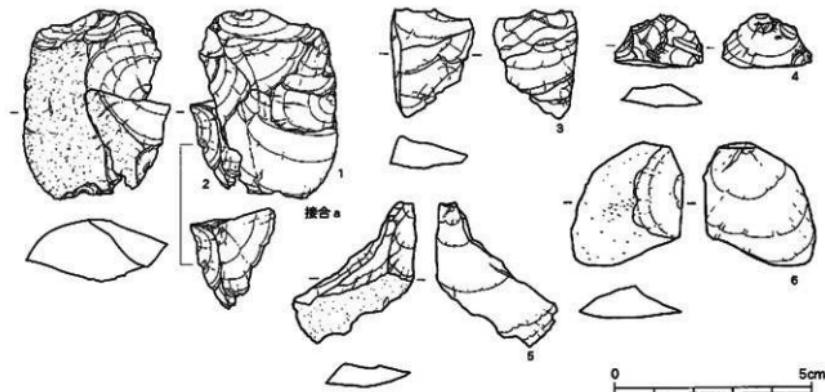
凝灰岩が70点と最も多く、トロトロ石19点が続き安山岩系の石材が8割以上を占める。ほかは凝灰岩9点、黒曜石・ホルンフェルスが3点、硬砂岩2点、頁岩・メノウが各1点である。

器種

石核が4点、斧形石斧1点、二次加工ある剥片3点のはかは接合資料と剥片・碎片である。1は黒色安山岩の石核である。一部に石材原面を残す。打面を頻繁に変え作業を行っている。2の剥片が接合する。2は黒色安山岩の剥片である。一部に石材原面を残す。1と接合する。3はトロトロ石の石核である。石

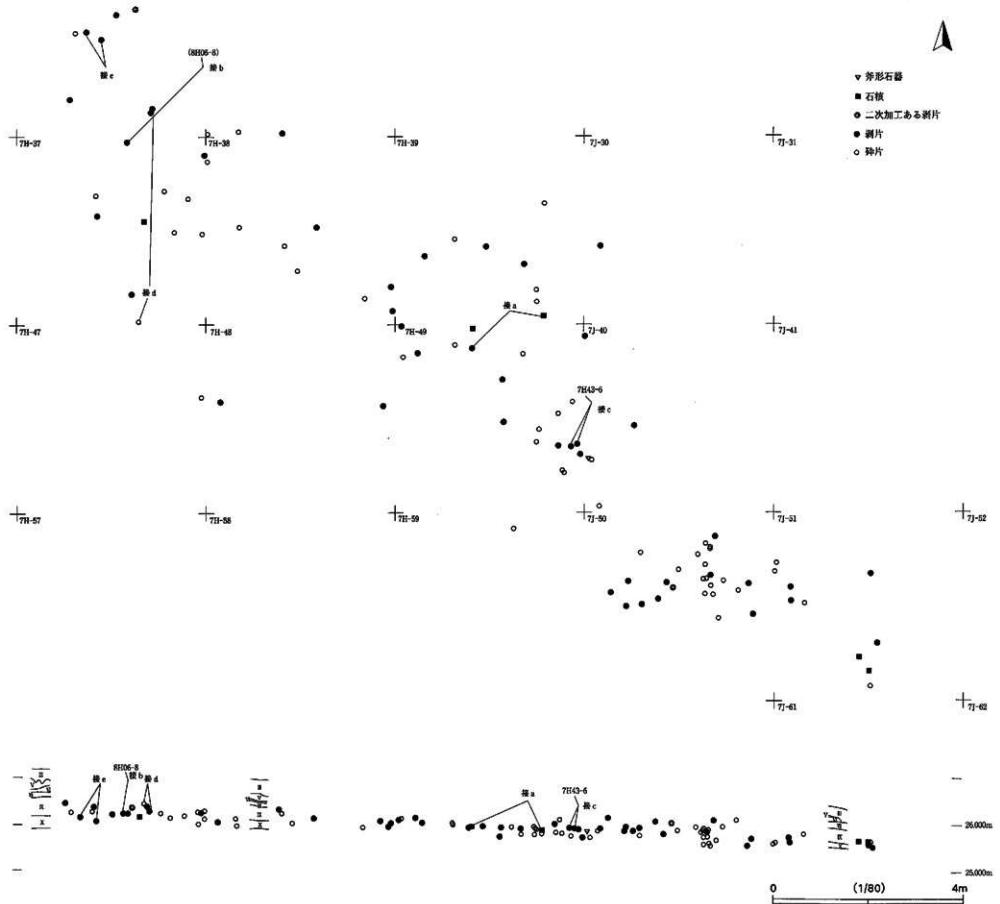


第25図 石器集中7出土状況（器種・石材別）

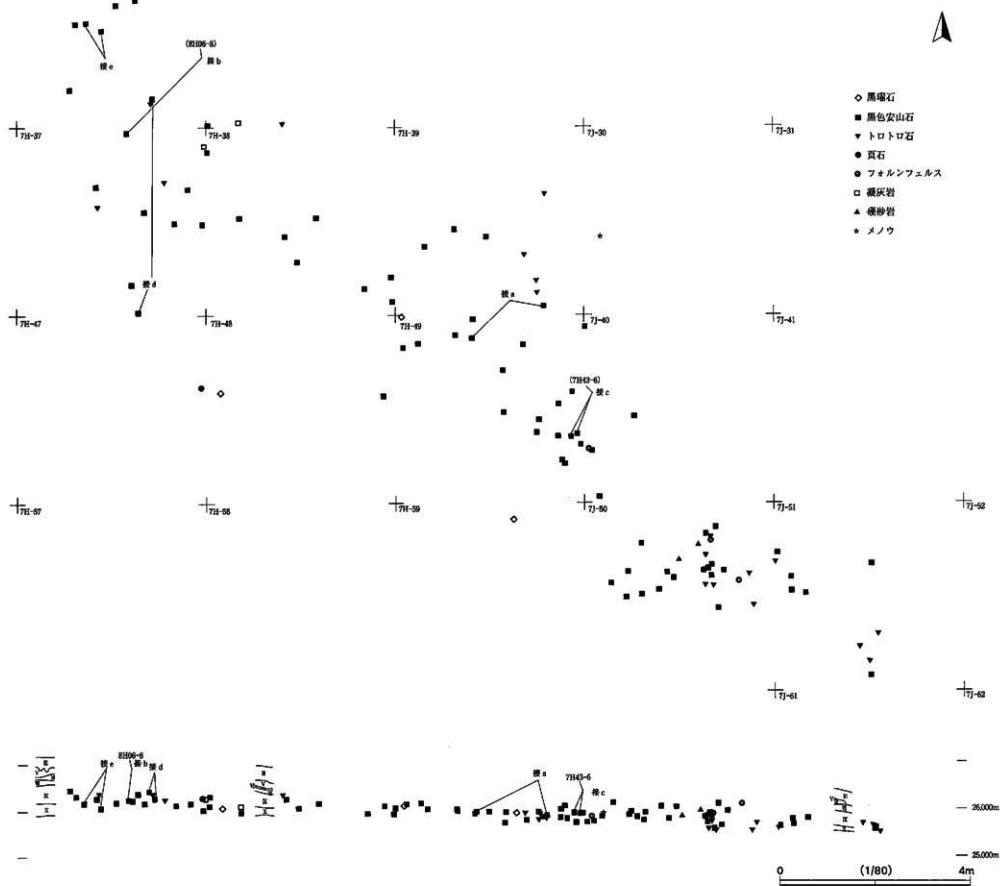


第26図 石器集中7出土石器

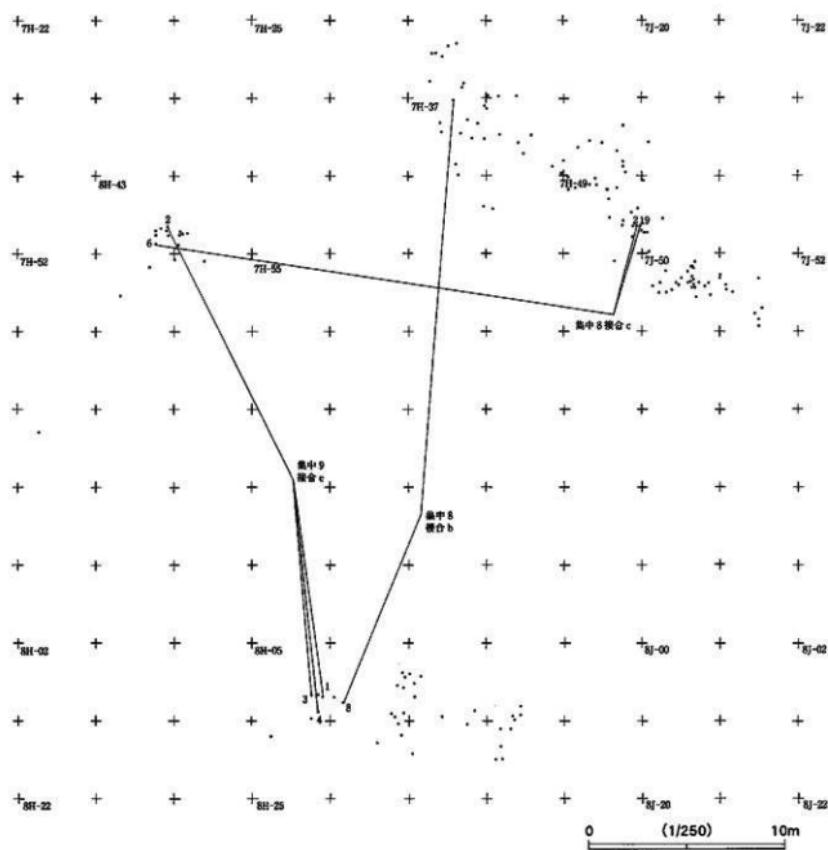
材原面を多く残す。打面を頻繁に変え、剥離を繰り返している。4は黒色安山岩の石核である。さほど大きくはない砾を利用している。5は黒色安山岩の石核である。打面を頻繁に変え、剥離を繰り返している。6はホルンフェルスの斧形石器である。手頃な大きさの剥片縁から打撃を加え、砾の厚みを減じ、刃部を作り出している。しかし砾原面を残す個は、剥離痕が大きかったり、やや鈍角な砾原面をそのまま残していたりと刃部を作り出すような細かな調整が見られない。また、半分近くが欠損していると考えられ全容は知り得ない。刃部附近には磨かれた痕跡はない。7は黒色安山岩の二次加工ある剥片である。本来は穂を持つ石刃状剥片であろう。途中で折れている。片側側縁に加工が加えられている。先端部には石材原面を残す。8は黒色安山岩の二次加工ある剥片である。打面は残っておらず大型の剥片の先端部側である。背面は石材原面を残す。左側縁に腹面からの打撃により加工を行っている。9は黒色安山岩の二次加工ある剥片である。先端部附近に加工が行われている。10・11は接合資料である。本来は石材から剥離された大型の剥片である。背面は石材原面である。二片のうち10は石器集中9に含まれる遺物で、本石器群の11とは約32mの距離を隔てる。12・13・14は黒色安山岩の接合資料である。本来は石材から剥離された大型の剥片である。背面は石材原面である。14は石器集中7に含まれる遺物で、接合資料12・13とは約25mの距離を隔てる。15・16は接合資料である。打面を欠損しているが、本来は石材から剥離された大型の剥片である。背面はほとんど石材原面である。17・18は接合資料である。摺理面で剥離をしている。一部に石材原面を残す。19は黒色安山岩の横長剥片である。背面の一部に石材原面を残す。20は黒色安山岩の縦長剥片である。腹面からの加圧により縦方向に折れおり、半分が欠損している。21は黒色安山岩の縦長の剥片である。22は黒色安山岩の厚めの剥片である。背面に石材原面を残す。23は黒色安山岩の剥片である。石材原面に打撃を加え剥離している。24は黒色安山岩の剥片である。本来はかなり大型の剥片であったが何回も剥離作業が行われ残ったものか、一部に石材原面が残る。25は黒色安山岩の横長の剥片である。23同様に石材原面に打撃を加え剥離している。26は黒色安山岩の厚めの剥片である。24同様本来はかなり大型の剥片であったが何回も剥離作業が行われ残ったものか、一部に石材原面が残る。27は黒色安山岩の横



第27図 石器集中8出土状況（器種別）

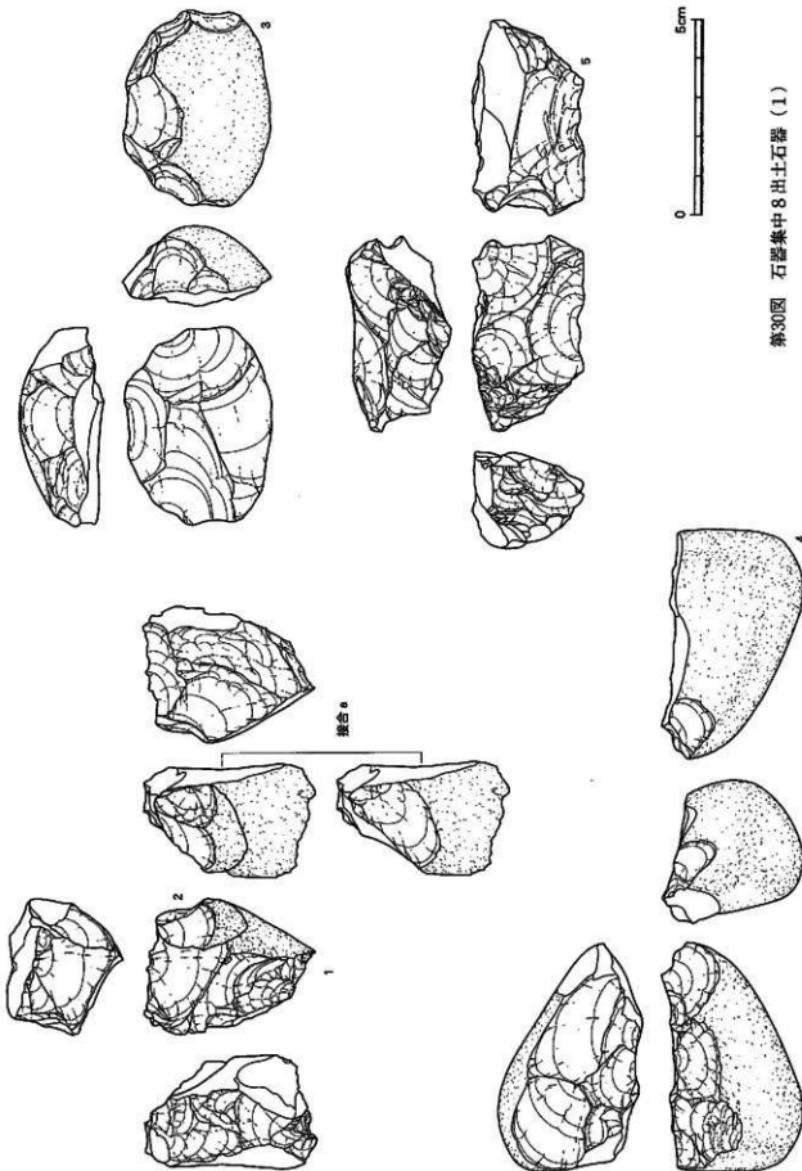


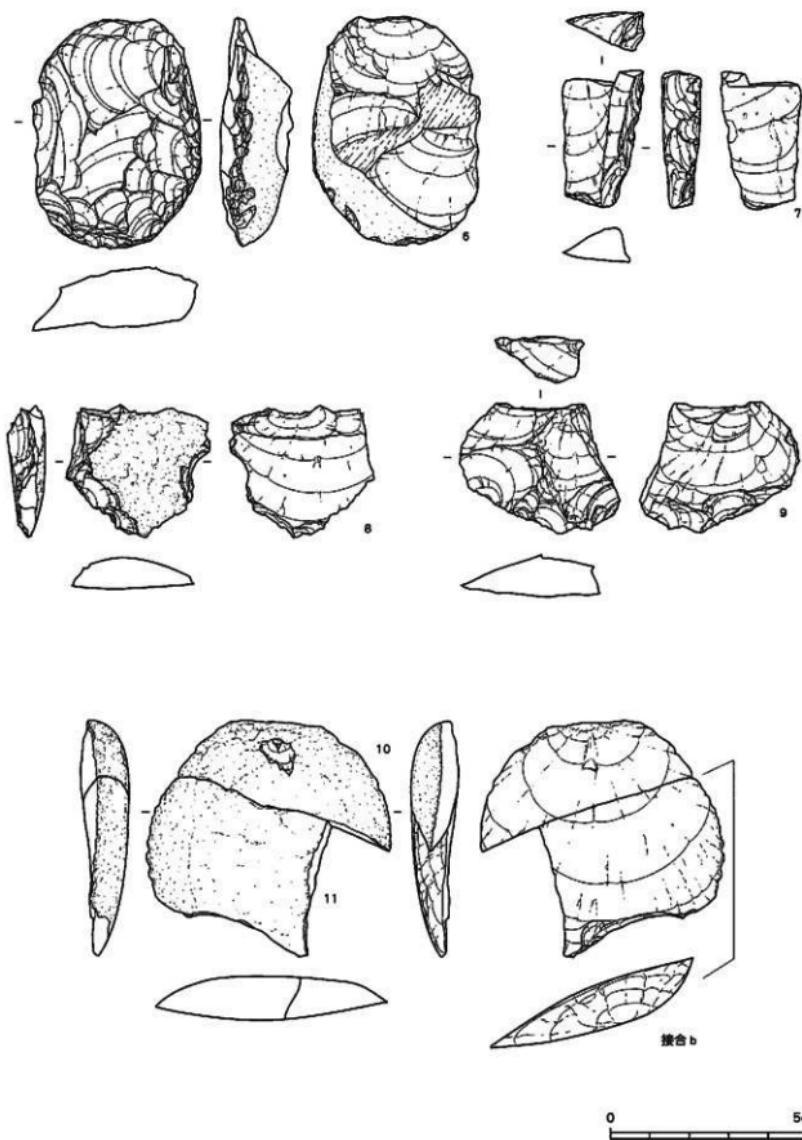
第28図 石器集中8出土状況(石材別)



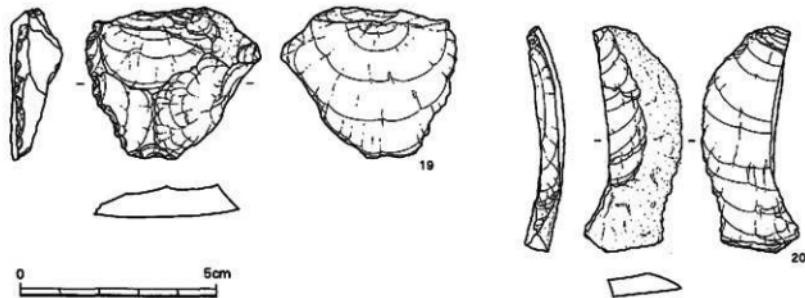
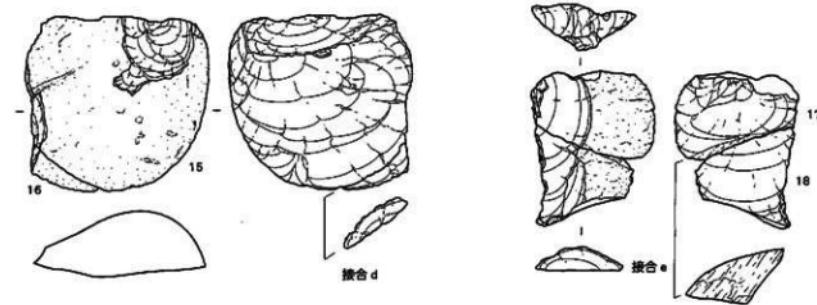
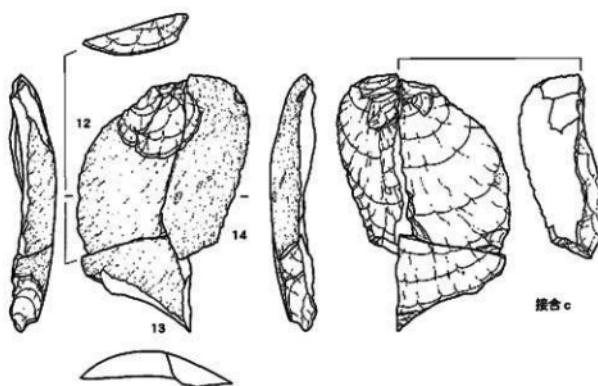
第29図 石器集中7・8・9間の石器接合状況

第30圖 石器集中8出土石器（1）

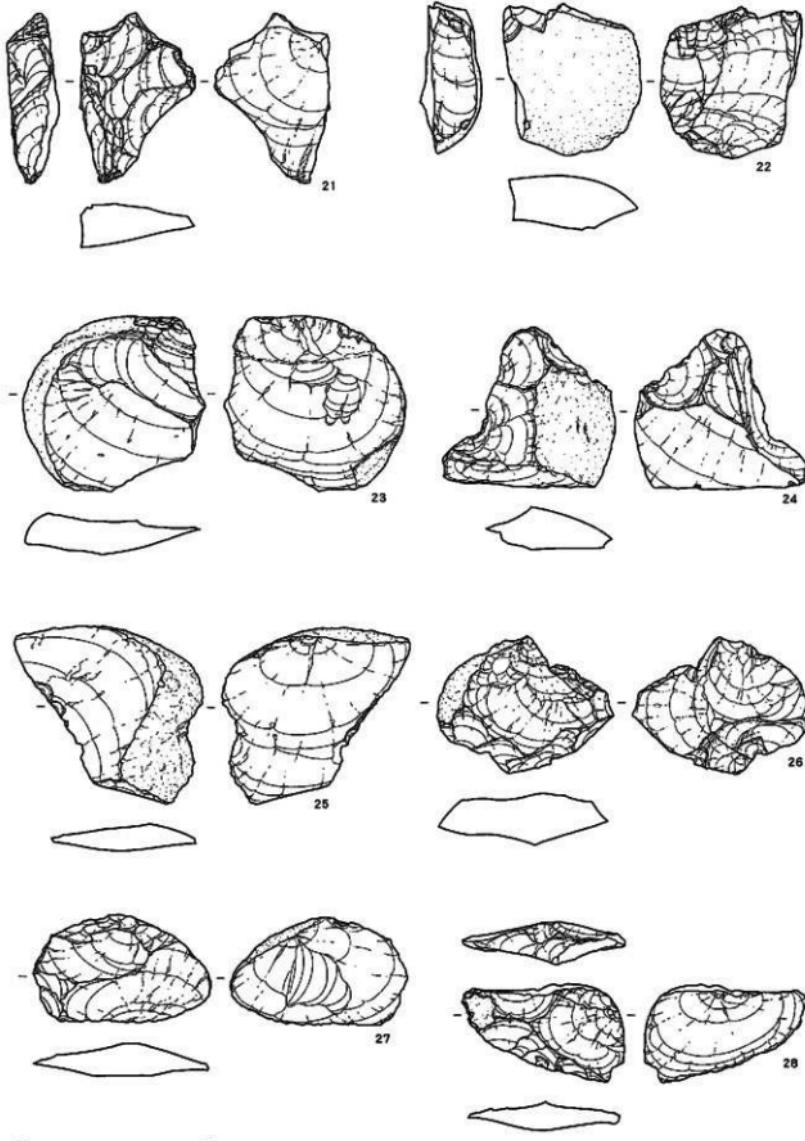




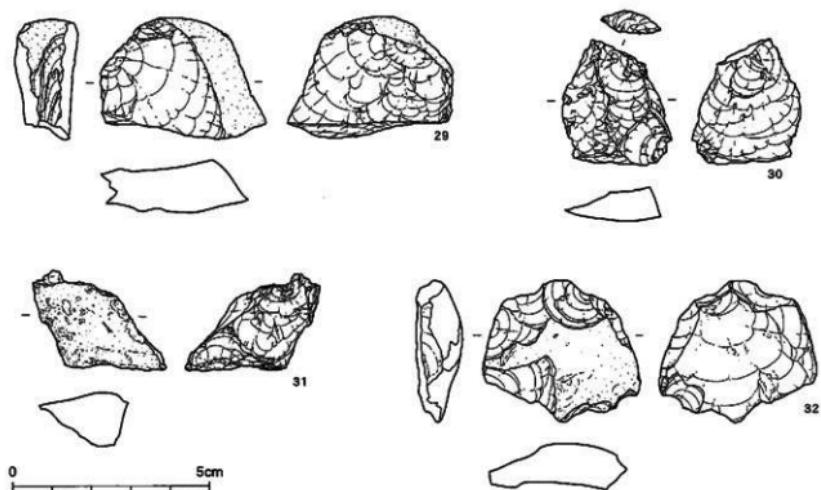
第31図 石器集中8出土石器（2）



第32図 石器集中 8 出土石器 (3)



第33図 石器集中8出土石器(4)



第34図 石器集中8出土石器（5）

長の剥片である。石材原面に打撃を加え剥離している。28は黒色安山岩の横長の剥片である。29は黒色安山岩の厚い剥片である。本来は大型の横長の剥片であったが、腹面からの加圧により縦方向に折れている。30は黒曜石の剥片である。31はメノウの厚さのある剥片である。背面に石材原面を残す。32はトロトロ石の剥片である。石材原面を残す。

石器集中9（第29・35～38図 図版7・35）

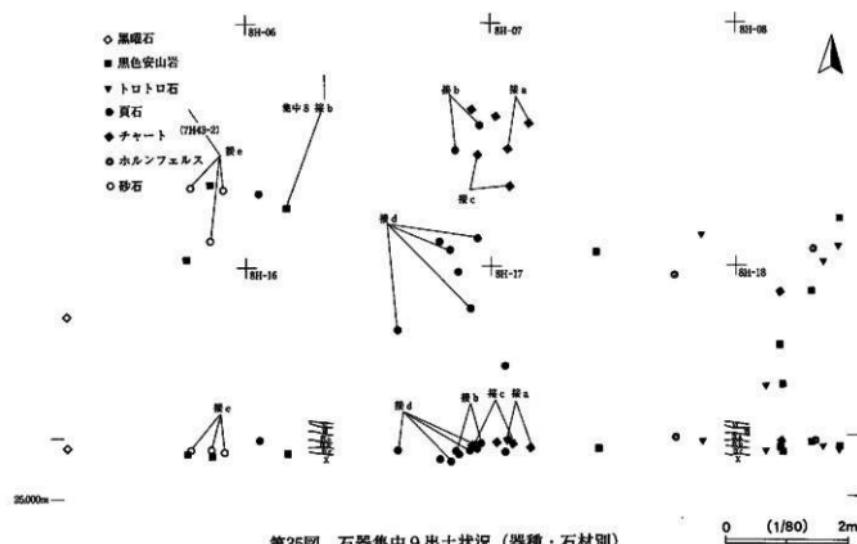
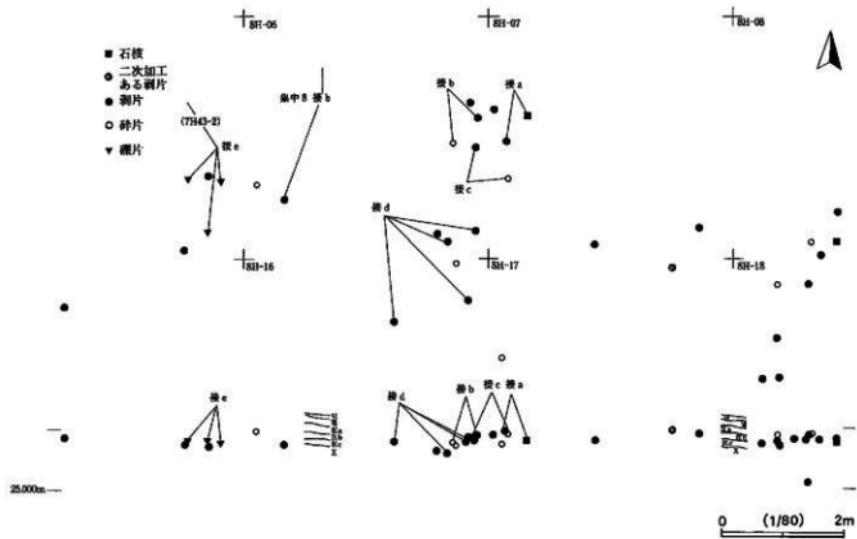
グリッド8H-05・06・07・08・15・16・17・18から検出された遺物が計38点の石器群である。幅7m、長さ17mの東西に長い範囲のなかに散漫に分布する。出土層順はⅣ層である。

石 材

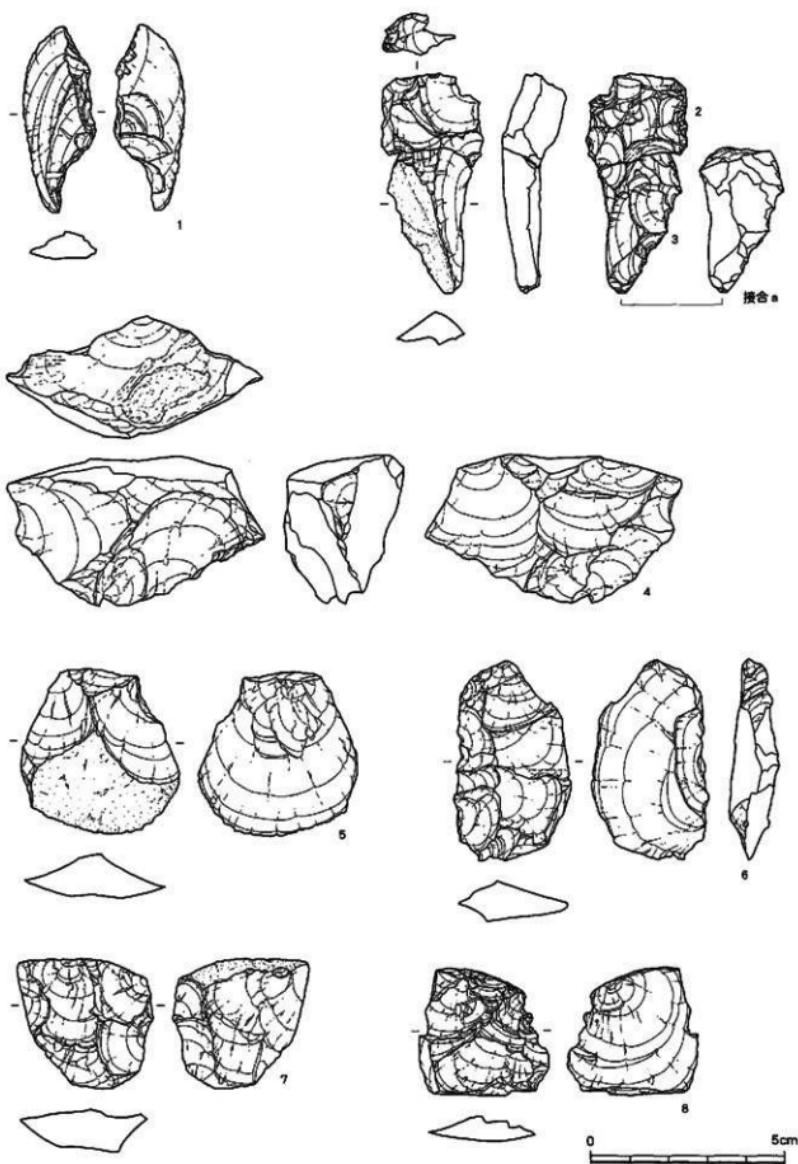
頁岩が10点と最も多い、ほかは黒色安山岩9点、チャート各7点、トロトロ石6点、砂岩3点、ホルンフェルス2点、黒曜石1点である。

器 種

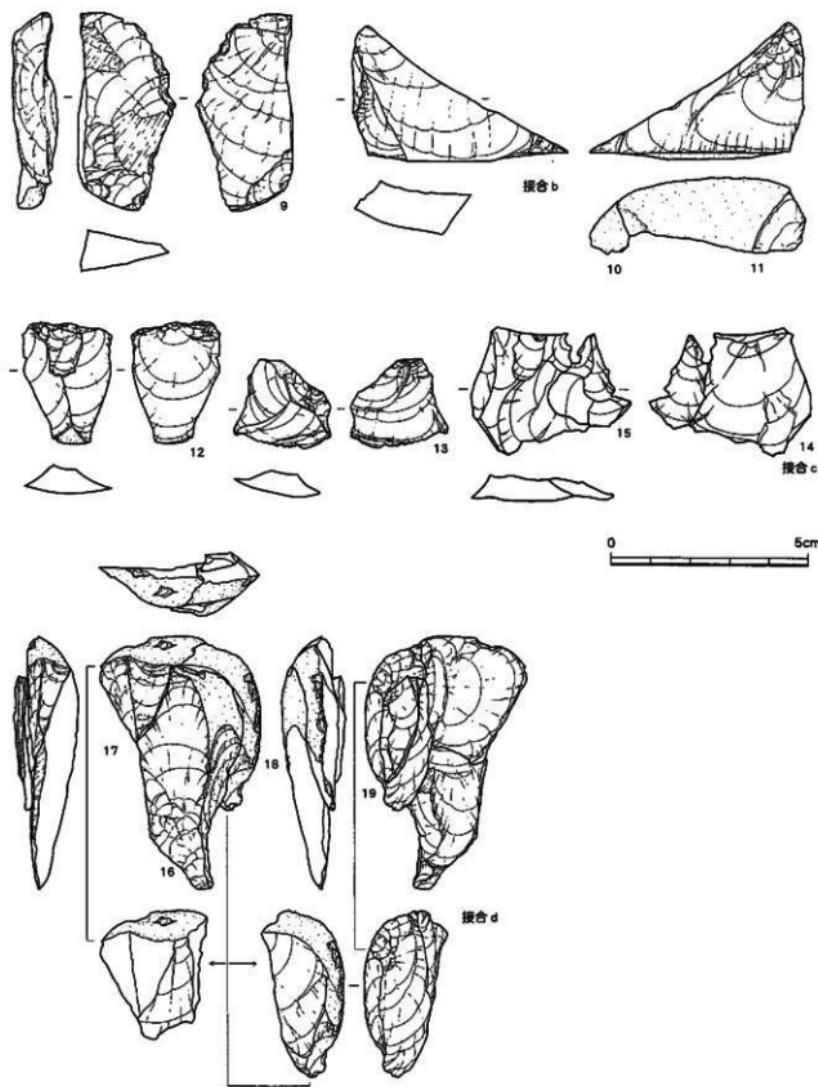
石核2点、二次加工ある剥片3点、礫1点のほかは剥片及び碎片である。1はホルンフェルスの二次加工ある剥片である。2・3は接合資料である。ともに二次加工ある剥片である。2は両極打法による階段状剥離が一方に見られることから楔形石器の可能性もある。4はトロトロ石の石核である。打面を頻繁に変え剥離作業を行っている。一部に石材原面を残す。5は黒色安山岩の剥片である。背面に石材原面を残す。6は黒色安山岩の横長剥片である。7は黒色安山岩の剥片である。一部に石材原面を残す。8は黒色安山岩の縦長の剥片である。一部に石材原面を残す。原面に打点があり打面調整のための破片か。先端部



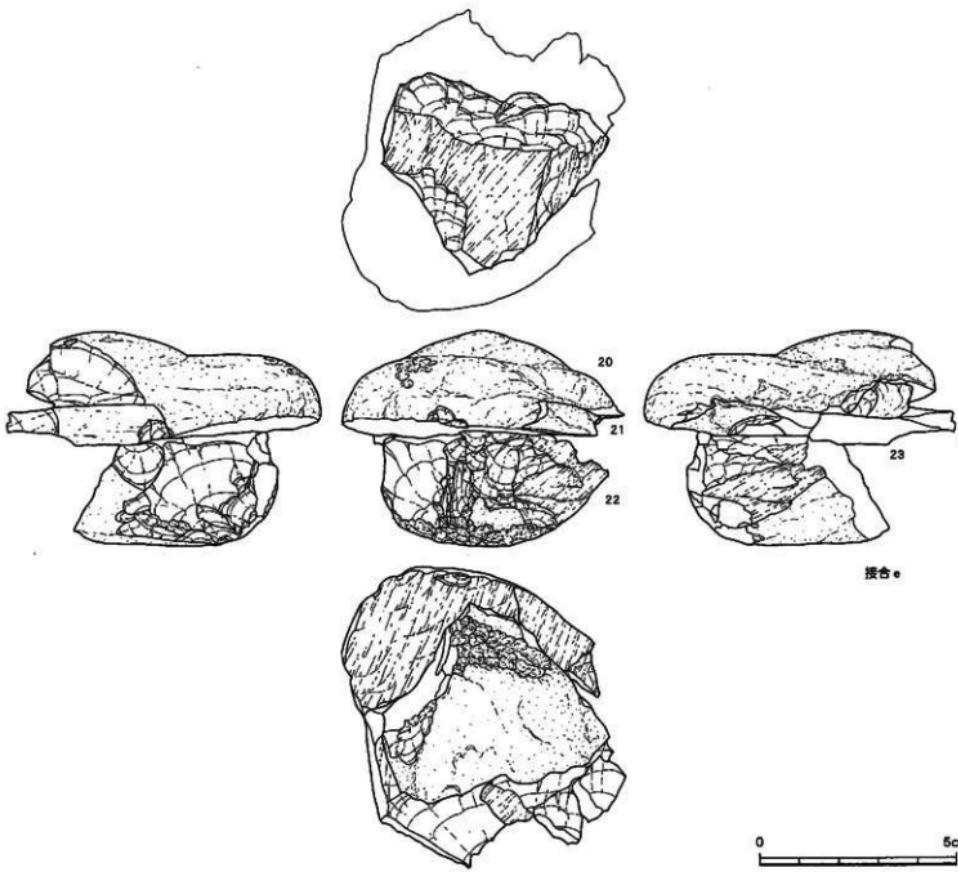
第35図 石器集中9出土状況（器種・石材別）



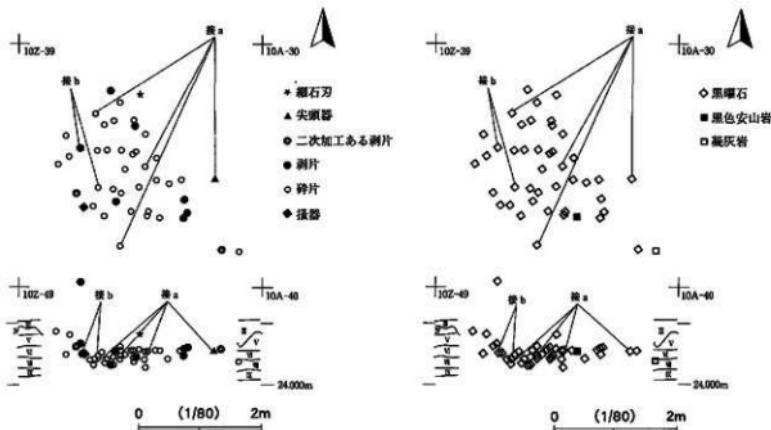
第36図 石器集中9出土石器(1)



第37圖 石器集中9出土石器（2）



第38図 石器集中9出土石器（3）



第39図 石器集中10出土状況（器種・石材別）

頭が折れている。9は黒色安山岩の縦長の剥片である。先端部に石材原面を残す。左側半分が折れて欠損している。10・11は接合資料である。頁岩のかなり厚みのある剥片である。一部に石材原面を残す。12は頁岩の剥片である。先端部背面に一部石材原面を残す。13はチャートの剥片である。14・15は接合資料である。チャートの剥片同士の接合である。16・17・18・19は頁岩の接合資料である。すべて剥片の接合で、一部に石材原面を残す。20・21・22・23は砂岩礫の接合資料である。すべて振理面での剥離で意図的に割られたものではない。一部砾表面に使用によると考えられる細かな凹凸がまとまって見られ、台石または敲き石として使われていた可能性もある。

石器集中10（第39・40図 図版8・36）

グリッド10Z-39から検出された遺物が計51点の石器群である。径約4mの範囲のなかに集中して分布する。出土層順はⅧ層～Ⅸ層である。

石 材

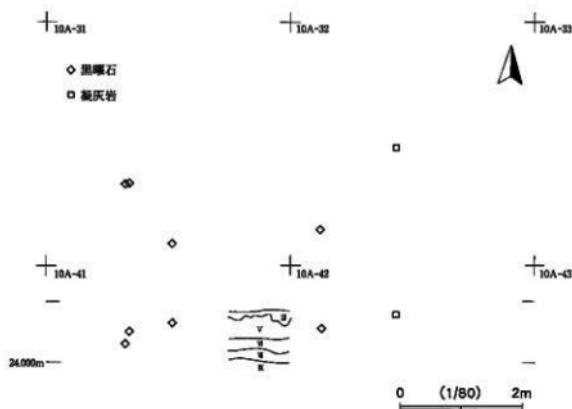
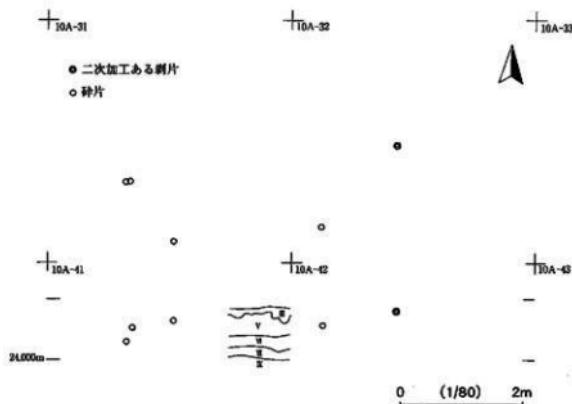
黒曜石が49点と多く、石材のほとんどを占める。ほかには黒色安山岩・凝灰岩各1点である。

器 種

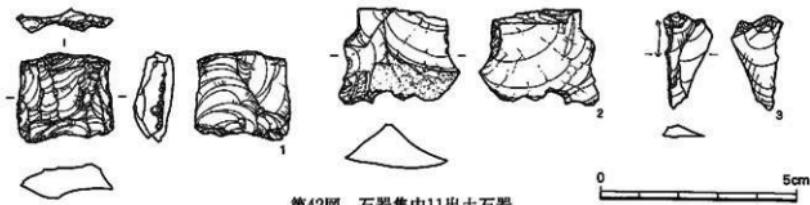
尖頭器1点、撃器1点、二次加工ある剥片3点、細石刃様剥片1点のほかは剥片または碎片である。1・2・3・4は接合資料である。1は黒曜石の尖頭器である。やや厚い縦長剥片の背面左側縁に先端部へ向かって調整が行われている。基部附近は左側縁の覆面側に調整を、右側縁には背面側に調整を行っている。右側縁の先端部側は厚く残り調整は行われていない。2は尖頭器の調整中に剥離した剥片である。3・4は接合し、一つの剥片となるが、尖頭器成形のために剥離された剥片である。5・6は接合資料である。5は撃器の作成途中のものか、剥離面を残し腹面から剥片が円形になるようにやや荒く剥離を繰り返して



第40図 石器集中10出土石器



第41図 石器集中11出土状況（器種・石材別）



第42図 石器集中11出土石器

いる。6はその過程で剥離された剥片である。7は細石刃様剥片である。打面と先端が欠損している。8は黒曜石の綫長の剥片である。9は黒曜石の横長の剥片である。10は黒曜石の剥片である。11は黒曜石の使用痕のある綫長の二次加工のある剥片である。一側縁に連続して一方は背面から、もう一方は腹面からの調整が2か所にノッチ状に細かな剥離痕が並ぶ。12は黒曜石の二次加工ある左側縁が厚く残る断面三角形を呈する綫長の剥片である。そのほか左側縁中央付近には背面からノッチ状に細かな剥離痕が並ぶ。13は黒曜石の横長の剥片である。14・15は接合資料である。黒曜石の剥片同士の接合である。本来は一つの綫長剥片であった。16・17は接合資料である。黒曜石の剥片同士の接合である。本来は一つの剥片である。18は黒曜石の二次加工のある綫長剥片である。基部及び先端部側は折れて失われている。両側縁には腹面から調整が加えられている。また、折れた基部側には背面からの調整も加えられている。ナイフ型石器の可能性も考えられる。19は黒曜石の剥片である。打面側が欠損しており、本来はもう少し長かったと思われる。やや厚みのある綫長い剥片で削片の様な剥片である。

石器集中11（第41・42図 図版36）

グリッド10A-30・31から検出された遺物が計6点と小規模な石器群である。径約5mの範囲のなかに散漫に分布する。出土層順はⅢ層～Ⅴ層である。

石 材

黒曜石が5点と多く、頁岩が1点である。

器 種

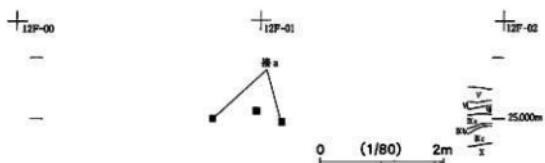
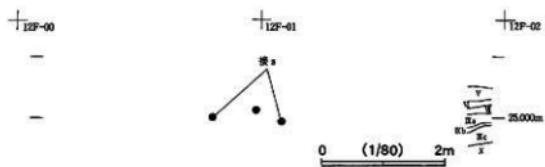
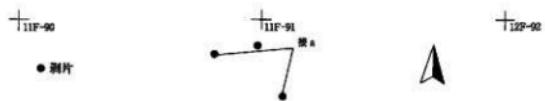
二次加工ある剥片が2点、使用痕ある剥片1点のほかは剥片である。1は黒曜石の二次加工ある剥片である。やや厚めの剥片に加工を加えている。大きな剥離痕と一辺には階段状の剥離が見られることから楔形石器の可能性もある。2は頁岩の二次加工ある剥片である。厚みのある剥片に調整が加えられている。一部に石材原面が残る。3は黒曜石の薄い綫長剥片である。基部に近い右側縁に腹面からノッチ状に細かな剥離痕が連なる。使用によると考える。

石器集中12（第43・44図 図版8・36）

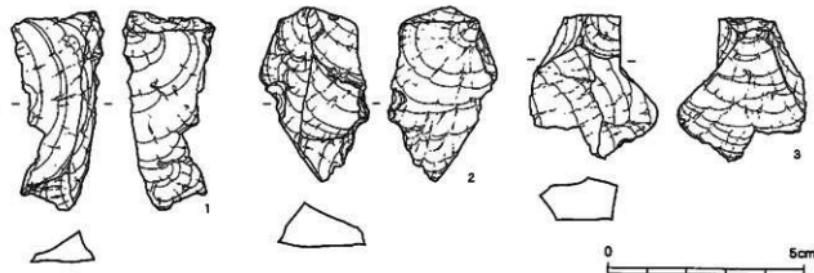
グリッド11F-81・90・91から検出された遺物が計4点の非常に小規模な石器群である。径約2mの範囲のなかに散漫に分布する。出土層順はⅦ層～Ⅹ層である。

石 材

黒色安山岩が4点すべてである。



第43図 石器集中12出土状況（器種・石材別）



第44図 石器集中12出土石器

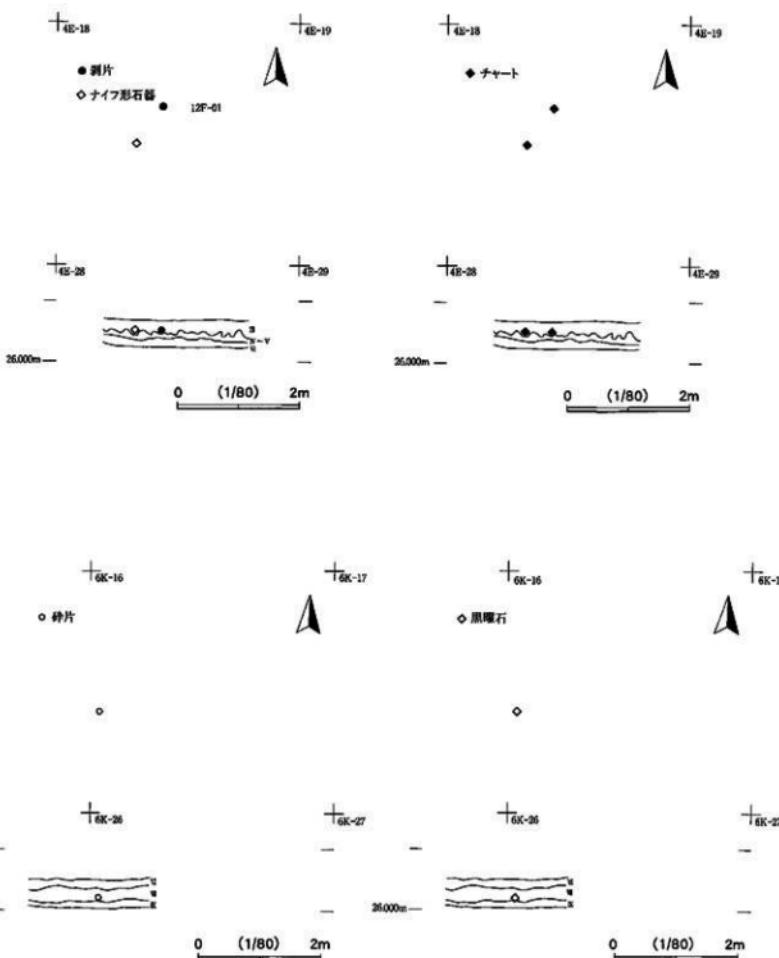
器種

1は黒色安山岩の綫長な厚みのある剥片である。2は黒色安山岩の綫長のやや厚みのある剥片である。3は黒色安山岩の厚みのある剥片である。打点側が欠損している。1・2・3は接合し一つの大型の剥片となる。

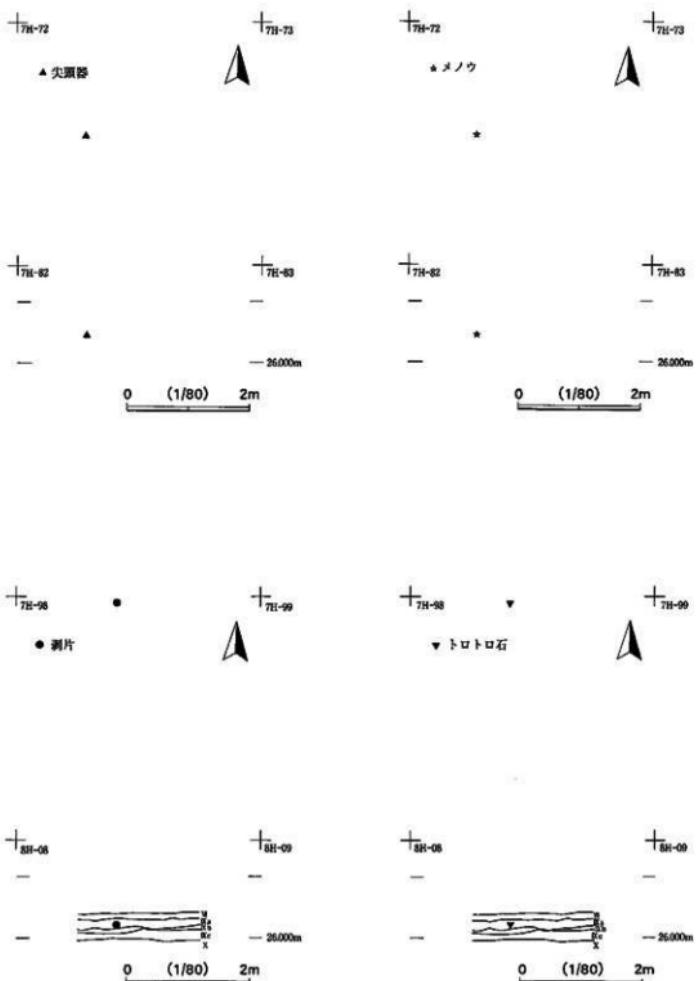
2 単独出土（第45～49図 図版8・37）

ここでは、石器群を構成しない単独ないし同一グリッドまたは隣接して出土した二点以下の遺物をまとめて述べることとする。はじめに出土位置が特定できるものを、次に位置の詳細が不明なものについて述べることとする。

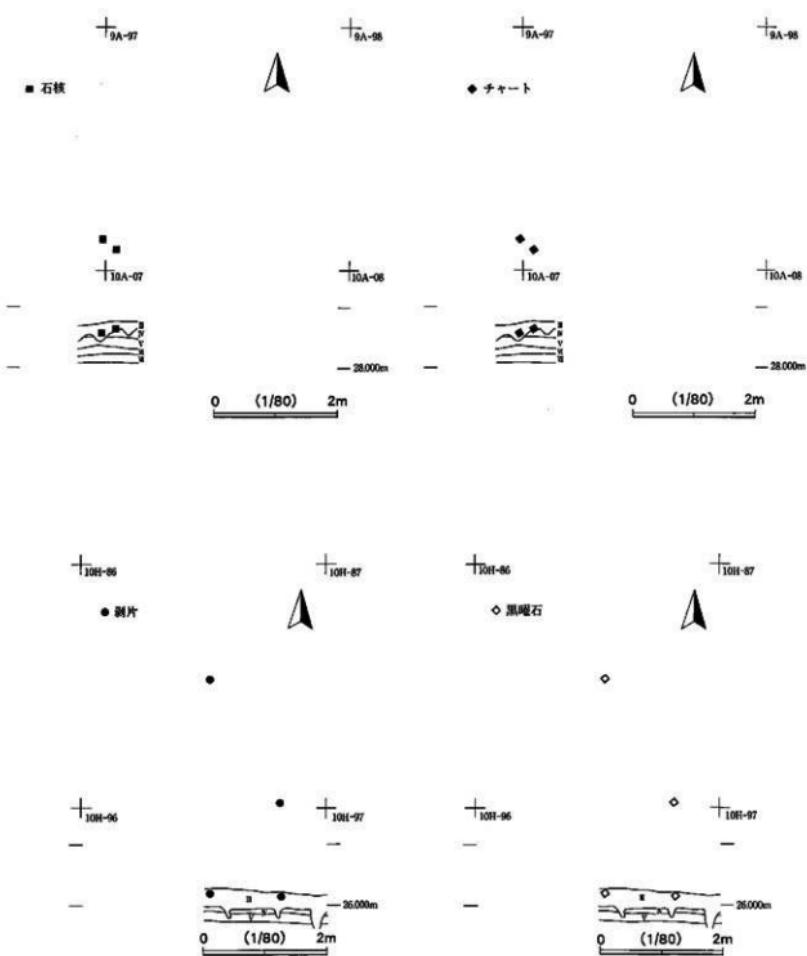
1はグリッド7H-72から出土したメノウの大型尖頭器の基部附近である。器面は両面細部調整が行われている。搔器とも考えたが、側縁部の調整が細かく整っており搔器の様相を示すものではないと判断した。尖頭器とすれば本来の形状は月桂樹葉と考える。断面形状も厚めではあるが凸レンズ状を呈している。また、片面の一部に石材の原面が残っていることから製作途上での欠損とも考えられる。残っている形状から本来の大きさを復元してみると長さ、幅、厚みとも尖頭器にしては大きすぎ厚すぎのように感じられる。出土層順はⅢ層最上部附近である。2はグリッド9A-96から出土したチャートの石核である。打面を替えながら剥離作業を行っている。3はグリッド9A-97から出土したチャートの石核である。打面を替えながら剥離作業を行っている。2・3は同一石材であり、出土層順とともにⅢ層である。4はグリッド4E-18から出土したチャートの横長剥片である。出土層順はⅢ層最上部附近である。5はグリッド4E-18から出土したチャートのナイフ形石器である。やや厚みのある断面三角形の剥片に基部背面の片側と刃部背面に細部調整を行っている。出土層順はⅢ層最上部附近である。6はグリッド6K-15から出土した黒曜石の剥片である。出土層順はⅣ層～V層である。7はグリッド10H-86から出土した黒曜石の横長剥片である。土層順はⅢ層最上部附近である。8はグリッド10H-86から出土した黒曜石の剥片である。背面は撓理面が残る。土層順はⅢ層最上部附近である。9はグリッド8A-86から出土した凝灰岩の綫長剥片である。腹面に石材原面を残す。10はグリッド7H-98から出土したトロトロ石の剥片である。11はグリッド6K-16から出土した砾片である。使用痕は認められない。出土層順はⅣ層～V層である。12はグリッド6H-66から出土した凝灰岩の剥片である。13はグリッド7H-63から出土した黒曜石の剥片である。



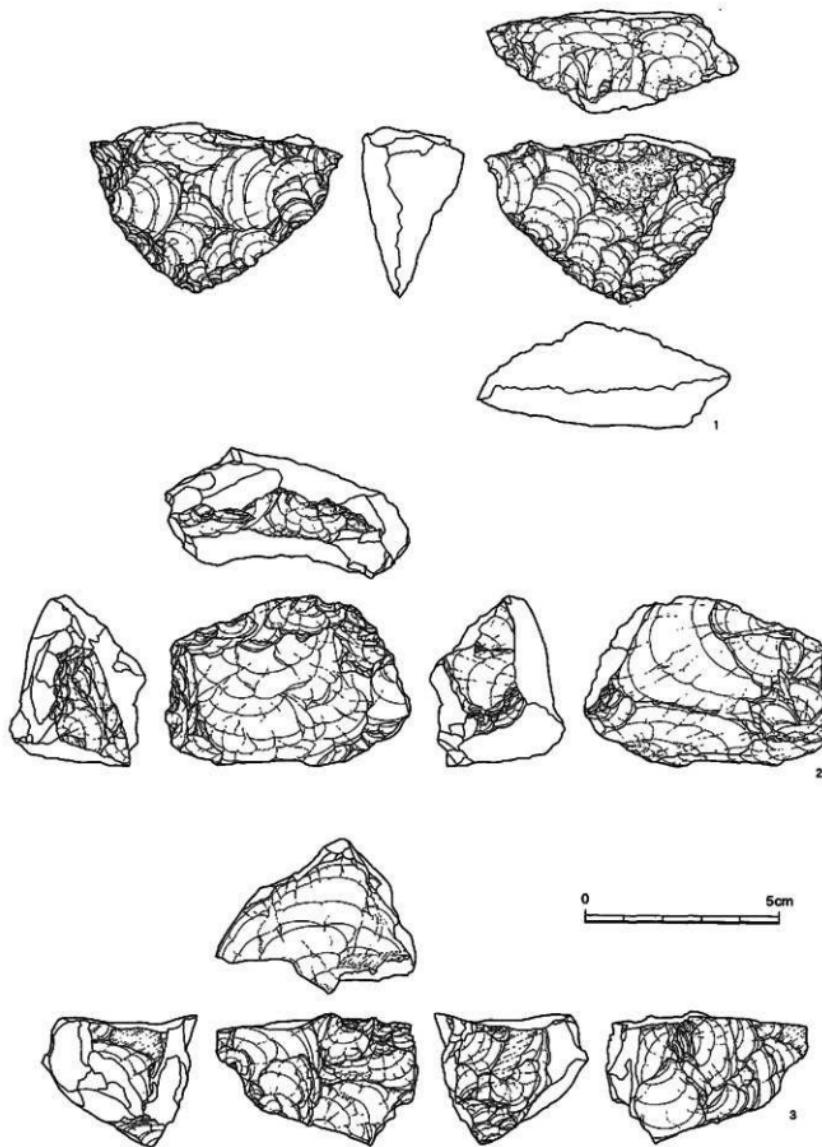
第45図 単独出土状況（器種・石材別）(1)



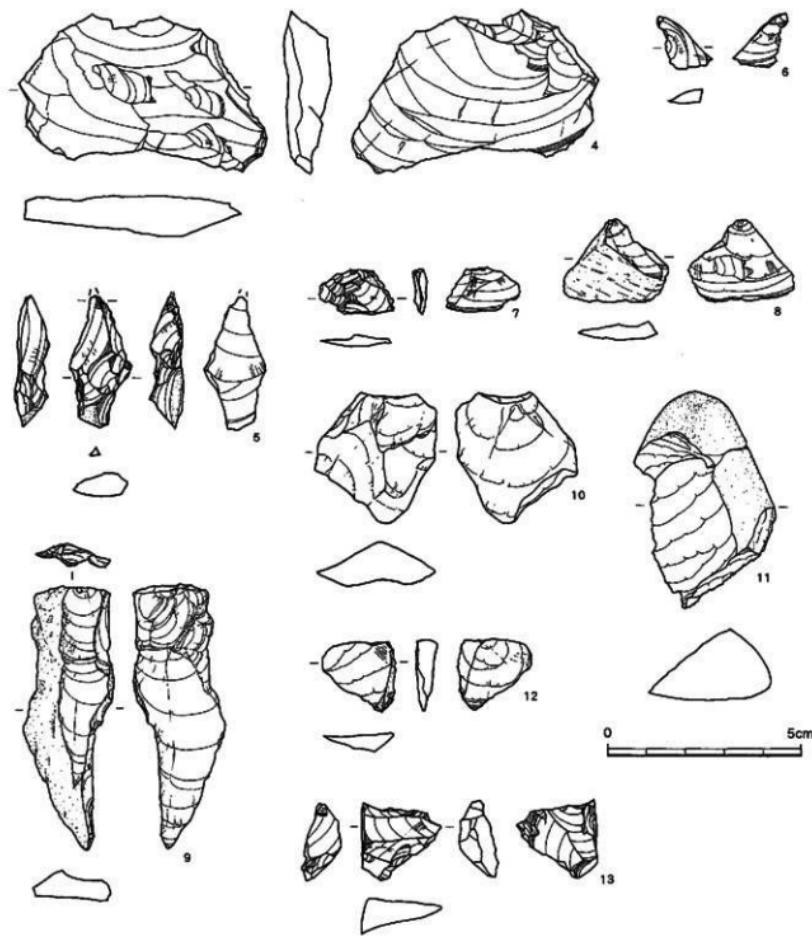
第46図 単独出土状況（器種・石材別）(2)



第47図 単独出土状況（器種・石材別）（3）



第48図 単独出土石器（1）



第49図 単独出土石器（2）

第3表 旧石器時代石器属性表 向辺田遺跡

集中 地点	遺物番号 グリッド 番号	標高(m)	器 種	石 材	最大長 cm			最大幅 cm			最大厚 cm			鉢 番号	備 考
					最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm		
1	2D-30	0001	26.150	刮片	ホルンフェルス	3.30	2.70	0.85	7.60	—	11-1				
1	2D-30	0002	26.034	刮片	ホルンフェルス	3.70	5.40	1.00	17.84	—	11-2				複合a
1	2D-30	0003	26.040	刮片	ホルンフェルス	2.02	2.10	0.45	1.63	—	11-5				複合a
1	2D-30	0004	26.048	刮片	ホルンフェルス	3.78	3.30	0.33	4.68	—	11-3				複合a
1	2D-31	0001	26.060	刮片	ホルンフェルス	3.70	4.50	0.90	12.03	—	11-4				
1	2D-40	0001	26.182	擦片							3.29				被熱
1	2D-40	0002	26.299	擦片	花崗岩						6.52				被熱
1	2D-40	0003	26.056	刮片	チャート	2.00	2.60	0.60	2.65	—	11-6				
1	2D-40	0004	25.987	刮片	頁岩	1.20	1.30	0.25	0.35	—	11-7				
1	2D-41	0001	26.235	擦片	砂岩						3.63				被熱
1	2D-41	0002	26.247	擦片	砂岩						7.26				被熱
2	2D-53	0001	26.416	擦片	砂岩						11.83				被熱, No.08
2	2D-63	0001	26.314	刮片	黒魚安山岩	2.52	2.30	0.75	5.35	—	13-2				No.01
2	2D-63	0002	26.341	擦片	砾砂岩	3.30	2.40	0.70	7.51						
2	2D-63	0003	26.538	擦片	砾砂岩	3.75	3.80	1.02	15.70						
2	2D-63	0004	26.406	二次加工削片	頁岩	2.80	2.60	0.53	3.33	—	13-1				
2	2D-63	0004	26.406	擦片	砾砂岩				0.36						
2	2D-63	0005	26.224	擦片	花崗岩				94.45	—	13-7				被熱, No.01
2	2D-63	0006	26.392	刮片	墨色花山岩	1.52	2.10	0.35	0.86	—	13-3				
2	2D-63	0007	26.245	擦片	砾砂岩	2.30	2.40	0.52	3.05						
2	2D-63	0009	26.255	擦片	砂岩	1.30	1.25	0.80	1.66						
2	2D-63	0010	26.375	擦片	ホルンフェルス				2.50						被熱
2	2D-63	0011	26.372	擦片	砂岩				0.06						被熱
2	2D-63	0012	26.391	擦片	チャート				19.86						被熱
2	2D-63	0013	26.365	擦片	砂岩				0.36						被熱
2	2D-63	0014	26.324	擦片	砂岩				11.83						被熱, No.08
2	2D-63	0015	26.313	擦片	花崗岩				42.03	—	13-8				No.03
2	2D-63	0016	26.351	擦片	砾砂岩				1.56						被熱
2	2D-63	0017	26.286	擦片	チャート				10.45						被熱
2	2D-63	0018	26.287	擦片	砾砂岩				0.18						被熱
2	2D-63	0019	26.373	擦片	砂岩				6.13						被熱, No.07
2	2D-63	0020	26.325	擦片	ホルンフェルス				0.43						被熱
2	2D-63	0021	26.374	擦片	砾砂岩				0.09						被熱
2	2D-63	0022	26.423	擦片	砂岩				6.13						被熱, No.07
2	2D-63	0023	26.405	擦片	花崗岩				66.35						被熱, No.06
2	2D-63	0024	26.361	擦片	砾砂岩				17.39						被熱
2	2D-63	0025	26.360	擦片	花崗岩				96.40	—	13-4				被熱, No.02
2	2D-63	0026	26.410	擦片	砂岩				0.03						被熱
2	2D-63	0027	26.437	擦片	花崗岩				0.17						被熱
2	2D-63	0028	26.412	擦片	砂岩				0.64						被熱
2	2D-63	0029	26.353	擦片	花崗岩				46.13						被熱, No.04
2	2D-63	0030	26.372	擦片	砾砂岩				24.86						被熱
2	2D-63	0031	26.361	擦片	花崗岩				25.46						被熱, No.09
2D-63	0032	26.405	擦片	花崗岩				94.45	—	13-7				被熱, No.01	
2	2D-63	0033	26.372	擦片	花崗岩				46.13						被熱, No.04
2	2D-63	0034	26.334	擦片	花崗岩				94.45	—	13-7				被熱, No.01
2	2D-63	0035	26.475	擦片	花崗岩				11.20						被熱
2	2D-63	0036	26.388	擦片	砾砂岩				64.62						被熱
2	2D-63	0037	26.356	擦片	砾砂岩				0.73						被熱
2	2D-63	0038	26.377	擦片	花崗岩				66.35						被熱, No.06
2	2D-63	0039	26.322	擦片	砾砂岩				19.02						被熱
2	2D-63	0040	26.287	擦片	砾砂岩				27.81						被熱, No.05
2	2D-63	0041	26.361	擦片	チャート				0.45						被熱
2	2D-63	0042	26.323	擦片	花崗岩				66.35						被熱, No.06
2	2D-63	0043	26.289	擦片	砾砂岩				7.19						被熱
2	2D-63	0044	26.297	擦片	砾砂岩				35.04						被熱
2	2D-63	0045	26.338	擦片	砾砂岩				1.10						
2	2D-63	0046	26.346	擦片	花崗岩				94.45	—	13-7				被熱, No.01

集中地點	遺物番号	標高(m)	器 種	石 材	最大長		最大幅 cm	最大厚 cm	重 量 g	辨認番号	備 考
					cm	cm					
2	2D-63	0047	26.213	禮片	花崗岩				11.49		被熱
2	2D-63	0048	26.219	禮片	花崗岩				0.62		被熱
2	2D-63	0049	26.252	禮片	硬砂岩				1.11		被熱
2	2D-63	0050	26.173	禮片	硬砂岩				0.19		被熱
2	2D-63	0051	26.155	禮片	硬砂岩				0.12		被熱
2	2D-63	0052	26.284	禮片	硬砂岩				0.35		被熱
2	2D-63	0053	26.322	禮片	チヤート				66.35		被熱, No.06
2	2D-63	0054	26.284	禮片	砂岩				6.13		被熱, No.07
2	2D-64	0001	26.356	禮片	花崗岩				94.45	13-7	被熱, No.01
2	2D-64	0002	26.360	禮片	花崗岩				96.40	13-4	被熱, No.02
2	2D-64	0003	26.338	禮片	硬砂岩				4.45		被熱
2	2D-64	0004	26.445	禮片	砂岩				1.33		被熱
2	2D-64	0004	26.445	禮片	砂岩				6.23		被熱
2	2D-64	0005	26.274	禮片	硬砂岩				0.38		被熱
2	2D-64	0006	26.435	禮片	硬砂岩				12.88		被熱
2	2D-64	0007	26.335	禮片	花崗岩				94.45	13-7	被熱, No.01
2	2D-64	0008	26.384	禮片	花崗岩				51.72	13-6	被熱
2	2D-64	0009	26.356	禮片	花崗岩				61.39	13-5	被熱
2	2D-64	0010	26.418	禮片	硬砂岩				0.14		被熱
2	2D-64	0011	26.420	禮片	砂岩				0.59		被熱
2	2D-64	0012	26.432	鉗片	黑色安山岩	1.42	1.00	0.57	0.56		
2	2D-64	0013	26.400	禮片	花崗岩				66.35		被熱
2	2D-64	0014	26.404	鉗片	黑色安山岩	1.20	1.30	0.15	0.15		
2	2D-64	0015	26.318	禮片	硬砂岩				27.81		被熱, No.05
2	2D-64	0016	26.320	禮片	花崗岩				10.30		被熱
2	2D-64	0017	26.333	禮片	砂岩				2.32		被熱
2	2D-64	0018	26.408	禮片	硬砂岩				27.81		被熱, No.05
2	2D-64	0019	26.396	禮片	花崗岩				25.46		被熱, No.09
2	2D-64	0020	26.402	禮片	硬砂岩				2.07		被熱
2	2D-64	0021	26.333	禮片	硬砂岩				2.83		被熱
2	2D-64	0022	26.391	禮片	砂岩				0.57		被熱
2	2D-64	0023	26.303	禮片	チヤート				42.03	13-8	No.03
3	5J-17	0001	27.169	鉗片	頁岩	4.60	2.75	0.60	9.47		
3	5J-17	0002	27.100	鉗片	頁岩	3.75	2.60	1.40	12.89	15-2	
3	5J-18	0001	27.115	鉗片	黑色安山岩	1.90	1.10	0.60	0.78		
3	5J-27	0001	26.988	鉗片	黑色安山岩	6.00	5.65	1.45	53.82	15-5	
3	5J-27	0002	27.032	鉗片	黑色安山岩	3.40	3.30	0.85	9.91	15-4	
3	5J-27	0003	27.069	鉗片	黑色安山岩	0.90	2.55	0.48	0.96		
3	5J-28	0001	27.070	礫石刃核	頁岩	2.52	1.85	1.70	8.45	15-1	
4	SK-71	0001	26.605	鉗片	黑曜石	1.90	2.20	0.73	2.63	15-3	
4	SK-81	0001	26.796	鉗片	黑曜石	1.15	0.70	0.15	0.08		
4	SK-81	0002	26.517	二次加工片	黑曜石	5.80	3.10	0.40	9.14	17-5	
4	SK-81	0003	26.622	鉗片	黑曜石	4.10	2.15	0.43	3.63	17-7	
4	SK-81	0004	26.565	鉗片	黑曜石	1.23	0.80	0.23	0.20		
4	SK-81	0005	26.700	鉗片	黑曜石	2.35	1.20	0.30	0.76	17-9	
4	SK-81	0006	26.627	鉗片	黑曜石	2.50	1.10	0.20	0.58	17-10	
4	SK-81	0007	26.555	鉗片	黑曜石	1.42	1.00	0.20	0.27		
4	SK-81	0008	26.530	鉗片	黑曜石	1.00	0.72	0.28	0.18		
4	SK-81	0009	26.550	鉗片	黑曜石	1.20	1.30	0.20	0.31	17-11	
4	SK-81	0010	26.612	鉗片	黑曜石	1.35	0.75	0.12	0.10		
4	SK-81	0011	26.640	石刀標剖片	黑曜石	1.20	0.90	0.18	0.31	17-1	
4	SK-81	0012	26.603	石刀標剖片	黑曜石	1.30	1.25	0.17	0.16	17-2	
4	SK-81	0013	26.630	鉗片	黑曜石	1.10	0.65	0.10	0.08		
4	SK-81	0014	26.530	二次加工片	黑曜石	1.90	2.70	0.55	2.65	17-4	
4	SK-81	0015	26.495	鉗片	黑曜石	1.65	1.45	0.25	0.60		
4	SK-81	0016	26.485	鉗片	黑曜石	0.85	0.50	0.10	0.02		
4	SK-81	0017	26.470	鉗片	黑曜石	0.50	0.50	0.15	0.03		
4	SK-81	0018	26.535	鉗片	黑曜石	0.87	0.70	0.15	0.04		
4	SK-81	0019	26.430	鉗片	黑曜石	0.55	0.40	0.10	0.04		
4	SK-81	0019	26.430	二次加工片	黑曜石	5.40	2.00	0.70	5.10	17-6	

集中 地点	造物番号	番号	標高(m)	器 種	石 材	最大長			最大幅 cm	最大厚 cm	重 量 kg	押回番号	備 考
						cm	cm	cm					
4	SK-81	0020	26.520	石刃鋸剥片	黒曜石	1.95	1.03	0.25	0.48	17-3			
4	SK-81	0021	26.475	剥片	黒曜石	0.50	0.55	0.25	0.04				
4	SK-81	0022	26.535	二次加工剥片	黒曜石	3.73	2.20	0.55	3.88	17-8			
4	SK-81	0023	26.448	剥片	黒曜石	1.60	1.20	0.28	0.35				
4	SK-81	0025	26.455	剥片	黒曜石	0.50	0.70	0.10	0.02				
4	SK-81	0026	26.405	剥片	黒曜石	0.70	0.30	0.10	-				
4	SK-81	0027	26.390	剥片	黒曜石	0.70	0.42	0.10	0.01				
4	SK-81	0029	26.402	剥片	黒曜石	0.30	0.20	0.07	-				
4	SK-81	0030	26.408	剥片	黒曜石	0.90	0.85	0.15	0.06				
4	SK-81	0031	26.372	剥片	黒曜石	1.05	1.15	0.10	0.13				
4	SK-81	0032	26.392	剥片	黒曜石	1.25	1.00	0.15	0.09				
4	SK-81	0033	26.365	剥片	黒曜石	0.60	0.85	0.10	0.06				
4	SK-81	0034	26.375	剥片	黒曜石	0.30	0.58	0.13	0.01				
4	SK-81	0035	26.322	剥片	黒曜石	0.50	0.70	0.10	0.03				
4	SK-81	0036	26.380	剥片	黒曜石	1.10	1.00	0.20	0.22				
4	SK-81	0037	26.387	剥片	黒曜石	0.30	0.55	0.06	-				
4	SK-81	0037	26.387	剥片	黒曜石	1.12	0.80	0.10	0.06				
4	SK-81	0038	26.280	剥片	黒曜石	0.35	0.53	0.08	0.01				
4	SK-81	0039	26.286	剥片	黒曜石	0.30	0.35	0.07	-				
4	SK-81	0040	26.335	剥片	黒曜石	1.90	0.70	0.30	0.42				
4	SK-81	0041	26.364	剥片	黒曜石	0.70	0.72	0.15	0.06				
4	SK-81	0042	26.285	剥片	黒曜石	1.20	0.75	0.17	0.15				
4	SK-81	0043	26.372	剥片	黒曜石	0.70	0.60	0.13	0.05				
4	SK-81	0044	26.400	剥片	黒曜石	0.40	0.50	0.06	0.01				
4	SK-81	0045	26.288	剥片	黒曜石	0.55	0.90	0.10	0.04				
4	SK-81	0046	26.302	剥片	黒曜石	0.72	0.68	0.10	0.04				
4	SK-81	0047	-	剥片	黒曜石	0.70	1.10	0.22	0.11			表持	
5	GH-52	0001	26.520	剥片	黒曜石	1.62	1.10	0.68	0.97				
5	GH-52	0002	26.322	剥片	砂岩	1.65	0.90	0.75	0.92				
5	GH-61	0001	26.507	剥片	黒色安山岩	1.40	2.30	0.85	2.55				
5	GH-61	0002	26.607	剥片	黒色安山岩	1.50	2.30	0.40	1.46				
5	GH-61	0003	-	剥片	黒色安山岩	2.90	2.00	0.70	3.83				
5	GH-62	0001	26.408	剥片	黒曜石	1.40	1.35	0.48	0.67				
5	GH-62	0002	26.402	石板	流紋岩	2.90	4.05	1.70	29.32				
5	GH-62	0003	26.492	剥片	黒曜石	2.85	2.40	1.28	5.98	20-2			
5	GH-62	0004	26.440	剥片	黒曜石	1.15	0.55	0.23	0.16				
5	GH-62	0005	26.435	剥片	黒色安山岩	4.40	5.10	2.15	38.42	20-9			
5	GH-62	0006	26.435	剥片	黒色安山岩	1.90	2.90	0.60	2.88	20-13			
5	GH-62	0007	26.515	剥片	黒色安山岩	2.50	1.63	0.97	3.90				
5	GH-62	0008	26.300	剥片	黒色安山岩	1.40	2.00	0.38	1.10				
5	GH-62	0009	26.350	剥片	トロトロ石	1.85	1.70	0.48	1.85				
5	GH-62	0010	26.447	剥片	黒色安山岩	3.42	3.10	1.00	10.74	20-3		接合a	
5	GH-62	0011	26.599	剥片	チャート	1.90	3.05	0.55	2.66	20-10			
5	GH-62	0012	26.295	石板	黒色安山岩	3.65	3.50	2.25	30.66	20-1			
5	GH-62	0013	26.249	剥片	黒色安山岩	1.30	1.80	0.25	0.57				
5	GH-63	0001	26.649	剥片	黒曜石	1.55	1.30	0.60	1.08				
5	GH-63	0002	26.437	剥片	黒曜石	0.70	1.10	0.18	0.11				
5	GH-63	0003	26.615	剥片	黒色安山岩	1.40	1.25	0.30	0.45				
5	GH-63	0004	26.444	剥片	黒色安山岩	2.10	1.35	0.40	1.10	20-12			
5	GH-72	0001	26.525	剥片	黒色安山岩	1.35	1.30	0.20	0.33				
5	GH-72	0002	26.576	剥片	メノウ	5.60	2.20	1.00	10.76	20-8		接合b	
5	GH-72	0003	26.373	剥片	黒色安山岩	3.55	3.00	0.90	11.65	20-6		接合a	
5	GH-72	0004	26.390	剥片	黒色安山岩					20-5		接合a	
5	GH-72	0005	26.295	剥片	黒色安山岩					20-4		接合a	
5	GH-72	0006	26.216	剥片	メノウ					20-7		接合b	
5	GH-72	0007	26.286	剥片	トロトロ石	2.20	2.95	1.90	13.62				
5	GH-72	0008	26.345	剥片	黒色安山岩	1.65	1.25	0.35	0.56				
5	GH-72	0009	26.184	二次加工剥片	黒色安山岩	4.60	2.70	1.30	15.74	20-11			
6	TB-09	0001	26.396	台石	砂岩					240.34	24-17	接合c	
6	TB-19	0001	26.467	側面剥片	頁岩	2.92	1.05	0.40	1.69	23-3		接合d	

集中地点	產物番号	標高(m)	番	種	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	辨別番号	備 考
						cm	cm	cm	g		
6	7B-19	0002	26.466	洞壁剥片	板灰岩	2.70	3.00	0.60	5.09	23-11	
6	7B-19	0003	26.465	剥片	頁岩	1.10	1.35	0.28	0.40		
6	7B-19	0004	26.325	剥片	板灰岩	1.90	2.10	0.35	2.41		
6	7B-19	0005	26.297	剥片	頁岩	1.30	0.72	0.18	0.20		
6	7B-19	0006	26.295	剥片	板灰岩	1.40	2.00	0.35	1.34		
6	7B-19	0007	26.105	剥片	板灰岩	1.40	1.60	0.37	0.81		
6	7B-29	0001	26.210	剥片	頁岩	1.33	0.70	0.20	0.16		
6	7B-29	0002	26.347	兩極剥片	頁岩	3.70	0.90	0.70	2.72	23-12	
6	7B-29	0003	26.355	剥片	頁岩	1.55	2.25	0.42	1.38		
6	7C-00	0001	26.304	纏片	板灰岩					24-17	
6	7C-00	0002	26.412	剥片	黑色安山岩	2.05	1.90	0.83		23-15	集合c
6	7C-10	0001	26.265	剥片	頁岩	2.60	1.50	0.65	3.02	23-10	集合c
6	7C-10	0002	26.436	剥片	板灰岩	3.00	2.23	0.65	5.30	23-14	
6	7C-10	0003	26.405	剥片	板灰岩	0.65	0.52	0.15	0.05		
6	7C-10	0003	26.403	剥片	ホルンフェルス	1.40	1.20	0.32	0.63		
6	7C-10	0004	26.486	剥片	チャート	3.00	2.40	1.30	7.81	23-13	
6	7C-10	0005	26.640	剥片	板灰岩	2.20	1.50	0.60	1.56		
6	7C-10	0006	26.498	兩極剥片	頁岩	2.83	1.05	0.28	1.03	23-5	集合d
6	7C-10	0007	26.280	剥片	板灰岩	1.55	1.40	0.25	0.56		
6	7C-10	0008	26.514	剥片	板灰岩	0.85	1.40	0.15	0.21		
6	7C-10	0009	26.410	剥片	板灰岩	0.40	0.35	0.10	0.02		
6	7C-10	0010	26.297	剥片	板灰岩	2.60	3.30	0.75	8.21	23-9	集合e
6	7C-10	0011	26.178	剥片	板灰岩	2.05	0.10	0.60	1.31		
6	7C-10	0012	26.295	剥片	板灰岩	1.40	0.70	0.38	0.31		
6	7C-10	0013	26.125	剥片	板灰岩	2.40	1.60	0.40	2.30		
6	7C-10	0014	26.236	剥片	板灰岩	1.60	0.83	0.48			
6	7C-10	0015	26.330	剥片	黑色安山岩	2.60	1.66	0.58		23-16	集合b
6	7C-11	0001	-	岩核	頁岩	3.15	3.50	2.10	24.33	23-1	
6	7C-11	0002	26.274	兩極剥片	頁岩	1.70	2.50	0.60	2.11	23-4	
6	7C-11	0003	26.377	剥片	板灰岩	2.55	3.30	0.52	2.99		
6	7C-11	0004	26.454	剥片	ホルンフェルス	1.05	1.55	0.70	1.12		
6	7C-20	0001	26.393	剥片	板灰岩	0.68	0.40	0.25	0.06		
6	7C-20	0002	26.242	剥片	頁岩	1.30	0.90	0.25	0.35		
6	7C-20	0003	26.230	剥片	板灰岩	0.38	0.32	0.10	0.01		
6	7C-20	0004	26.325	洞壁剥片	頁岩	2.70	1.40	0.90	3.50	23-2	
6	7C-20	0005	26.298	剥片	頁岩	2.10	0.70	0.38		23-8	集合a
6	7C-20	0006	26.652	剥片	板灰岩	0.90	1.30	0.15	0.18		
6	7C-20	0007	26.245	剥片	板灰岩	0.70	0.25	0.18	0.04		
6	7C-20	0008	26.258	纏片	砂岩						
6	7C-20	0009	26.374	剥片	頁岩	0.82	1.35	0.30	0.16		
6	7C-20	0010	26.180	剥片	板灰岩	0.68	0.65	0.40	0.16		
6	7C-20	0011	26.310	剥片	板灰岩	8.90	2.20	1.25	20.44	23-6	集合a
6	7C-20	0012	26.222	剥片	板灰岩	8.90	2.20	1.25	20.44	23-7	集合a
6	7C-20	0013	26.503	剥片	頁岩	1.60	0.90	0.23	0.34		
6	7C-20	0014	26.585	剥片	頁岩	2.00	2.20	0.35	4.05		
6	7C-21	0001	26.238	洞壁剥片	板灰岩	1.55	2.85	0.68	2.65		
6	7C-21	0002	26.367	剥片	ホルンフェルス	1.12	1.40	0.25	0.54		
6	7C-21	0003	26.322	剥片	頁岩	0.65	0.90	0.35	0.19		
6	7C-21	0004	26.242	剥片	頁岩	1.30	1.75	0.40	0.99		
7	7H-43	0001	26.403	剥片	ホルンフェルス	2.05	2.10	0.72	2.85		
7	7H-43	0002	26.122	纏片	板灰岩					243.16	38.22 集中9集合c
7	7H-43	0003	26.202	剥片	黑色安山岩	2.30	2.30	0.80	33.02	26-2	集合a
7	7H-43	0004	26.217	剥片	黑色安山岩	2.15	1.63	0.70	1.67		
7	7H-43	0005	26.101	剥片	黑色安山岩	4.12	1.78	0.60	4.81	26-5	
7	7H-43	0006	26.208	剥片	黑色安山岩	6.65	4.40	0.80	26.83	32-14	集合8集合c
7	7H-43	0007	26.164	剥片	黑色安山岩	1.75	1.15	0.43	0.84		
7	7H-44	0001	26.346	剥片	ホルンフェルス	1.00	1.20	0.28	0.38		
7	7H-44	0002	26.371	剥片	ホルンフェルス	1.90	1.50	0.40	1.16		
7	7H-44	0003	26.177	剥片	黑色安山岩	2.80	2.15	0.75	3.69	26-3	
7	7H-44	0004	26.166	剥片	ホルンフェルス	1.30	1.15	0.30	0.52		

集中 地点	造物番号	番号	標高[m]	器 種	石 材	最大長			最大幅 cm	最大厚 cm	重 量 kg	持 括 番 号	備 考
						os	ca	ca					
7	TH-44	0005	26.101	剥片	黑色安山岩	3.30	5.20	1.75	33.02	25-1	接合a		
7	TH-53	0001	26.160	剥片	黑色安山岩	2.03	3.35	0.28	0.77				
7	TH-53	0002	26.096	剥片	黒曜石	1.55	2.20	0.60	1.64	25-4			
7	TH-54	0001	26.225	剥片	トロトロ石	3.15	2.80	1.00	6.65	25-6			
7	TH-54	0002	26.128	剥片	黑色安山岩	0.60	0.70	0.23	0.09				
8	TH-18	0001	-	剥片	黑色安山岩	4.60	4.30	0.75	16.41				
8	TH-27	0001	26.379	剥片	トロトロ石	2.70	3.20	0.82	5.82				
8	TH-27	0002	26.446	剥片	黑色安山岩	2.90	1.35	0.70	2.68				
8	TH-27	0003	26.255	剥片	黑色安山岩	0.40	0.55	0.13	0.03				
8	TH-18	0001	-	剥片	黑色安山岩	4.60	4.30	0.75	16.41				
8	TH-27	0004	26.163	剥片	黑色安山岩	3.90	3.20	1.40	15.74	32-18	接合e		
8	TH-27	0005	26.096	剥片	黑色安山岩	3.90	3.20	1.40		32-17	接合e		
8	TH-27	0006	26.216	剥片	黑色安山岩	4.53	1.25	1.10	6.20				
8	TH-27	0007	26.369	二次加工剥片	黑色安山岩	3.40	3.60	0.93	12.90	31-8			
8	TH-27	0009	26.282	剥片	黑色安山岩	4.60	4.80	1.75	48.38	32-15	計測値は接合値、接合d		
8	TH-26	0001	26.338	剥片	トロトロ石	2.63	1.30	0.60	1.23				
8	TH-28	0002	26.107	剥片	黑色安山岩	1.15	1.48	0.40	0.38				
8	TH-28	0003	26.109	剥片	黑色安山岩	2.60	1.15	0.35	0.71				
8	TH-37	0001	26.240	剥片	黑色安山岩	6.00	5.85	1.23	41.96	31-11	接合b		
8	TH-37	0002	26.260	剥片	輝灰岩	3.70	3.30	1.20	11.94	33-21			
8	TH-37	0003	26.233	剥片	トロトロ石	1.60	1.40	0.45	0.52				
8	TH-37	0004	26.170	剥片	黑色安山岩	1.15	1.20	0.20	0.25				
8	TH-37	0005	26.008	剥片	黑色安山岩	2.15	1.40	0.35	1.36				
8	TH-37	0006	26.008	剥片	黑色安山岩	2.20	1.10	0.70	1.41				
8	TH-37	0006	26.156	剥片	黑色安山岩	2.70	2.00	0.68	3.31				
8	TH-37	0007	26.174	核粒	黑色安山岩	2.85	4.90	2.80	35.26	30-5			
8	TH-37	0008	26.221	剥片	黑色安山岩	4.10	4.20	1.20	18.20	33-24			
8	TH-37	0009	26.437	剥片	黑色安山岩	2.00	0.90	0.40	0.77				
8	TH-37	0010	26.375	剥片	トロトロ石	1.45	3.13	0.43	1.49				
8	TH-37	0011	26.270	剥片	黑色安山岩	4.80	4.80	1.75		32-16	計測値は接合値、接合d		
8	TH-38	0001	26.045	剥片	黑色安山岩	4.90	2.80	0.75	1.45	33-25			
8	TH-38	0002	25.954	剥片	黑色安山岩	1.43	1.30	0.33	0.49				
8	TH-38	0003	25.980	剥片	黑色安山岩	2.90	1.55	0.45	2.06				
8	TH-38	0004	26.047	剥片	黑色安山岩	1.45	1.00	0.33	0.43				
8	TH-38	0005	26.247	剥片	黑色安山岩	1.30	1.25	0.23	0.34				
8	TH-38	0006	26.146	剥片	黑色安山岩	3.90	4.56	1.10	19.12	32-19			
8	TH-38	0007	25.995	剥片	黑色安山岩	1.90	1.00	0.33	0.55				
8	TH-38	0009	26.288	剥片	黑色安山岩	1.40	1.55	0.35	0.58				
8	TH-38	0010	-	二次加工剥片	黑色安山岩	3.40	4.00	1.40	17.51	31-9			
8	TH-38	0010	-	剥片	黑色安山岩	4.20	4.60	1.10	26.65	33-23			
8	TH-39	0001	25.910	核粒	黑色安山岩	3.00	4.70	3.10	42.83	30-1	接合a		
8	TH-39	0002	25.945	剥片	トロトロ石	1.40	1.60	0.63	1.09				
8	TH-39	0003	25.947	剥片	トロトロ石	3.60	2.70	0.95	10.68				
8	TH-39	0004	25.824	剥片	トロトロ石	0.93	1.20	0.30	0.22				
8	TH-39	0005	25.980	剥片	黑色安山岩	3.75	1.70	0.60	3.65				
8	TH-39	0006	26.039	剥片	黑色安山岩	1.40	1.05	0.20	0.25				
8	TH-39	0007	26.046	剥片	黑色安山岩	2.20	1.60	0.40	1.30				
8	TH-39	0008	25.801	剥片	トロトロ石	1.70	1.30	0.40	0.85				
8	TH-47	0001	26.280	剥片	質岩	1.15	0.70	0.25	0.18				
8	TH-48	0001	26.095	剥片	黒曜石	2.90	2.20	0.90	5.42				
8	TH-48	0002	26.048	剥片	黒曜石	1.90	2.40	0.20	3.67				
8	TH-49	0001	26.119	剥片	黑色安山岩	1.45	1.70	0.50	1.01	30-2	接合a		
8	TH-49	0002	25.997	剥片	黑色安山岩	6.65	4.40	0.80	26.83	32-12	接合c		
8	TH-49	0003	26.050	剥片	黑色安山岩	2.25	4.10	0.95	8.22	33-28			
8	TH-49	0004	25.984	剥片	黑色安山岩	1.40	1.15	0.60	0.97				
8	TH-49	0005	25.901	剥片	黑色安山岩	1.70	0.90	0.63	0.97				
8	TH-49	0006	25.856	剥片	黑色安山岩	1.65	1.05	0.33	0.54				
8	TH-49	0007	25.779	剥片	黑色安山岩	1.75	1.30	0.50	1.15				
8	TH-49	0008	25.975	剥片	黑色安山岩	3.15	4.25	1.43	23.36	34-29			
8	TH-49	0009	25.776	剥片	黑色安山岩	3.90	3.70	1.43	26.84	33-22			

集中地點	遺物番号	標高(m)	器種	石材	最大長		最大幅		最大厚		重 量 kg	辨別番号	備 考
					cm	cm	cm	cm	cm	cm			
8	7H-49	0010	25.815	鉢片	黒色安山岩	2.10	0.80	0.30	0.64				
8	7H-49	0011	25.958	鉢片	黒色安山岩	2.45	2.10			42.83			
8	7H-49	0012	26.005	鉢片	黒色安山岩	1.00	0.75	0.28	0.18				
8	7H-49	0013	25.995	石板	黒色安山岩	6.30	3.70	3.40	80.90	30-4			
8	7H-49	0014	26.166	鉢片	黒色安山岩	3.35	4.10	0.80	14.46				
8	7H-49	0015	26.136	鉢片	黒色安山岩	1.35	1.40	0.33	0.60				
8	7H-49	0016	26.129	鉢片	黒輝石	3.05	3.02	0.98	7.79	34.30			
8	7H-49	0017	25.842	鉢片	黒色安山岩	1.75	1.15	0.40	0.85				
8	7H-49	0018	25.956	鉢片	黒色安山岩	5.80	2.00	0.55	10.29	32.20			
8	7H-49	0019	25.968	鉢片	黒色安山岩	6.65	4.40	0.80	26.83	32-13			
8	7H-59	0001	25.980	鉢片	黒輝石	1.00	1.40	0.45	0.36				
8	7J-30	0001	25.939	鉢片	メノワ	2.60	2.85	1.35	9.90	34.31			
8	7J-40	0001	25.927	鉢片	黒色安山岩	1.20	1.30	0.60	0.81				
8	7J-40	0002	25.891	斧形石器	ホルンフェルス	5.85	4.40	0.73	49.48	31-6			
8	7J-40	0003	25.880	鉢片	黒色安山岩	2.53	1.90	0.80	3.81				
8	7J-40	0004	25.765	鉢片	黒色安山岩	2.50	2.20	0.93	7.58				
8	7J-40	0005	25.777	鉢片	黒色安山岩	0.70	1.45	0.20	0.18				
8	7J-50	0001	26.087	鉢片	黒色安山岩	4.20	2.80	0.97	9.36				
8	7J-50	0002	26.040	次加工鉢片	黒色安山岩	3.60	2.10	0.96	7.47	31-7			
8	7J-50	0003	25.819	鉢片	黒色安山岩	1.30	2.50	0.60	2.94				
8	7J-50	0004	25.995	鉢片	黒色安山岩	3.20	3.80	1.20	14.79				
8	7J-50	0005	25.784	鉢片	黒色安山岩	1.95	1.45	0.53	1.18				
8	7J-50	0006	26.180	鉢片	黒色安山岩	3.55	4.50	1.45	19.99	33-26			
8	7J-50	0007	26.123	鉢片	ホルンフェルス	0.85	1.50	0.25	0.33				
8	7J-50	0008	26.125	鉢片	黒色安山岩	3.15	2.80	1.25	13.48				
8	7J-50	0009	25.670	鉢片	黒色安山岩	1.15	2.13	0.60	1.49				
8	7J-50	0011	25.707	鉢片	トロロ石	2.33	1.30	0.70	1.77				
8	7J-50	0012	25.600	鉢片	トロロ石	2.10	1.90	0.43	1.42				
8	7J-50	0013	25.964	鉢片	黒色安山岩	1.53	1.60	0.30	0.98				
8	7J-50	0014	25.915	鉢片	ホルンフェルス	0.80	1.08	0.25	0.18				
8	7J-50	0015	25.977	鉢片	砂鉄岩	0.70	0.70	0.10	0.06				
8	7J-50	0016	25.899	鉢片	硬岩	0.70	0.35	0.07	0.02				
8	7J-50	0017	25.942	鉢片	黒色安山岩	0.90	0.45	0.20	0.07				
8	7J-50	0018	25.905	鉢片	トロロ石	0.75	0.55	0.13	0.06				
8	7J-50	0019	25.958	鉢片	黒色安山岩	1.60	2.40	0.50	2.02				
8	7J-50	0020	25.906	鉢片	黒色安山岩	2.10	2.10	0.15	2.05				
8	7J-50	0021	25.865	鉢片	黒色安山岩	0.70	0.55	0.20	0.07				
8	7J-50	0022	25.880	鉢片	黒色安山岩	2.25	2.30	0.40	1.78				
8	7J-50	0023	25.757	鉢片	黒色安山岩	1.40	1.30	0.48	0.74				
8	7J-50	0024	25.770	鉢片	トロロ石	0.73	1.00	0.20	1.10				
8	7J-50	0025	25.602	鉢片	黒色安山岩	0.90	1.15	0.40	0.35				
8	7J-50	0026	25.633	鉢片	トロロ石	0.70	0.75	0.25	0.09				
8	7J-50	0027	25.577	鉢片	トロロ石	0.80	0.45	0.15	0.03				
8	7J-51	0001	25.646	鉢片	黒色安山岩	0.70	1.05	0.45	0.18				
8	7J-51	0002	25.628	鉢片	トロロ石	0.60	1.10	0.50	0.24				
8	7J-51	0003	25.765	鉢片	黒色安山岩	3.80	2.00	1.23	9.29				
8	7J-51	0004	25.688	鉢片	黒色安山岩	3.30	4.20	0.95	10.64	33-27			
8	7J-51	0006	25.805	鉢片	黒色安山岩	2.30	1.20	0.90	2.85				
8	7J-51	0006	25.710	石板	トロロ石	3.50	1.20	1.90	28.33				
8	7J-51	0007	25.684	石板	トロロ石	3.80	3.15	2.10	40.45	30-3			
8	7J-51	0008	25.653	鉢片	黒色安山岩	0.90	0.70	0.13	0.05				
8	7J-51	0009	25.550	鉢片	トロロ石	3.60	3.90	1.10	13.72	34-32			
8	7J-51	0010	25.630	鉢片	黒色安山岩	3.20	3.80	1.20	14.79				
9	8H-05	0001	25.737	鉢片	砂岩					243.16	38-20	複合e	
9	8H-05	0005	25.711	鉢片	黒色安山岩	3.30	3.40	1.00	15.48	36-7			
9	8H-05	0003	25.795	鉢片	砂岩					38.21		複合e	
9	8H-05	0004	25.803	鉢片	砂岩					38.23		複合e	
9	8H-06	0005	25.755	鉢片	黒色安山岩	4.40	3.40	0.73	11.14				
9	8H-06	0001	25.844	鉢片	チャート	2.20	3.30	0.80	3.98				
9	8H-06	0002	25.878	鉢片	頁岩	3.49	4.82	1.90	24.04	37-11		複合b	

集中 地点	造物番号 グリッド 番号	標高(m)	器 種	石 材	最大長			最大幅			重 量			辨認番号	備 考
					cm	cm	cm	cm	cm	cm	g				
9	SH-06	0003	25.842	側片	チャート	3.30	2.80	0.60	7.33	37-14	接合c				
9	SH-06	0004	25.766	側片	頁岩	1.11	4.82	1.89	0.41	37-10	接合b				
9	SH-06	0005	25.798	側片	頁岩	5.75	2.70	0.95	12.02	37-16	接合d				
9	SH-06	0006	25.998	側片	頁岩	5.00	3.65	0.98	7.16	37-17	接合d				
9	SH-06	0007	25.627	側片	頁岩	2.30	3.50	0.63	6.13						
9	SH-06	0008	25.759	側片	黑色安山岩	6.00	5.85	1.23	41.96	31-10	集中B接合b				
9	SH-06	0009	25.939	側片	頁岩	1.90	3.75	0.60	2.82						
9	SH-07	0001	25.892	側片	トロトロ石	2.25	3.80	0.70	4.39						
9	SH-07	0002	25.800	側片	黑色安山岩	2.20	3.75	0.56	3.80	36-6					
9	SH-07	0003	25.800	板状	チャート	5.75	2.70	1.25	9.35	36-2	接合a				
9	SH-07	0004	25.873	側片	チャート	2.30	2.55	0.75	2.98	37-13					
9	SH-07	0005	25.910	側片	チャート	5.75	2.70	1.25	6.71	36-3	接合a				
9	SH-07	0006	25.899	側片	チャート	2.35	1.73	0.38	7.33	37-15	接合c				
9	SH-08	0001	25.830	側片	黑色安山岩	4.30	4.20	1.20	19.95	36-5					
9	SH-08	0002	25.815	板状	トロトロ石	6.50	4.00	3.10	57.31	36-4					
9	SH-08	0003	25.889	側片	ホルンフェルス	2.25	2.30	1.23	4.70						
9	SH-08	0004	25.804	側片	トロトロ石	2.65	2.00	0.90	2.01						
9	SH-15	0001	25.853	側片	黒曜石	2.85	1.40	0.58	1.46						
9	SH-16	0001	25.722	側片	頁岩	1.30	0.90	0.40	0.36						
9	SH-16	0002	25.785	側片	頁岩	3.15	2.30	0.80	5.92	37-12					
9	SH-16	0003	25.782	側片	頁岩	5.00	3.65	0.98	6.95	37-18	接合d				
9	SH-17	0001	25.952	二次加工側片	ホルンフェルス	1.90	4.90	0.75	6.39	36-1					
9	SH-17	0002	25.723	側片	頁岩	2.90	0.90	0.30	0.76	37-19	接合d				
9	SH-18	0001	-	側片	トロトロ石	0.95	1.35	0.25	0.28						
9	SH-18	0001	-	側片	トロトロ石	3.10	2.80	0.65	4.13						
9	SH-18	0002	25.876	側片	黑色安山岩	3.10	5.15	1.10	15.97	36-6					
9	SH-18	0003	25.881	側片	チャート	1.20	0.95	0.25	0.33						
9	SH-18	0004	25.799	側片	黑色安山岩	3.50	3.55	0.78	9.33	36-8					
9	SH-18	0005	25.712	側片	黑色安山岩	4.60	2.45	1.13	13.72	37-9					
9	SH-18	0006	25.744	側片	トロトロ石	3.10	3.50	0.53	7.08						
10	10Z-39	0001	24.849	側片	黒曜石	1.43	1.15	0.30	0.39						
10	10Z-39	0002	24.813	板状	黒曜石	3.23	0.80	0.25	0.60	40-7					
10	10Z-39	0003	24.340	側片	黒曜石	1.20	1.70	0.30	0.36	40-10					
10	10Z-39	0004	24.439	側片	黒曜石	0.53	0.55	0.20	0.05						
10	10Z-39	0005	24.366	側片	黒曜石	0.95	1.60	0.25	0.27						
10	10Z-39	0006	24.458	側片	黒曜石	0.45	0.50	0.10	0.02						
10	10Z-39	0007	24.559	側片	黒曜石	0.80	1.33	0.23	0.15						
10	10Z-39	0009	24.510	側片	黒曜石	0.70	1.40	0.25	0.14						
10	10Z-39	0010	24.520	側片	黒曜石	2.95	2.60	0.45	2.44	40-14					
10	10Z-39	0011	24.424	側片	黒曜石	0.95	1.40	0.20	0.21						
10	10Z-39	0012	24.435	側片	黒曜石	1.73	1.45	0.35	0.54						
10	10Z-39	0013	24.625	側片	黒曜石	1.35	1.05	0.15	0.16						
10	10Z-39	0014	24.585	側片	黒曜石	2.20	2.20	0.30	1.47	40-15					
10	10Z-39	0015	24.496	側片	黒曜石	2.05	1.25	0.27	0.55						
10	10Z-39	0016	24.545	側片	黒曜石	2.25	2.25	0.60	2.40	40-9					
10	10Z-39	0018	24.557	尖頭器	黒曜石	4.30	2.69	1.10	11.35	40-1	接合a				
10	10Z-39	0019	24.569	側片	黒曜石	0.95	1.10	0.53	0.41						
10	10Z-39	0020	24.545	側片	黒曜石	0.70	1.05	0.18	0.08						
10	10Z-39	0021	24.591	側片	黒曜石	1.50	0.90	0.20	0.32						
10	10Z-39	0022	24.422	側片	黒曜石	0.50	1.40	0.35	0.33						
10	10Z-39	0023	24.495	側片	黒曜石	2.95	2.60	0.45	2.44	40-15					
10	10Z-39	0025	24.524	強器	黒曜石	2.40	2.60	1.05	6.99	40-5	接合b				
10	10Z-39	0026	24.555	側片	黒曜石	0.95	1.20	0.20	0.16						
10	10Z-39	0027	24.579	側片	黒曜石	0.75	1.40	0.20	0.24	40-6	接合b				
10	10Z-39	0028	24.564	側片	黑色安山岩	2.05	0.90	0.30	0.44						
10	10Z-39	0030	24.601	側片	黒曜石	1.70	1.30	0.50	1.01						
10	10Z-39	0031	24.583	側片	黒曜石	2.00	2.30	0.55	1.84	40-18					
10	10Z-39	0032	24.585	二次加工側片	黒曜石	2.20	0.25	0.40	0.49	40-19					
10	10Z-39	0033	24.385	側片	凝灰岩	1.15	1.10	0.30	0.53						
10	10Z-39	0034	24.452	側片	黒曜石	0.99	1.86	0.35	0.58	40-3	接合a				

集中 地点	遺物番号	標高[m]	器 種	石 材	最大長		最大幅 cm	最大厚 cm	重 量 kg	辨認番号	備 考
					cm	cm					
10	10Z-39	0035	24.676	剥片	黒曜石	2.00	2.70	0.43	1.82	40-13	
10	10Z-39	0036	24.805	剥片	黒曜石	0.35	0.53	0.10	0.01		
10	10Z-39	0037	24.485	剥片	黒曜石	2.10	2.00	0.68	1.97		
10	10Z-39	0038	24.420	剥片	黒曜石	1.35	0.55	0.20	0.12		
10	10Z-39	0039	24.598	剥片	黒曜石	0.20	0.23	0.07	-		
10	10Z-39	0039	24.598	剥片	黒曜石	0.07	0.50	0.10	0.04		
10	10Z-39	0040	24.551	剥片	黒曜石	0.55	0.30	0.10	-		
10	10Z-39	0041	24.252	剥片	黒曜石	0.30	0.35	0.15	0.01		
10	10Z-39	0041	24.292	剥片	黒曜石	0.90	0.40	0.20	0.08		
10	10Z-39	0042	24.468	剥片	黒曜石	1.85	2.10	0.55	1.30		
10	10Z-39	0043	-	剥片	黒曜石	2.20	2.20	0.30	1.47	40-17	
10	10Z-39	0043	-	二次加工剥片	黒曜石	3.75	2.53	0.78	8.02	40-12	
10	10Z-39	0044	24.230	二次加工剥片	黒曜石	3.65	2.40	0.63	4.04	40-11	
10	10Z-39	0045	24.328	剥片	黒曜石	0.33	0.80	0.13	0.01		
10	10Z-39	0045	24.328	剥片	黒曜石	1.55	1.60	0.25	0.46		
10	10Z-39	0046	24.335	剥片	黒曜石	1.45	1.40	0.30	0.08	40-4	複合a
10	10Z-39	0046	24.335	剥片	黒曜石	1.20	0.85	0.48	0.35		
10	10Z-39	0047	24.379	剥片	黒曜石	0.50	0.28	0.10	0.01		
10	10Z-39	0048	24.432	剥片	黒曜石	1.49	2.00	0.36	0.45	40-2	複合a
10	10Z-39	0049	24.425	剥片	黒曜石	1.75	1.65	0.50	1.08		
10	10Z-38	0001	-	剥片	黒曜石	2.20	2.30	0.40	1.79	40-8	
11	10A-31	0001	24.638	剥片	黒曜石	2.40	1.20	0.30	0.60	42-3	
11	10A-31	0002	24.496	剥片	黒曜石	0.83	1.05	0.30	0.18		
11	10A-31	0003	24.294	剥片	黒曜石	0.90	1.06	0.20	0.14		
11	10A-31	0004	-	楔形石器	黒曜石	2.20	2.50	0.85	5.00	42-1	
11	10A-32	0002	24.541	剥片	黒曜石	0.90	1.10	0.35	0.36		
11	10A-32	0003	24.796	二次加工剥片	砾灰岩	2.50	2.90	1.30	8.07	42-2	
12	11F-90	0001	25.134	剥片	黒色安山岩	1.91	1.30	0.40	0.67		
12	11F-90	0002	24.922	剥片	黒色安山岩	4.55	2.60	1.30	13.72	44-2	複合a
12	11F-91	0001	24.946	剥片	黒色安山岩	5.25	2.30	1.03	8.67	44-1	複合a
12	11F-81	0001	-	剥片	黒色安山岩	3.65	3.35	1.25	10.78	44-3	複合a
單	4E-18	0001	26.522	剥片	チャート	4.22	6.42	1.09	24.63	49-4	
單	4E-18	0002	26.506	ナイフ形石器	チャート	3.44	1.63	0.83	3.42	49-5	
單	9A-96	0001	25.578	石核	チャート	4.85	6.40	2.50	84.11	49-2	
單	9A-97	0001	25.640	石核	チャート	3.40	5.20	3.65	56.64	49-3	
單	6K-15	0001	26.205	剥片	黒曜石	1.30	1.31	0.44	0.43	49-6	
單	6K-16	0001	-	礫片	砾灰岩				37.37	49-11	
單	10H-86	0001	26.200	剥片	黒曜石	2.16	2.71	0.52	2.02	49-8	
單	10H-86	0002	26.139	剥片	黒曜石	1.15	1.92	0.32	0.54	49-7	
單	7H-72	0001	26.435	尖端器	メノウ	4.60	6.50	2.60	61.08	49-1	
單	7H-63	0001	-	剥片	チャート	2.00	2.07	0.89	3.04	49-13	
單	7H-98	0001	26.206	剥片	トロトロ石	3.40	3.10	1.20	10.56	49-10	
單	8A-36	0001	-	剥片	砾灰岩	6.95	2.00	0.78	13.21	49-9	
單	6H-66	0001	-	剥片	砾灰岩	1.83	1.90	0.50	1.18	49-12	

第4表 石器集中2疊接合表

接合グループ	グリッド	遺物番号	石材	接合グループ	グリッド	遺物番号	石材
No.01	2D-63	0001	石英斑岩	No.06	2D-63	0023	石英斑岩
No.01	2D-63	0005	石英斑岩	No.06	2D-63	0038	石英斑岩
No.01	2D-63	0032	石英斑岩	No.06	2D-63	0042	石英斑岩
No.01	2D-63	0034	石英斑岩	No.06	2D-63	0053	石英斑岩
No.01	2D-63	0046	石英斑岩	No.07	2D-63	0019	砂岩
No.02	2D-63	0025	石英斑岩	No.07	2D-63	0022	砂岩
No.02	2D-64	0002	石英斑岩	No.07	2D-63	0054	砂岩
No.03	2D-63	0015	流紋岩	No.08	2D-53	0001	流紋岩
No.03	2D-64	0023	流紋岩	No.08	2D-63	0014	流紋岩
No.04	2D-63	0029	石英斑岩	No.09	2D-63	0031	花崗岩
No.04	2D-63	0033	石英斑岩	No.09	2D-64	0019	花崗岩
No.05	2D-63	0040	硬砂岩				
No.05	2D-64	0015	硬砂岩				
No.05	2D-64	0018	硬砂岩				

第5表 旧石器時代石器組成一覧表

石器 アーチ・フ各	集中1	集中2	集中3	集中4	集中5	集中6	集中7	集中8	集中9	集中10	集中11	集中12	AF	9A	9A	6K	10K	7K	7K	8A	6K	11
産出地質	N~V	III	V~VI	IV	IV	IV	X	X	X	V~VI	V~VI	W~VI	III									
鶴見石		48	6				1	3	1	49	5					1	2					116
鶴見安山岩		5	4		18	2	9	70	9	1	4											122
トロトロ石					2		1	19	6													29
角	1	1	3			18		1	10													34
チベート	1	5		1	1		7				2	1	1					1				20
カルシンカルカ	5	2			3	4	3	2												1	1	21
滑灰岩					23		9		1	1												35
泥灰岩					1	1																2
泥岩	1	24																				23
砾岩		27				2	1	2														22
砂岩	3	15			1	1		3														23
メノク					2		1												1			4
計	11	79	7	48	31	31	16	108	38	51	6	4	2	1	1	1	2	1	1	1	1	463

第3章 繩文時代

第1節 遺構

検出した遺構は竪穴住居跡1棟、炉穴5基、陥穴13基である。遺跡調査区の南端部斜面際に分布する。

1 竪穴住居跡

竪穴住居跡は1棟のみの検出である。調査区の南端部に位置し、周辺に炉穴が分布する。南に伸びる舌状台地の先端部で、東西が谷津で区切られるので、大きな集落は形成しないと考えられる。

SI066（第50図 図版9）

調査区中央南端部斜面際に位置し、主要グリッドは12D-06、標高約25mである。平面形は縦長の隅丸方形で、規模は4.27m×3.86mである。壁がやや外側に張り出して丸味がある。検出面からの深さは14cm～32cm、床面積は13.64m²である。長軸の方針はN-19°-Wである。

床面は皿状で、中央部が低くなる。特に硬化した部分はない。壁溝はない。柱穴と考えられるピットを壁間に10基検出した。平面形はP1～P3・P5・P7・P9・P10の7基が円形、P4・P6・P8の3基が楕円形である。規模は、P1は径19cm、深さ27cm、P2は径24cm、深さ26cm、P3は径25cm、深さ19cm、P4は32cm×23cm、深さ24cm、P5は径24cm、深さ11cm、P6は、23cm×19cm、深さ32cm、P7は径27cm、深さ33cm、P8は、26cm×21cm、深さ43cm、P9は径24cm、深さ18cm、P10は径16cm、深さ37cm、である。

炉は床面中央やや北西寄りにある。楕円形で、76cm×56cm、掘り込みは21cmである。

覆土は暗褐色土主体で、自然堆積と考えられる。遺物の出土は少量である。主に覆土からの出土であるが、検出された住居の掘り込みが浅いので、床面付近の遺物と考えられる。ほとんどが早期土器片（撲糸文系・沈線文系）で、繩文時代早期住居跡と考えられる。

2 炉穴

炉穴は5基検出された。集中した分布ではなく、調査区の南端部の斜面際に分散して位置する。

SK100（第51図 図版9）

調査区南端部西端斜面際に位置し、主要グリッドは9A-93、標高約25.5mである。

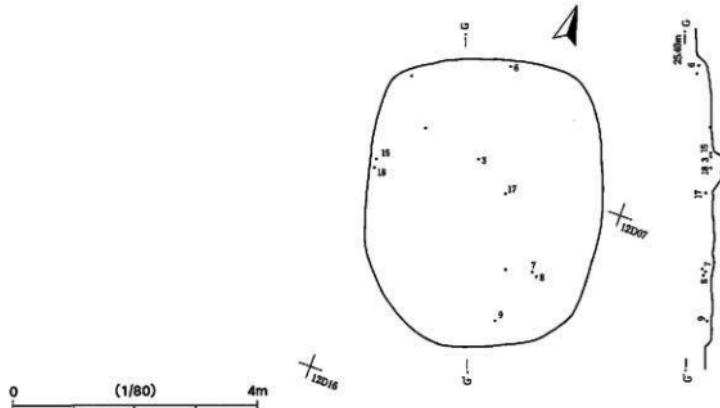
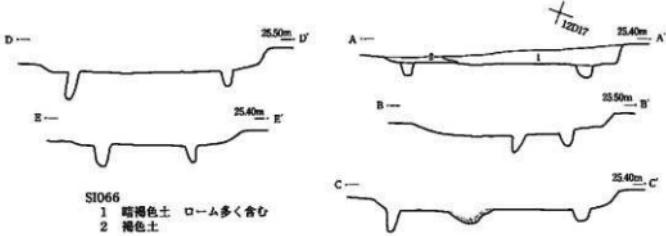
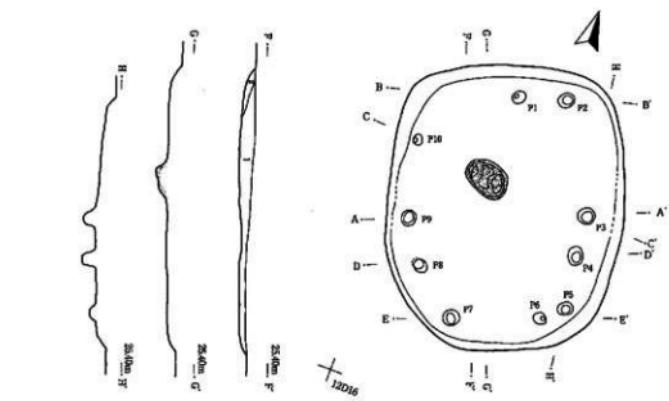
平面形は、火床部付近の遺存のため、かなり不整な楕円形である。規模は、107cm×56cmである。検出面からの深さは10cm～25cmで、底面は凸凹している。長軸の方針はN-79.5°-Eである。

SK101（第51図 図版9）

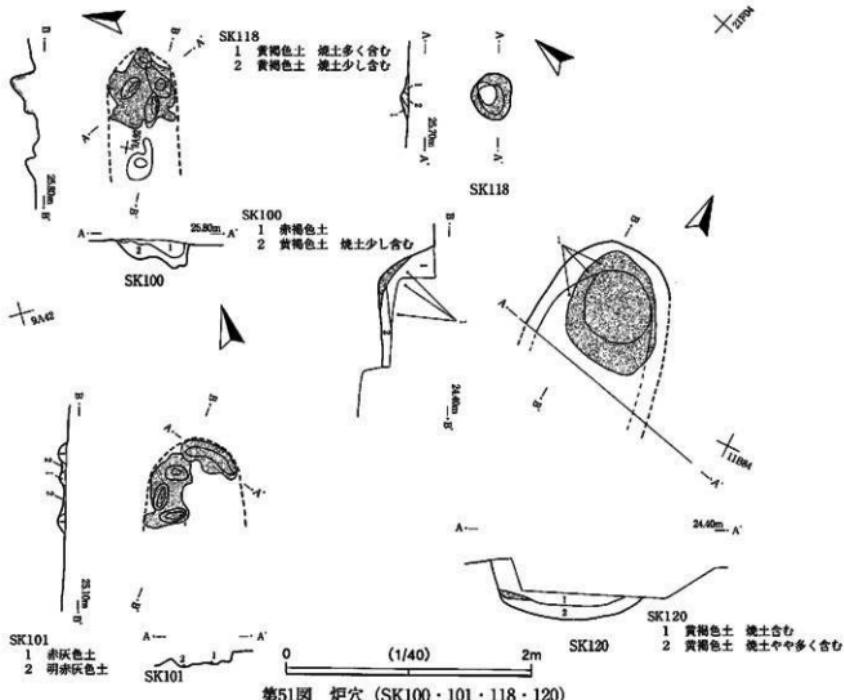
調査区南端部西端斜面際に位置し、主要グリッドは9A-42、標高約25mである。

平面形は、火床部付近の遺存のため、不整形である。規模は、89cm×50cmの範囲で火床がひろがる。検出面からの深さは7cm～12cmで、底面は凸凹している。長軸の方針はN-72°-Wである。

遺物は条痕文系土器（茅山下層式）が数点出土している。



第50図 SI066



第51図 炉穴 (SK100・101・118・120)

SK118 (第51図 図版9)

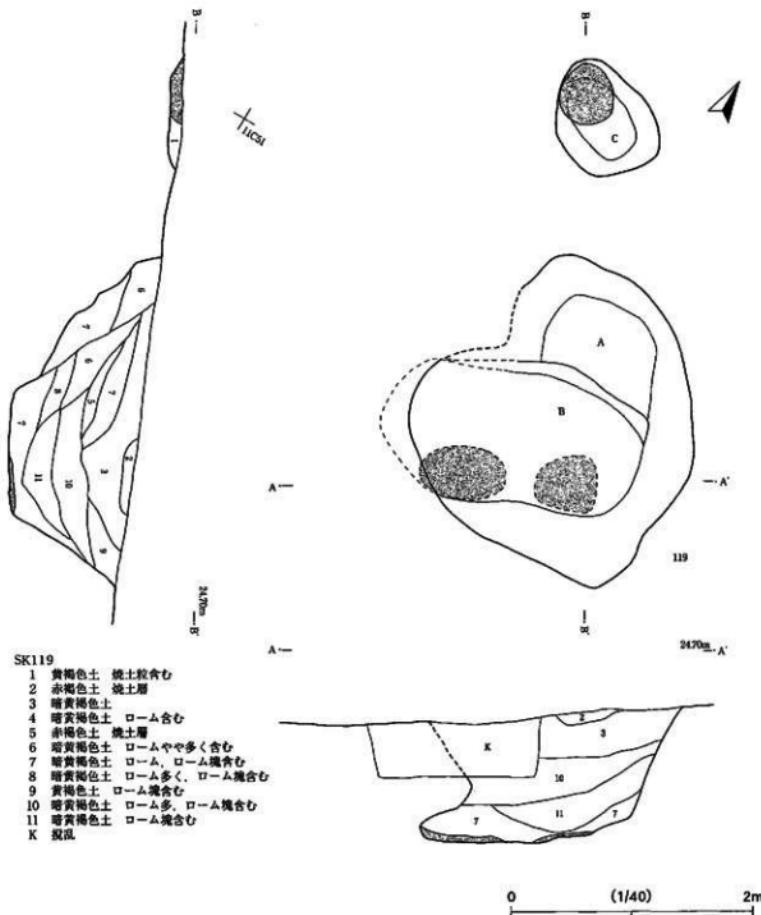
調査区南端部西端斜面際に位置し、主要グリッドは11F-93、標高約25mである。
火床部のみの遺存であるが、平面形は、楕円形で、規模は35cm×33cm、検出面からの深さは8cmで、底面は平坦である。長軸の方位はN-13°-Eである。小形であるが、焼土の状態から炉穴とした。

SK119 (第52図 図版9)

調査区南端部西端斜面際に位置し、主要グリッドは11C-51、標高約24mである。
3基の重複と考えられる。それぞれA、B、Cとする。
AはBと重複するが、土層断面から本遺構が古いと考えられる。東側半分がBと重複し、本遺構が古いが、掘り込みがBよりも深いので、全体が遺存している。

平面形は長方形に近い楕円形で、規模は280cm×147cm、検出面からの深さは146cmで、底面は平坦である。長軸の方位はN-67°-Eである。底面全体が焼土化している。

BはAと重複するが、土層断面から本遺構が新しいと考えられる。南側半分がAと重複し、本遺構が新



第52図 炉穴 (SK119)

しいが、掘り込みがBよりも浅いので、底面の遺存は北側半分である。

平面形は、Aとほぼ同形の、長方形に近い楕円形で、推定規模は258cm×140cm、検出面からの深さは112cmで、底面は平坦である。長軸の方位はN 23°Wである。底面全体が焼土化していると考えられる。

CはBの北西1mほどに位置し、火床部のみのである。検出状況ではA・Bと重複しないが、火床の方向および掘り込みから、使用時にはA・Bとの重複が考えられる。

平面形は、梢円形で、規模は101cm×79cm、検出面からの深さは19cm、底面は平坦である。長軸の方位はN-58°-Wである。北西端部に焼土の集中が検出された。

SK120 (第51図 図版9)

調査区南端部西端斜面際に位置し、主要グリッドは11B-73、標高約25mである。
火床部付近の遺存で、平面形は梢円形である。規模は、111cm×75cmである。検出面からの深さは50cmである。長軸の方位はN-35°-Wである。焼土化部分は、火床部上部(北側)壁面中段ほどにまで達している。
遺物は、比較的大型の縄文土器片(1)(茅山下層式)が出土している。

3 陷 穴

陷穴は13基検出された。分布の集中が3か所に分かれる。SK001~003の3基は遺跡調査区の北部西側の斜面際に分布する。SK008、SK041~043、SK046の5基は遺跡調査区中央部東側、南東に突出した小舌状台地の斜面間に分布し、SK106・108・109・112・113の5基は遺跡調査区の南部、舌状台地の南端斜面に分布している。

SK001 (第53図 図版9)

調査区の北部西側の斜面際に位置する。主要グリッドは3D-19、標高約26.7mである。
平面形は長梢円形である。規模は、325cm×121cmである。検出面からの深さは200cmである。長軸の方位はN-33°-Eである。底面はかなり幅が狭くなり、規模は、338cm×42cmで、長軸方向の両端部がえぐれているので、上面よりも長くなる。横断面が縱長の漏斗状である。
形状は陷穴押沼※分類A1である。

SK002 (第53図 図版10)

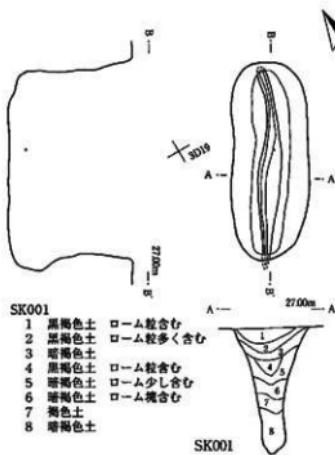
調査区の北部西側の斜面際に位置する。主要グリッドは2D-83・93、標高約26.7mである。
平面形は梢円形である。規模は、236cm×153cmである。検出面からの深さは117cmである。長軸の方位はN-46°-Wである。底面は長方形で、平坦である。規模は93cm×64cmで、上面の半分以下である。
形状は押沼※分類C2である。

SK003 (第53図 図版10)

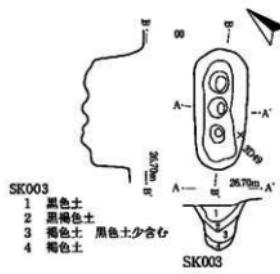
調査区の北部西側の斜面際に位置する。主要グリッドは3D-94、標高約26.7mである。
平面形は長梢円形である。規模は、198cm×88cmである。検出面からの深さは91cmである。長軸の方位はN-49°-Eである。底面に円形のピットを3基検出した。規模は、北から、径32cm、深さ9cm、径30cm、深さ12cm、径25cm、深さ13cmで、杭状のものを設置したと考えられる。
形状は押沼※分類B3である。

SK008 (第53図 図版10)

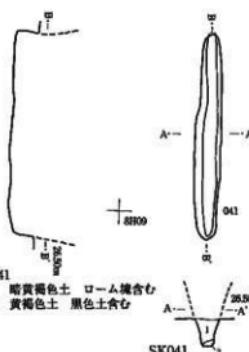
調査区中央部東側の斜面際に位置する。主要グリッドは8E-83、標高約26.5mである。



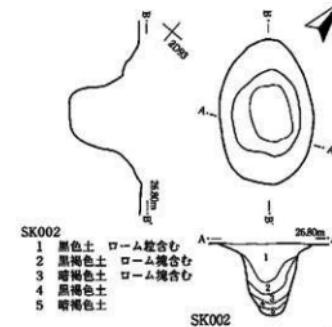
SK001
1 黑褐色土
2 黑褐色土
3 暗褐色土
4 黑褐色土
5 暗褐色土
6 暗褐色土
7 棕色土
8 暗褐色土



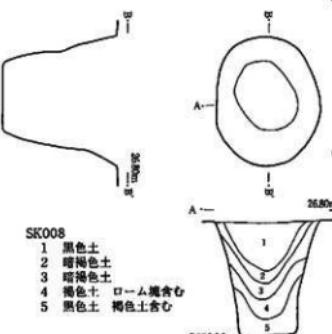
SK003
1 黑色土
2 深褐色
3 褐色土
4 褐色土



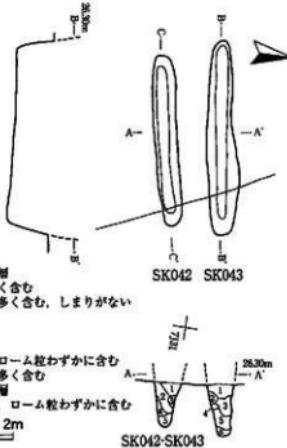
SK041
1 暗黃褐色土
2 黃褐色土



SK002	1 黒色土 ローム粒含む
	2 黒褐色土 ローム塊含む
	3 暗褐色土 ローム塊含む
	4 黑褐色土
	5 暗褐色土



SK008
1 黒色土
2 暗褐色土
3 暗褐色土
4 褐色土 ローム塊含む
5 黒色土 褐色土含む



SK042 SK043

第53図 陥穴 (SK001~003・008・041~043)

平面形は楕円形である。規模は、214cm×170cmである。検出面からの深さは190cmである。長軸の方位はN-55°-Wである。底面は楕円形で平坦であるが、長軸方位が上面よりも西にずれている(90°W)。形状は押沼※分類C2である。

SK041 (第53図 図版10)

調査区中央部東側、南東に突出した小舌状台地の斜面際に位置する。主要グリッドは7H-99、標高約26.3mである。遺構検出が下層調査時で、IX層上面で確認された。

平面形は細長の楕円形である。規模は、334cm×41cmである。検出面からの深さは44cmである。長軸の方位はN-1°-Eである。底面付近の遺存で、かなり幅が狭くなる部分である。上層遺構の検出面からの深さは104cm程と推定される。

形状は押沼※分類A2である。

SK042 (第53図 図版10)

調査区中央部東側、南東に突出した小舌状台地の斜面際に位置する。主要グリッドは7J-30、標高約26mである。遺構検出が下層調査時で、V～VI層中で確認された。SK043が北側に平行して隣接し、2基一組で機能したと推定される。

平面形は細長の楕円形である。規模は、280cm×38cmである。検出面からの深さは73cmである。長軸の方位はN-81°-Eである。底面付近の遺存で、かなり幅が狭くなる部分である。上層遺構の検出面からの深さは130cm程と推定される。遺物は検出されなかった。

形状は押沼※分類A2である。

SK043 (第53図 図版10)

調査区中央部東側、南東に突出した小舌状台地の斜面際に位置する。主要グリッドは7J-20、標高約26mである。遺構検出が下層調査時で、V～VI層中で確認された。SK042が南側に平行して隣接し、2基一組で機能したと推定される。

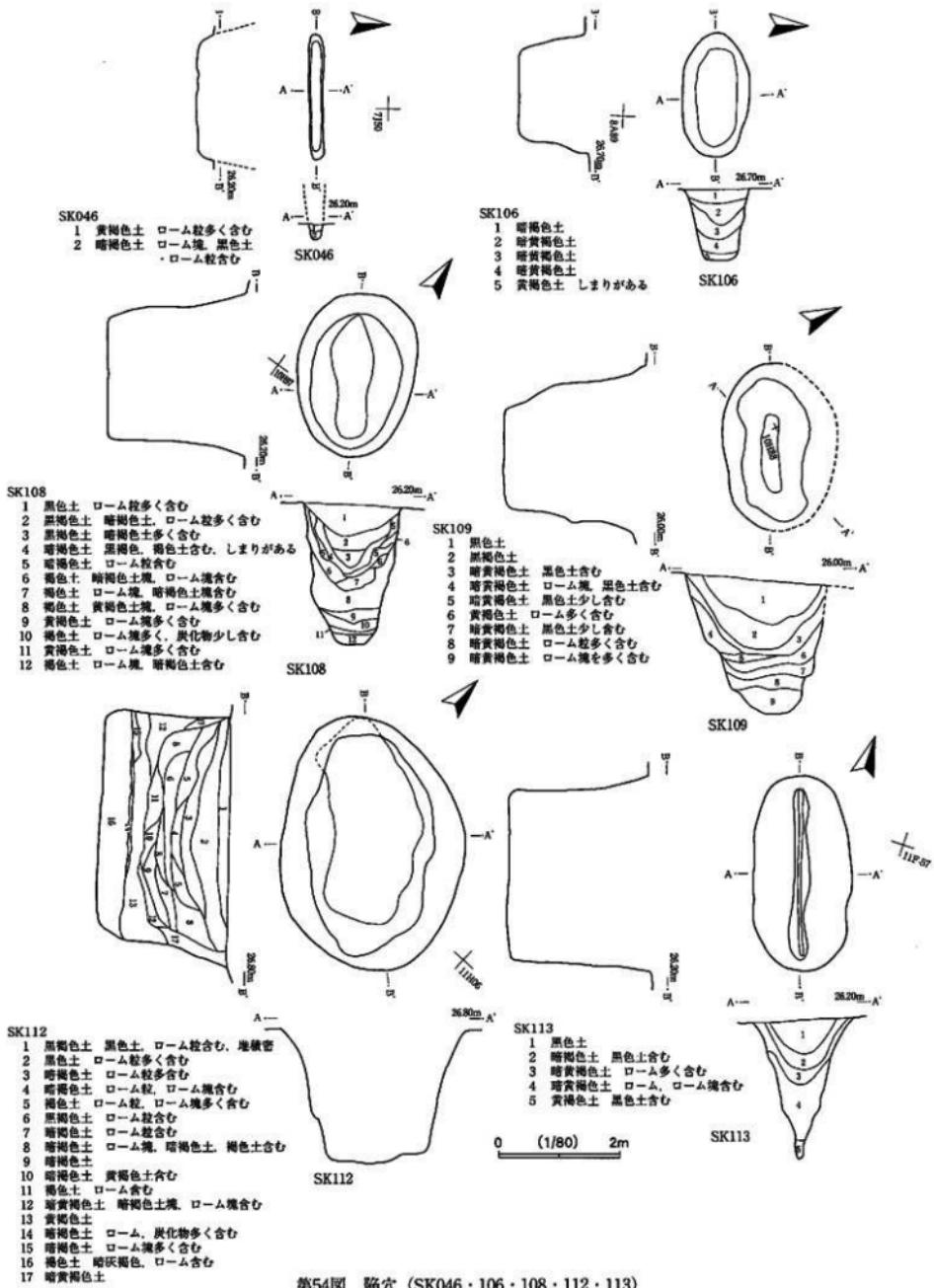
平面形は細長の楕円形である。規模は、318cm×53cmである。検出面からの深さは85cmである。長軸の方位はN-84°-Eである。底面付近の遺存で、かなり幅が狭くなる部分である。上層遺構の検出面からの深さは150cm程と推定される。底面西端に小さな横穴状の掘り込みを検出した。径20cm、長さ60cmである。遺物は検出されなかった。

形状は押沼※分類A2である。

SK046 (第54図 図版11)

調査区中央部東側、南東に突出した小舌状台地の斜面際に位置する。主要グリッドは7H-59・7J-50、標高約26.2mである。遺構検出が下層調査時で、VI層中で確認された。

平面形は細長の楕円形である。規模は、210cm×22cmである。検出面からの深さは27cmである。長軸の方位はN-86°-Eである。底面付近の遺存で、かなり幅が狭くなる部分である。上層遺構の検出面からの深さは80cm程と推定される。縄文土器が少量出土している。



第54図 路穴 (SK046・106・108・112・113)

形状は押沼※分類A 2である。

SK106 (第54図 図版11)

調査区の南部、舌状台地の南端斜面際に位置する。主要グリッドは8A-78・79、標高約26.5mである。

平面形は楕円形である。規模は、197cm×113cmである。検出面からの深さは117cmである。長軸の方位はN-88°-Eである。底面は楕円形で、平坦である。遺物は検出されなかった。

形状は押沼※分類C 2である。

SK108 (第54図 図版11)

調査区の南部、舌状台地の南端斜面際に位置する。主要グリッドは 10H-87、標高約26mである。南西にSK109が隣接する。方位は異なるが、2基一組で機能したと推定される。

平面形は楕円形である。規模は、273cm×198cmである。検出面からの深さは235cmである。長軸の方位はN-28.5°-Wである。底面は長楕円形で、平坦である。規模は、204cm×69cmである。横断面がゆるやかな漏斗状である。繩文土器が少量出土している。

形状は押沼※分類C 2である。

SK109 (第54図 図版11)

調査区の南部、舌状台地の南端斜面際に位置する。主要グリッドは10H-77・78・87・88、標高約26mである。北東にSK108が隣接する。方位は異なるが、2基一組で機能したと推定される。

平面形は楕円形である。上部の崩落のため平面形が円形に近くなる。規模は、286cm×210cmである。検出面からの深さは233cmである。長軸の方位はN-73°-Wである。底面は長楕円形で、平坦である。規模は、127cm×26cmである。横断面がゆるやかな漏斗状である。

形状は押沼※分類C 2である。

SK112 (第54図 図版11)

調査区の南部、舌状台地の南端斜面際に位置する。主要グリッドは10H-95・11H-05、標高約26.3mである。

平面形は楕円形である。規模は、423cm×309cmである。検出面からの深さは225cmである。長軸の方位はN-49°-Wである。底面は長方形で、やや凹凸がある。規模は、308cm×144cmである。横断面がゆるやかな漏斗状である。

本遺跡で、最大の陥穴である。覆土下部に、炭化物を多量に含む炭化層が薄く存在するが、これは、本遺構が開口していたことを示すものである。

形状は押沼※分類C 2である。

SK113 (第54図 図版11)

調査区の南部、舌状台地の南端斜面際に位置する。主要グリッドは11F-56、標高約26mである。

平面形は楕円形である。規模は、325cm×161cmである。検出面からの深さは241cmである。長軸の方位はN-19°-Wである。底面はかなり幅が狭くなり、極細長の楕円形である。規模は、281cm×7cmである。繩

文土器が少量出土している。

形状は押沼※分類A 1で、底面幅が極端に細くなる。

※ 黒沢 崇ほか 千葉県文化財センター調査報告第449集 「千原台ニュータウンⅨ -市原市押沼
1・第2遺跡(上層) -」 平成15年3月 財団法人 千葉県文化財センター

この中で、縄文時代窓穴を次のように分類している。

A類：平面形が長楕円形のもの A1：平面規模が大

A2：平面規模が小

B類：底面にビットを有するもの B1：ビット数1

B2：ビット数2

B3：ビット数3

C類：平面形は土坑状で、垂直に B1：平面形角形

深く掘り込まれるもの B2：平面形丸形

この分類に従い、本遺跡の窓穴を分類した。

第2節 遺 物

1 造構出土土器 (第6表)

堅穴住居跡

SI066 (第55図 図版38)

1から3は早期初頭撚糸文系土器である。1は口唇円頭、端部で肥厚・外反する。原体RLで口唇1段施文、頸部に指頭痕、脛部条縦走縄文。井草2式である。2・3は同種の脣部片である。

4から9は早期中葉田戸下層式土器である。4は沈線区画内に腹縫文を施文する。5は平行沈線と刺突文を施す。鋸歯状文になるか。6は太条線の見られるもので、脣下半部である。7・8は条痕文を持つ。9は削り痕を持つ。

10・11は無文織維土器で、早期中葉のものとみられる。

12~18は早期後葉条痕文系土器である。胎土に纖維を含む。12は半截竹管の押し引き文。13は口縁隆帯部分で、沈線を伴う。隆帯上に刻み目がみられる。14は13同様で、脣曲部である。15~18は表裏条痕文のものである。

造構の時期は、出土量は第I群の撚糸文土器が多いが、最も新しい第III群の条痕文期に置くべきで、当該時期の周辺出土状況からみて、茅山下層式の時期とみられる。

炉 穴

SK101 (第56図 図版39)

1・2は早期後葉土器の茅山下層式土器で、表裏条痕文施文のものである。1は口縁部破片であり、薄手で括れがみられないものの様である。口唇には刻み目がみられる。

SK119 (第56図 図版39)

1～5は早期後葉茅山下層式土器である。1・2・4は刻み目の施された屈曲部をもつもので、同一個体であろう。口縁残存部に沈線文がみられる。外面上部は横方向、下部斜方向、内面は横方向の条痕になる。5は条痕が細かい。

6は無文の纖維を含む土器で、角頭口唇気味である。早期中葉田戸上層式土器であろう。

SK120 (第56図 図版38)

1は口径32.2cmをなす。肩部屈曲が1段の、バケツ形に開く深鉢型土器で、胴上部までが残存していた。口唇は半截竹管の刻みが施され、細かく波打っている。屈曲部上には有節沈線文がみられる。外面胴部には浅い、また内面には明瞭な横位条痕文がみられる。

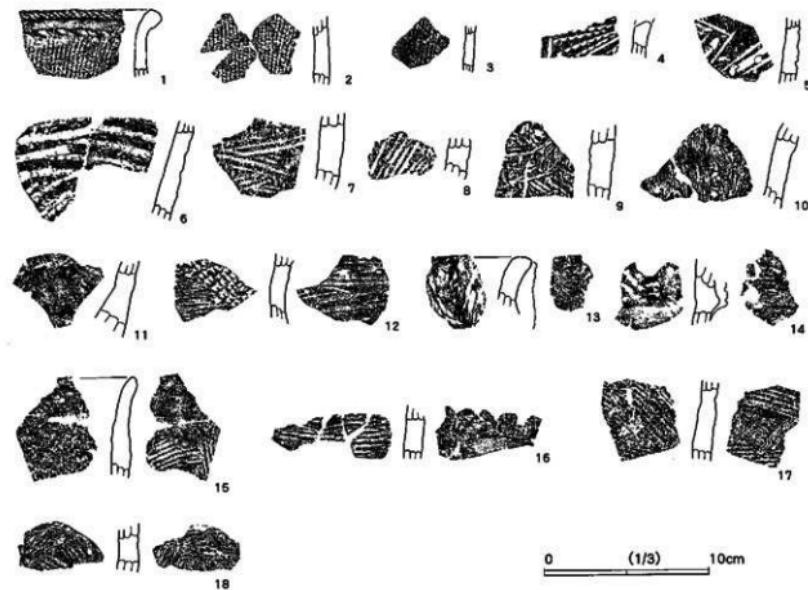
陥 穴

SK046 (第56図 図版39)

1は早期初頭井草1式土器である。無節Rの縄文で、口唇は角頭気味で2段施文、口縁斜縄文施文となる。

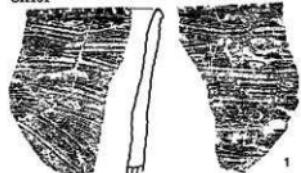
SK018 (第56図 図版39)

2は条の継走する縄文の施文された、早期初頭土器の胴部である。



第55図 SI066出土土器

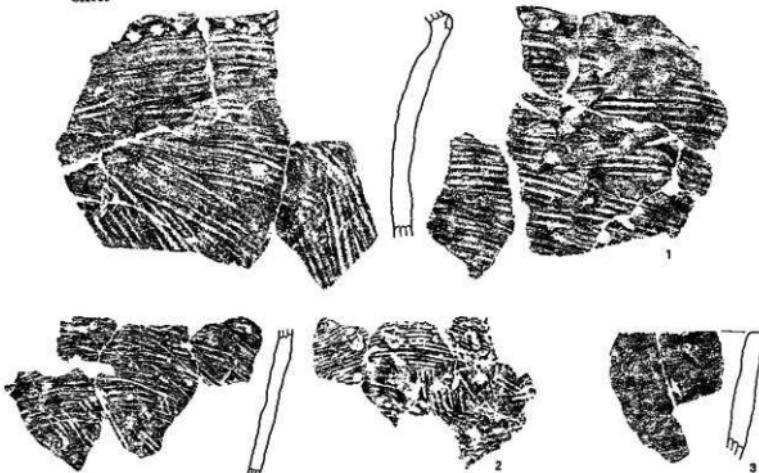
SK101



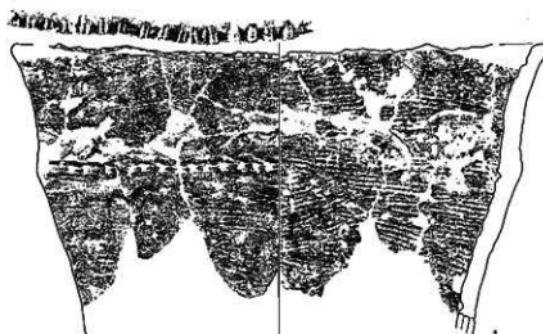
SK119



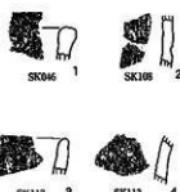
SK119



SK120



陷穴



0 (1/3) 10cm

第56圖 爐穴 (SK101·119·120), 陷穴 (SK046·108·113) 出土土器

SK113 (第56図 図版39)

3・4は無文の繊維を有するもので、12は円頭口唇になる。早期中葉田戸上層式土器であろう。

2 遺構外出土土器 (第7表)

別時代遺構出土土器

炉穴、陥穴以外の土坑から出土した土器である。土坑の形状および遺物の出土状況から縄文時代の土坑ではないと判断した。

SK045 (第57図 図版40)

1は早期初頭撲糸文系土器の口縁部で、端部で肥厚・外反する。口唇は施文されない。口縁文様は斜方向であり、条痕文のようであるが、不明瞭である。

2は条縦走の縄文を持つもので、早期初頭撲糸文系土器の胴部片である。

SK055 (第57図 図版40)

3は縄文施文の胴部片で、早期初頭撲糸文系土器のものある。

SK056 (第57図 図版40)

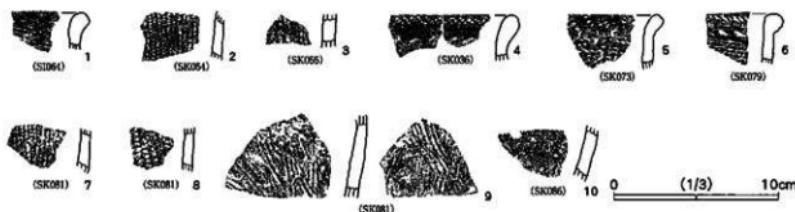
4は早期初頭撲糸文系土器の口縁部で、端部で肥厚・外反する。口唇部は斜縄文1段施文で、頸部に指頭痕を持つ。井草2式土器である。

SK073 (第57図 図版40)

5は早期初頭撲糸文系土器の口縁部。口端で屈曲、やや肥厚する。口唇RL1段、頸部に2条のLR押圧縄文があり、以下は条縦走縄文になる。井草1式土器であろう。

SK079 (第57図 図版40)

6は早期初頭撲糸文系土器の口縁部で、口端で屈曲、肥厚する。条横走縄文、指頭痕がみられ、口唇斜縄文1段施文である。井草1式土器である。



第57図 遺構外出土縄文土器 (1) (別時代遺構出土)

SK081 (第57図 図版40)

7・8は早期初頭撚糸文系土器の胴部片で、条の縦走する縄文を持つ。
9は表裏条痕文の織維土器で、早期後葉条痕文系土器である。

SK086 (第57図 図版40)

10は胴部片であるが、器面の風化が激しく文様がみえない。

グリッド出土土器

当遺跡出土土器を記載の便宜上、以下の5群に分類した。

第I群土器 早期初頭の撚糸文系土器

第II群土器 早期中葉の沈線文系土器

第III群土器 早期後葉の条痕文系土器及び無文の織維土器

第IV群土器 前期土器

第V群土器 後・晚期土器

第I群土器 (第58・59図 図版41・42)

a 特殊(1)

1は小波状口縁をなすもので、口縁断面は端部で屈曲し、口唇に斜縄文を持つ。口縁文様は不明である。
この群中にまれに波状のものがあるので、ここに含めた。

b 口縁に横位の押圧縄文を持つもので、井草式である。(2~5)

2は口縁に2条の押圧縄文、胴部は条縦走縄文(以下、縦縄文と記載する)になる。口唇には羽状(斜縄文2段)と横縄文(1段)が加えられている。3・4は口縁端に1条施文される。3の胴部は斜縄文、
口唇は斜縄文1段である。4は胴部条横走縄文、口唇は縦縄文1段施文になる。5は押圧縄文2条、口唇
斜縄文である。原体は3・5がLR、2・4がRLになる。

c 井草1式で口縁文様に斜縄文を持つ(6~18)

口唇施文は、6は内面上端と口唇、7~10は口唇2段になる。原体はRLである。口縁断面が若干肥厚・
外反するものが主であるが、6・9は肥厚せず、7は屈曲が強い。8には顯著な指頭痕がみられる。

11~18は口唇1段施文になる。原体は11は無節R、13はLR、他はRLである。若干肥厚・外反するもの
が多い。12・16には口端で屈曲し、指頭痕が残されている。

d 井草1式で口縁文様に条横走縄文を持つ(19~36)

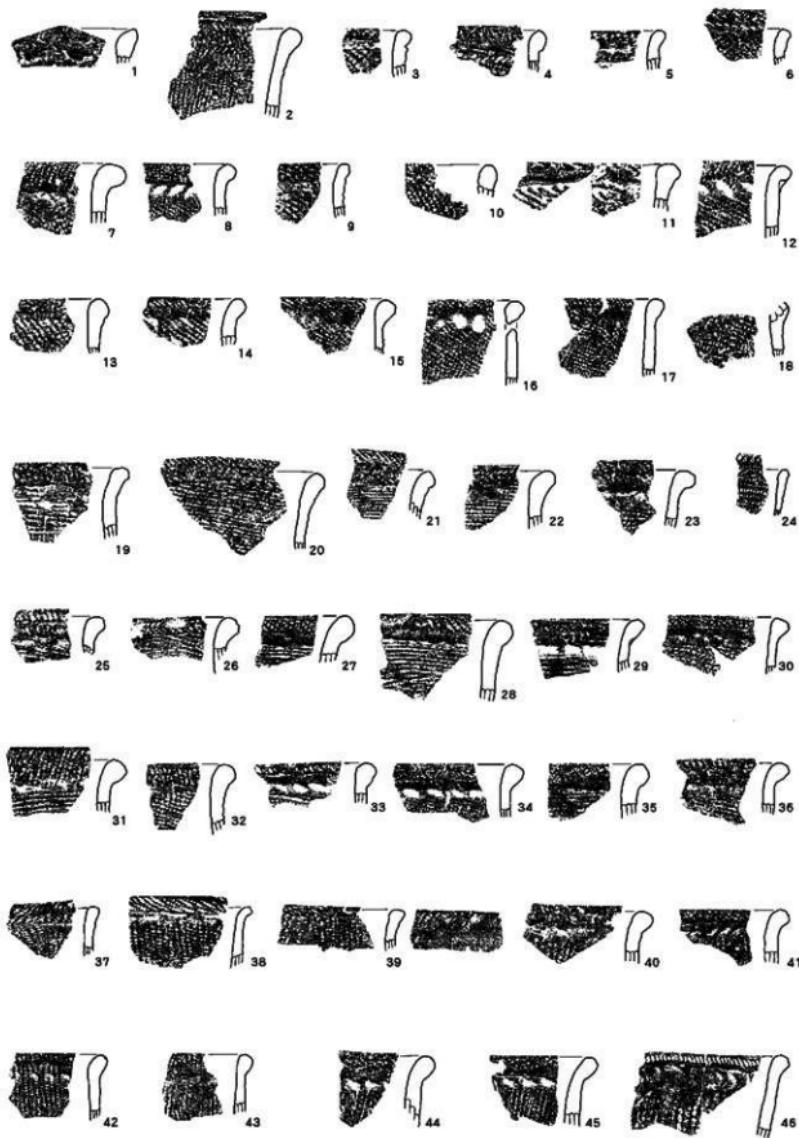
19~26は口唇2~3段施文のもので、口縁が外反・肥厚するものが主である。原体は24以外はRLで、
22・26は押圧縄文が加えられている。20は口唇部文様が羽状(RL・LR・RL3段)構成である。

27~36は口唇1段施文で、原体はRLである。31は幅広い口縁。29・33・34には指頭痕がみられる。

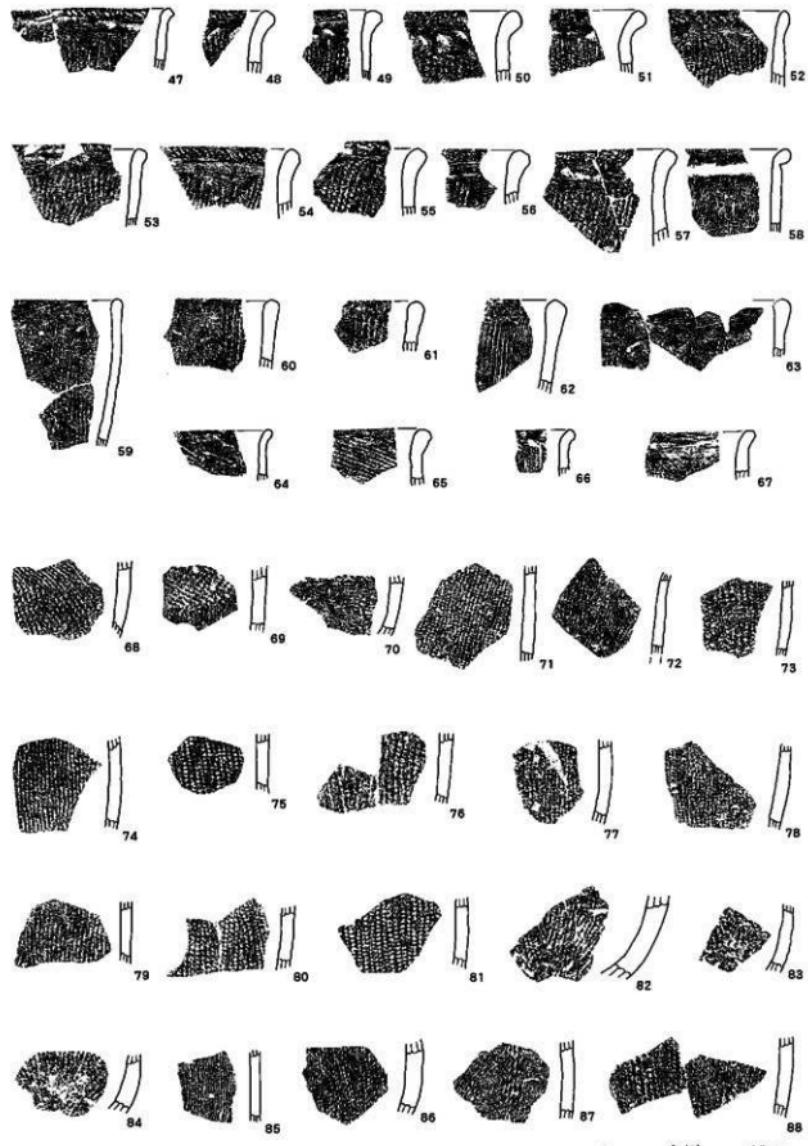
e 井草2式で口唇施文、胴部有文のもの(37~58)

37~40は縄文を持つもので、口唇2段施文である。原体は37がLRな以外、RLである。

38は肥厚せず。39は口縁内面上端に施文。40は口唇にR撚糸文が押捺される。



第58図 遺構外出土縄文土器（2）（グリッド出土）



第59図 遺構外出土縄文土器（3）（グリッド出土）

41～57はRL縄文を持ち、口唇1段施文になる。

44・45は同一個体のものである。口縁断面が52は尖頭、47・53・54は肥厚しない。

58は細かいRの撚糸文を持つもので、口端がまくれあがって外反する。

f 夏島・稻荷台式土器で口唇に施文されないもの。(59～67)

59～63はRの撚糸文を持つもので、口縁断面は肥厚・直立気味である。63では上部が無文になっている。

64は斜方向の撚糸文を持ち、外反する断面である。

65～67は胴部RL縄文施文で、口端で外反している。65は斜縄文、66は縦縄文を持つ。67は縦縄文を持ち、上部が無文になっている。

g 脇部・底部 (68～88)

68～81はRL縄文が施文された脇部である。68は斜縄文、69の上部はLRのもの加えた格子目施文、70は条押走施文、69の下部、71～81は条縦走施文である。82～84は縄文施文の、底部に近い部分のものである。83はLR、他はRLのものである。

85～88は撚糸文を持つ脇部片である。85は撚が細かいR、86・87はL、88は間隔の開いたR施文である。

第II群土器 (第60・61図 図版43～45)

a 田戸下層式 (89～92、95～97、106～110、130・131)

89・90は横位細沈線を持つ口縁である。91・92は細沈線に腹縁文が加えられている。95は斜太沈線のみられるもの。96・97は横太沈線を持つ、底部付近である。

106は胎土にスコリア・砾を含み、器表にケズリ調整後の螺移動痕（削痕文）がみられる。107・108は横・斜位条痕文を持つ口縁部である。109・110は無文の口縁部である。

130・131は格子目条痕文を持つ脇部である。

b 胎土に繊維を含む田戸上層式 (93・94、98～101、104、111～113、118～129、132～142)

93・94は波状口縁のキャリバー形深鉢形土器である。口唇から口縁にかけて、押引き沈線による横位直線文、波状文、弧状文等の幾何学文様がみられる。口唇内縁には刻みが入る。

98は擦痕を地文に横位沈線文がみられる。99は横位沈線のもの。100・101は太い凹線による文様を持つ。

104は三角形をなしており、突起の一部とみられるもので、口唇に太い刻みを持つ。

111～113、118～129、132～142は無文の繊維土器である。111～113は口唇部に刻み目を持つ。円頭口唇のものが主だが、123は内前ぎ、128・129は波状口縁のものである。

c 底部 (144～146・147)

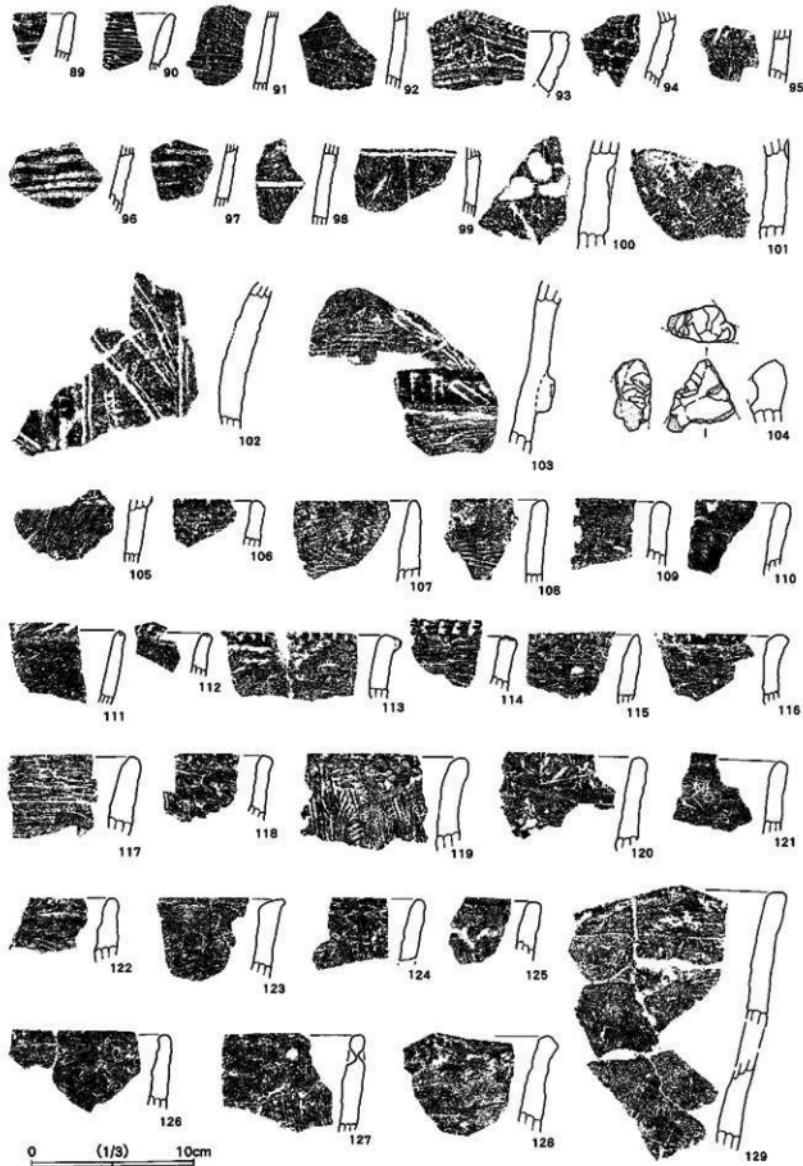
144は条痕文の施文された鋭角な尖底をなす。145は底端部で突出するもので、器面に種子痕がある。田戸下層式のものである。

146・147は胎土に繊維を含む無文土器で、146は砲弾形、147は丸底をなす。田戸上層式の可能性がある。

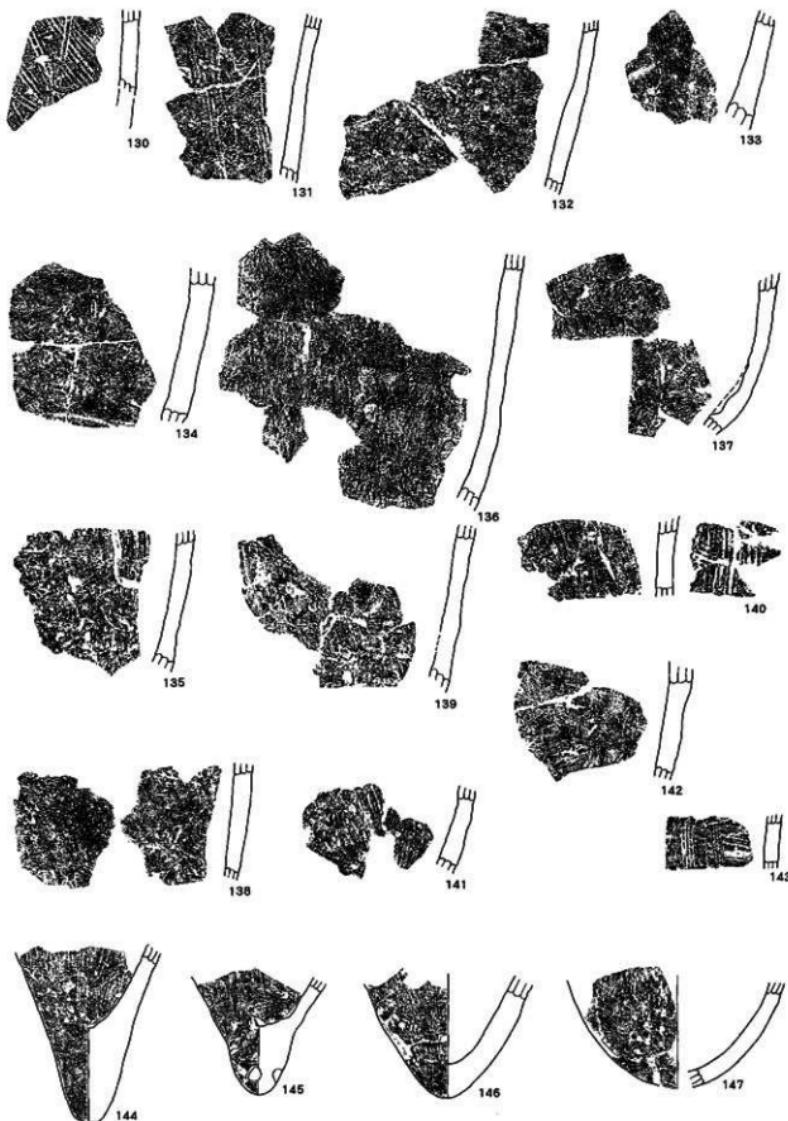
第III群土器 (第60～62図 図版43～46)

a 子母口式 (102・103、105、114～117、143)

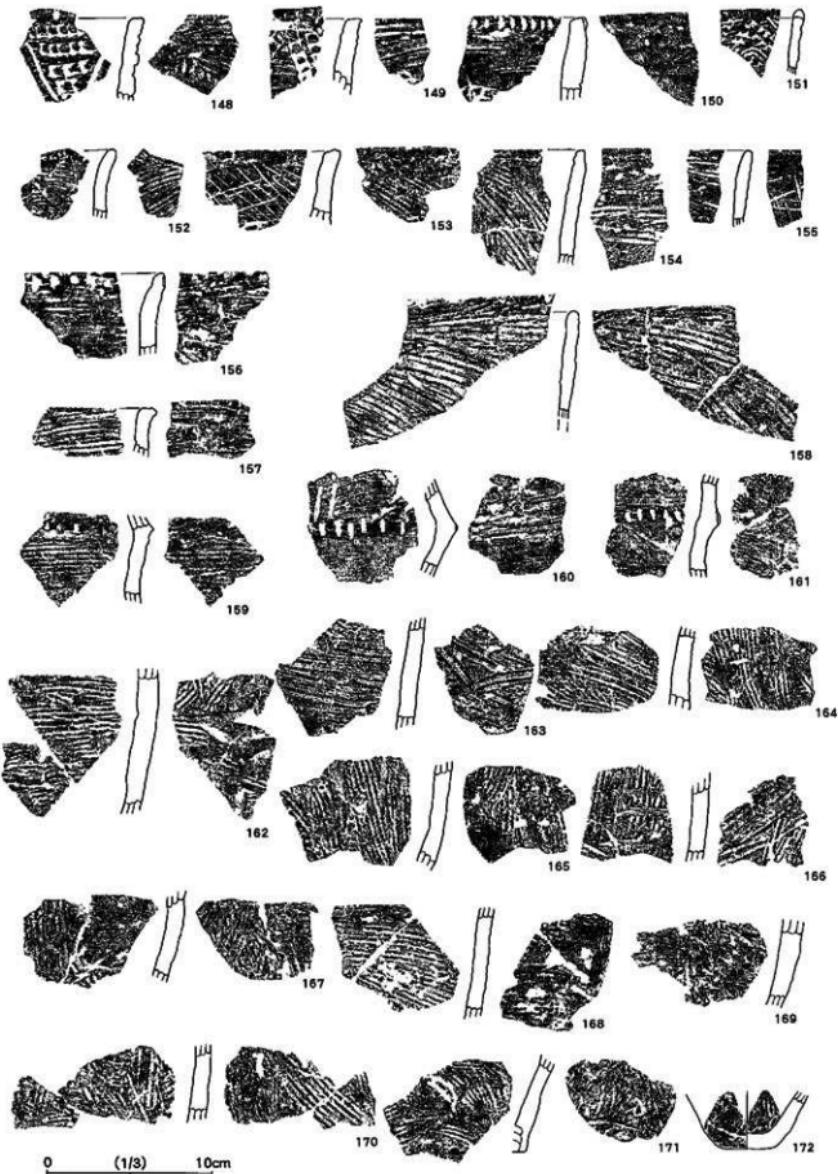
102・103は口縁に縦位・斜の半截竹管沈線、脇部に文様帶区切りとして隆帶を施文され、隆帶上には短沈線を加えられている。脇部外面には条痕文がみられる。



第60図 遺構外出土縄文土器（4）（グリッド出土）



第61図 遺構外出土縄文土器（5）（グリッド出土）



第62図 遺構外出土縄文土器（6）（グリッド出土）

105は隆起線文と擦痕文がみられる。野島式の可能性もある。

114～117は器面に擦痕文が顯著な口縁部である。114～116には口唇部に刻目を有する。

143は条痕ないし擦痕文が施される胴部である。

b 茅山下層式 (148～172)

148～158は口縁部である。148～152は半截竹管の沈線・結節沈線文がみられる。153は格子目沈線を持つ。

154～158は条痕のみを施されたものである。

159～170は胴部である。159～161は屈曲する部分の破片で、稜に刻目を有する。162～170は、169の内面がケズリ痕になる以外は、表裏条痕文である。

171・172は底部で、172は底径が小さくやや不安定な平底になる。

第IV群土器 (第63図 図版47・48)

a 黒浜式土器 (173～176)

173・174は縄文を地文に半截竹管沈線文、円形刺突文を施されている。175は貝殻腹縁文の施された縁部である。176は粗い斜縄文がみられる。

b 浮島式土器 (177～184)

177は口縁端に短沈線、以下に指頭による刻みが施されている。178・179は横位沈線を持つ。180は連続爪形文のものである。有肋貝殻腹縁による文様が181では押し引き、182・183は波状文がみられる。184は波状爪形文を持つ。

c 前期末から中期初頭の土器 (185～206)

185は斜縄文施文の口縁で、口唇部を欠く。文様帶上端に押圧縄文がみられる。

186・187は斜縄文を地文に条線による曲線文がみられる。胎土に砂が多い。188はそれらの胴下半部で、無文である。

189は緩い波状口縁の土器で、半竹沈線による短い斜沈線文が口縁にみられる。一部は傾きを変え、鋸歯状構成になる。前期末から中期初頭のものではないか。

190～194は条線による曲線文が見られるもので、十三菩提式である。極端な山形の口縁で、外反度が大きい。口縁上端沿いと、胴部を横位に区切り文様帶を作り、中にレンズ文・円形文等を配置すると思われる。

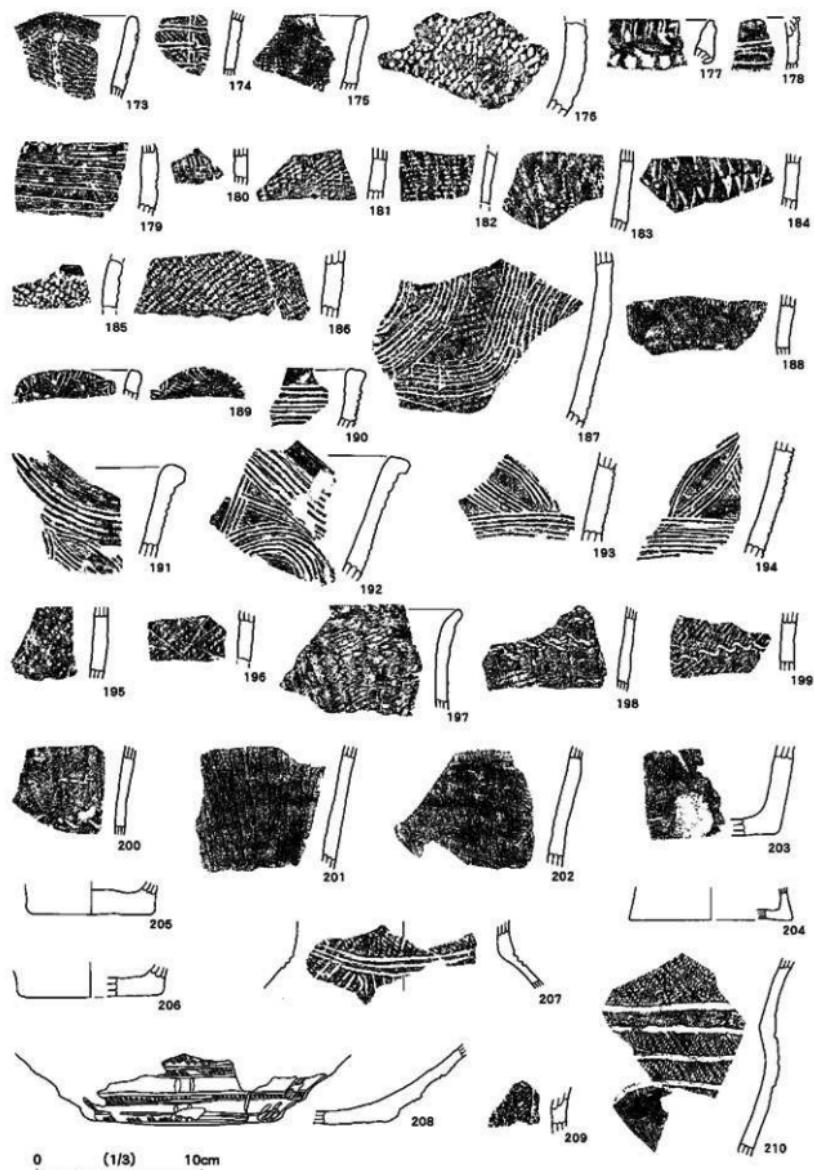
195・196は縄文地文に格子目沈線がみられる。197はまばらな無筋斜縄文を持ち、口唇に縄文原体を刻目状に連続して押圧している。198～200は原体結節部を回転させた綾織り文が付いた斜縄文を持つ。

201・202は無文のもので、縦ナデが顯著である。

203・205・206は底部で、底面から胴が単純に立ち上がる。204は糸巻き状をなす底部で、190～194と出土地点が同じである。

第V群土器 (第63図 図版48)

207は壺形土器になろう。縄文を地紋にし、頸部下端を条線で区切り、以下に斜沈線を施す。彫之内式とみられる。209は縦沈線のみられる賞は辺中期加曾利E式から後期称名寺式のものだろう。208は微隆起帶上に縄文が施された底部で、体部の立ち上がり緩やかで、浅鉢形土器になると見られる。底部がやや凸面をなす。隆起帶縄文に縱割沈線を付し、袈裟文を形成する。交点には豚鼻状貼り付け文がある。安行Ⅲ



第63図 遺構外出土縄文土器（7）（グリッド出土）

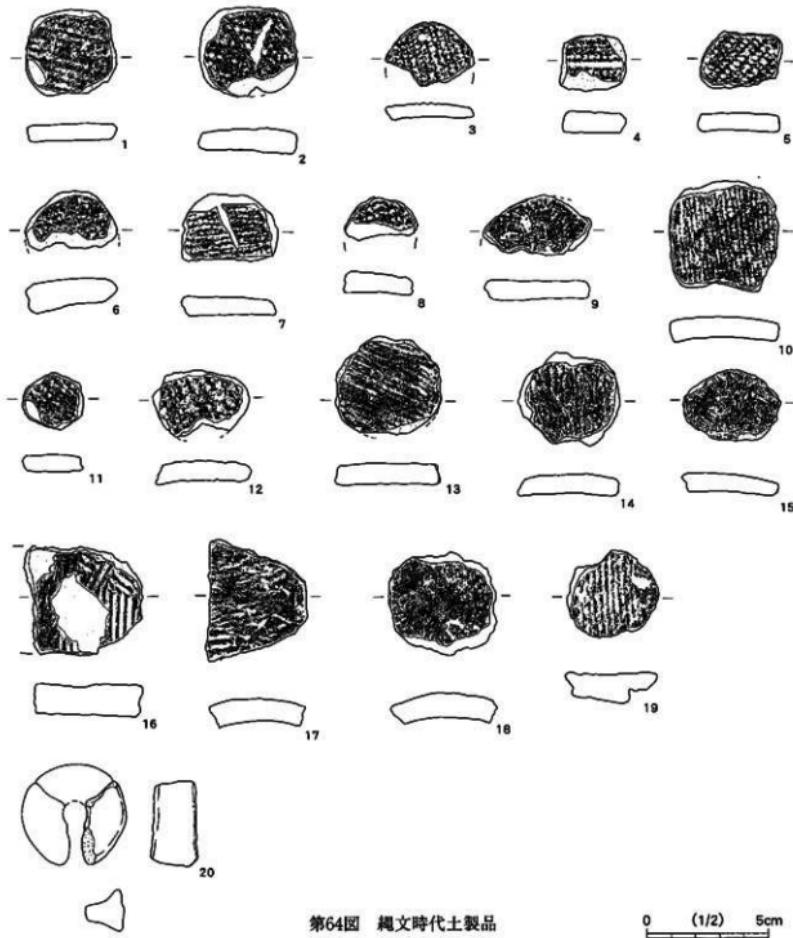
a式と思われる。210は横位沈線で区切った帯縞文がみられるもので、加曾利B式である。

2 土製品（第64図 第8表 図版40）

土器片利用土板

1～10は周縁が擦られ、摩滅面がみられる。1・2は角の丸い方形のもので、ほぼ完形である。3は円形、4は方形をなす半欠品、5は不整方形、6～9は円形のもので破片である。土器の型式は、9が不明な以外は撲糸文系土器である。

10～17は周縁を粗成形したのみのものであるが、意図的でないものと区別ができないので、一応掲載し



第64図 繩文時代土製品

0 (1/2) 5cm

ておく。

10は方形、11・13は円形、10～13は撚糸文系土器である。14は不明瞭な条痕を持ち、胎土に多量の石英・長石粒と若干纖維を含有しており、子母口式から野島式のものである。15は無文で、若干纖維が認められる。子母口式から野島式土器とみられるものである。16・17は楕円形の半欠品で、18は橢円形をなす。19は円形で周囲がやや摩滅している。これらは条痕文系、茅山式であろう。

块状耳飾

20は滑車状の断面をなすが、ケズリ痕を残す切り込み部が残っており、決状耳飾りとした。約1／3の残存率で、径は4cmほどの略円形であろう。

3 石 器 (第9・10表)

遺構出土石器 (第65図 図版49)

陥穴および炉穴出土の石器である。石材、計測値は表に記載したので、ここでは器形の特徴について述べる。

1～5は陥穴出土の石器である。1～4は石鎚である。1は基部に抉りのあるやや大形の鎚である。鎚身の両側縁に段があり、全体に五角形状である。2は小形で、基部はほぼ直線状である。明瞭ではないが、両側縁に段がある。3は石鎚の右側刃と思われ、長脚鎚と考えられる。4は小形である。短身で、基部の抉りは浅く、三角形状である。5は剥片である。縱長で、左側刃が内擣する。頭部および両側刃に調整が施され、機能的には削器と考えられる。

以上、陥穴からは狩猟関係の石器の出土が顕著である。

6は敲石兼磨石である。炉穴からの出土で、なめらかな橢円形砾を加工せずに使用している。全面背面および両側面に敲打痕がみられる。調理具と考えられ、炉穴からの出土が象徴的である。

遺構外出土石器 (第66～68図 図版49・50)

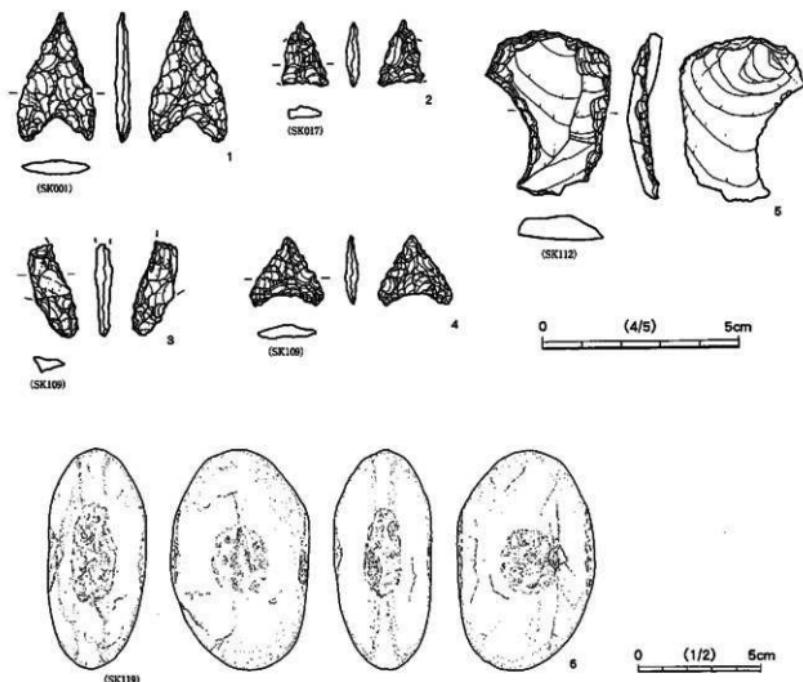
石材、計測値は表に記載したので、ここでは器形の特徴について述べる。

1・2は石鎚である。1はやや小形で、左脚端を欠く。三角形状で、基部の抉りがやや深く、脚端が丸い。2もやや小形で、先端および左側端を欠く。三角形状で、基部は直線的である。かなり薄い造りである。

3～11は剥片である。3は左側刃と尾部に調整痕がある。機能的には搔器と考えられる。4は頭部、尾部および左側刃に使用痕がある。頭部は敲打されたような剥離で、換として使用されたと考えられる。5は4とほぼ同形であるが、明瞭な使用痕はみられない。6は両側刃に調整痕がある。7～10は原石面が残る剥片である。7は短冊形、8は方形である。9は頭部が切断されていると思われる。10は片面がほぼ原石面で、剥離工程初期の剥片である。11は剥片を切断したものと考えられる。

12は磨製石斧である。刃部の幅がやや広い短冊形で、厚みがあり、基部に成形の敲打痕が残る。刃部右端を欠損する。

13～30は礫使用の石器である。13は磨石片と考えられ、半分を欠損する。14は扁平な橢円形の右側刃を打ち欠いて刃部と形成している。搔器と考えられる。15は敲石である。厚みのある橢円形砾で、長軸端に敲打痕がみられる。16・17は磨石である。16は厚みのある円形に近い橢円形砾である。17は破片で、やや

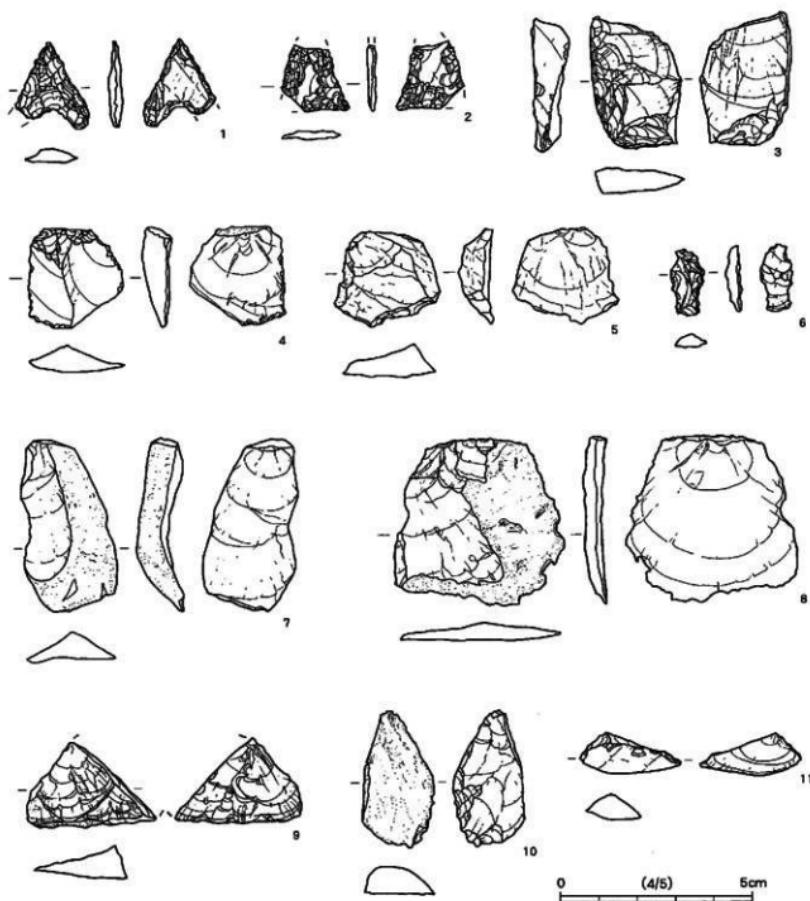


第65図 遺構出土石器

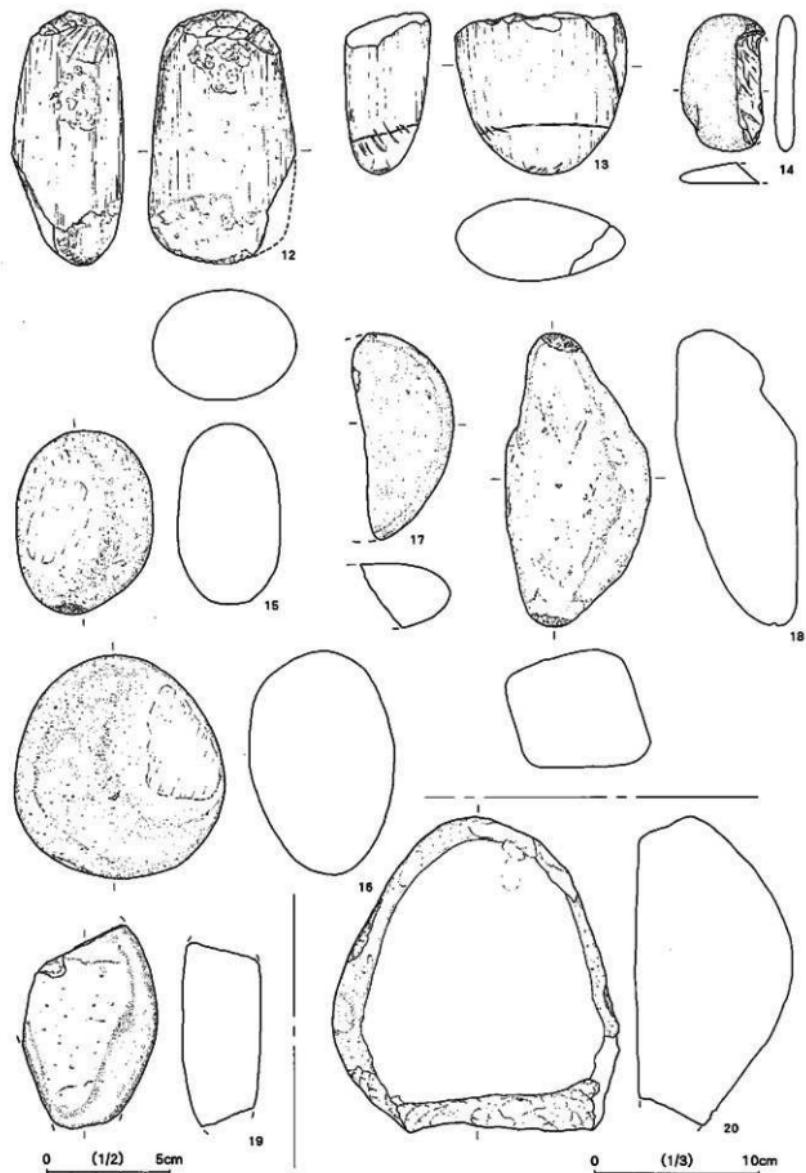
扁平な梢円形標で、被熱跡がある。18は敲石兼磨石である。紡錘形状の角標を加工せずに使用し、両端に敲打痕がある。19は磨石片である。やや扁平な梢円形標で、両端を欠損する。敲石としても使用されと考えられる。被熱跡がある。20は大形の円形標を使用した台石である。使用面は平らで、なめらかである。半円球形で、床等に固定して使用したと考えられる。21は敲石である。丸みのある三角形状で、厚みがある。側面ではなく、三角形の両平坦面に敲打痕がある。22・23は磨石片である。厚みのある梢円形標と考えられ、敲石としても使用されたために破碎した可能性がある。25は敲石片である。やや扁平な円形標で、平坦面に敲打痕がある。被熱による破碎の可能性がある。26・27は敲石兼磨石である。26はやや厚みのある梢円形標、27はやや扁平な梢円形標である。長軸両端に敲打痕がある。26は被熱跡がある。

28は石皿片と考えられる。成形痕はなく、原石の形を利用して使用したと思われる。

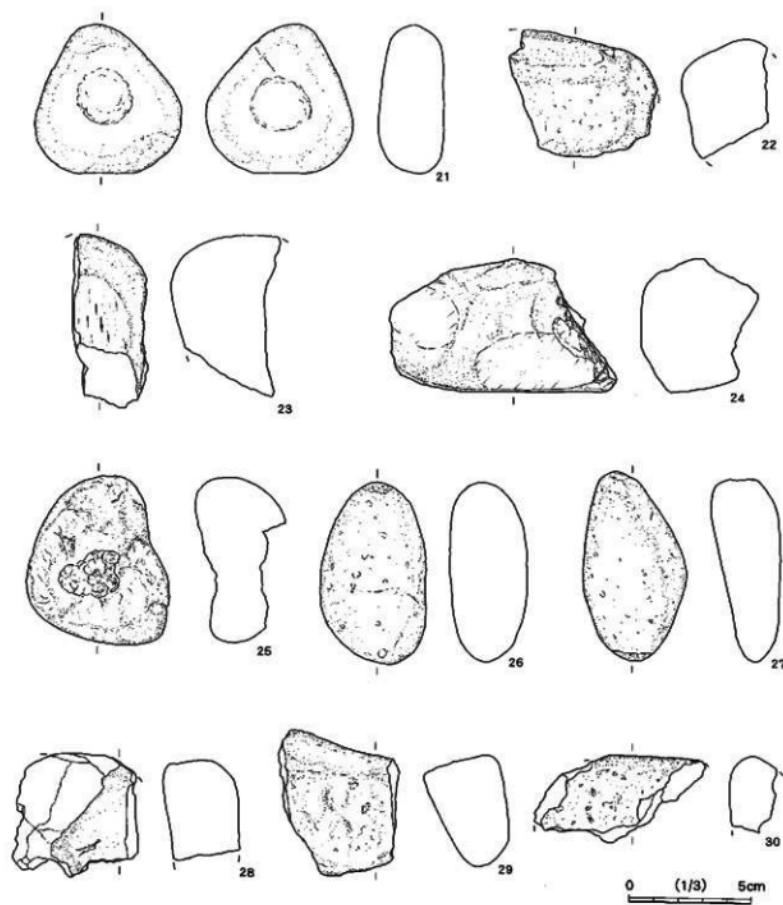
29・30は磨石片である。厚みのある梢円形標と思われるが、小破片のため不明瞭である。標原石面に磨耗がみられる。



第66図 遺構外出土石器（1）



第67図 遺構外出土石器（2）



第68図 遺構外出土石器（3）（砾）

第6表 遺構出土繩文土器観察表

図	No.	遺構	区分・型名等	注記	部位	焼成	色調	胎土	備考
55	1	066	第Ⅰ群・井草2式	12	口	良	外: 明褐色 内: 明褐色	細砂粒多	
	2	066	第Ⅰ群・井草2式	12-13	胴	良	外: 深褐色 内: 明褐色	細砂粒多	
	3	066	第Ⅰ群・井草2式	2	肩	良	外: 明褐色 内: 明褐色	細砂粒や多	
	4	066	第Ⅱ群・田戸下層式	12	胴	良	外: 明褐色 内: 明褐色	砂粒少	
	5	066	第Ⅱ群・田戸下層式	15	胴	良	外: 深褐色 内: 暗褐色	細砂粒や多	
	6	066	第Ⅱ群・田戸下層式	1	肩	良	外: 反覆面 内: 明褐色	細砂粒多	
	7	066	第Ⅱ群・田戸下層式	5	肩	良	外: 明褐色 内: 深褐色	砂粒やや多、鐵錆少	
	8	066	第Ⅱ群・川戸下層式	6	胴	良	外: 黒色 内: 黄褐色	砂粒やや多、鐵錆少	
	9	066	第Ⅱ群・田戸下層式	7	胴	良	外: 明褐色 内: 黄褐色	砂粒多、鐵錆少	
	10	066	第Ⅱ群・無文繩土器	13	胴	良	外: 明褐色 内: 深褐色	砂粒多、鐵錆少	
	11	066	第Ⅱ群・無文繩土器	13	底	良	外: 黑褐色 内: 暗褐色	砂粒やや多、鐵錆やや多	尖底部
	12	066	第Ⅲ群・矛山下層式	12	胴	良	外: 明褐色 内: 明褐色	細砂粒少、鐵錆多	
	13	066	第Ⅲ群・矛山下層式	13	胴	良	外: 暗褐色 内: 暗褐色	砂粒少、鐵錆多	
	14	066	第Ⅲ群・矛山下層式	12	胴	良	外: 暗褐色 内: 暗褐色	砂粒少、鐵錆多	
	15	066	第Ⅲ群・矛山下層式	9	口	良	外: 暗褐色 内: 暗褐色	細砂粒多、鐵錆や多	
	16	066	第Ⅲ群・矛山下層式	13	胴	良	外: 黑色 内: 明褐色	細砂粒少、鐵錆多	
	17	066	第Ⅲ群・矛山下層式	3	胴	良	外: 黑褐色 内: 暗褐色	細砂粒多、鐵錆やや多	
	18	066	第Ⅲ群・矛山下層式	8	胴	良	外: 明褐色 内: 明褐色	砂粒少、鐵錆多	
56	1	101	第Ⅲ群・矛山下層式	1	口	良	外: 黑褐色 内: 明褐色	砂粒やや多、赤色スコリア少、鐵錆やや多	
	2	101	第Ⅲ群・矛山下層式	2	胴	良	外: 黑色 内: 黑色	細砂粒少、砂粒少、鐵錆少	
	1	119	第Ⅲ群・矛山下層式	1	胴	良	外: 明褐色 内: 明褐色	細砂粒やや多、赤色スコリア少、鐵錆多	
	2	119	第Ⅲ群・矛山下層式	1	胴	良	外: 暗褐色 内: 明褐色	細砂粒やや多、鐵錆多	
	3	119	第Ⅲ群・矛山下層式	1	胴	良	外: 黑褐色 内: 明褐色	細砂粒多、鐵錆少	
	4	119	第Ⅲ群・矛山下層式	1	胴	良	外: 明褐色 内: 明褐色	細砂粒多、赤色スコリアやや多、鐵錆やや多	
	5	119	第Ⅲ群・矛山下層式	1	胴	良	外: 暗褐色 内: 黑褐色	細砂粒やや多、鐵錆多	
	6	119	第Ⅲ群・田戸上層式	1	口	良	外: 黑色 内: 暗褐色	細砂粒多、赤色スコリア少、鐵錆やや多	
	1	120	第Ⅲ群・糞糞文系	1-2-3	口~肩	良	外: 暗褐色 内: 暗褐色	砂粒少、鐵錆多	
	1	006	第Ⅰ群・井草1式	2	口	良	外: 黑褐色 内: 深褐色	細砂粒やや多	
	2	108	第Ⅰ群・糞糞文系	1	胴	良	外: 黑褐色 内: 黑色	細砂粒やや多	
	3	113	第Ⅱ群・田戸上層式	1	口	良	外: 暗褐色 内: 暗褐色	砂粒やや多、鐵錆やや多	
	4	113	第Ⅱ群・田戸上層式	1	胴	良	外: 深褐色 内: 黑色	細砂粒やや多、鐵錆少	

当遺跡出土土器を記載の便宜上、以下の5群に分類した。

第I群土器 早期初頭の撚糸文系土器

第II群土器 早期中葉の沈線文系土器

第III群土器 早期後葉の条痕文系土器及び無文の繩維土器

第IV群土器 前期土器

第V群土器 後・晚期土器

第7表 造構外出土縄文土器觀察表

No.	時期・式名等	注記	部位	焼成	色調	胎土	備考
57-1	早居・第Ⅰ群熱糸文系	054-1	口	良	外 明褐色 内 灰褐色	砂粒少	
2	早居・第Ⅰ群熱糸文系	054-2	肩	良	外 明褐色 内 灰褐色	細砂粒少、石英粒・長石粒・雲母粒少	
3	早居・第Ⅰ群熱糸文系	055-1	肩	良	外 灰褐色 内 灰褐色	砂粒や多	
4	早居・第Ⅰ群・井草1式	056-1	口	良	外 灰褐色 内 灰褐色	細砂粒少、粗砂粒少	
5	早居・第Ⅰ群・井草1式	073-1	口	良	外 灰褐色 内 灰褐色	砂粒や多	
6	早居・第Ⅰ群・井草1式	079-1	口	良	外 灰褐色 内 灰褐色	砂粒や多	
7	早居・第Ⅰ群熱糸文系	081-1	肩	良	外 明褐色 内 明褐色	砂粒少	
8	早居・第Ⅰ群熱糸文系	081-1	肩	良	外 灰褐色 内 明褐色	砂粒や多	
9	早居・第Ⅰ群熱糸文系	081-1	肩	良	外 灰褐色 内 灰褐色	砂粒少、鐵錆少	
10	早居・無文	086-1	肩	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒少、赤色スコリア少	
58-1	早居・第Ⅰ群熱糸文系	064-1	口	良	外 灰褐色 内 灰褐色	細砂粒多	
2	早居・第Ⅰ群・井草式	10C-1	口	良	外 淡明褐色 内 淡明褐色	細砂粒多、粗砂粒少	
3	早居・第Ⅰ群・井草式	11E48-12	口	良	外 淡明褐色 内 明褐色	砂粒や多	
4	早居・第Ⅰ群・井草式	11E49-9	口	良	外 黑色 内 灰黑色	細砂粒多、長石粒・石英粒少	
5	早居・第Ⅰ群・井草式	11C-1	口	良	外 灰黑色 内 灰黑色	細砂粒多、長石粒・石英粒少	
6	早居・第Ⅰ群・井草1式	11D-1	口	良	外 淡明褐色 内 淡明褐色	砂粒や多	
7	早居・第Ⅰ群・井草1式	11E47-18	口	良	外 淡明褐色 内 淡明褐色	砂粒や多	
8	早居・第Ⅰ群・井草1式	11D38-9	口	良	外 淡明褐色 内 淡明褐色	細砂粒や多	
9	早居・第Ⅰ群・井草1式	11B-1	口	良	外 淡明褐色 内 淡明褐色	細砂粒や多、赤色スコリア少	
10	早居・第Ⅰ群・井草1式	11D55-1	口	良	外 淡褐色 内 淡褐色	細砂粒や多、長石粒・石英粒少	
11	早居・第Ⅰ群・井草1式	11E27-65.11E67-13	口	良	外 淡明褐色 内 淡明褐色	細砂粒や多、白色粒少	
12	早居・第Ⅰ群・井草1式	8C-1	口	良	外 灰黑色 内 淡明褐色	砂粒多	
13	早居・第Ⅰ群・井草1式	11E69-12	口	良	外 黑色 内 黑色	細砂粒や多	
14	早居・第Ⅰ群・井草1式	6C-1	口	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒多、粗砂粒少	
15	早居・第Ⅰ群・井草1式	11E58-4	口	良	外 明褐色 内 淡明褐色	細砂粒や多、赤色スコリア少	
16	早居・第Ⅰ群・井草1式	11E73-84	口	良	外 明褐色 内 淡明褐色	砂粒や多	
17	早居・第Ⅰ群・井草1式	11E73-8	口	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒や多、赤色スコリア少	
18	早居・第Ⅰ群・井草1式	11D29-1	口	良	外 淡褐色 内 淡褐色	細砂粒や多、赤色スコリア少	
19	早居・第Ⅰ群・井草1式	11D46-1	口	良	外 淡明褐色 内 淡明褐色	細砂粒多	
20	早居・第Ⅰ群・井草1式	11E64-1	口	良	外 淡明褐色 内 淡明褐色	砂粒多	
21	早居・第Ⅰ群・井草1式	11D74-1	口	良	外 灰褐色 内 明褐色	砂粒多	
22	早居・第Ⅰ群・井草1式	11E00-1	口	良	外 淡褐色 内 淡褐色	細砂粒少	
23	早居・第Ⅰ群・井草1式	11E43-1	口	良	外 灰黑色 内 灰褐色	砂粒多	
24	早居・第Ⅰ群・井草1式	11D28-1	口	良	外 明褐色 内 明褐色	砂粒や多	
25	早居・第Ⅰ群・井草1式	11D-1	口	良	外 淡褐色 内 淡褐色	細砂粒多	
26	早居・第Ⅰ群・井草1式	11E57-7	口	良	外 明褐色 内 灰褐色	細砂粒や多	
27	早居・第Ⅰ群・井草1式	11E78-2	口	良	外 淡明褐色 内 淡明褐色	砂粒多、黑色粒多	
28	早居・第Ⅰ群・井草1式	11E87-14	口	良	外 明褐色 内 明褐色	砂粒や多、赤色スコリア少	

固	Na	時期・群式名等	注記	部位	被成	色調	地土	備考
58	29	早雨・第1群・井草1式	10B-1	口	良	外 明褐色 内 明褐色	砂粒やや多、白色粒やや多	
	30	早雨・第1群・井草1式	11E77-49	口	良	外 明褐色 内 深褐色	細砂粒やや多	
	31	早雨・第1群・井草1式	11E20-1	口	良	外 深褐色 内 深褐色	細砂粒やや多、粗砂粒少	
	32	早雨・第1群・井草1式	11E48-6	口	良	外 明褐色 内 深褐色	細砂粒少、赤色スコリア少	
	33	早雨・第1群・井草1式	11B-1	口	良	外 明褐色 内 明褐色	砂粒多	
	34	早雨・第1群・井草1式	11E66-1	口	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒多、赤色スコリア少	
	35	早雨・第1群・井草1式	11E48-3	口	良	外 淡明褐色 内 淡明褐色	細砂粒多	
	36	早雨・第1群・井草1式	11C-1	口	良	外 淡褐色 内 淡褐色	砂粒多	
	37	早雨・第1群・井草2式	11D55-1	口	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒少、赤色スコリアやや多	
	38	早雨・第1群・井草2式	11E86-18	口	良	外 淡褐色 内 明褐色	細砂粒やや多、赤色スコリア少	
	39	早雨・第1群・井草2式	11D62-1	口	良	外 明褐色 内 淡褐色	細砂粒少、赤色スコリア少	
	40	早雨・第1群・井草2式	11E86-1	口	良	外 淡褐色 内 明褐色	細砂粒多、赤色スコリア少	
	41	早雨・第1群・井草2式	11B49-1	口	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒やや多、粗砂粒少	
	42	早雨・第1群・井草2式	11E74-1	口	良	外 明褐色 内 淡褐色	砂粒多	
	43	早雨・第1群・井草2式	11E-1	口	良	外 淡褐色 内 淡褐色	砂粒多	
	44	早雨・第1群・井草2式	11E64-1	口	良	外 明褐色 内 明褐色	砂粒多	
	45	早雨・第1群・井草2式	11E75-1	口	良	外 明褐色 内 明褐色	砂粒多	
	46	早雨・第1群・井草2式	11E55-1・11E75-1	口	良	外 淡褐色 内 明褐色	砂粒やや多	
59	47	早雨・第1群・井草2式	11D64-1・11D75-1	口	良	外 淡褐色 内 淡褐色	細砂粒少、赤色スコリアやや多	
	48	早雨・第1群・井草2式	11E-1	口	良	外 淡黑色 内 淡黑色	砂粒多	
	49	早雨・第1群・井草2式	11E67-34	口	良	外 淡褐色 内 明褐色	砂粒やや多、赤色スコリア少	
	50	早雨・第1群・井草2式	11E47-39	口	良	外 淡明褐色 内 淡明褐色	砂粒多	
	51	早雨・第1群・井草2式	11E55-1	口	良	外 淡明褐色 内 淡明褐色	細砂粒やや多	
	52	早雨・第1群・井草2式	11J-1	口	良	外 淡黑色 内 淡黑色	細砂粒多	
	53	早雨・第1群・井草2式	11E74-1	口	良	外 淡褐色 内 淡褐色	砂粒やや多、赤色スコリアやや多	
	54	早雨・第1群・井草2式	11E47-1	口	良	外 淡褐色 内 淡褐色	砂粒やや多、赤色スコリア少	
	55	早雨・第1群・井草2式	11E38-1	口	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒多、砂粒少	
	56	早雨・第1群・井草2式	11E68-13	口	良	外 淡褐色 内 淡褐色	細砂粒やや多	
	57	早雨・第1群・井草2式	11E70-1	口	良	外 淡褐色 内 淡褐色	細砂粒多	
	58	早雨・第1群・井草2式	11D64-1	口	良	外 明褐色 内 淡褐色	細砂粒やや多、赤色スコリア少	
	59	早雨・第1群・夏島・福荷台式	064-21	口	良	外 淡灰褐色 内 淡灰褐色	砂粒多	
	60	早雨・第1群・夏島・福荷台式	060-3	口	良	外 淡褐色 内 淡褐色	砂粒多	
	61	早雨・第1群・夏島・福荷台式	11C-1	口	良	外 淡褐色 内 淡褐色	砂粒多	
	62	早雨・第1群・夏島・福荷台式	11A-1	口	良	外 明褐色 内 淡褐色	砂粒多	
	63	早雨・第1群・夏島・福荷台式	061-1・081-1	口	良	外 明褐色 内 淡褐色	砂粒やや多	
	64	早雨・第1群・夏島・福荷台式	11E59-3	口	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒多、赤色スコリア少	
	65	早雨・第1群・夏島・福荷台式	11E74-1	口	良	外 淡褐色 内 淡褐色	細砂粒やや多、赤色スコリア少	
	66	早雨・第1群・夏島・福荷台式	11E13-1	口	良	外 淡褐色 内 明褐色	細砂粒やや多	
	67	早雨・第1群・夏島・福荷台式	11E59-7	口	良	外 淡褐色 内 明褐色	砂粒やや多	

図	No.	時期・型式名等	住記	部位	構成	色調	胎土	備考
59	68	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	11E55-1	肩	良	外 深褐色 内 明褐色	細砂粒やや多、赤色スコリア少	
60	69	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	11E47-13	肩	良	外 深黒色 内 明褐色	砂粒多	
70	70	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	11E76-5	肩	良	外 深褐色 内 淡褐色	細砂粒やや多、赤色スコリア少	
71	71	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	11E67-14	肩	良	外 深褐色 内 明褐色	砂粒多、赤色スコリアやや多	
72	72	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	11D65-1	肩	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒多、砂乾少	
73	73	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	68-1	肩	良	外 淡褐色 内 明褐色	砂粒やや多、赤色スコリアやや多	
74	74	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	5D-1	肩	良	外 深褐色 内 淡灰褐色	細砂粒多、赤色スコリア少	
75	75	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	9B-1	肩	良	外 明褐色 内 深褐色	砂粒やや多、赤色スコリアやや多	
76	76	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	10C-1	肩	良	外 明褐色 内 淡明褐色	細砂粒やや多、赤色スコリアやや多	
77	77	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	11H-1	肩	良	外 明褐色 内 深褐色	砂粒多	
78	78	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	11E67-20	肩	良	外 明褐色 内 明褐色	砂粒多、赤色スコリアやや多	
79	79	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	9C-1	肩	良	外 深褐色 内 淡褐色	細砂粒多	
80	80	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	11C-1 - 11D52-1	肩	良	外 深褐色 内 深褐色	細砂粒やや多、赤色スコリア少	
81	81	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	11E59-1	肩	良	外 深褐色 内 深褐色	砂粒多	
82	82	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	10C-1	肩-底	良	外 深褐色 内 浅褐色	細砂粒やや多、赤色スコリア少	丸底
83	83	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	11D47-1	底	良	外 深褐色 内 浅褐色	細砂粒多	丸底
84	84	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	11E46-4	底	良	外 明褐色 内 淡褐色	砂粒多、赤色スコリア・白色粒やや多	丸底
85	85	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	12D09-1	肩	良	外 明褐色 内 淡褐色	細砂粒多	
86	86	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	11D66-1	肩	良	外 深褐色 内 明褐色	細砂粒多、赤色スコリア少	
87	87	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	69-8	肩	良	外 明褐色 内 浅褐色	砂粒多	
88	88	早周・第Ⅰ群・鶴糞文系	68A-21 - 22	肩	良	外 深褐色 内 明褐色	細砂粒やや多	
60	89	早周・第Ⅱ群・田戸下唇式	11D74-1	口	良	外 明褐色 内 明褐色	粗砂粒多	
90	90	早周・第Ⅱ群・田戸下唇式	6C-1	口	良	外 黑褐色 内 黑褐色	細砂粒やや多	
91	91	早周・第Ⅱ群・田戸下唇式	11D84-1	肩	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒やや多	
92	92	早周・第Ⅱ群・田戸下唇式	11D-1	肩	良	外 深褐色 内 浅褐色	細砂粒多、繊維少	
93	93	早周・第Ⅱ群・田戸上唇式	11D89-1	肩	良	外 深黒色 内 深褐色	細砂粒少、赤色スコリア少、繊維少	
94	94	早周・第Ⅱ群・田戸上唇式	12D15-1	肩	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒少、繊維少	
95	95	早周・第Ⅱ群・田戸下唇式	11B49-2	肩	良	外 内	砂粒やや多、繊維少	
96	96	早周・第Ⅱ群・田戸下唇式	11D79-1	肩	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒多	
97	97	早周・第Ⅱ群・田戸下唇式	11D79-1	肩	良	外 深褐色 内 淡褐色	砂粒多、繊維少	
98	98	早周・第Ⅱ群・田戸上唇式	11D77-1	肩	良	外 深褐色 内 浅褐色	砂粒やや多、繊維少	
99	99	早周・第Ⅱ群・田戸上唇式	11D76-1	肩	良	外 浅褐色 内 深褐色	細砂粒やや多、繊維少	
100	100	早周・第Ⅱ群・田戸上唇式	11E73-1	肩	良	外 浅褐色 内 明褐色	細砂粒やや多、繊維やや多	
101	101	早周・第Ⅲ群・田戸上唇式	11E73-1	肩	良	外 深褐色 内 明褐色	砂粒やや多、繊維多	
102	102	早周・第Ⅲ群・子母口式	11E79-1011E88-111E89-2	肩	良	外 明褐色 内 明褐色	粗砂粒多、繊維多	
103	103	早周・第Ⅲ群・子母口式	11E77-46 - 47	肩	良	外 明褐色 内 明褐色	粗砂粒多、繊維多	
104	104	早周・第Ⅲ群・田戸上唇式	12E-1	口	良	外 深褐色 内 淡褐色	細砂粒少、繊維やや多	
105	105	早周・第Ⅲ群・子母口式	11E-1	肩	良	外 深褐色 内 深褐色	粗砂粒多、繊維少	
106	106	早周・第Ⅲ群・田戸下唇式	11D-1	口	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒やや多、赤色スコリアやや多	

図	No	時期・型式名等	性記	部位	焼成	色調	胎土	備考
60	107	早期・第Ⅱ群・田戸下層式	IID96-1	口	良	外 内 明褐色 明褐色	砂粒やや多、赤色スコリア少、繊維少	
	108	早期・第Ⅱ群・田戸下層式	IID85-1	口	良	外 内 褐色	砂粒やや多、繊維少	
	109	早期・第Ⅱ群・田戸下層式	IID84-1	口	良	外 内 褐色	砂粒やや多、赤色スコリアやや多	
	110	早期・第Ⅱ群・田戸下層式	IIE78-12	口	良	外 内 明褐色 明褐色	細砂粒多	
	111	早期・第Ⅱ群・田戸上層式	I2E12-1	口	良	外 内 明褐色 明褐色	繊維少、赤色スコリア少、繊維やや多	
	112	早期・第Ⅱ群・田戸上層式	I0C-1	口	良	外 内 黑色 黑色	粗砂粒やや多、繊維やや多	
	113	早期・第Ⅱ群・田戸上層式	IID-1	口	良	外 内 淡褐色 明褐色	細砂粒多、粗砂粒少、繊維やや多	
	114	早期・第Ⅱ群・子母口式	IIE93-1	口	良	外 内 明褐色 明褐色	砂粒多、繊維やや多	
	115	早期・第Ⅱ群・子母口式	I2D15-1	口	良	外 内 明褐色 明褐色	砂粒やや多、繊維やや多	
	116	早期・第Ⅱ群・子母口式	IID98-1	口	良	外 内 褐色 褐色	細砂粒やや多、繊維多	
	117	早期・第Ⅱ群・子母口式	IIE77-27	口	良	外 内 灰褐色 灰褐色	粗砂粒多、繊維やや多	
	118	早期・第Ⅱ群・田戸上層式	IIB-1	口	良	外 内 褐色 明褐色	細砂粒少、繊維多	
	119	早期・第Ⅱ群・田戸上層式	IIE87-4	口	良	外 内 明褐色 明褐色	砂粒やや多、繊維多	
	120	早期・第Ⅱ群・田戸上層式	2G-1	口	良	外 内 明褐色 明褐色	細砂粒やや多、繊維多	
	121	早期・第Ⅱ群・田戸上層式	049-1	口	良	外 内 褐色 褐色	砂粒やや多、赤色スコリア少、繊維やや多	
	122	早期・第Ⅱ群・田戸上層式	I2D07-1	口	良	外 内 淡褐色 明褐色	砂粒やや多、繊維多	
	123	早期・第Ⅱ群・田戸上層式	IID-1	口	良	外 内 明褐色 明褐色	砂粒やや多、繊維多	
	124	早期・第Ⅱ群・田戸上層式	IIE50-1	口	良	外 内 褐色 褐色	細砂粒多、繊維少	
	125	早期・第Ⅱ群・田戸上層式	IIE97-6	口	良	外 内 灰褐色一部黒色 明褐色	細砂粒やや多、繊維多	
	126	早期・第Ⅱ群・田戸上層式	I0C-1・4	口	良	外 内 明褐色一部黒色 明褐色一部黒色	砂粒少、繊維やや多	
	127	早期・第Ⅱ群・田戸上層式	IIE86-14	口	良	外 内 明褐色 明褐色	砂粒やや多、赤色スコリアやや多、繊維や や多	
	128	早期・第Ⅱ群・田戸上層式	IIE87-13	口	良	外 内 褐色 褐色	細砂粒多、砂粒少、繊維少	
	129	早期・第Ⅱ群・田戸上層式	IIE77-33・43・ 52・64,11IE86-7	口・網	良	外 内 褐色 褐色	細砂粒多、砂粒少、繊維やや多	
61	130	早期・第Ⅲ群・田戸下層式	IID85-1	網	良	外 内 褐色 明褐色	細砂粒やや多、繊維やや多	
	131	早期・第Ⅲ群・田戸下層式	IIC-L11D-1	網	良	外 内 明褐色 明褐色	細砂粒やや多、赤色スコリアやや多、繊維 やや多	
	132	早期・第Ⅲ群・田戸上層式	IIC-L11D58-1, I1D66-1	網	良	外 内 明褐色 明褐色	細砂粒多、赤色スコリア少、繊維少	
	133	早期・第Ⅲ群・田戸上層式	IID99-1	網	良	外 内 明褐色 明褐色	細砂粒多、石英粒・長石粒多、繊維少	
	134	早期・第Ⅲ群・田戸上層式	I1B85-15,11IE66-16, I1B86-15	網	良	外 内 褐色 褐色	細砂粒多、赤色スコリア少、繊維やや多	
	135	早期・第Ⅲ群・田戸上層式	I1B51-1	網	良	外 内 赤褐色 明褐色	細砂粒多、繊維多	
	136	早期・第Ⅲ群・田戸上層式	I1B76-14, I1B77-44・45, I1B86-31IE87-8	網	良	外 内 淡褐色 明褐色一部灰褐色	砂粒少、赤色スコリア少、繊維多	
	137	早期・第Ⅲ群・田戸上層式	I1B86-5・8	網	良	外 内 明褐色 灰褐色	砂粒少、赤色スコリア少、繊維多	
	138	早期・第Ⅲ群・田戸上層式	I1B84-1,I1IE81-1	網	良	外 内 明褐色 灰褐色	砂粒やや多、繊維多	
	139	早期・第Ⅲ群・田戸上層式	I1E87-15・16・33, I1E-1	網	良	外 内 淡褐色 明褐色	砂粒多、赤色スコリア多、繊維多	
	140	早期・第Ⅲ群・田戸上層式	I1E77-19・32	網	良	外 内 褐色 暗褐色	砂粒少、赤色スコリア少、繊維多	
	141	早期・第Ⅲ群・田戸上層式	I1E44-1	網	良	外 内 非褐色 灰褐色	砂粒やや多、繊維多	
	142	早期・第Ⅲ群・田戸上層式	I1E77-51 I1B86-2	網	良	外 内 明褐色 灰褐色	砂粒やや多、繊維多	
	143	早期・第Ⅲ群・子母口式	IID-1	網	良	外 内 明褐色 褐色	細砂粒多、繊維少	
	144	早期・第Ⅲ群・田戸下層式	IID-2	底	良	外 内 褐色 褐色	細砂粒多、赤色スコリア少	尖底

No	時期・墓式名等	注記	基位	被成	色調	胎土	備考
61	早周・第Ⅲ群・戸戸下層式	SD-3	底	良	外 明褐色 黒斑 内 暗褐色	砂粒や多、赤色スコリア少	尖底、底地に孔貫通しない
146	早周・第Ⅲ群・戸戸上層式	052-13-11255-1	底	良	外 明褐色 内 灰褐色	砂粒や多、赤色スコリア少、繊維少	尖底
147	早周・第Ⅲ群・戸戸上層式	11E89-8・12・14	底	良	外 明褐色 内 灰褐色	砂粒や多、赤色スコリア少、繊維や多	尖底
62	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	12D09-1	口	良	外 明褐色 一部黒色 内 明褐色	細砂少、繊維多	
149	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11D86-1	口	良	外 明褐色 内 明褐色	砂粒少、繊維多	
150	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11E89-19	口	良	外 明褐色 内 灰褐色	砂粒や多、繊維や多	
151	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11D84-1	口	良	外 明褐色 内 灰褐色	砂粒少、繊維や多	
162	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	063-1	口	良	外 暗褐色 内 明褐色	砂粒少、繊維多	
153	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11D85-1	口	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒や多、赤色スコリアや多、繊維多	
154	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11E40-12	口	良	外 明褐色 内 灰褐色	繊維多、繊維や多	
155	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11B-2	口	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒少、繊維少	
156	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11E79-1	口	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒や多、繊維多	
157	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11D76-1	口	良	外 明褐色 内 灰黑色	細砂粒や多、繊維や多	
158	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	061-111C-1	口	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒多、繊維多	
159	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11D96-1	肩	及	外 暗褐色 内 明褐色	砂粒多、繊維多	
160	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	063-7	肩	良	外 赤褐色 内 暗褐色	砂粒多、繊維や多	
161	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11E74-1	肩	良	外 明褐色 内 暗褐色	砂粒多、繊維多	
162	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11E87-31・35	肩	良	外 淡明褐色 内 淡明褐色	砂粒や多、繊維や多	
163	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	12D01-1	肩	良	外 赤褐色 内 明褐色	砂粒多、繊維少	
164	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11D75-1	肩	良	外 明褐色 内 灰褐色	細砂粒少、砂粒少、繊維多	
165	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11D49-1	肩	良	外 暗褐色 内 暗褐色	細砂粒少、繊維多	
166	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11E99-1	肩	良	外 暗褐色 内 暗褐色	細砂粒多、繊維や多	
167	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11E88-2・6	肩	良	外 暗褐色 内 明褐色	細砂粒多、繊維や多	
168	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	12D01-1	肩	良	外 明褐色 内 明褐色	細砂粒や多、砂粒少、赤色スコリア少、繊維多	
169	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11E83-1	肩	良	外 明褐色 内 灰黑色	細砂粒少、繊維多	
170	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11E99-11・ 11E88-15	肩	良	外 赤褐色 内 暗褐色	細砂粒多、繊維や多	
171	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	11D94-1	底	良	外 赤褐色 内 明褐色	細砂粒や多、繊維多	平底
172	早周・第Ⅲ群・茅山下層式	12D05-1	底	良	外 明褐色 内 黑色	細砂粒や多、繊維少	やや丸底
63	前周・第IV群・黑斑式	GD-1	口	良	外 黑褐色 内 暗褐色	細砂粒多、繊維や多	
174	前周・第IV群・黑斑式	GD-3	肩	良	外 黑褐色 内 黑褐色	細砂粒多、繊維少	
175	前周・第IV群・黑斑式	7G-1	口	良	外 黑褐色 内 黑褐色	細砂粒や多、繊維や多	
176	前周・第IV群・黑斑式	3G50-1	肩	良	外 暗褐色 内 明褐色	細砂粒多、繊維や多	
177	前周・第IV群・浮島式	059-5	口	良	外 淡明褐色 内 淡明褐色	細砂粒少、繊維少	
178	前周・第IV群・浮島式	059-4	肩	良	外 暗褐色 内 明褐色	砂粒多、繊維少	
179	前周・第IV群・浮島式	059-3	肩	良	外 暗褐色 内 明褐色	細砂粒多、繊維少	
180	前周・第IV群・浮島式	7D-1	肩	良	外 明褐色 内 暗褐色	細砂粒や多	
181	前周・第IV群・浮島式	6C-1	肩	良	外 暗褐色 内 暗褐色	砂粒多	
182	前周・第IV群・浮島式	012-1	肩	良	外 暗褐色 内 灰褐色	細砂粒や多	
183	前周・第IV群・浮島式	7B-2	肩	良	外 明褐色 内 暗褐色	砂粒多	

回	年	時期・型式名等	注記	部位	焼成	色調	胎土	備考
63	154	曲輪・第V群・浮島式	SD-3	胴	良	外:褐色 内:灰黑色	細砂粒多	
	155	曲輪・第V群・曲輪末～中段切頭	SD-1	胴	良	外:暗褐色 内:明褐色	細砂粒少、赤色スコリア少	
	156	曲輪・第V群・曲輪末～中段切頭	SD-1・3	胴	良	外:暗褐色 内:明褐色	粗砂粒多	
	157	前期・第V群・曲輪末～中段切頭	SD-3	胴	良	外:暗褐色 内:明褐色	砂粒多	
	158	前期・第V群・曲輪末～中段切頭	SC-3	胴	良	外:暗褐色 内:灰黑色	細砂粒多、砂粒少	
	159	前期・第V群・前輪末～中段切頭	11D-1	口	良	外:赤褐色 内:赤褐色	細砂粒多	
	160	前期・第V群・十三番鏡式	TD-1	口	良	外:明褐色 内:明褐色	砂粒やや多	
	191	前期・第V群・十三番鏡式	0091-2	口	良	外:黑褐色 内:褐色	細砂粒少	
	192	前期・第V群・十三番鏡式	TD-1	口	良	外:明褐色 内:明褐色	細砂粒やや多	
	193	前期・第V群・十三番鏡式	009-5	胴	良	外:暗褐色 内:褐色	砂粒やや多	
	194	前期・第V群・十三番鏡式	TD-1	胴	良	外:灰褐色 内:明褐色	砂粒やや多	
	195	前期・第V群・前輪末～中段切頭	SC-1	胴	良	外:黑褐色 内:褐色	細砂粒多	
	196	前期・第V群・前輪末～中段切頭	SC-1	胴	良	外:明褐色 内:赤褐色	細砂粒多、砂粒少	
	197	前期・第V群・前輪末～中段切頭	SC-1	口	良	外:暗褐色 内:褐色	細砂粒やや多、赤色スコリア少	
	198	前期・第V群・前輪末～中段切頭	TG-1	胴	良	外:明褐色 内:灰黑色	砂粒多	
	199	前期・第V群・前輪末～中段切頭	SC-1	胴	良	外:淡明褐色 内:暗褐色	粗砂粒多	
	200	前期・第V群・前輪末～中段切頭	TG-1	胴	良	外:明褐色 内:明褐色	細砂粒多、砂粒やや多	
	201	前期・第V群・前輪末～中段切頭	TD-1	胴	良	外:暗褐色 内:黑色	粗砂粒やや多	
	202	前期・第V群・前輪末～中段切頭	SD-3	胴	良	外:赤褐色 内:明褐色	細砂粒やや多、砂粒少	
	203	前期・第V群・前輪末～中段切頭	SC-1	底	良	外:褐色 内:明褐色	細砂粒少	平底
	204	前期・第V群・前輪末～中段切頭	TD-1	底	良	外:暗褐色 内:深褐色	細砂粒多	平底
	205	前期・第V群・前輪末～中段切頭	TB-1	底	良	外:暗褐色 内:深褐色	細砂粒多、赤色スコリア少	平底
	206	前期・第V群・前輪末～中段切頭	TB-2	底	良	外:褐色 内:褐色	細砂粒多、赤色スコリア少	平底
	207	後・晚期・第V群・鑿之内式	10C-1	胴	良	外:明褐色 内:灰褐色	砂粒やや多、赤色スコリア少	
	208	後・晚期・第V群・安行皿式	N6-1	底	良	外:褐色 内:暗褐色	砂粒多	浅鉢、平底
	209	後・晚期・第V群・奈名寺式	11E95-1	胴	良	外:褐色 内:褐色	細砂粒多	
	210	後・晚期・第V群・加曾利B式	N6-2	胴	良	外:黑褐色一部明褐色 内:褐色一部明褐色	細砂粒多、砂粒少	

第8表 繩文時代土器品観察表

回	No.	種類	時期	記述	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	遺存度	色調	胎土	備考
64	1	土器片土板	撫奈文系	11D65-1	3.45	3.7	0.7	12.29	完形	にぶい黄褐色	細砂粒多	鐵錆斑点
	2	土器片土板	撫奈文系	11E55-1	4.05	4.00	1.0	16.89	完形	褐色	細砂粒多・砂粒や 砂	鐵錆斑点
3	土器片土板	撫奈文系	068-2	2.60	3.60	0.6	5.60	1/2	灰褐色	砂粒多	鐵錆地壳	
4	土器片土板	撫奈文系	064-22	2.20	2.65	0.9	5.86	2/3	にぶい褐色	細砂粒多	鐵錆斑点	
5	土器片土板	撫奈文系	11E56-1	2.25	3.60	0.7	7.15	1/2	暗褐色	細砂粒多	鐵錆斑点	
6	土器片土板	撫奈文系	11E56-1	2.00	3.80	1.2	10.61	1/2	にぶい褐色	細砂粒多・鐵錆少	底部付近 鐵錆斑点	
7	土器片土板	撫奈文系	066-12	2.70	3.90	0.8	9.59	1/2	褐色	細砂粒多	鐵錆斑点	
8	土器片土板	撫奈文系	11I97-1	1.55	2.85	0.65	3.89	1/2	明赤褐色	細砂粒多		
9	土器片土板	不明	10C-1	2.45	4.35	0.7	7.62	1/2	灰褐色	細砂粒多	鐵錆斑点	
10	土器片土板	撫奈文系	061-38	4.45	4.45	0.9	24.29	完形	乳褐色	細砂粒多	鐵錆斑点	
11	土器片土板	撫奈文系	11D69-1	2.25	2.50	0.7	4.13	完形	褐色	砂粒や多 砂	鐵錆やや多	
12	土器片土板	撫奈文系	11E56-14	2.65	3.90	0.8	9.19	はぼ完形	褐色	細砂粒多	鐵錆やや多	
13	土器片土板	撫奈文系	11E90-1	3.95	4.30	0.9	18.39	はぼ完形	にぶい黃褐色	細砂粒・赤色スコ リア・鐵錆少		
14	土器片土板	子母口・野鳥	066-12	4.05	4.15	0.9	14.47	完形	にぶい黃褐色	細砂粒多・鐵錆少		
15	土器片土板	子母口・野鳥	11E81-1	3.90	4.00	0.75	9.28	完形	暗褐色	細砂粒多		
16	土器片土板	茅山式	11E11-1	4.50	4.85	1.3	30.53	2/3	明赤褐色	砂粒・赤色スコ リア・鐵錆や多		
17	土器片土板	茅山式	6C-1	4.90	3.95	1.0	20.91	1/2	にぶい赤褐色	細砂粒多		
18	土器片土板	茅山式	11D73-1	4.25	4.40	1.0	19.54	完形	明赤褐色	細砂粒多・鐵錆や 多		
19	土器片土板	茅山式	064-21	3.55	3.70	1.2	12.70	完形	にぶい褐色	細砂粒やや多・鐵 錆多	鐵錆斑点	
20	珠状耳飾		013-17	4.30	4.10	1.65	8.50	1/3	暗褐色	砂粒や多・赤色	准圆形耳飾の スコリア少	

第9表 遺構出土繩文時代石器観察表

回	No.	通名	器種	記述	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	遺存度	備考
65	1	SK001	石核	001-1	チャート	3.31	2.01	0.36	1.71	完形	
	2	SK017	石核	017-20	黒曜石	1.69	1.14	0.30	0.46	完形	
	3	SK109	石核	109-1	チャート	2.36	1.20	0.39	0.87	1/3	瓦割面の石核追、赤チャート
	4	SK109	石核	109-2	黒曜石	1.78	1.90	0.35	0.70	完形	
	5	SK112	調整板のある片剝	112-1	黒質頁岩	4.25	3.20	0.81	7.61	完形	上刃および両側面に溝痕
	6	SK119	試石・磨石	119-1	石英	9.01	5.69	4.03	291.28	完形	前面、背面および両側面に敲打痕

※石材の同定は柴田 勝氏による

第10表 遺構出土繩文時代石器観察表

回	No.	種類	記述	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	遺存度	備考
66	1	石磨	6C-3	チャート	2.82	1.96	0.36	1.00	左脚踏丸	
	2	石磨	N6-L1	黒曜石	1.73	1.79	0.23	0.65	先端・左脚踏丸	
	3	調整板のある片剝	11E74-1	チャート	3.49	2.39	0.96	7.73	完形	下端および左側に調整
	4	使用痕のある片剝	6C-2	頁岩	2.55	2.49	0.76	4.48	完形	上端に使用痕
	5	片剝	11E84-14	チャート	2.53	2.76	0.90	9.35	完形	
	6	調整板のある片剝	013-30	チャート	1.76	0.87	0.35	0.51	完形	両側に調整
	7	片剝	11D93-1	トロロ石(ガラス) スザンナイト	4.54	2.50	1.20	8.51	完形	脚石面追跡
	8	剥片	16C-1	安山岩	4.36	4.48	0.62	10.72	完形	黒石面追存
	9	剥片	012-24	黒曜石	2.23	3.35	0.90	4.23	完形	黒石面追存、高麗山産
	10	剥片	11E74-1	チャート	3.59	1.89	0.75	4.59	完形	
	11	剥片	6C38-1	硬質頁岩	1.10	2.71	0.69	1.25	完形	
67	12	磨擦研石	9814-1	中粒酸灰岩	10.5	5.02	4.50	423.66	刀部右端欠	
	13	磨石	8B-2	砂岩	6.69	6.95	3.50	211.66	50%	
	14	磨石	11C-1	頁岩	5.64	3.40	0.90	22.28	完形	被削
	15	磨石	12D-1	花崗岩	7.50	5.58	4.20	260.68	完形	
	16	磨石	11D77-2	砂岩	9.48	8.62	6.00	650.00	完形	
	17	磨石	11E89-13	ホルンフェルス	8.40	4.20	2.60	90.40	50%	被削
	18	磨石・磨石	11B-1	石英岩	12.10	5.96	5.20	443.54	両端に敲打痕	
	19	磨石	11E86-5	砂岩	8.33	5.50	3.20	200.00	両端欠損	被削
	20	台石	11C-2	石英岩	19.30	16.60	9.85	397.00	完形	上面が平坦で、底純
	21	磨石	12D-1	砂岩	6.20	6.08	2.85	153.83	完形	全体に磨削
	22	磨石	11E74-1	石英岩	5.26	6.12	3.60	153.60	破片	
	23	磨石	11B-1	中粒酸灰岩	7.20	3.10	4.80	137.32	破片	
	24	磨石	11E87-10	砂岩	4.52	9.43	5.10	287.40	破片	
	25	磨石	11C-1	砂岩	7.00	5.94	3.72	159.14	80%	被削、縦擦痕
	26	磨石・磨石	10C-3	石英岩	7.52	4.36	3.75	160.23	完形	縦擦痕
	27	磨石・磨石	11E58-4	砂岩	7.84	4.28	2.71	121.10	完形	両端に敲打痕
	28	石頭	11D94-1	中粒酸灰岩	5.12	5.21	3.66	124.40	破片	成形なし、底石の形を利用
	29	磨石	11D43-1	石英岩	6.00	5.00	4.26	125.87	破片	
	30	磨石	11E-1	流紋岩	3.16	7.04	2.26	52.70	破片	

※石材の同定は柴田 勝氏による

第4章 弥生時代

第1節 遺構

検出した遺構はすべて竪穴住居跡である。検出数は12棟で、遺跡調査区の南部に集中して分布し、重複関係はない。

1. 竪穴住居跡

SI048 (第69図 図版12)

調査区中央南端部斜面際に位置し、主要グリッドは11F-62である。標高は約26mである。平面形は縦長の隅丸方形で、規模は6.81m×4.98mと大形である。短辺の壁がやや張り出して丸味がある。検出面からの深さは19cm～43cm、床面積は27.80m²である。長軸の方位はN-40°-Wである。

床面は平坦で、特に硬化した部分はない。壁溝はない。主柱穴は4か所検出した。平面形は梢円形である。規模は、P1が53cm×42cm、深さは83cmである。P2は、58cm×42cm、深さは45cmである。P3は、53cm×39cm、深さは91cmである。P4は、48cm×43cm、深さは91cmである。

炉は床面中央やや北西寄りにある。長梢円形で、87cm×51cm、掘り込みは17cmである。小ピットP5が北西壁下に検出された。円形で、径22cm、深さは22cmである。出入口ピットとも考えられる。

覆土は黒色土主体で、自然堆積である。遺物の出土は少量であるが、床面の東隅よりに、やや集中して出土している。また、床面中央やや南西よりから大形の土器片が出土している。

SI049 (第70図 図版12)

調査区中央南端部斜面際に位置し、主要グリッドは11E-84・85である。標高は約26mである。平面形は、やや不整な横長の梢円形で、規模は4.21m×3.88mである。検出面からの深さは18cm～31cm、床面積は12.28m²である。長軸の方位はN-64°-Wである。

床面は平坦で、特に硬化した部分はない。主柱穴、壁溝はない。

炉は床面中央やや北西寄りにある。梢円形で、52cm×37cm、掘り込みは8cmである。やや大きなピットが炉の南東に隣接して検出された。梢円形で、60cm×50cm、深さ21cmである。

覆土は黒色土主体のレンズ状で、自然堆積である。遺物の出土は少量である。土製纺錐車が出土している。

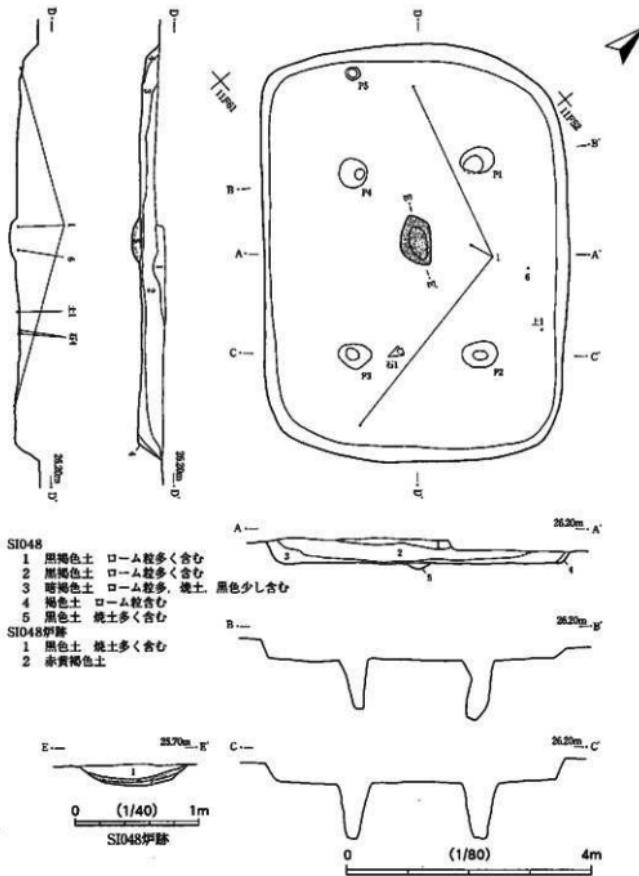
SI050 (第71図 図版12)

調査区中央南端部斜面際に位置し、主要グリッドは11D-33である。標高は約25.5mである。平面形は、やや縦長の方形で、長辺の壁がやや張り出して丸味がある。規模は4.45m×3.92mである。検出面からの深さは25cm～41cm、床面積は13.95m²である。長軸の方位はN-58°-Wである。

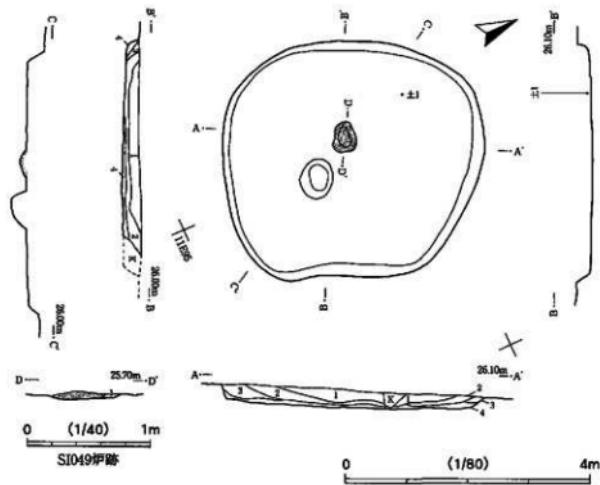
床面は平坦で、特に硬化した部分はない。主柱穴、壁溝はない。

炉は床面中央やや北西寄りにある。南半分が攪乱をうけている。梢円形で、残存規模62cm×24cm、掘り込みは10cmである。不整形なピットが炉の北西に隣接して検出された。45cm×18cm、深さ12cmである。

覆土は攪乱が多いが、黒色土主体のレンズ状で、自然堆積である。遺物の出土は少量である

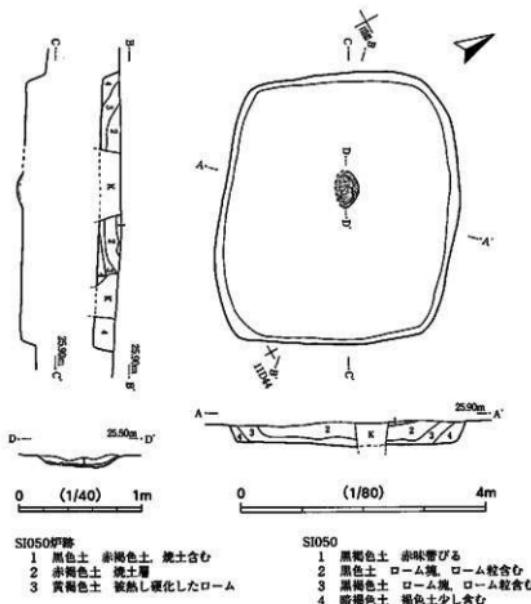


第69図 SI048

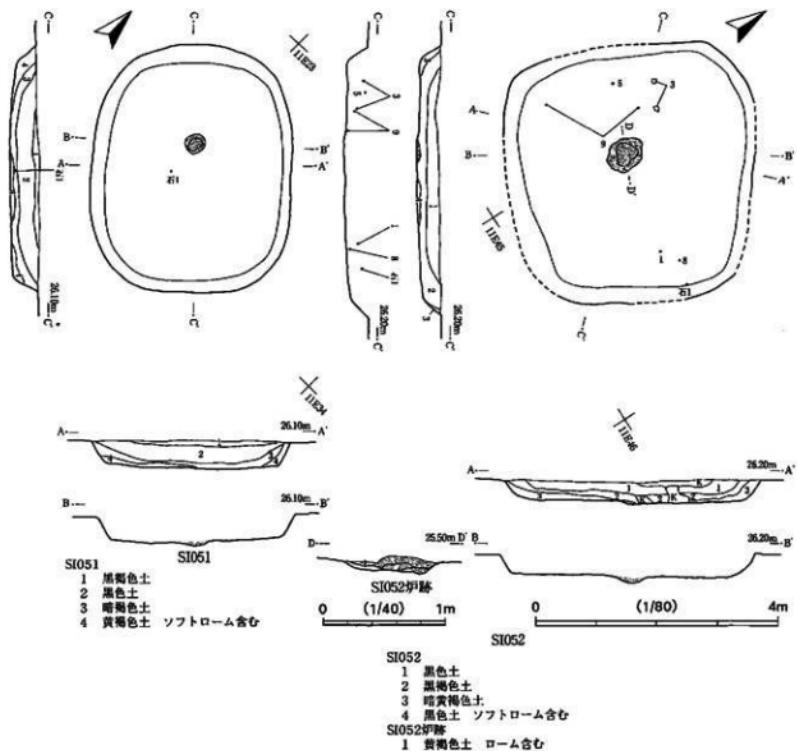


- SI049
- 1 黒色土 墓園色土少し含む
 - 2 黒褐色土 墓園色土・暗褐色土含む
 - 3 褐色土 ややしまりがない
 - 4 黄褐色土 ローム少し含む
- SI049分野
- 1 黄褐色土

第70図 SI049



第71図 SI050



第72図 SI051・052

SI051 (第72図 図版13)

調査区中央南端部斜面際に位置し、主要グリッドは11E-22・23である。標高は約26mである。平面形は、楕円形に近い縦長の隅丸方形で、規模は4.10m×3.33mである。検出面からの深さは33cm～50cm、床面積は9.30m²である。長軸の方位はN-40°-Wである。

床面は平坦で、特に硬化した部分はない。主柱穴、壁溝はない。

炉は床面中央やや北西寄りにある。円形で、径32cm、掘り込みは5cmである。

覆土は黒色土主体のレンズ状で、自然堆積である。遺物の出土は少量である。

SI052 (第72図 図版13)

調査区中央南端部斜面際に位置し、主要グリッドは11E-35である。標高は約26mである。全体に擾乱をうけているので、壁の立ち上がりが緩い。平面形は、やや不整な丸みのある隅丸方形で、規模は4.37m×4.27mである。検出面からの深さは32cm～40cm、床面積は12.51m²である。炉の位置から長軸の方位はN-60°-Wである。

床面は平坦で、特に硬化した部分はない。主柱穴、壁溝はない。

炉は床面中央やや北西寄りにある。楕円形で、65cm×48cm、掘り込みは8cmである。

覆土は黒色土主体のレンズ状で、自然堆積である。遺物の出土は少量である。北西壁および南東壁下付近に集中しているが、大形の壺片（3）が出土している。

SI053 (第73図 図版13)

調査区中央南端部斜面際に位置し、主要グリッドは10D-71・72である。標高は約26mである。平面形は隅丸方形で、規模は4.78m×4.70mである。検出面からの深さは34cm～58cm、床面積は14.54m²である。南東壁下に出入り口施設に伴う小ピットがあり、竪穴の主軸方向は、この小ピットと炉の中心を結ぶ線とした。方位はN-62°-Wである。

床面は平坦で、特に硬化した部分はない。主柱穴、壁溝はない。南東壁下に出入り口ピットP1および東隅にピット2基を検出した。平面形は楕円形で、規模は、P1が46cm×28cm、深さは26cmである。P2は、27cm×24cm、深さは18cmである。P3は、34cm×24cm、深さは12cmである。

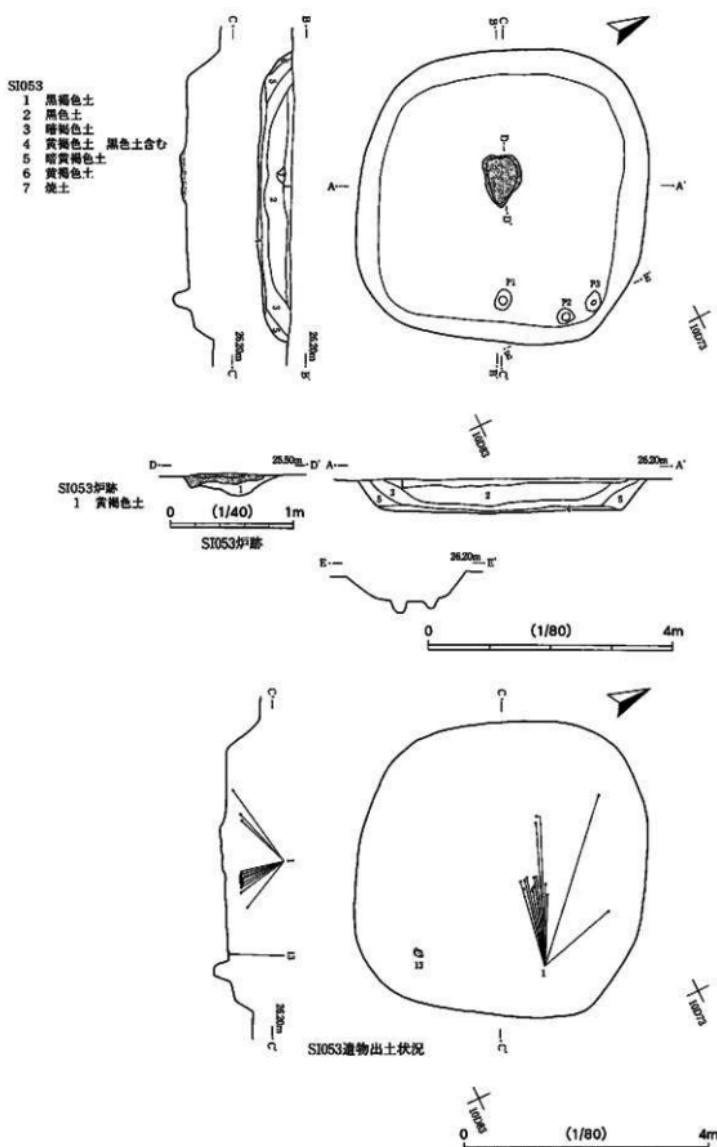
炉は床面中央やや北西寄りにある。楕円形で、87cm×631cm、掘り込みは17cmである。

覆土は黒色土主体のレンズ状で、自然堆積である。遺物の出土は少量である。炉付近の床面に集中して出土し、壺一個体（1）に復元された。また、南隅の床面から大形の壺片（13）が出土している。

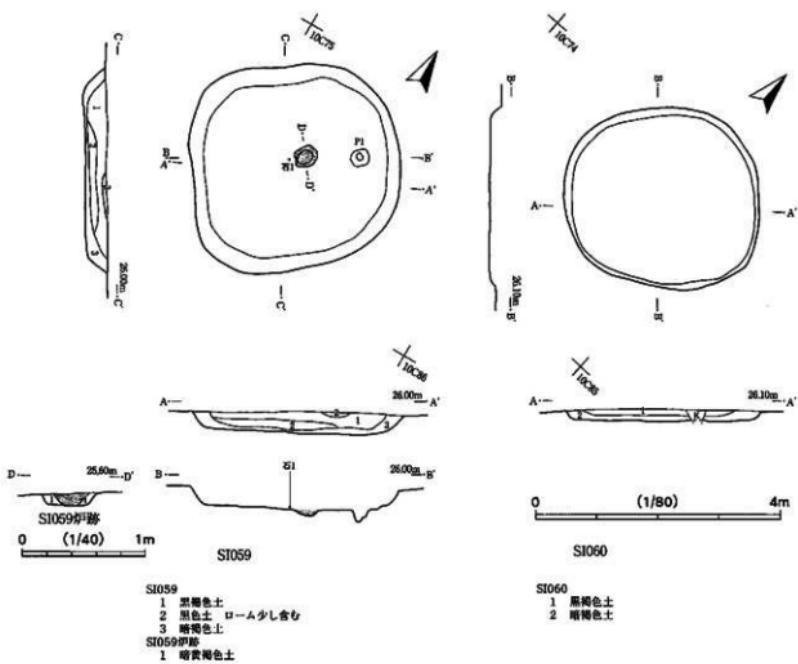
SI059 (第74図 図版14)

調査区中央南端部斜面際に位置し、主要グリッドは10C-95である。標高は約26mである。平面形はやや不整な隅丸正方形で、規模は3.29m×3.28mである。壁はやや張り出して丸味がある。検出面からの深さは32cm～40cm、床面積は7.35m²である。北東壁下に出入り口施設に伴うと考えられる小ピットがあり、竪穴の主軸方向は、この小ピットと炉の中心を結ぶ線とすると、方位は、他の同時代住居とはかなり異なるが、N-126°-Wである。

床面は平坦で、特に硬化した部分はない。主柱穴、壁溝はない。北東壁下に出入り口ピットP1を検出した。



第73図 SI053



第74図 SI059・060

平面形は楕円形で、規模は、30cm×27cm、深さは19cmである。

炉は床面中央やや北東寄りにある。楕円形で、40cm×33cm、掘り込みは12cmである。

覆土は黒色土主体のレンズ状で、自然堆積である。遺物の出土は少量であるが、炉の南西付近から磨製石器（石1）が出土している。

SI060（第74図 図版14）

調査区中央南端部斜面際に位置し、主要グリッドは10C-74である。標高は約26mである。平面形は、やや不整形な楕円形で、規模は3.08m×2.96mで、やや小型である。検出面からの深さは11cm～21cm、床面積は6.92m²である。長軸方位はN-55.5°-Eである。

床面は平坦で、特に硬化した部分はない。主柱穴、壁溝はない。

炉は検出されなかった。

覆土は黒色土主体のレンズ状で、自然堆積である。遺物の出土はごく少量である。

SI061（第75図 図版14）

調査区中央南端部斜面際に位置し、主要グリッドは11C-21である。標高は約25.5mである。壁の立ち上がりが緩い。平面形は、やや不整形な楕円形で、規模は4.23m×3.97mである。検出面からの深さは17cm～40cm、床面積は10.94m²である。炉の位置から長軸の方位はN-33°-Wである。

床面は平坦で、特に硬化した部分はない。主柱穴、壁溝はない。

炉は床面中央やや北西寄りにある。楕円形で、東半分が擾乱をうけている。残存規模は53cm×31cm、掘り込みは5cmである。

覆土は黒色土主体のレンズ状で、自然堆積である。炉周辺の床面に焼土が堆積する。遺物の出土は少量であるが、炉付近に集中して出土している。石製品の材料と考えられるメノウの石核、剥片が出土している。

SI064（第76図 図版15）

調査区中央南端部西側斜面際に位置し、主要グリッドは11B-09・19である。標高は約25.5mである。平面形は縦長の隅丸方形で、規模は6.85m×5.78mと大形である。北東および南東側壁がやや張り出して丸味がある。検出面からの深さは45cm～56cm、床面積は30.82m²である。長軸の方位はN-58°-Wである。

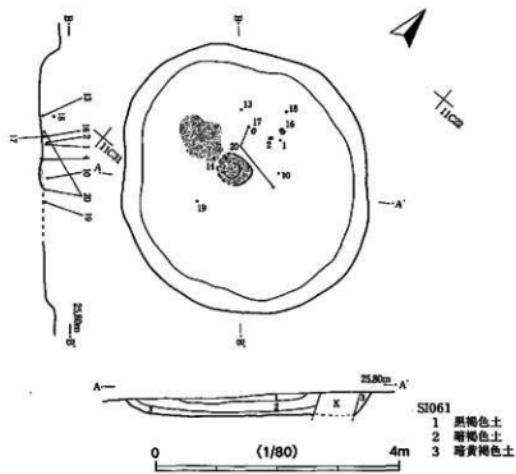
床面は平坦で、特に硬化した部分はない。主柱穴、壁溝はない。南東壁下やや北寄りに貯蔵穴が検出された。平面形は長方形で、竪穴主軸方向に直交し、また、壁に沿うように掘り込まれている。深さはさほど深くない。規模は78cm×58cm、深さは12cmである。

炉は2基検出された。1基は床面中央やや北西寄りにある。楕円形で、191cm×75cm、掘り込みは14cmである。他の1基は、床面中央やや西寄りである。楕円形で、38cm×36cm、掘り込みは12cmである。

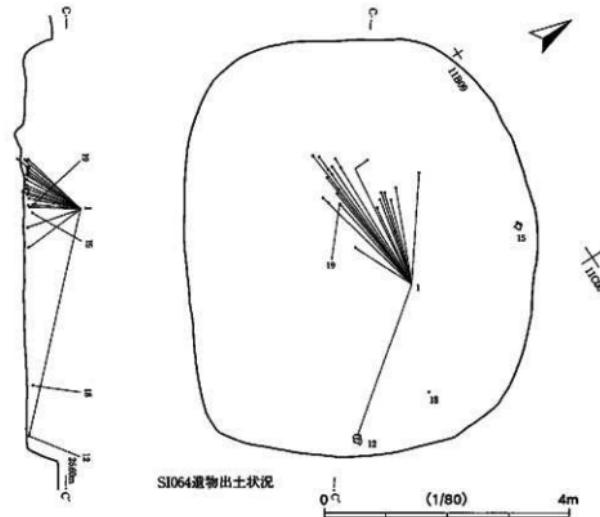
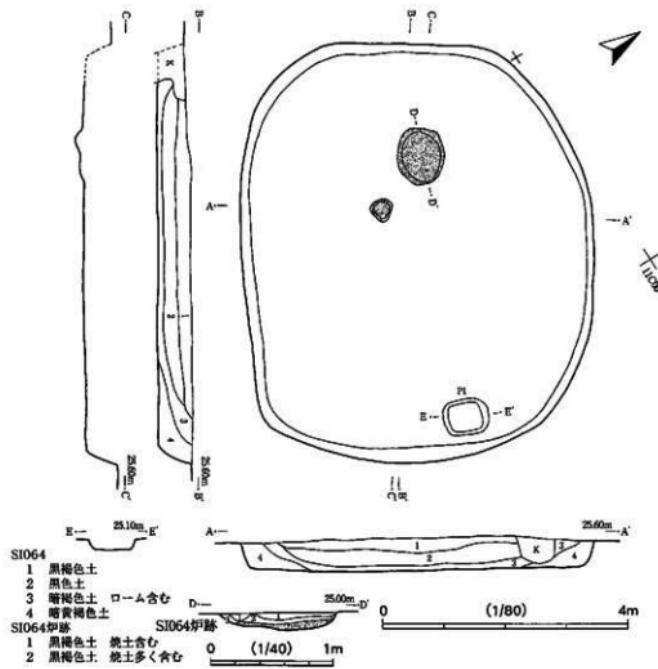
覆土は黒色土主体のレンズ状で、自然堆積である。遺物の出土は少量であるが、炉付近に集中して出土し、壺が1個体復元された。北東壁下中央から台付壺の台部が出土している。

SI065（第77図 図版15）

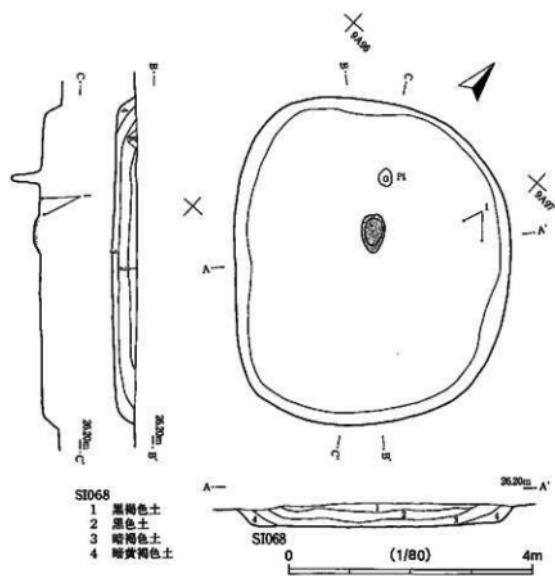
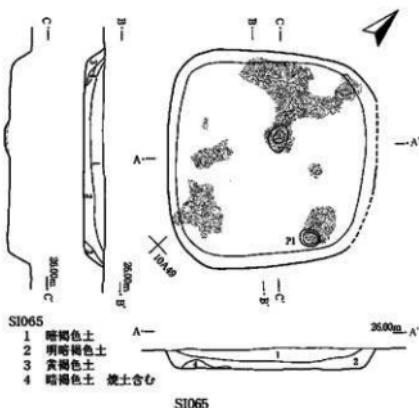
調査区中央南端部西側斜面際に位置し、主要グリッドは10A-38・39である。標高は約25.5mである。壁



第75図 SI061



第76図 SI064



第77図 SI065・068

の立ち上がりが緩い。床面全体に焼土の堆積が検出された。平面形は、やや不整形な隅丸正方形で、規模は3.52m×3.53mである。検出面からの深さは30cm～38cm、床面積は8.89m²である。南東壁下に出入り口施設に伴うと考えられる小ピットがあり、竪穴の主軸方向は、この小ピットと炉の位置から、N-45°-Wである。床面は平坦で、特に硬化した部分はない。主柱穴、壁溝はない。南東壁下に出入り口ピットP1を検出した。平面形は楕円形で、規模は34cm×26cm、深さは18cmである。

炉は床面中央やや北西寄りにある。楕円形で、規模は45cm×36cm、掘り込みは4cmである。

覆土は暗褐色土主体のレンズ状で、自然堆積である。土層中間に焼土層が観察されるが、焼土の廃棄と考えられる。遺物の出土は少量である。

SI068 (第77図 図版15)

調査区中央南端部西側斜面際に位置し、主要グリッドは9A-96・10A-06である。標高は約26mである。平面形は継長の隅丸方形で、規模は5.29m×4.54mである。北東および南東側壁がやや張り出して丸味がある。検出面からの深さは24cm～38cm、床面積は17.46m²である。長軸の方位はN-38°-Wである。

床面は平坦で、特に硬化した部分はない。主柱穴、壁溝はない。床面北東側、炉穴北東寄りに小ピットが検出された。平面形は楕円形で、29cm×21cm、深さは51cmである。

炉は床面中央やや北西寄りにある。楕円形で、62cm×38cm、掘り込みは9cmである。

覆土は黒色土主体のレンズ状で、自然堆積である。遺物の出土は少量であるが、北東壁下付近にやや集中して出土している。

第2節 遺 物

1 土 器 (第11表)

遺構出土

すべて竪穴住居跡出土である。破片が多く、器形全体が判明するものは少ない。法量等は表に記載したので、ここでは主に器形の特徴について述べる。

SI048 (第78図 図版51・56)

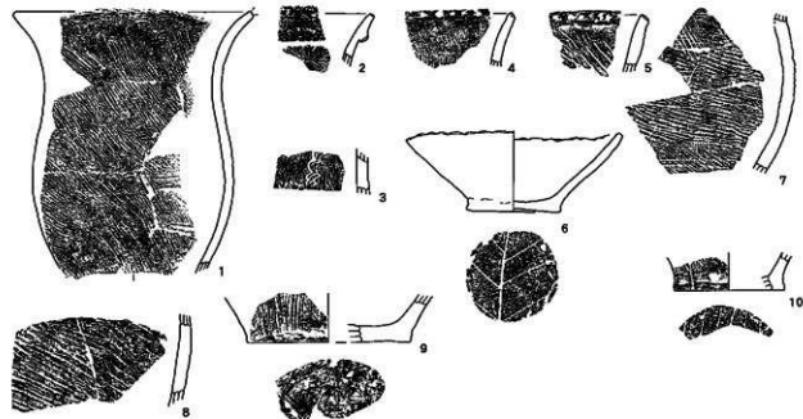
1は器形が復元できる個体である。底部を欠く。やや小型の壺で、最大径が口縁部にある。胴部のふくらみが小さく、口縁部は大きく外反する。口縁にL撲糸文が施される。胴部には斜方向のL撲糸文が施される。2は壺の口縁部である。折返し口縁で、口縁および折返し下端に櫛状用具の刻み目が施される。折返し部および口縁部に櫛描文が施される。3は壺の胴部である。2と同個体と思われる。綫方向の櫛描波状文が施される。4・5は壺の口縁部である。素口縁で口縁にL撲糸文原体の刻み目が施される。L撲糸文が施される。

6は浅鉢である。やや小型で、体部が直線的に広がって立ち上がり、口縁部に至る。口縁に刻み目が施される。体部にはナデが施され、底部には木葉痕がある。

7・8は壺の胴部片である。やや丸みのある胴部で、斜方向のL撲糸文が施される。

9・10は底部である。平底で、木葉痕がある。L撲糸文が施される。

SI048



SI049



SI050



SI051



0 (1/3) 10cm

第78図 SI048～051出土土器

SI049 (第78図 図版51)

1・2は壺の口縁部片である。1は素口縁で、外反は小さく、口縁にL撲糸文原体の刻み目が施される。2は折返し口縁である。外反は小さく、折返し下端に刻み目が施される。3は壺の胴部片である。丸みはなく、やや長胴の壺の胴部下位と考えられる。L撲糸文が施される。4は底部である。木葉痕があり、R撲糸文が施される。

SI050 (第78図 図版51)

1は壺の口縁部である。素口縁で、やや受け口である。口縁に刻み目状の押圧文が施される。2は壺の胴部片である。外反から、胴部上位と考えられる。櫛描文が施され、縱方向は直線的で、横方向は波状である。3～5は壺の胴部片である。3は直線的であるので、長胴と考えられる。4はやや丸みがあり、器壁が厚いので、大型と思われる。5は丸みがあり器壁が薄いので、小型と思われる。3・5にはL撲糸文が、4にはR撲糸文が施される。

SI051 (第78図 図版51)

1・2は壺の胴部片である。1は外反しているので、やや丸みのある胴部の上位である。上半にナデ、横方向の櫛描文を境にして、下半にL撲糸文が施される。2は胴部中位で、やや丸みがあり、L撲糸文が施される。

SI052 (第79図 図版52)

1・2は壺の口縁部である。1は折返し口縁で、口縁および折返しの下端に刻み目が施される。刻み目はL撲糸文原体で施される。2は口縁に刻み目が施される。刻み目はR撲糸文原体で施される。

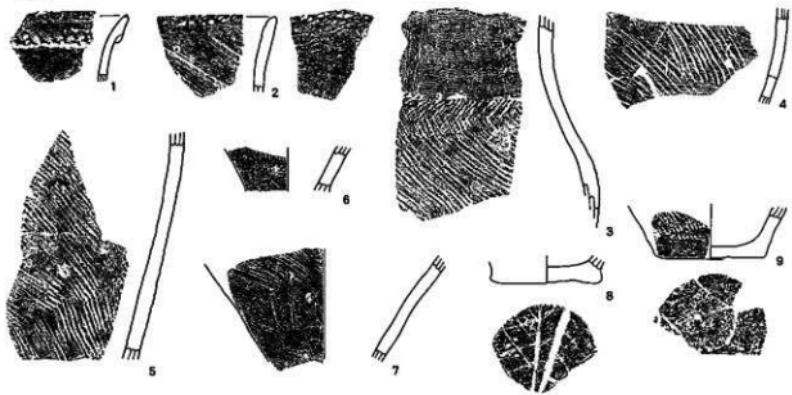
3～7は壺の胴部である。3は中位から上半部で、上部に櫛描文が施される。縱方向はほぼ直線であるが、横方向は波状文である。下部は上端が羽状のL撲糸文、下部は斜方向のL撲糸文が施される。4はハケ状のナデとL撲糸文が施される。5は斜方向のL撲糸文が施される。6・7は底部付近である。底部からの広がりが急である。6はナデ、7は擦痕状のナデが施される。8・9は底部片である。木葉痕がある。9はL撲糸文が施される。

SI053 (第79図 図版52・56・57)

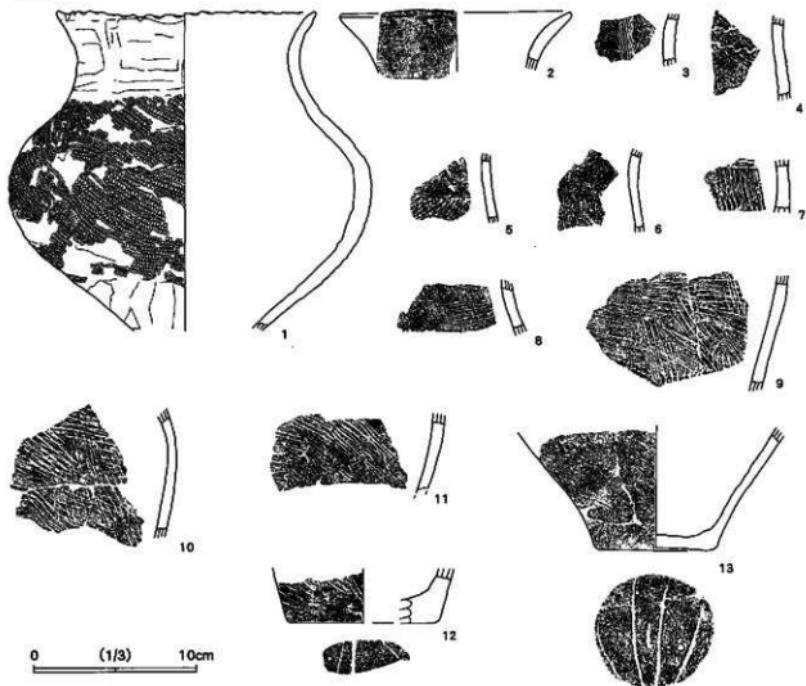
1は器形が復元できる個体である。底部を欠く。広口の壺である。小さな底部から胴部が大きく広がって立ち上がる。胴部はやや扁平な球形である。口縁部は外反して立ち上がり、上端がやや厚くなる。口縁は尖り気味である。口縁に刻み目状の細かな押圧文が施される。口縁部はヨコナデ、同部にはRL繩文が施される。2は1と同形と思われる壺の口縁部である。大きく外反し、口縁にR撲糸文が施される。外面にナデ、内面に擦痕状のナデが施される。

3～11は壺の胴部片である。3は櫛描波状文、ヘラ描きの交叉文、ナデが施される。4はS字結節文、RL繩文が施される。5～8は胴部上位と考えられる。5・6は上半にナデ、下半にR撲糸文が施される。7はR撲糸文が施され、上端に横方向の櫛描文が施される。8は横方向のL撲糸文が施され、上端部にナデが施される。9～11は胴部中位から下位と考えられる。丸みが無いので、やや長胴と思われる。斜方向

SI052



SI053



第79圖 SI052・053出土土器

のL撲糸文が施される。

12・13は底部である。12は底外面に木葉痕があり、斜方向のL撲糸文が施される。13は底外面にヘラ描文が施される。木葉痕を模倣したと思われる。斜方向のR撲糸文およびナデが施される。

SI059 (第80図 図版53)

1は壺の口縁部片である。折返し口縁で、口縁にL撲糸文原体の刻み目が施される。折返し部にはヨコナデ、全体にナデが施される。2・3は壺の胴部片である。2は丸みがあり、斜方向のR撲糸文が施される。3は丸みが無く、斜方向のL撲糸文が施される。4は壺の底部片である。L撲糸文および櫛描文が施される。

SI060 (第80図 図版53)

1・2は壺の口縁部片である。1は折返し口縁の折返し部で、やや幅広である。口縁および折返し部下端に刻み目が施される。折返し部全体にナデが施される。2は素口縁で、口縁にL撲糸文原体の刻み目が施される。全体にタテナデが施され、下位にL撲糸文が施される。3は壺の口縁部で、小型と考えられる。手捏ね成形状である。受け口状で、口縁下に刻み目が施される。

SI061 (第80図 図版53・56)

1はやや小型の壺である。口縁部上半と底部を欠く。胴部は下ぶくれの球形で、口縁部がほぼ直立する。口縁上半は外反すると考えられる。口縁部にヨコナデ、胴部にRL繩文が施される。2は壺の底部である。平底で、RL繩文が施される。1、2は施文、器面の状態および胎土から、同個体と考えられる。二次焼成を受けている。

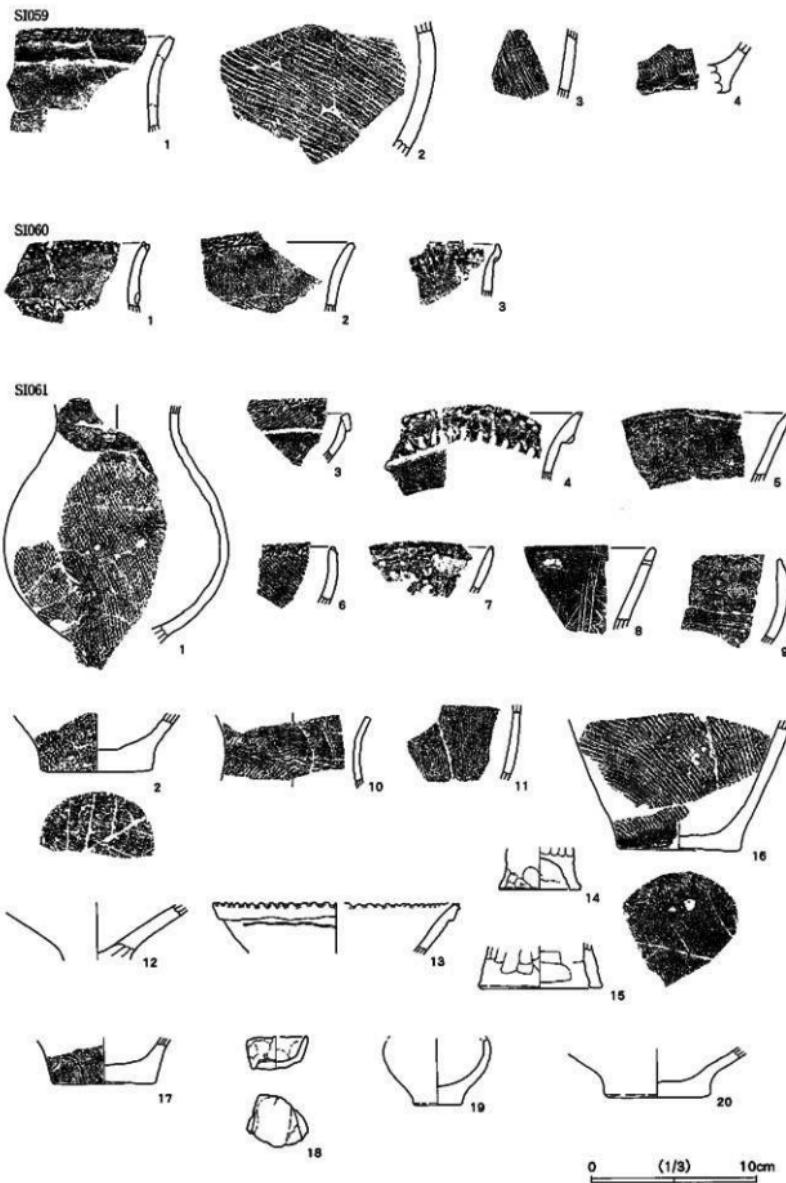
3～9は壺の口縁部片である。3は折返し口縁で、内彎する。口縁および折返し部にLR繩文が施される。口縁部下半にはナデが施される。4は折返し口縁で、外反する。口縁および折返し部下端に刻み目が施される。口縁部下半にはナデが施される。5は素口縁である。直線的に広がり、ヨコナデが施される。口縁には沈線が施される。二次焼成を受けている。6は素口縁で、内彎する。RL繩文が施され、口縁に刻み目が施される。鉢の可能性がある。7は素口縁で、直線的に広がる。口縁に刻み目が施され、全体に擦痕状のナデが施される。8は素口縁で、直線的に広がる。沈線文および櫛描文が施される。口縁下に焼成前の穿孔が2個、並んで施される。9は素口縁で、内彎する。口縁は尖り気味で、上半にヨコナデ、下半にナデが施される。鉢の可能性がある。

10・11は壺の胴部片である。10は胴部上位で、上からナデ、S字結節文、LR繩文が施される。11は丸みが無く、櫛描文が施される。二次焼成を受けている。

12は高坏と考えられる。直線的に大きく広がる体部下部で、全体にナデが施される。二次焼成を受けている。13は高坏の口縁部と思われる。折返し口縁で、口縁に半截竹管の刻み目が施される。全体にヨコナデが施される。

14・15は台付壺の底部である。両者とも手捏ね成形で、ミニチュア土器と思われる。14はナデ、15にはヘラケズリが施される。

16・17は壺の底部である。16は長胴と考えられ、L撲糸文が施される。平底で、底面外部に木葉痕がある。二次焼成を受けている。17は平底である。LR繩文が施され、底面外部にナデが施される。



第80図 SI059~061出土土器

18・19はミニチュア土器である。18は器形不明であるが、ツマミ状のものと思われる。19は壺形である。平底で、胴部は球形である。20は壺の底部である。胴部の広がりから壺とした。平底で、ナデが施される。二次焼成を受けている。

SI064 (第81図 図版54・56・57)

1は器形が復元できる個体である。底部を欠く。広口の壺である。最大径が口縁にある。小さな底部から胴部が外傾して直線的に立ち上がる。胴部所半は丸みがあり、全体に倒卵形を呈する。口縁部は大きく外反して広がり、折返し部の幅が広い折返し口縁である。口縁および折返し部下端にR撲糸文原体の刻み目が施される。折返し部にはR撲糸文が施される。口縁部下部は櫛描文が施される。横方向に波状文が4段に施され、その上から縦方向に、直線的に器面を区画するように施される。胴部と口縁部との境には横方向に直線的な櫛描文が施される。胴部には斜方向のR撲糸文が施される。

2・3は壺の胴部片である。2は口縁部との境で、上からナデ、横沈線、ヨコナデが施される。3は斜方向のL撲糸文が施される。

4～9は壺の胴部片である。4は胴部上位で、上半部にナデ、下半部にLR繩文が施される。5～8は胴部中位である。5はR撲糸文が施され、上端にS字結節文が施される。6はRL繩文が施され、下端にナデが施される。7はLR繩文が施される。8は粗い斜方向のL撲糸文が施される。9は胴部上位である。上半にナデ、下半にR撲糸文が施される。

10は壺の口縁部である。広口で、折返し口縁である。折返し部にRL繩文が施され、下半部にナデが施される。11・12は壺の胴部片である。大型での壺で、ナデが施される。13は胴部の立ち上がりから壺底部と思われる。ヨコナデが施され、底面外部に木葉痕がある。

14は長胴の壺の底部である。全体にナデが施される。15は台付壺の台部である。ナデが施され、台部下端にRL繩文が施される。16～20は壺の底部である。16・17・20は小型である。16・19はL撲糸文が施される。他は、ナデが施される。

SI065 (第82図 図版55)

1は壺の口縁部である。素口縁で、直線的である。口縁からR撲糸文が施される。2～4は壺の胴部片である。2は丸みがあるので、小型と思われる。2は擦痕状のナデ、3にはR撲糸文、4にはL撲糸文が施される。

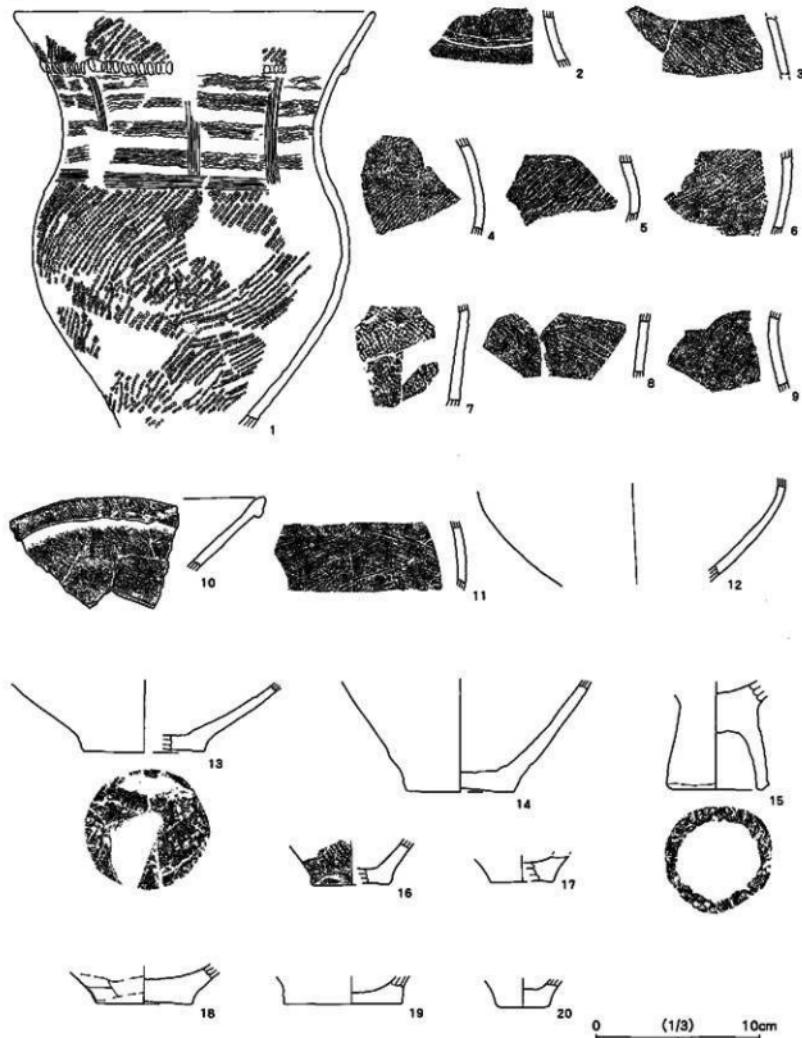
SI068 (第82図 図版55)

1は壺の口縁部である。素口縁で、口縁にL撲糸文の刻み目が施される。上からナデ、横方向の櫛描文、斜方向の撲糸文が施される。2・3は壺の胴部片である。2は上から櫛描文、S字結節文、斜方向のR撲糸文が施される。3は斜方向のL撲糸文が施される。

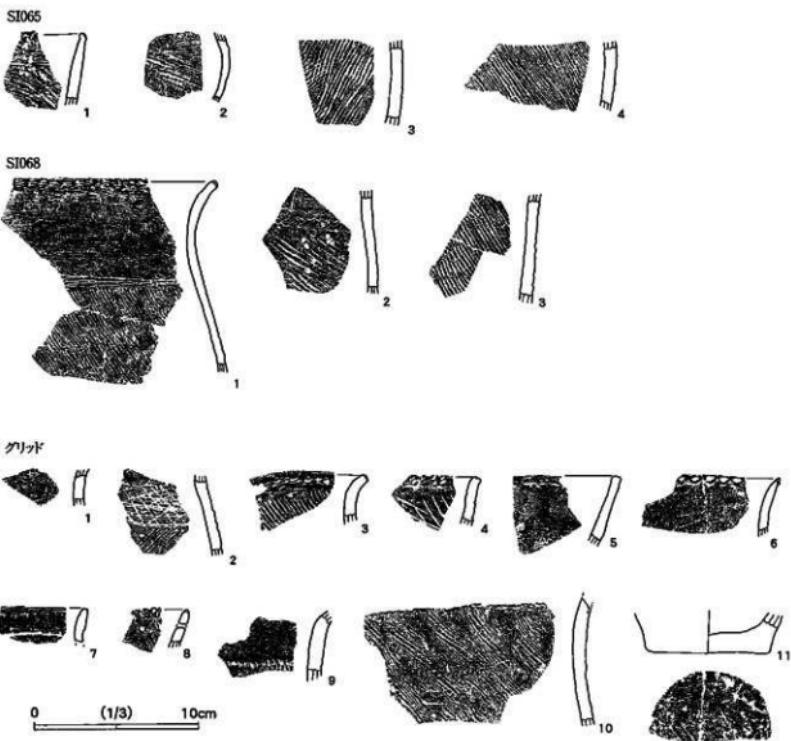
遺構外出土 (第82図 図版55)

1・2は壺の胴部片である。1は櫛描文が施される。横方向は波状文、縦方向は直線的である。2は上半に横方向の櫛描文の上から格子状の沈線文が施される。下半にはLR繩文が施される。

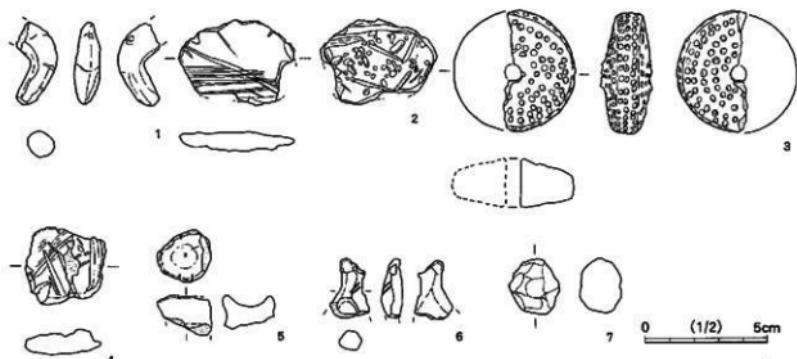
SI064



第81図 SI064出土土器



第82図 SI065・068およびグリッド出土土器



第83図 漢代土製品

3～9は壺の口縁部片である。3～6・8は素口縁である。3はL撚糸文が施され、口縁にL撚糸文原体の刻み目が施される。4は粗いL撚糸文が施され、口縁にL撚糸文原体の刻み目が施される。5はハケ目が施され、受け口状である。6はナデが施され、口縁に波状の押圧文が施される。7は折返し口縁である。ナデが施され、折返し部にもナデが施される。8はナデが施され、口縁に竹管による刻み目が施される。口縁下に焼成前の穿孔が2個、並んで施される。9は口縁を欠くが、素口縁と思われる。ナデが施され、下端に櫛描文が施される。10は壺の胴部片である。斜方向のR撚糸文が施される。11は底部である。ナデが施され、底面外部に木葉痕がある。

2 土製品（第83図 図版57）

1・2はSI048出土である。1は土製勾玉である。頭部端を欠く。く字状で、頭部と尾部との太さの差は小さい。手捏ね成形で、全体にナデが施される。2は土板と思われる。土器片の再利用ではなく、手捏ね成形である。成形は粗く、表面はナデが施され、背面は成型時の圧痕が残る。糊痕状の圧痕がみられる。3はSI049出土である。土製紡錘車である。厚手の円盤形で、器面全体に細竹管の刺突文が施される。断面は端部を切断したソロバン玉状である。4はSI061出土である。2と同様の土板である。糊痕状の圧痕はみられない。5はSK048出土である。ミニチュア土器の一部と思われる。ツマミ状で、中央がくぼむ。手捏ね成形である。6はSI064出土である。ミニチュア土器の一部と思われる。小さな把手状である。7はSK065出土である。成形から弥生時代土製品とした。土玉と思われ、橢円形の手捏ね成形である。

3 石製品（第84・85図 図版57・58）

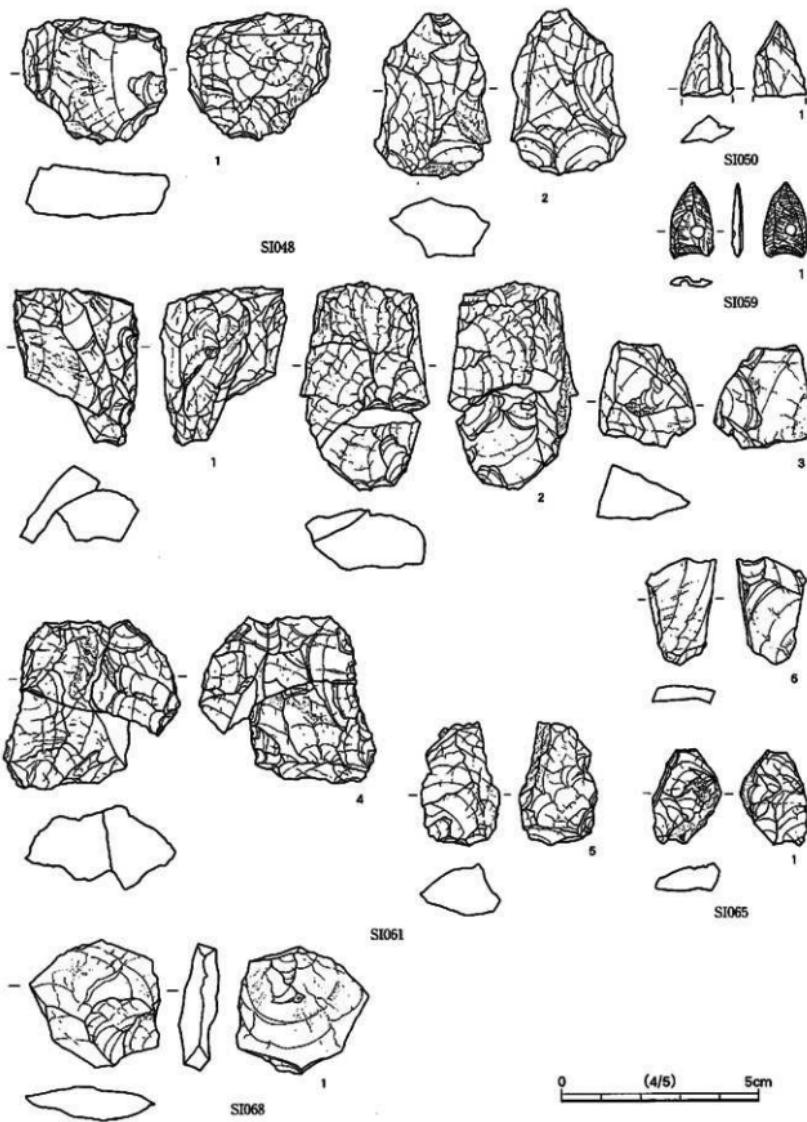
SI048の1・2、SI050の1、SI061の1～6、SI065の1、SI068の1はメノウ同石材である。石核（SI061-2・4）、剥片で、同一原石の可能性がある。石製品の原料と考えられる。

SI059の1は磨製石鎌である。無茎の小型で、基部の抉りはほとんど無く、五角形を呈する。断面は扁平な六角形である。面取り状の加工が施され、両面から穿孔されるが、各々貫通はしない。穿孔に失敗した可能性もある。

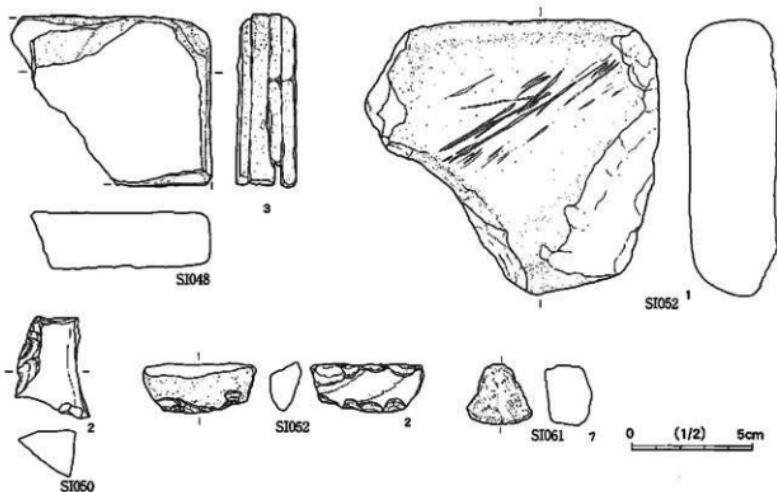
SI048の3は砥石片である。短錐形と思われる。節理で薄く剥離する。砂岩製である。SI052の1は砥石片である。刻み状の擦痕があり、刃部の研磨跡と考えられる。砂岩（銚子産）製である。SI050の1は砥石片である。凹字形と思われる。

SI052は石斧の刃部と考えられる。磨製石斧で、使用による剥離が観察される。

SI061の5は輕石である。浮子と考えられる。



第84図 弥生時代石製品（1）



第85図 弥生時代石製品（2）

第11表 弥生時代遺物観察表

()は復元値、[]は現存値を表す

遺物・ 種類 番号	器種	口径	底径	器高	遺存度	色調	胎土	焼成	特徴	遺物番号
SI048	1 瓢	(14.3)		40%		内 明褐色一部 外 黑褐色 暗褐色	細砂粒多	良 外 口縁部・脚部R熟系文 内 ナデ		51016.21
	2 突口縁部破片					内外 暗褐色	細砂粒や多	良 外 口縁部・脚部R熟系文 内 ナデ	折返し口縫 外 口縁 脚部折み目、折 返し下端 脚み目、折返し下 脚部折状 文 内 ナデ	6.7
	3 突脚部片					内 明褐色 外 黑褐色	細砂粒や多 赤色スコリア少	良 外 布雷波状文 内 ナデ		7
	4 突口縁部破片					内 明褐色 外 黑褐色	砂粒多	良 外 口縁部R熟系文環状の割み目・ヨコナデ し熟系文 内 ヨコナデ		7
	5 突口縁部破片					内 外 暗褐色 黑褐色	砂粒や多	良 外 口縁部R熟系文環状の割み目・R熟系文 内 ナデ		1
	6 纋跡	13.1	5.9	5.1	80%	内 外 暗褐色 黑褐色	砂粒や多 赤 色スコリア少	良 外 口縁部R熟系文環状の割み目・ナデ 内 ナデ 底部	外 口縁部R熟系文環状の割み目・ナデ 内 ナデ 底部	12.8.15
	7 突脚部破片	内 外 明褐色 暗褐色	細砂粒や多	良 外 R熟系文 内 ナデ			7			
	8 突脚部破片	内 外 明褐色 暗褐色	細砂粒や多 赤色スコリア少	良 外 R熟系文、スス付縁 内 ナデ			3			
	9 突底部	内 外 明褐色 暗褐色	砂粒 赤色スコ リア少	良 外 R熟系文 内 ナデ 突部外縁 木葉			2			
	10 突底部	内 外 暗褐色 黑褐色	砂粒や多	良 外 R熟系文・ナデ 内 ナデ 底部外縁 木葉			3			
SI049	1 突口縁部破片					内 外 明褐色 暗褐色	細砂粒多	良 外 口縁部R熟系文環状の割み目・ナデ		1
	2 突口縁部破片					内 外 暗褐色 黑褐色	砂粒多	良 折返し口縫 外 口縁部折返し下端 脚み 目 内 ナデ		2
	3 突脚部破片					内 外 明褐色 暗褐色	砂粒多	良 外 R熟系文 内 ナデ 突縫		12
	4 突底部					内 外 明褐色 暗褐色	砂粒多	良 外 R熟系文・ナデ 内 ナデ 突部外縁 木葉板		2.11E7.9-1
SI050	1 突口縁部片					内 外 明褐色 暗褐色	細砂粒や多 赤色スコリア少	良 外 口縁部R熟系文環状の割み目・ナデ 内 ナデ		1
	2 突脚部破片					内 外 暗褐色 黒褐色	細砂粒多	良 外 R熟系文 (タテ直線・ヨコ波状) ナ デ 内 ナデ		6
	3 突脚部破片					内 外 暗褐色 黒褐色	細砂粒多	良 外 R熟系文 内 ナデ		3
	4 突脚部破片					内 外 明褐色 暗褐色	砂粒多	良 外 R熟系文 内 ナデ		6
	5 突脚部破片					内 外 明褐色一部 暗褐色一部 黒褐色	細砂粒少 淡色 スコリア少	良 外 R熟系文 内 ナデ		39
	6 突底部					内 外 暗褐色 暗褐色	細砂粒や多 赤色スコリア少	良 外 ナデ 内 ナデ 底部外縁 ナデ 第二次焼成		6
	7 突底部					内 外 明褐色 暗褐色	砂粒少 淡色ス コリア少	良 外 ナデ 内 ナデ 底部外縁 ナデ		9
SI051	1 突脚部破片					内 外 明褐色 暗褐色	細砂粒や多	良 外 ナデ 横縫文 (ヨコ直線) -R熟系文 内 ナデ 2回側面と思われる		1
	2 突脚部破片					内 外 明褐色 暗褐色	細砂粒や多	良 外 R熟系文 内 ナデ 2回側面と思 われる		2
SI052	1 突口縁部破片					内 外 明褐色 黒褐色	細砂粒や多	良 折返し口縫 外 口縁および折返し下端 R熟系文環状の割み目、折返し下 ナデ 内 ヨコナデ (横波状)		7
	2 突口縁部破片					内 明褐色一部 暗褐色 外 明褐色	細砂粒や多	良 外 口縫 R熟系文環状の割み目 ナデ (横波状) 内 R熟系文 ナデ		1
	3 突脚部破片					内 外 明褐色一部 暗褐色 外 明褐色	砂粒や多	良 外 ナデ (横波状) R熟系文 内 ヨコ ナデ		2.11E-1
	4 突脚部破片					内 外 明褐色 暗褐色	細砂粒や多 赤色スコリア少	良 外 ナデ (横波状) R熟系文 内 ヨコ ナデ		3.15
	5 突脚部破片					内 外 明褐色 暗褐色	砂粒多	良 外 R熟系文 内 ナデ		1
	6 突脚部破片					内 黑褐色 外 黑褐色	細砂粒や多	良 外 ナデ 内 ナデ 底部附近		110
	7 突脚部破片					内 外 明褐色一部 暗褐色 外 明褐色一部 暗褐色	細砂粒や多	良 外 ナデ (横波状) 内 ナデ		18
	8 突底部					内 外 明褐色 暗褐色	粗砂粒多	良 外 ナデ 器面が変れて裏面不明瞭 内 ナデ 底部外縁 木葉		2.12.16
	9 突底部					内 外 暗褐色 黒褐色	砂粒や多	良 外 R熟系文 ヨコナデ 内 ナデ 底部 外縁 木葉		

遺構・ 構造番号	名 標	口径	底径	器高	遺存度	色 調	胎 土	焼成	特 徴	遺物番号
SI053	1 開口縁部 底膨大	15.7			70%	内 黄褐色—深灰 黑色 外 明褐色—部 灰褐色	細砂粒やや多 少	良 外 口縁 瓶状の押花文、肩部 ヨコナ デ・LR織文、ナデ 内 ヨコナデ・ナデ	1245678910 11121314151 61718192021	
	2 開口縁部	13.9			10%	内 外 明褐色 暗褐色	細砂粒少 少	良 外 口縁 及び名文、タテナデ 内 桜表 状ヨコナデ	2	
	3 变形部破片					内 外 明褐色 暗褐色	砂粒やや多 少	良 外 タテナデ 及び状文、交叉状ヘラ彫沈雕 文、ナデ 内 ナデ	2	
	4 变形部破片					内 外 明褐色 黒褐色	細砂粒少 少	良 外 RL織文、S字絞り文 スス付兼 内 ナデ	1	
	5 变形部破片					内 外 黒褐色 黒褐色	細砂粒多 赤色 スクリア少 少	良 外 ナデ・R熱糸文 内 ナデ	1	
	6 变形部破片					内 外 明褐色 暗褐色	砂粒やや多 少	良 外 ナデ・L熱糸文 内 ナデ	2	
	7 变形部破片					内 外 暗褐色 暗褐色	細砂粒やや多 少	良 外 ヨコ彫文・L熱糸文 内 ナデ	25	
	8 变形部破片					内 外 明褐色 淡明褐色	細砂粒やや多 少	良 外 ナデ・ヨコL熱糸文 内 ヨコナデ	1	
	9 变形部破片					内 外 暗褐色 褐色	砂粒やや多 赤色 スクリア少 少	良 外 L熱糸文 内 ナデ	123	
	10 变形部破片					内 外 明褐色—部 暗褐色 暗褐色	細砂粒やや多 少	良 外 L熱糸文 内 ナデ	14.27	
	11 变形部破片					内 外 灰褐色 灰褐色	細砂粒やや多 少	良 外 L熱糸文 内 ナデ 二次焼成	2	
	12 变底部	(8.1)			10%	内 岩褐色 赤褐色	砂粒多 赤色 コリニア少 少	良 外 L熱糸文・ナデ 内 ナデ 器面が 荒れて調節不明显 光沢外観 木麻痕 ナデ 二次焼成	3	
	13 变底部	(7.2)			30%	内 外 黄褐色 暗褐色	砂粒多 少	良 外 R熱糸文・ナデ 内 ナデ 器面が 荒れて調節不明显 底部外観 ハラ模 ナデ 二次焼成	224	
SI059	1 開口縁部破片					内 外 明褐色 暗褐色	砂粒多 少	良 押しし口縁 外 口縁・熱糸文脈体刻み 目・折返しヨコナデ・ナデ 内 ナデ	1.10C-1	
	2 变形部破片					内 外 明褐色 黒褐色	砂粒多 少	良 外 R熱糸文 内 ナデ	6	
	3 变形部破片					内 外 明褐色 暗褐色	細砂粒やや多 少	良 外 L熱糸文 内 ナデ	3	
	4 变底部破片					内 外 明褐色 暗褐色	砂粒少 赤色 コリニア少 少	良 外 L熱糸文・ナデ 内 ナデ	2	
SI060	1 開口縁部破片					内 外 褐色 暗褐色	細砂粒少 少	良 折返し口縁 外 口縁および折返し下端 折み目・ナデ 内 ヨコナデ	210C-1	
	2 变形部破片					内 外 明褐色 暗褐色	細砂粒やや多 少	良 外 口縁・熱糸文脈体刻み目・タテナデ・ L熱糸文 内 ヨコナデ	4	
SI061	3 ミニチュア瓶 口縁部破片				20%	内 外 明褐色 暗褐色—部 黒褐色	細砂粒少 少	良 折返し口縁 下端折み目・ ナデ 内 ナデ 手裡ね	1	
	1 变				10%	内 外 暗褐色 暗褐色	砂粒やや多 赤 色スクリア少 少	良 外 ヨコナデ・RL織文 器面刻離 内 ナデ 器面刻離 2と同個体	4.625	
	2 变底部	5.7				内 外 暗褐色 褐色	砂粒やや多 少	良 外 RL織文 内 ナデ 器面が荒れて調 節不明显 底部外観 木麻痕 上と同個體	6.23	
	3 非口縁部破片					内 外 灰褐色 灰褐色	細砂粒少 少	良 折返し口縁 外 折返し下端折み目・ ナデ 内 ナデ	6	
	4 非口縁部破片					内 外 灰褐色 明褐色	砂粒やや多 少	良 折返し口縁 外 折返し上端下端折み目・ ヨコナデ 内 ヨコナデ 内外器面刻離 二次焼成	1.6	
	5 近口縁部破片					内 外 暗褐色 暗褐色—部 黑褐色	細砂粒やや多 少	良 外 口縫線・ヨコナデ 内 ナデ		
	6 非口縁部破片					内 外 灰褐色 灰褐色	砂粒やや多 赤 色スクリア少 少	良 外 口縫線 内 ナデ 内 ナデ	6	
	7 变口縁部破片					内 外 灰褐色 暗褐色	砂粒やや多 少	良 外 ヨコナデ・ナデ 内 ナデ 内外 器面刻離 二次焼成	2	
	8 变口縁部破片					内 外 灰褐色—部 灰褐色—部 灰褐色	細砂粒少 少	良 外 ヘラ模文・複数個の押孔2ヶ並列	6	
	9 非口縁部破片					内 外 灰褐色 黒褐色—部 赤褐色	細砂粒少 少	良 外 ヨコナデ 内 ヨコナデ 器面が荒 れ調節不明显 二次焼成	2	
	10 变形部破片					内 外 灰褐色 褐色 灰褐色	細砂粒やや多 少	良 外 ナデ・S字縫跡文・LR織文 内 ナ デ 器面刻離 二次焼成	2.4.636	
	11 变形部破片					内 外 明褐色 灰褐色—部 明褐色	細砂粒多 少	良 外 タテ彫文 L熱糸文 内 ヨコナデ	1.6	
	12 高环体部片				10%	内 外 淡明褐色 淡明褐色	粗砂粒少 赤色 スクリア少 少	良 外 ナデ 内 ナデ 器面が荒れている ので調整不明显 二次焼成	1.6	
	13 变口縁部	(14.9)			10%	内 外 灰褐色 明褐色	細砂粒やや多 少	良 外 ヨコ縫合竹管の組み目・ヨコナデ	132	

遺構・ 番号	器種	口径	底深	器高	遺存度	色調	胎土	焼成	特徴		遺物番号
									外	内	
SI061	14 ミニチュア土器 台付壺		48		20%	内 明褐色 外 明褐色	細砂粒多	良	手捏ね成型 ナデ		15
	15 台付壺		(7.4)		10%	内 深褐色 外 深褐色	細砂粒多	良	外 ヘラケズリ・ナデ 内 ヨコナデ		45
	16 要底部		7.4		20%	内 明褐色 外 灰褐色	細砂粒やや多	良	外 R熟系文 内 ナデ 胎面剥離 底部外側 本窓板 二次焼成		623
	17 要底部		(6.1)		10%	内 灰褐色 外 深褐色	細砂粒やや多 赤色スコリア少	良	外 LR焼文 内 ナデ 底部外側 ナデ		27
	18 ミニチュア土器	3.7			30%	内 灰褐色 外 灰褐色	砂粒やや多	良	内外面ナデ		22
	19 ミニチュア土器 壺	2.9			30%	内 深褐色 外 明褐色	細砂粒少	良	内外面ナデ		8
	20 要底部		6.1		10%	内 黑褐色 外 赤褐色	細砂粒やや多	良	内外面ナデ		631.34
SI064	1 壺		22.0		60%	底膨大					
	2 鮫形部破片					内 明褐色 外 黒褐色	細砂粒やや多	良	折出し口縁 外 口縁R熟系文全体の剥み目 折出し下端剥み目・開撰文タテ直線ヨコ波状 R熟系文 内 ヨコナデ・ナデ	12.34.56.78.9.1 0.1.12.19.20.21. 24.25.26.27.30.3 1.34.35.36.37.38. 40.41	
	3 要底部破片					内 明褐色 外 深褐色	細砂粒多	良	外 R熟系文 内 ナデ		21.24
	4 要底部破片					内 黑褐色 外 灰褐色	細砂粒多	良	外 ナデ・LR焼文 内 ナデ		16
	5 要底部破片					内 明褐色 外 黑褐色	細砂粒多	良	外 S字横筋文・R熟系文 内 ナデ		21
	6 要底部破片					内 灰褐色 外 深褐色	細砂粒やや多	良	外 RL焼文・ナデ 内 ナデ		21
	7 要底部破片					内 明褐色 外 黑褐色	粗砂粒少・赤色 スコリア少	良	外 LR焼文・ナデ 内 ナデ		417.40
	8 要底部破片					内 灰褐色 外 深褐色	細砂粒多	良	外 LR熟系文・ナデ 内 ナデ		21.23
	9 要底部破片					内 明褐色 外 黑褐色	細砂粒やや多	良	外 ナデ・R熟系文 内 ナデ		22
	10 壺口部破片					内 灰褐色 外 黑褐色	細砂粒多	良	折出し口縁 外 折出しR熟系文・ナデ 内 ヨコナデ		21
	11 要底部破片					内 明褐色 外 底部黒化	細砂粒多	良	外 ナデ・ヨコナデ		21.22
	12 要底部破片					内 黑褐色 外 黑褐色	細砂粒多	良	外 ヨコナデ 内 ヨコナデ		22.40.42
	13 要底部	(7.4)		10%	中央膨大	内 底黒化 外 底黒化	砂粒やや多	良	外 ヨコナデ 胎面が焼れて調整不明瞭 内 ナデ 底部外側 木炭痕		21.24.11.C-1
	14 要底部	6.6		20%		内 明褐色 外 深褐色	細砂粒多	良	外 帆状状のナデ 内 ナデ 備要剥離 底部外側 ナデ		21
	15 台付壺	5.5		10%	台部の済溝	内 深褐色 外 明褐色	細砂粒多	良	外 ナデ 内 ナデ 台部下端 RL焼文		39
SI065	16 要底部	(4.7)		10%		内 底黒化 外 底黒化	細砂粒やや多	良	外 L熟系文・ヨコナデ 内 ナデ 底部外側 ナデ		22
	17 小型要底部	(3.9)		10%		内 深褐色 外 深褐色	細砂粒やや多	良	外 ヨコナデ 内 ナデ 底部外側 ナデ		21
	18 要底部	4.9		10%		内 深褐色 外 深褐色	細砂粒多	良	外 ナデ 内 ナデ 胎面が焼れている 底部外側 ナデ 二次焼成		18
	19 要底部	5.1		10%		内 赤褐色 外 赤褐色	細砂粒多	良	外 R熟系文・ナデ 内 ナデ 底部外側 ナデ		22
	20 ミニチュア土器 要底部	2.8		20%		内 深褐色 外 深褐色	細砂粒やや多	良	外 ナデ 内 ナデ 底部外側 ナデ		22
SI066	1 壺口部破片					内 深褐色 外 深褐色	細砂粒少	良	外 口縁R熟系文 R熟系文 内 ナデ		1
	2 要底部破片					内 深褐色 外 黑褐色	細砂粒少	良	外 脊状状ナデ 内 ナデ		1
	3 要底部破片					内 深褐色 外 黑褐色	砂粒やや多	良	外 R熟系文 内 脊状状ナデ		3
	4 要底部破片					内 深褐色 外 深褐色	砂粒やや多	良	外 L熟系文 内 脊状状ナデ		6
SI068	1 壺口部破片					内 深褐色 外 明褐色一 暗褐色	砂粒やや多	良	外 口縁R熟系文全体の剥み目・ヨコナデ・ヨコ横筋文・L熟系文・スヌ付着 内 ヨコナデ・ナデ		34
	2 要底部破片					内 底黒化 外 明褐色	細砂粒多	良	外 脊状文ヨコ横筋状ナデ R熟系文 内 胎面が焼けている 内 ナデ		1
	3 要底部破片					内 底黒化 外 深褐色	細砂粒多	良	外 L熟系文 内 ナデ		28

遺物番号	種類	器種	口径	底径	高さ	蓋	造形度	色調	胎土	焼成	特徴	遺物番号
グリッド 11B	1	更原部破片					内 明褐色 外 明褐色	細砂粒多	良	外 横擦文ヨコ状タテ直擦6本 器表が 荒れている 内 ナゲ	11B-1	
グリッド 11C	2	更原部破片					内 明褐色 外 褐褐色	細砂粒多	良	外 グ子状凸輪文+ヨコ横擦波状文 LR 周文 内 ナゲ 面が荒れ、開窓不明瞭	11C-1	
グリッド 12D14	3	更原部破片					内 黒褐色 外 黒褐色	細砂粒やや多 赤色・白色スコ リア少	良	外 口縁L系文軸体の削み目・L直系文 ス付有 内 ヨコナゲ	12D14-1	
グリッド 11E9	4	更原部破片					内 深褐色 外 深褐色	細砂粒少	良	外 口縁L系文軸体の削み目・薄いL擦 赤文 内 ヨコナゲ	11E9-6	
グリッド 11C	5	更原部破片					内 明褐色 外 褐褐色	砂粒少・赤色 コアリ少	良	外 ハケ目・ヨコナゲ 内 ヨコナゲ	11C-1	
グリッド 10C	6	更原部破片					内 明褐色 外 暗褐色	細砂粒やや多	良	外 口縁波状押正文・ナゲ 内 ナゲ	10C-1	
グリッド 11E9	7	更原部破片					内 明褐色一部 深黑色 褐褐色	細砂粒やや多	良	折落し口端 外 口縁L系文・折落し部 ナゲ 内 ヨコナゲ	11E9-5	
グリッド 11C	8	更原部破片					内 深褐色 外 深褐色	細砂粒やや多	良	外 口縁L系文の削み目 ナゲ 内 ナゲ 口縁下に洗痕前の穴孔2ヶ所並列	11C-1	
グリッド 11E	9	更原部破片					内 深褐色 外 深褐色一部	細砂粒多・赤色 スコアリ少	良	口縁外 ナゲ 刮り状擦損文 内 ナゲ	11E-1	
グリッド 12E	10	更原部破片					内 深褐色 外 明褐色	細砂粒多・赤色 スコアリ少	良	外 R直系文 内 ヨコナゲ	12E-1	
グリッド 11E	11	更原部					内 明褐色 外 明褐色	細砂粒多	良	外 ナゲ 内 ナゲ 部分表面 木素灰	11E-1	

第12表 弥生時代土製品観察表

図	No.	種類	時期	注記	縦大(㎝)	横大(㎝)	横大厚(㎝)	重量(g)	造形度	色調	胎土	備考
83	1	土偶勾玉	後期	048-14	3.4	1.25	1.05	4.22	頭部缺欠	に bei 黄褐色	細砂粒多	
	2	土板	後期	048-5	4.75	3.45	0.80	11.34	90%	黒褐色	砂粒や多	手揉ね、沈殿、粗氣
3		上腹羽垂革	後期	049-5	4.95	2.35	2.00	23.27	50%	に bei 黄褐色	細砂粒・ 黒色粒少	全面に竹筋の刺突文
4		土板	後期	061-4	3.20	3.15	0.95	9.35	90%	黒褐色	細砂粒少	手揉ね、沈殿
5		手埋土器片	後期	046-21						砂片	細砂粒少	ミニチュア土器の一 部と思われる。
6		手埋土器片	後期	064-27						砂片	細砂粒少	ミニチュア土器の一 部と思われる。
7		玉	後期	065-2	2.25	2.00	1.62	7.57	完形	橙色	細砂粒少	手揉ね

第13表 弥生時代石製品観察表

図	遺物名	種類	注記	石材	縦大長(㎝)	横大長(㎝)	横大厚(㎝)	重量(g)	造形度	備考	
84	SI048	1	剥片	メノウ	048-18	3.27	3.68	1.45	19.70	完形	
	SI048	2	剥片	メノウ	048-12	4.28	3.94	1.50	18.50	完形	原石面残
SI050	1	剥片	メノウ	050-5	1.94	1.34	0.68	1.20	尾部欠		
	SI059	1	磨製石斧	粘板岩	059-9	1.91	1.13	0.23	0.61	完形	前面六角形に成形、肩側から穿孔 するが通達しない。失敗か
SI061	1	剥片	メノウ	061-11・20	4.08	3.20	2.07	21.60	完形	複合剥片	
		2	石核	メノウ	061-16・ 17・21	5.35	3.30	1.70	29.00		複合剥片、原石面残
	3	剥片	メノウ	061-26	2.70	2.46	1.90	9.10	完形		
4		石核	メノウ	061-9・10	4.32	4.50	2.20	38.10		接合資料、原石面残	
5		剥片	メノウ	061-19	3.14	2.0	1.45	8.40	完形		
6		剥片	メノウ	061-7	2.73	1.80	0.46	2.10	完形		
SI065	1	剥片	メノウ	065-5	2.45	1.72	0.71	2.80	完形	原石面残	
	SI068	1	剥片	メノウ	068-5	3.24	3.37	0.95	4.90	完形	
85	SI048	3	研石	砂岩	064-4	3.49	7.20	2.52	198.00	30%	鉛錠で鉛状に倒錠、散逸
	SI052	1	研石	砂岩	052-6	11.47	12.20	4.41	750.00	50%	研子砂岩
SI060	1	研石	砂岩	050-11	4.22	3.10	1.96	21.60	20%		
	SI052	2	麻製石斧	砂岩	052-5	2.06	4.73	1.37	15.05	10%	石斧の刃部と思われる
	SI061	7	鞋石	砂岩	061-	4.12	3.10	1.95	21.60	30%	浮子と見われる

※石材の同定は柴田 敏氏による

第5章 古墳時代

第1節 遺構

検出した遺構は竪穴住居跡1棟で、遺跡調査区の南部西側に分布する。

1. 竪穴住居跡

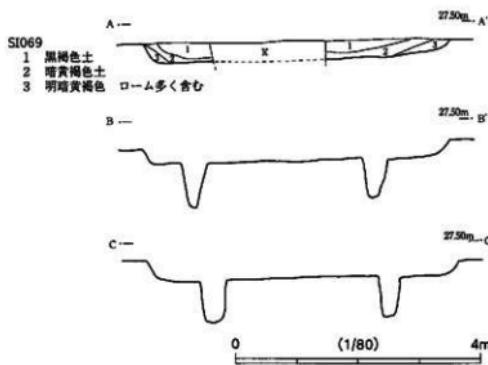
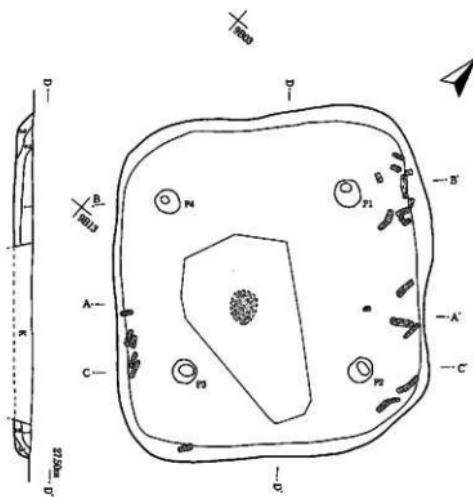
SI069 (第86図 図版16)

調査区中央南端部の西側に位置し、主要グリッドは9B-03・04である。標高は約27mである。中央に大きな擾乱があるが、平面形は縦長の隅丸方形で、規模は5.56m×5.26mやや大形である。検出面からの深さは18cm～46cm、床面積は23.43m²である。長軸の方位はN-42°-Wである。壁付近から炭化材が多く出土している。

床面は平坦で、特に硬化した部分はない。壁溝はない。主柱穴は4か所検出した。平面形はP1・P2が椭円形、P3・P4が円形である。規模は、P1が48cm×43cm、深さは66cmである。P2は、42cm×37cm、深さは64cmである。P3は、径38cm、深さは68cmである。P4は、径39cm、深さは73cmである。

炉は擾乱のためほとんど消滅しているが、床面中央やや北西寄りにある。規模は不明である。

覆土は黒色土主体のレンズ状で、自然堆積である。遺物は出土しなかったが、住居の形状、規模、覆土の状況から古墳時代前期の住居跡とした。



第86図 SI069

第6章 奈良・平安時代

第1節 遺構

検出した遺構は、堅穴住居跡5棟、土壙墓2基である。

1 堅穴住居跡

遺跡調査区中央部東側、南東に突出した小舌状台地平坦面3棟、南端部斜面際に2棟が分布する。

SI012 (第87図 図版16)

調査区中央部東側、南東に突出した小舌状台地上の平坦面に位置する。主要グリッドは7H-88、標高約26mである。

平面形は隅丸正方形で、規模は一辺2.40m、検出面からの深さは27cm～35cmである。床面積は3.55m²である。カマドは北西壁中央に検出され、カマドを中心とした住居の方位はN-69°-Wである。主柱穴、壁溝、出入口ピットは検出されなかった。床面は平坦である。硬化面は検出されなかった。

カマドは長さ77cm(火床部を含む)、幅76cmである。壁の掘り込みは丸みのある三角形で、30cm、幅46cmである。袖は、右側が長さ40cm、幅26cm、左側が長さ47cm、幅23cmである。火床部の掘り込みは3cmである。煙道部の傾斜角度は約40度である。

覆土はレンズ状堆積で、自然堆積と考えられる。住居の北隅および南角に焼土、炭化材の堆積が検出された。

遺物は床面およびカマド内から出土している。

出土土器から平安時代の住居と考えられる。

SI013 (第88図 図版16・17)

調査区中央部東側、南東に突出した小舌状台地上の平坦面に位置する。主要グリッドは7H-63・64、標高約26mである。

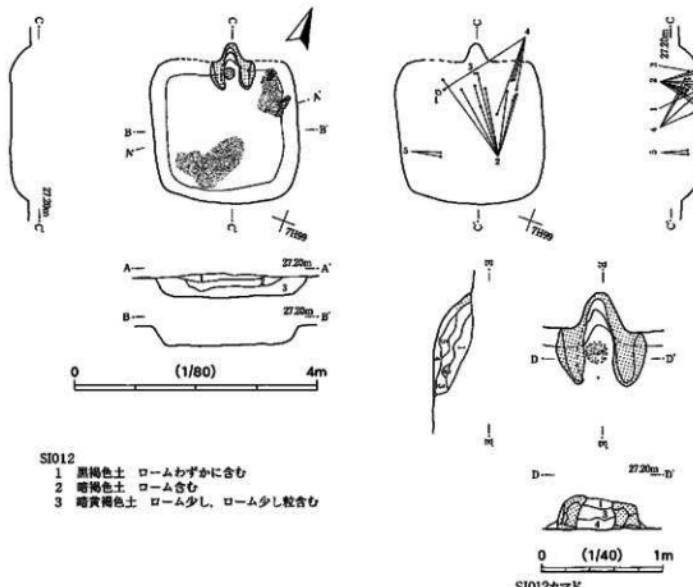
平面形は縦長の隅丸方形で、規模は3.31m×2.98m、検出面からの深さは55cm～77cmである。床面積は7.55m²である。カマドは北西壁中央に検出され、カマドを中心とした住居の方位はN-22.5°-Wである。主柱穴、出入口ピットは検出されなかった。壁溝が検出され、カマド部分および南東角、南北隅、南壁下中央を除いて全周する。幅23cm～31cm、深さ5cm～10cmである。床面はやや凹凸がある。硬化面が床面中央から南にかけて検出されたが、あまり硬化していない。床面中央やカマド寄りに小ピットが検出された。精円形で、26cm×22cm、深さ43cmである。

カマドは袖が極端に短いものである。長さ88cm(火床部を含む)、幅88cmである。壁の掘り込みは三角形で、57cm、幅101cmである。袖は、右側が長さ27cm、幅31cm、左側が長さ30cm、幅29cmである。火床部の掘り込みはほとんど無い。煙道部の傾斜角度は約60度である。

覆土はレンズ状堆積で、自然堆積と考えられる。

遺物は完形品、大形の破片が多く、杯4点が2点(1・2、3・4)ずつ、重なって出土した。

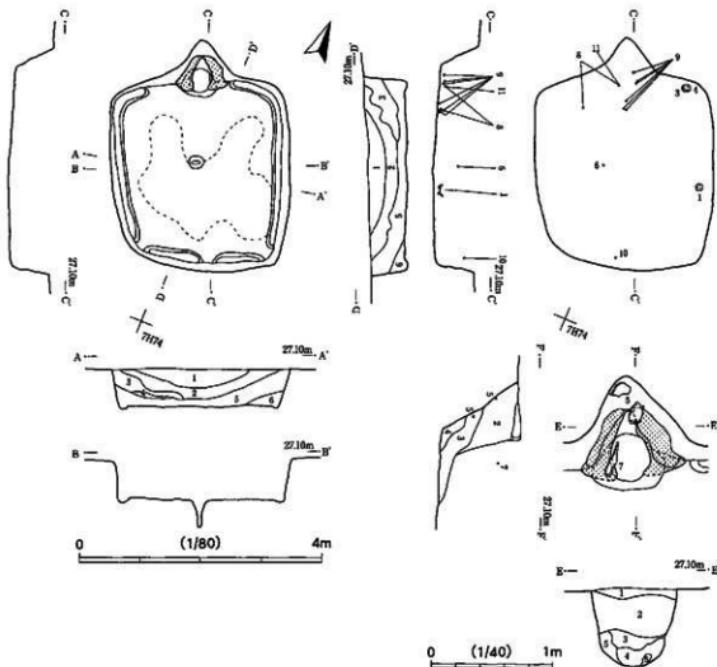
出土土器から8世紀中頃と考えられる。



- SI012
 1 黒褐色土 ロームわずかに含む
 2 暗褐色土 ローム含む
 3 喀賞褐色土 ローム少し、ローム少し粒含む

- SI012カマド
 1 喀赤褐色土、暗褐色土、ローム・山砂・焼土含む
 2 赤褐色土 焼土、暗褐色土含む
 3 喀賞褐色土、暗褐色土、山砂・ローム、少量の炭化粒含む。
 4 喀賞赤褐色土、暗褐色土、山砂・焼土粒含む
 5 喀赤褐色土、暗褐色土、被熱山砂含む

第87図 SI012



SI013

- 1 黒褐色土 ロームわずかに含む
- 2 暗褐色土 ローム少し含む
- 3 灰青褐色土 ローム多く含む
- 4 暗褐色土 黒色土。ロームやや少し含む
- 5 暗褐色土 ローム少し含む、ローム混わざりに含む
- 6 暗青褐色土 黒色土多く含む

SI013カマツ

- 1 暗褐色土 ローム粒を含む
- 2 暗青褐色土 やや多量のローム粒を含む
- 3 灰褐色土 山野多く、暗褐色土少し含む。
- 4 灰赤褐色土 山野、池土、暗褐色土少し・ローム粒・塊・炭化粒を含む
- 5 暗褐色土 ローム多く含む

E—
E—
E—



第88図 SI013

SI014 (第89図 図版17)

調査区中央部東側、南東に突出した小舌状台地上の平坦面に位置する。主要グリッドは7H-24・34、標高約26mである。

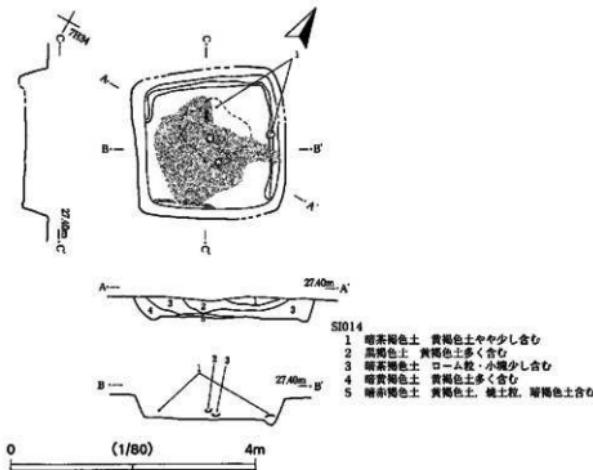
平面形は隅丸正方形で、規模は一辺2.54m、検出面からの深さは35cm～41cmである。床面積は4.48m²である。主軸方位はN-30°-Wである。小型の住居である。

カマド、主柱穴、出入口ピットは検出されなかった。整溝が検出された。南東壁下北半分および南西壁下南2/3のほかは、全周する。幅27cm～36cm、深さ4cm～10cmである。床面は平坦で、中央付近に硬化面が検出された。

覆土はレンズ状堆積で、自然堆積と考えられる。床面に焼土・炭化物が堆積していた。焼土はあくまで堆積土であり、覆土の最下層を占めるものである。

遺物は床面から、土師器杯（1）が出土している。須恵器杯（2・3）は新治産である。

出土土器から8世紀中頃と考えられる。



第89図 SI014

SI062 (第90図 図版17)

調査区南端部中央斜面際に位置する。主要グリッドは11B-75・76、標高約24.5mである。

平面形はやや不整な隅丸正方形で、北側壁が擾乱を受けている。規模は、一辺2.71m、検出面からの深さは21cm~57cmである。床面積は6.04m²である。カマドは西壁中央に検出され、カマドを中心とした住居の方位はN-70°-Wである。主柱穴は検出されなかった。壁溝および出入口ピットが検出された。壁溝はカマド部分を除いて全周する。幅11cm~24cm、深さ4cm~7cmである。出入口ピットは西壁下中央に検出された。円形で、径21cm、深さ18cmである。床面は平坦で、硬化面は検出されなかった。

カマドは、長さ88cm(火床部を含む)、幅120cmである。壁の掘り込みは三角形で、51cm、幅120cmである。袖は、右側が長さ31cm、幅22cm、左側が長さ37cm、幅28cmである。火床部の掘り込みは5cm、煙道部の傾斜角度は約55.5度である。

覆土はレンズ状堆積で、自然堆積と考えられる。

遺物は床面南東角から、土師器杯(2)、鉄器(9)が出土し、カマド内から土師器壺(6)が出土している。

SI063 (第90図 図版18)

調査区南端部中央部斜面際に位置する。主要グリッドは11B-54、標高約26.2mである。

小型の住居で、平面形は横長の隅丸方形である。規模は1.84m×2.24m、検出面からの深さは15cm~34cmである。床面積は3.34m²である。カマドは北壁中央に検出され、カマドを中心とした住居の方位はN-14.5°-Eである。主柱穴、壁溝、出入口ピットは検出されなかった。

カマドは袖が極端に短いものである。長さ66cm(火床部を含む)、幅95cmである。壁の掘り込みは三角形で、34cm、幅95cmである。袖は、右側が長さ27cm、幅40cm、左側が長さ32cm、幅33cmである。火床部の掘り込みはほとんど無い。煙道部の傾斜角度は約30度である。

覆土はレンズ状堆積で、自然堆積と考えられる。床面に焼土・炭化材の堆積が検出された。

遺物は、北東隅床面から土師器杯(1)および須恵器壺転用硯(4)、南西隅から鉄鎌(5)が出土している。

土師器杯には口縁部に意図的な割れ口3箇所あり、均等割り付けされている。東海産須恵器壺(2~4)は大破片化して、胴部が4分割ほどである。うち1点(3)は胴部に意図的割れ口がある。

出土土器から8世紀後半と考えられる。

2 土塚墓

土塚墓は2基検出された。遺跡調査区中央部東側、南東に突出した小舌状台地平坦面に位置する。

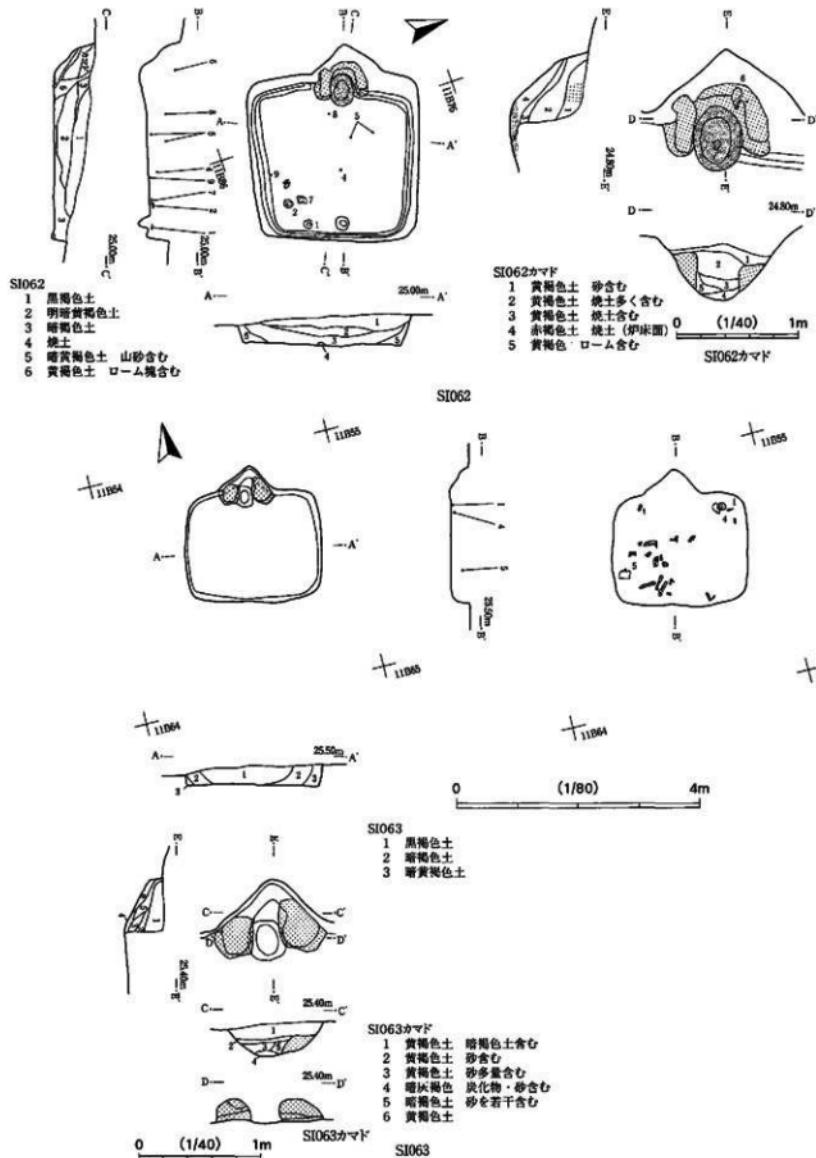
SK011 (第91図 図版18)

主なグリッドは7H-89である。標高は約26mである。

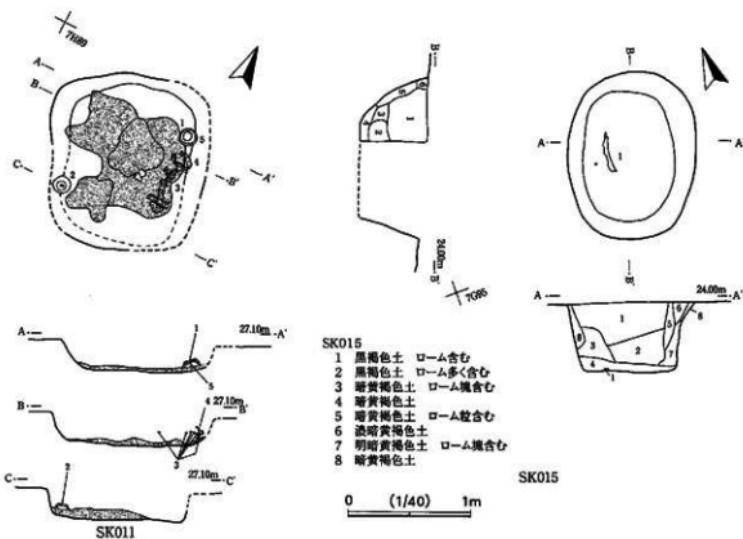
平面形は隅丸長方形で、規模は1.45m×1.27m、検出面からの深さは26cmである。長軸の方位はN-23°-Wである。

内部施設はない。底面は平坦で、底面規模は132cm×98cmである。底面全体に焼土が堆積し、東壁下に炭化材が検出されたが、床面に強い被熱跡は検出されなかった。

覆土は黒褐色土主体の、レンズ状堆積で、埋め戻し土状ではないと思われる。覆土下層から底面にか



第90図 SI062・063



第91図 SK011・015

けて、焼土・小炭化材を多く含む土層あり。但し底面に硬化面もなく、特に著しく焼けた状態ではない。遺構内で火を使った痕跡は認められない。

遺物は底面から完形の土師器杯3点、および完形の須恵器杯が1点出土している。須恵器・土師器杯類は、床面上の焼土・小炭化材を含む覆土の直上から出土している。伏せてあつたり、伏せて重ねてあつたり、横位に重なって出土し、焼土・小炭化材と密接かつ直接的な関係があると考えられる。

以上から、火葬遺体を埋葬した土壙墓と考えられる。8世紀後半と考えられる。

SK015 (第91図 図版18)

主なグリッドは7G-85である。標高は約24mである

平面形は楕円形に近い長方形で、規模は1.38m×1.06m、検出面からの深さは56cmである。長軸の方位はN-23°-Eである。

内部施設はない。底面は平坦である。

出土遺物鉄製小型直刀1振りのみで、土器が伴わない。厳密な時期は現段階では確定できない。おそらく土壙墓の副葬品と考えられる。整った隅丸方形プラン。振り方もしっかり振り込まれ、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

壁際のセクションが直立気味に立ち上がる傾向がある。図面の注記等には記載がないが、墓坑の振り方を握って、木櫃等の外容器を納めた後、土坑振り方脇を簡単な裏込めをして埋め戻しているようである。

セクションでは断片的にしか見られないが、調査時の写真を見ると、裏込めと思しき部分にはロームブロックを混ぜて埋め戻しているのも観察できる。

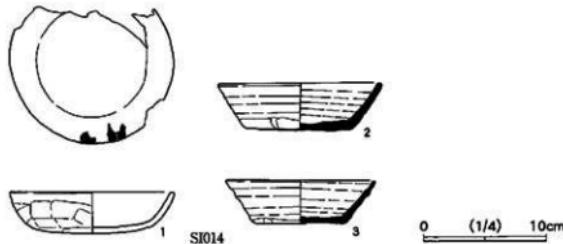
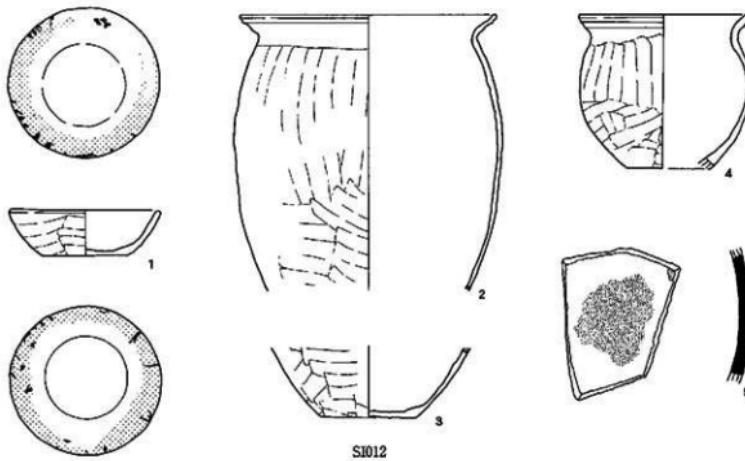
第2節 遺物 (第14表)

1 遺構出土遺物

出土遺物は土師器、須恵器、鉄製品である。法量等は表に記載したので、ここでは器形の特徴について述べる。

SI012 (第92図 図版59)

1は土師器非ロクロ杯である。平底で、中央と周縁部がやや厚くなる。体部は内彎して、開いて立ち上



第92図 SI012・014出土遺物

がり、ゆるやかに内彎して口縁に至る。口縁は丸い。体部に横方向のヘラケズリが施される。口縁部内外面にススが付着し、灯明具として使用されたと考えられる。2は土師器壺である。胴部は梢円形で、やや長胴である。口縁部が短く、「く」字状に開き、口縁に至る。口縁は、つまみ出されたように短く開き、受け口状である。全体に器厚は薄い。口縁部にヨコナデ、胴部上位から中位は縦方向のヘラケズリ、下位には横方向のヘラケズリが施される。3は甕の胴部下位から底部である。接合はしないが、2と同型と思われる。平底で、器厚は薄い。胴部に横方向のヘラケズリが施される。4は小型壺である。底部を欠く。胴部はやや縦長の球形である。口縁部は短く外反し、口縁は、つまみ出されたように短く開き、受け口状である。口縁部にヨコナデ、胴部上位から中位は縦方向のヘラケズリ、下位には横方向のヘラケズリが施される。5は須恵器壺の胴部片である。内面の中央部が磨耗しているので（スクリーントーンの部分）、転用硯と考えられる。

SI013 (第93図 図版59~61)

1は土師器高台付杯である。ロクロ成形である。高台が「ハ」字状に、短く聞く。体部は内彎して開き、直線的に口縁に至る。口縁は小さく外反する。内面口縁部および体部下部の一部にススが付着し、灯明具として使用されたと考えられる。底部外面に墨書「中」が施される。2はロクロ土師器杯である。平底で、体部は内彎して開き、直線的に口縁に至る。口縁はごく小さく外反する。体部下端に回転ヘラケズリが施される。底部外面周縁部に墨書「福」が施される。3は須恵器杯である。平底で、体部が外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁は小さく外反する。体部下端に手持ちヘラケズリが施される。内面全体にススが付着し、特に口縁部には底部に向かって線状に濃く付着する。灯明具として使用されたと考えられ、使用頻度が高かったと思われる。4は須恵器杯である。3とほぼ同型であるが、底部にやや丸みがある。体部下端に手持ちヘラケズリが施される。底部外面に織刻「×」、体部外面に墨書「得」が横位に施される。

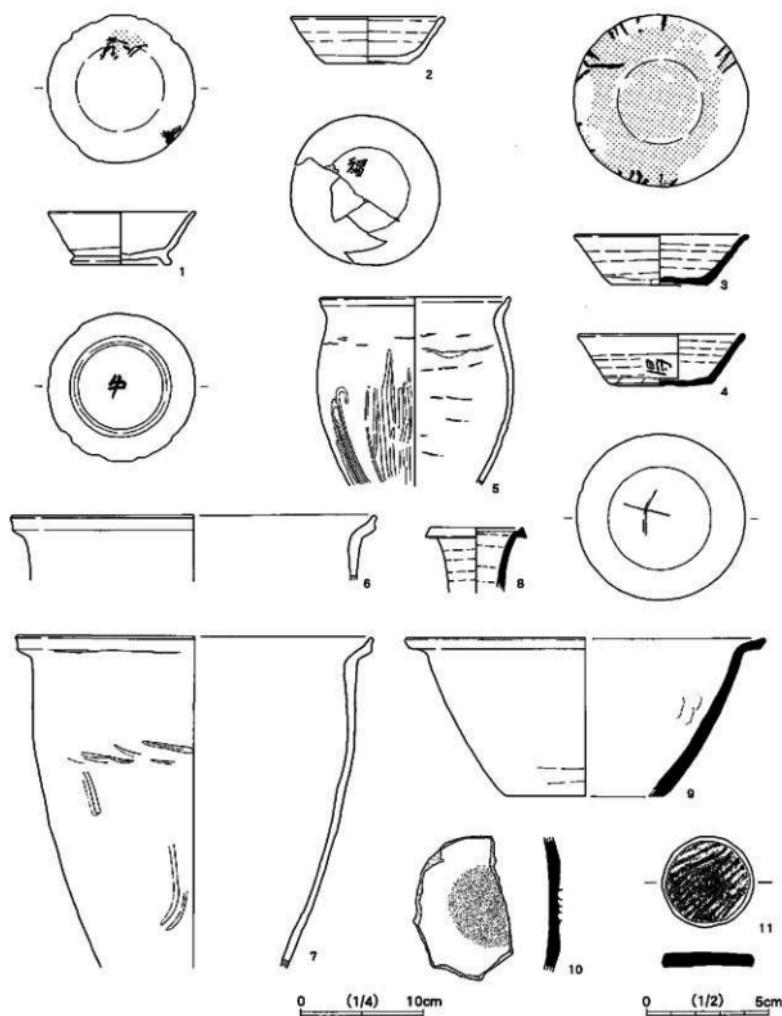
5~7は土師器壺である。5は小型で、底部を欠く。胴部はやや長胴で、口縁部との境のしまりは弱い。口縁部は短く、「く」字状に開き、口縁に至る。口縁は、つまみ出されたように短く立ち上がり、受け口状である。口縁部にヨコナデが施される。胴部上半にはナデが施され、線状の調整痕がみられる。中位から下位には縦方向のヘラナデが施される。内面はヨコナデが施され、輪積み痕が残る。6・7はほぼ同型で、形状から壺の可能性がある。胴部はやや長胴で、口縁部との境のしまりは無い。口縁部は短く外反し、口縁が小さく立ち上がり、受け口状である。口縁部にヨコナデ、胴部上半にはナデ、中位から下位にはヘラナデが施される。

8は須恵器長頸壺口縁部から頸部である。口縁部が短く外反し、縁帯状の口縁をもつ。9は須恵器鉢である。底部を欠く。背が低いバケツ状で、口縁部が強く外反し、口縁は、つまみ出されたように短く広がり、受け口状である。

10は須恵器蓋片である。ツマミ部を欠き、内面に磨耗がみられるので、転用硯と思われる。11は須恵器円板である。叩き目のある壺の胴部片を使用している。

SI014 (第92図 図版60)

1は土師器非ロクロ杯である。やや丸底である。体部は内彎して、開いて立ち上がり、ゆるやかに内彎して口縁に至る。口縁は丸い。口縁部にヨコナデ、体部に横方向のヘラケズリが施される。口縁部内面に



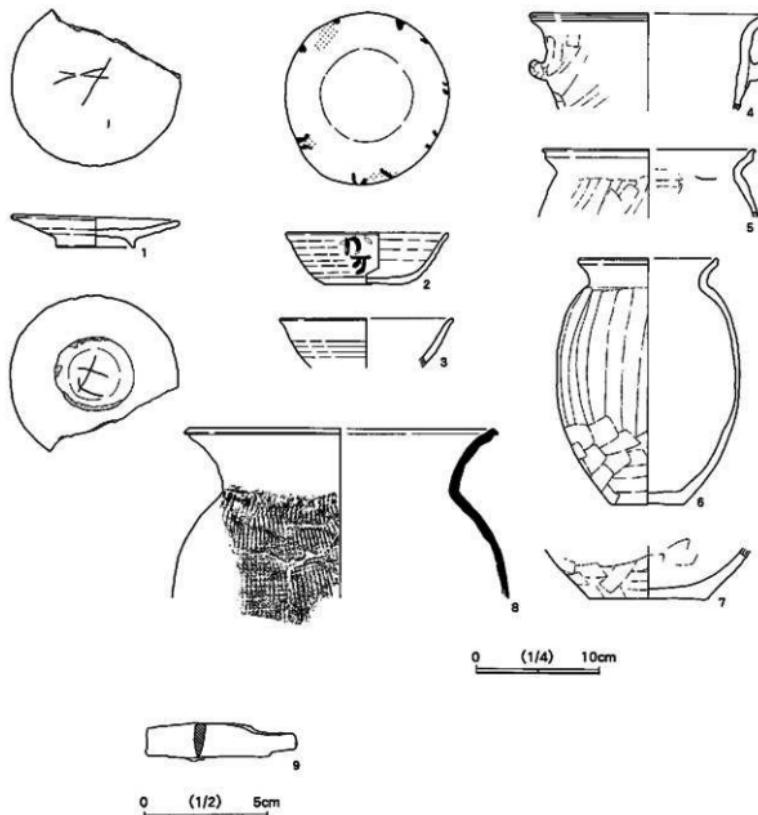
第93図 SI013出土遺物

スヌが付着し、灯明具として使用されたと考えられる。

2・3は須恵器杯である。ほぼ同型である。平底で、体部が外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁は、2が丸く、3がやや尖っている。体部下端に手持ちヘラケズリが施される。

SI062 (第94図 図版60~62)

1は土師器高台付皿である。ロクロ成形である。断面三角形の小さな高台が付く。体部は直線的に大きく開き、口縁部に至る。こうえんはわずかに外反する。底部内外面に線刻が施される。文字かどうかは不明である。2はロクロ土師器杯である。平底で、体部は内彎して開き、緩やかに内彎して口縁に至る。口縁はごく小さく外反する。体部下端に回転ヘラケズリが施される。体部外面に墨書「加?万」が正位で施



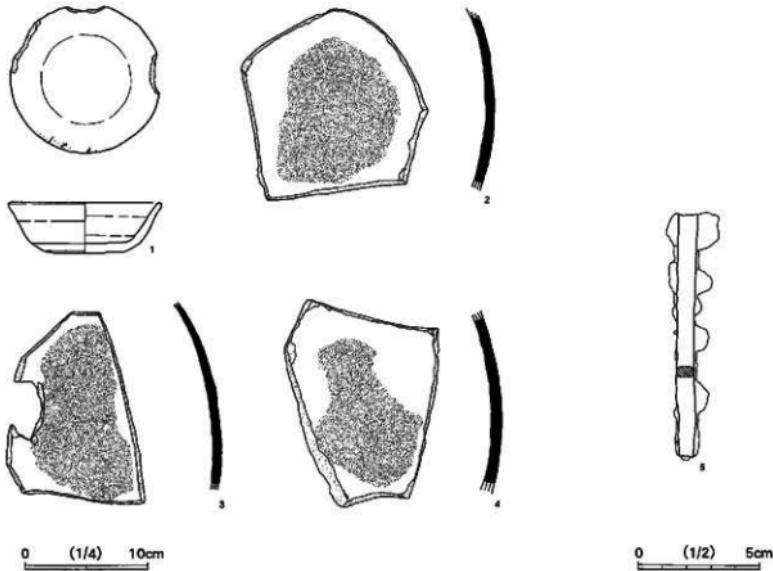
第94図 SI062出土遺物

される。口縁内面にスジが斑点状に付着し、灯芯跡と考えられるので、灯明具と考えられる。3はロクロ土師器杯である。底部を欠く2とはほぼ同型であるが、口縁の外反が明瞭である。

4は土師器瓶である。下半部を欠く。丸みのない長胴と思われる。口縁部との境のしまりは無い。口縁部は短く外反し、口縁が小さく立ち上がり、受け口状である。把手をもつ。口縁部にヨコナデ、胴部にヘラケズリが施される。5は土師器甕である。口縁部から胴部上位で、口縁部は短く、「く」字状に開き、口縁に至る。口縁は、つまみ出されたように短く外反し、受け口状である。口縁部にヨコナデが施され、胴部にヘラケズリが施される。6は土師器甕である。平底で、胴部はやや長胴の楕円形で、口縁部との境に棱をもつ。口縁部は短く外反し、口縁が小さく立ち上がり、受け口状である。口縁部にヨコナデ、胴部上位から中位に縦方向のヘラケズリ、下位に横方向のヘラケズリが施される。7は土師器甕の胴部下部から底部である。平底で、胴部は大きく開いて立ち上がる。大型の甕と思われる。胴部に横方向のヘラケズリが施される。8は須恵器甕である。口縁部から胴部上半である。胴部は丸みがあり、ほぼ球形と思われる。口縁部は外反して立ち上がり、大きく開いて口縁に至る。口縁は、つまみ出されたように短く外反し、受け口状である。9は鉄器の刀子である。刃部先端および茎部端を欠く。両闘である。

SI063 (第95図 図版61・62)

1はロクロ土師器杯である。平底で、体部は内彎して開き、緩やかに内彎して口縁に至る。口縁はごく小さく外反する。体部下端に回転ヘラケズリが施される。口縁の3か所に半円形の意図的な打ち欠きが施



第95図 SI063出土遺物

される。また、ススが付着しているので、灯明具と考えられる。

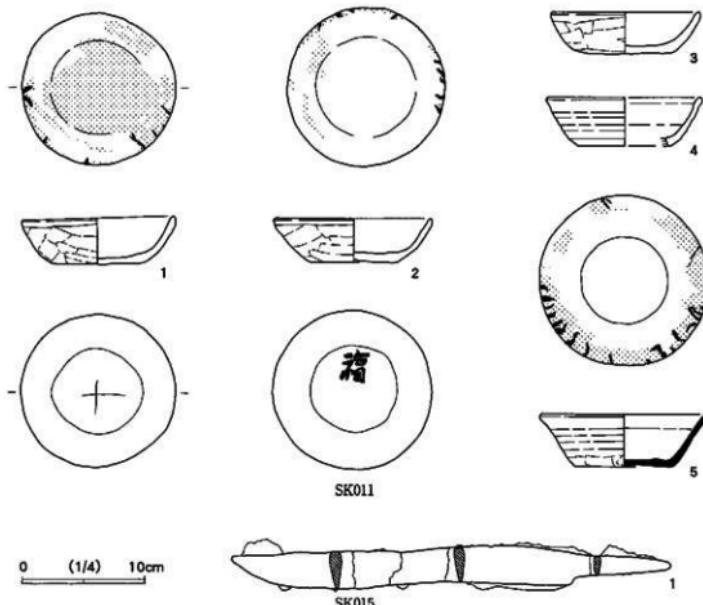
2～4は須恵器胴部片である。内面に磨耗があり、転用視と思われる。3個ともほぼ同じ大きさで、同時に作られた可能性がある。

2 土壙墓

出土遺物は土師器、須恵器、鉄製品である。法量等は表に記載したので、ここでは器形の特徴について述べる。

SK011（第96図 図版62）

1～3は土師器非ロクロ杯である。ほぼ同型である。平底で、体部は内彎して、開いて立ち上がり、ゆるやかに内彎して口縁に至る。口縁は丸い。口縁部にヨコナデ、体部に横方向のヘラケズリが施される。1・2は内面にススが付着し、口縁に斑点状に特に濃く付着しているので、灯明具として使用されたと考えられる。1は底部外面に線刻「×」が施される。2は底部外面に墨書「福」が施される。4はロクロ土師器杯である。底部中央を欠く。平底で、体部は内彎して、開いて立ち上がり、ゆるやかに内彎して口縁に至る。口縁は小さく外反する。体部下端に回転ヘラケズリが施される。5は須恵器杯である。ロクロ成形で



第96図 SK011・015出土遺物

ある。平底で、体部が外傾して立ち上がり、直線的に口縁に至る。口縁は小さく外反する。体部下端に手持ちヘラケズリが施される。口縁部内面にススが付着し、特に口縁には底部に向かって線状に濃く付着する。灯明具として使用されたと考えられ、使用頻度が高かったと思われる。

SK015 (第96図 図版62)

1は短刀である。ほぼ完形である。片マチで、刀身に反りはない。土壙墓の副葬品である。

第14表 奈良・平安時代遺物観察表
 ()は復元値、[]は現存値を表す

遺物 番号	持物 番号	器種	口径	底径	高さ	進存度	色調	胎土	焼成	特徴	遺物番号
SI012	1	土師器坏	12.05	7.0	3.8	元形	内にぶい褐色 外 淡褐色	砂粒多、スコリア	良好	外 手持ちハラケズリ ナデ 内 ナデ 底外 手持ちハラケズリ 内外口縁に油焼付着	12
	2	土師器壺	(20.8)			20%	内 暗赤褐色 にぶい赤褐色 外 にぶい赤褐色	細砂多、石英、 長石、スコリア	良好	外 ハラケズリ ナデ 内 ナデ 4と同一個体と思われる	7.10.11.13.15.19.23 25.26.27.28.29.33
	3	土師器壺			7.8	10%	内 にぶい赤褐色 外 にぶい赤褐色 暗赤褐色	細砂多、石英、 長石、スコリア	良好	外 ハラケズリ 内 ナデ 底外 全面 面ハラケズリ 2と同一個体と思われる	O11.5.11.14 O12.28.29
	4	土師器 小型壺	13.6	(6.9)		口縁部 100%	内にぶい褐色 外にぶい褐色	砂粒、スコリア	良好	外 ハラケズリ ナデ 内 ナデ 在庫地	6.8.9.16.19
	5	須恵器壺 (鉢用鏡)					内 褐色 外 褐色	長石、砂粒	良好	外 叩き (平行) 内 ナデ	2.14
SI013	1	土師器 高台付环	11.85	7.6	4.4	完形	内 赤色 外 赤色	長石、砂粒、スコリア	良好	外 ナデ 内 ナデ 油焼付着 底外 不明 底部外面に墨書き「中」底窓	10
	2	土師器坏	12.3	6.9	3.9	70%	内 明赤褐色 外 にぶい赤褐色	長石、砂粒、スコリア	良好	外 休部下端 回転ハラケズリ ナデ 内 ナデ 底外 回転糸切り外周回転ハラケズリ底部外縁に墨書き「中」	17同一個体有り
	3	須恵器坏	13.9	7.8	4.2	完形	内 灰白色 外 灰白色	石英、長石、雲母、砂粒	良好	外 手持ちハラケズリ ナデ 内 ナデ 底部外縁 回転ハラケズリ 手持ちハラケズリ 全周 内面油焼付着 容接 (新治窯) 底	25
	4	須恵器坏	13.4	8.4	4.3	完形	内 褐色 外 褐色	石英、長石、雲母少、砂粒	良好	外 手持ちハラケズリ ナデ 内 ナデ ナデ 回転ハラケズリ 手持ちハラケズリ 全周 休部外周墨書き捺印「中」底部外 面焼付「x」容接 (新治窯) 底	11
	5	土師器 小型壺	(15.3)			40%	内 明赤褐色 外 にぶい褐色	ガラ付き有り 石英、長石、砂粒	良好	外 ハラケズリ 叩き ナデ 内 ナデ ナデ 常設窯	17.23.24
	6	土師器壺	(26.8)			5%	内 灰黃褐色、 にぶい黄褐色 外 黄褐色、 にぶい黄褐色	長石多、長石少、 スコリア少	良好	外 ナデ 内 ナデ 常転型壺 (鉢)	7.9.17
	7	土師器壺	(28.9)			15%	内 にぶい褐色 外 にぶい褐色	砂粒少	良好	外 手持ちハラケズリ 叩き ナデ 内 ナデ 穀質感有り	14
	8	須恵器 長颈瓶	7.45			10%	内 灰色 外 灰色	スコリア、砂粒	良好	外 ナデ 内 ナデ 外面に自然釉 斧 比窓	14.16
	9	須恵器壺	(29.3)	(12.6)	13.0	10%	内 にぶい橙色 外 にぶい黄褐色	長石、雲母、スコリア	良好	外 手持ちハラケズリ 叩き ナデ 内 ナデ ナデ 常設窯 (新治窯)	15.20.22.26.27.29
	10	須恵器壺 (鉢用鏡)					内 褐色 外 暗赤褐色	長石、雲母	良好	外 磨耗ハラケズリ ナデ 内 ナデ 外 雪窓 (新治窯) 底	3
	11	須恵器円板				完形	内 褐色 外 褐色	細砂粒少	良好	外 叩き目 内 叩て具模	14
SI014	1	土師器坏	13.1	9.8	3.4	75%	内 黑褐色、褐色 外 黑褐色	細砂粒	良好	外 手持ちハラケズリ ナデ 内 ハラ ナデ 底 手持ちハラケズリ 全周 内 面底部外周口縁にかけて油焼付着有 り	3.4
	2	須恵器坏	12.9	8.6	4.0	完形	内 褐色 外 褐色	石英、長石、砂粒	良好	外 手持ちハラケズリ ナデ 内 ナデ 底 手持ちハラケズリ 全周	1
	3	須恵器坏	11.95	7.35	3.6	85%	内 黑褐色 外 黑褐色	石英、長石、雲母、砂粒	良好	外 手持ちハラケズリ ナデ 外 ナデ 底 手持ちハラケズリ 全周 常陸 (新治窯) 底	2
SI062	1	土師器 高台付環	13.3	6.2	2.65	80%	内 明赤褐色、 にぶい褐色 外 明赤褐色、 にぶい褐色	細砂粒	良好	外 ナデ 内 ナデ 底外 糸切り有り ナデ 内面、底部外縁に焼附「汁」or 「土」or「七」	8
	2	土師器坏	13.0	6.7	4.25	完形	内 黑色 にぶい黄褐色	細砂粒	良好	外 ハラケズリ ナデ 内 ナデ 底外 回転糸切り 回転ハラケズリ 外周 内 面全体に油焼付近部外縁に墨書き「口」	10
	3	土師器坏	(10.0)			15%	内 黑色、明赤褐色 外 淡褐色	細砂粒	良好	外 ロクロナデ 内 叩き 内面黒色易 剥離	2.3.17
	4	土師器瓶	(19.2)			5%	内 明赤褐色 にぶい褐色	細砂粒	良好	外 ハラケズリ ナデ 内 ナデ	12.3.4.12
	5	土師器 小型壺	(17.1)			5%	内 にぶい黄褐色 外 黄褐色、褐色 にぶい黄褐色	長石、スコリア、 砂粒	良好	外 ハラケズリ ナデ 内 ナデ ヘラ ナデ 24.未収録で同一個体3.13.14有 り	
	6	土師器 小型壺	(11.1)	5.9	20.15	60%	内 淡褐色 外 黑褐色	細砂粒	良好	外 ハラケズリ ナデ 内 ナデ 底外 ナデ	2.3.19
	7	土師器壺			9.5		10%	内 黑褐色、 にぶい褐色	石英、長石、雲母、砂粒、スコ リア	良好	外 ハラケズリ 内 ナデ ハラナデ 底外 ハラケズリ 全周 砂石の混入物 多く、视觉的にもざらついている感じが 良好に判る

道標・ 種固 番号	器 様	口 径	底 径	断 高	遺存度	色 調	胎 土	焼成	特 徴	遺物番号
SI062	須恵器甕 (鉢形)				5%	内 黄色 外 にぶい褐色	長石、雲母、ス コリア	良好 外 叩き 内 ナデ	12.3.4.7 同一個 体有り	
	鉢									11
SI063	土師器甕 (鉢形)	12.15	6.7	4.15	90%	内 にぶい褐色 外 にぶい褐色、 灰褐色	スコリア、砂粒	良好 外 ナデ 内 ナデ 底外 回転赤切り 回転ヘラケズリ 外側 体部外裏スス 付着	13	
	須恵器甕 (鉢形)					内 黄褐色 外 にぶい褐色、 青褐色	織砂炒	良好 外 叩き 内 当て目赤	1 同一個体有り	
	須恵器甕 (鉢形)					内 灰色 外 塗灰褐色、灰 オリーブ色	織砂炒	良好 外 叩き 内 ナデ 当て目赤	1	
	須恵器甕 (鉢形)					内 灰褐色 外 塗灰褐色	織砂炒	良好 外 叩き 内 ナデ 底て目赤	7	
	鉢									2
SK011	土師器甕 (鉢形)	12.25	7.55	3.95	完形	内 黑色 外 にぶい黄褐色	長石、砂粒、ス コリア	良好 外 手持ちヘラケズリ ナデ 油煙付岩 内 ナデ 底外 全面手持ちヘラケズ リ 底部外迴輪赤有り	3	
	土師器甕 (鉢形)	12.6	7.1	3.6	完形	内 にぶい褐色 外 灰褐色	砂粒少	良好 外 手持ちヘラケズリ ナデ 内 ナデ 底外 全面手持ちヘラケズリ 底部外 面ヘラ書き、墨書き「號」	8	
	土師器甕 (鉢形)	12.0	8.0	3.5	95%	内 にぶい褐色 外 棕褐色	砂粒、スコリア	良好 外 手持ちヘラケズリ ナデ 内 ナデ 底外 全面手持ちヘラケズリ	5.6.7.9.10.12	
	土師器甕 (鉢形)	12.4	7.6	4.0	15%	内 にぶい褐色 外 にぶい褐色	長石、雲母、ス コリア	良好 外 回転ヘラケズリ ナデ 内 ナデ 底外 手持ちヘラケズリ	4.6	
	須恵器甕 (鉢形)	13.5	7.8	4.3	完形	内 灰褐色 外 にぶい黄色灰 褐色	長石、雲母、砂 粒	良好 外 手持ちヘラケズリ ナデ 底外 回転ヘラ切り外縁手持ちヘラケズ リ	13	
SK015	鉄器劍刃	長17.9	482.6	厚0.4	完形			底	221.7g	2

第7章 中・近世

第1節 遺構

中・近世関係の遺構は、土坑71基、溝状遺構8条、塚1基、野馬土手・猪垣1区画である。

1 土坑（第15表）

土坑は遺跡調査区の中央部、東部、南部に検出された。分布に偏りがみられ、グループ化ができる。遺跡は南側の師戸川に向かって伸びる2つの舌状台地上およびその基部に立地する。1つは南に伸びる「L」字形状で、南部の東西方向の台地が広く、師戸川の低地に面している。もう1つは、「L」字状舌状台地基部の東に位置し、師戸川の小支谷に臨む、南東に伸びる東部小舌状台地である。

グループとしては、独立的に所在するもの、「L」字状舌状台地南部にグループを形成するもの、および東部小舌状台地にグループを形成するものに分類される。

土坑の形状、規模等は表に掲載したので、ここでは、グループごとの特徴を述べる。また、挿図の掲載もグループごとを基準にしているので、番号の前後はあるが、挿図の掲載順に説明する。

SK010・016～022（第97図 図版19・20）

SK010は「L」字状舌状台地のほぼ中央に位置する。独立的に所在する。西側のやや離れた斜面際にSK044・045が所在する。SD009と西端が重複する。重複状況からSK010が新しいと考えられる。

SK016は東部小舌状台地上に位置する。SD004に西隣し、舌状台地上では独立的に所在する。遺構確認面で焼土の分布が認められた。実際には、焼土分布範囲と掘り込み後の平面プランに若干相違がある。掘り込み内は、小焼土ブロックや焼土粒が少量認められる程度であり、壁や底面も比熱している部分は認められない。平面プランから炉穴の可能性も考えられるが、炉床は検出されなかった。

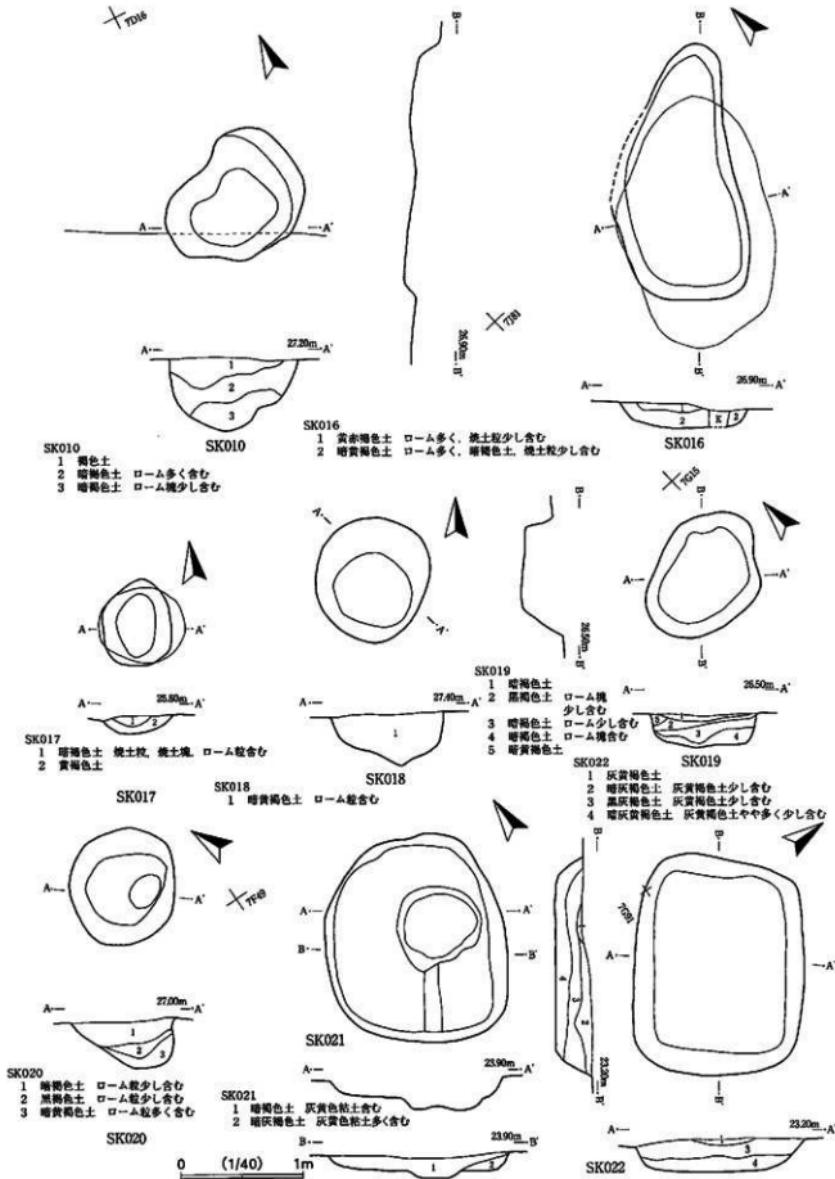
SK017は東部小舌状台地上東側斜面に位置する。舌状台地上では独立的に所在する。SK016と同様に、遺構確認面で焼土検出した。円形に近いプランで掘り込みを確認したが、SK016と同様に、焼土はブロックや焼土粒程度で、壁や底面の焼土化は検出されなかった。

SK018は小舌状台地中央部に位置する。舌状台地上では独立的に所在する。平面形は円形である。覆土がほぼ单一土層であるので、埋め戻されたと考えられる。

SK019は小舌状台地中央部やや西寄りに位置する。舌状台地上では、ほぼ独立的な所在と思われるが、SK020とともに小舌状台地西部の土坑グループの東端の可能性がある。平面形は楕円形である。覆土は暗褐色土主体で埋め戻されたと考えられる。

SK020は小舌状台地中央部やや西寄りに位置する。SK019の東側で、小舌状台地上では、ほぼ独立的な所在と思われるが、SK019とともに小舌状台地西部の土坑グループの最東端の可能性がある。平面形は円形で、断面は底面がすぼまる円錐形となる。覆土はレンズ状の堆積を示し、自然堆積と考えられる。

SK021・022は小舌状台地西部の土坑グループを形成している。SK021は、平面形がやや不整だが隅丸方形に近い。内部に浅い円形プランの落ち込みがあり、その落ち込みの南北側の底面には、やや段差がある。覆土全体に灰黄色粘土が含まれるので、埋め戻しが考えられ、土壙墓の可能性がある。SK022は、平



第97図 土坑（1）(SK010・016~022)

面形が長方形で、底面は平坦である。覆土全体に灰黄褐色土がみられる。これは、SK021の灰黄色粘土とも考えられるので、SK021と同様に、埋め戻しが考えられ、土壙墓の可能性がある。

SK021～024・027～040（第98図 図版19・20）

小舌状台地西部の土坑グループである。西側の小支谷に臨む斜面際および緩斜面に位置する。溝状遺構SD025（コの字状の区画溝）が北側に接している。

各土坑は、それぞれ斜面に平行して（等高線に沿った状況で）分布していると考えられる。土坑数は18基である。平面形の分類では、円形が7基、楕円形は、不整形なものを含めて、9基、長方形が2基である。先に記載したSK021・022のほかに、覆土の特徴があり、土層断面図を掲載したものとして、SK023・024・028・037・038・040がある。

SK023・024はSK021・022と同様に、覆土に灰黄褐色土がみられる。また、單一に近い土層であるので、埋め戻しと考えられる。以上からSK021・022と同様に土壙墓の可能性がある。

SK028も、灰黄褐色土はみられないが、ほぼ單一の土層で、埋め戻しと考えられるので、土壙墓の可能性がある。

SK037は、細かな土層に分類されるが、灰黄褐色土主体である。全体に焼土を含み、埋め戻しと考えられるので、土壙墓と考えられる。

SK038は暗褐色土に黒褐色土をブロック状に含む。底面付近の遺存で、やや疑問ではあるが、埋め戻しの可能性が高く、土壙墓と考えられる。

SK040は暗褐色土主体で、ほぼ單一土層である。しかし、SK038と同様に底面付近の遺存で、やや疑問ではあるが、埋め戻しの可能性が高く、土壙墓と考えられる。

なお、SK023・024・028は平面形が円形で、SK037・038・040は楕円形である。

SK026・044・045・058（第99図 図版19～21）

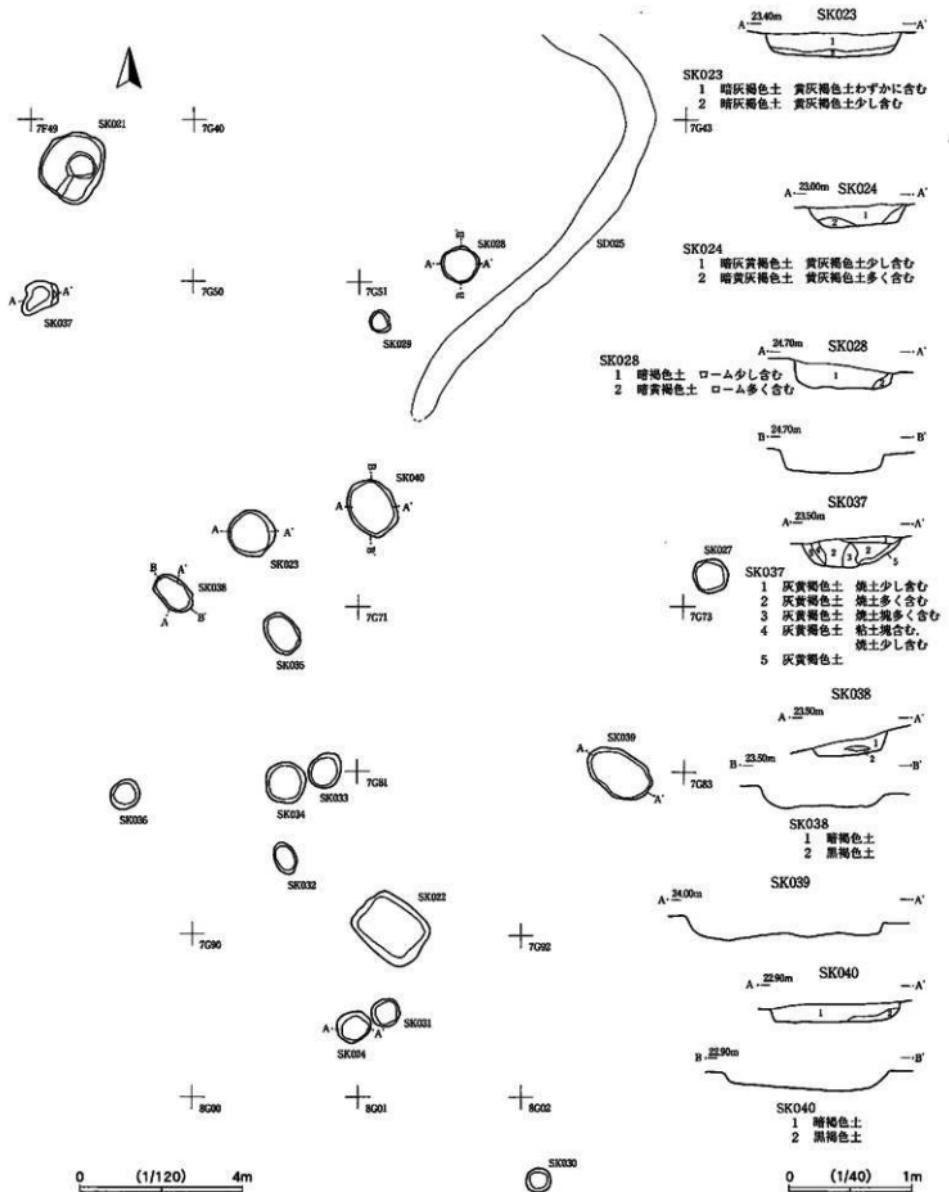
SK026は小舌状台地北東端の東側小支谷斜面際に位置する。独立的な所在である。覆土はレンズ状堆積で、自然堆積と考えられる。

SK044・045は、「L」字状舌状台地中央西側の斜面際に位置する。独立的に所在する。東側のやや離れた、舌状台地中央にSK010が所在する。たがいに隣接して所在する。両者とも、平面形はやや不整形な楕円形である。覆土はSK044がレンズ状堆積で、自然堆積と考えられる。SK045は覆土に焼土を含み、埋め戻しと考えられる。

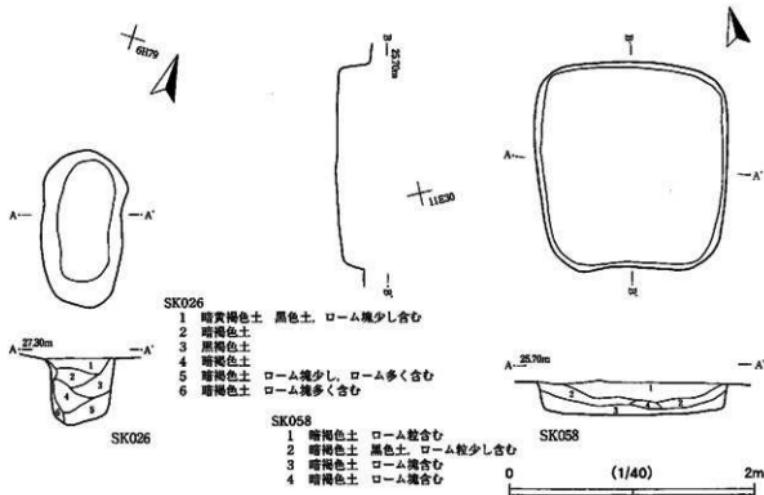
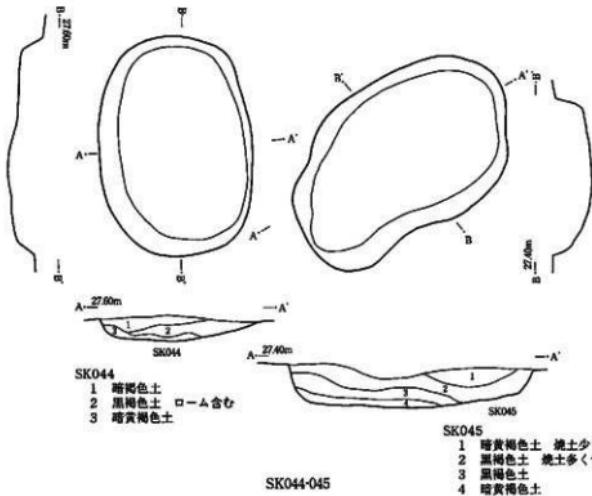
SK058は、次の述べる「L」字状舌状台地南部、大グリッド11D・11Eに所在する土坑グループに所属する。平面形は長方形である。覆土は暗褐色土主体で、細かく分層されるが、埋め戻しと考えられる。

SK054～056・067・075～077・081・082（第100図 図版21）

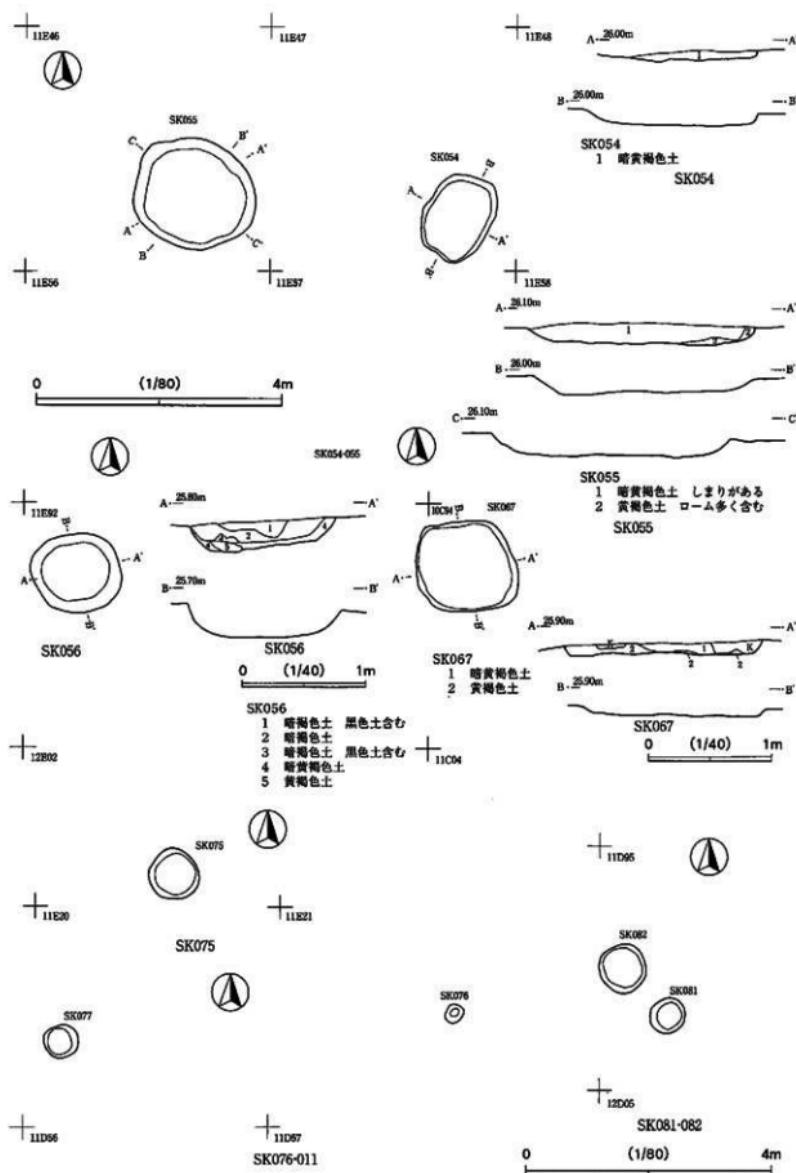
「L」字状舌状台地南部に所在する土坑である。SK054～056・075～077・081・082は大グリッド11D・11Eに所在する土坑グループである。次に述べるSK057・070～074・103・104を含めて、土坑数は26基である。平面形の分類では、円形が15基、楕円形は、不整形なものを含めて9基、長方形が2基である。先に記載したSK058のほかに、覆土に特徴があり、土層断面図を掲載したものとして、SK054・



第98図 土坑(2) (SK021~024・027~040)



第99図 土坑（3）（SK026・044・045・058）



第100図 土坑(4) (SK054~056・067・075~077・081~082)

055・056・057・071・072・073がある。

SK054はグループの中心からはやや東に離れているが、このグループはやや分散した分布を示すので、西隣のSK055とともに所属すると考えられる。平面形は不整方形で、掘り込みは浅い。覆土は單一であるが、底面付近の遺存があるので、埋め戻しかどうかは不明瞭であるが、暗黄褐色土からローム混じりが考えられ、埋め戻しの可能性がある。

SK055は東隣のSK054とともにこのグループの最東端と考えられる。平面形は方形で、掘り込み浅い。覆土はSK054同様に、ほぼ單一で、底面付近の遺存であるが、明瞭にローム混じりの土層が観察されるので、埋め戻しの可能性がある。

SK056は、グループのほぼ中心に位置する。平面形は精円形で、底面は平坦である。覆土は暗褐色土主体で、埋め戻しと考えられる。

SK075～077・081・082はグループのほぼ中心に位置する。平面形は円形で、重複はない。規模が径1m以下の小型の土坑である。

SK067は、「L」字状舌状台地南部ほぼ中央に位置し、独立的に所在する。平面形は長方形である。覆土は底面付近の遺存ではあるが、黄褐色土主体で、埋め戻しと考えられる。SD110が西側に隣接する

SK057・070～074・103・104（第101図 図版21）

「L」字状舌状台地南部に所在する土坑である。大グリッド11D・11Eに所在する土坑グループで、グループのほぼ中心に位置する。円形の土坑が主体である。重複関係は無い。

覆土に特徴があり、土層断面図を掲載したものとして、SK057・071・072・073がある。

SK057は、平面形がほぼ円形で、底面は平坦である。覆土は暗褐色土主体で、埋め戻しと考えられる。

SK071は、平面形がほぼ円形で、底面は平坦である。覆土は底面付近の遺存ではあるが、黄褐色土主体で、埋め戻しと考えられる。

SK072は、平面形が円形で、底面は皿状にくぼむ。覆土は、黄褐色土主体で、ややしまりがない土層もあり、埋め戻しと考えられる。

SK073は、平面形がほぼ円形で、底面は平坦である。覆土は底面付近の遺存ではあるが、黄褐色土主体で、埋め戻しと考えられる。

SK078～080（第102図）

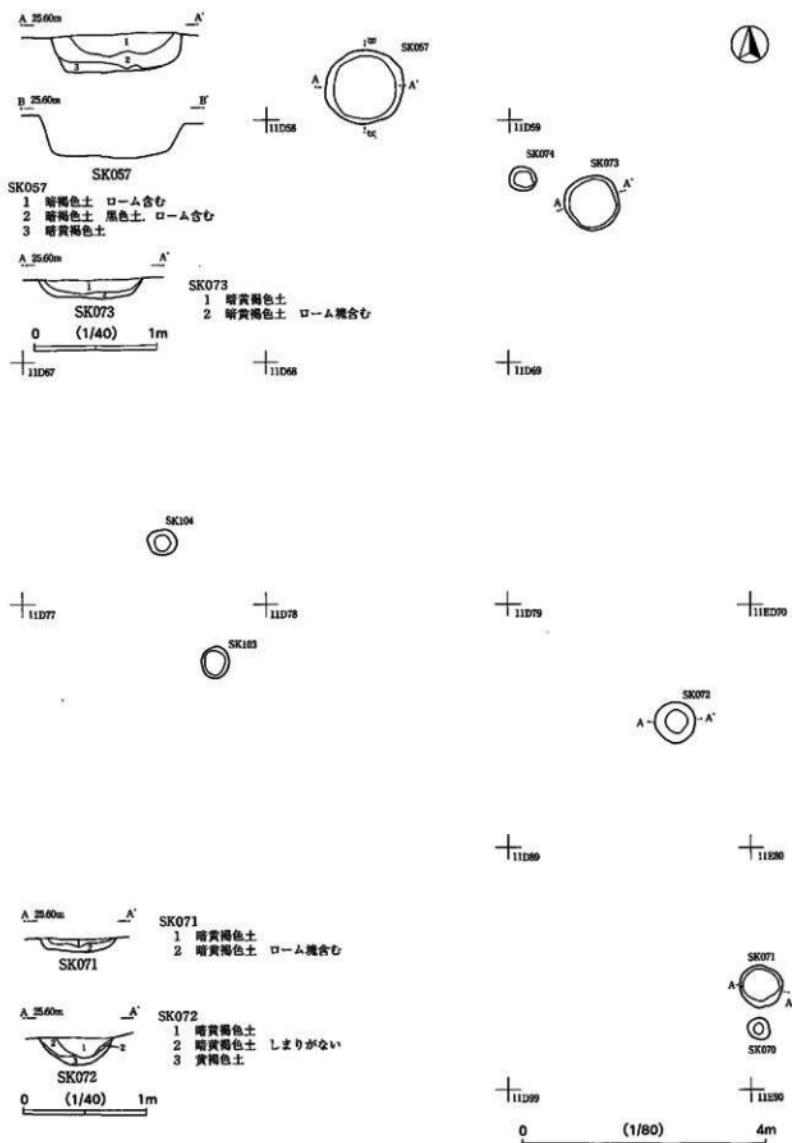
「L」字状舌状台地南部に所在する土坑である。大グリッド11D・11Eに所在する土坑グループで、グループの中心からやや北に位置する。精円形の土坑が主体である。重複関係は無い。

SK083～093（第103図）

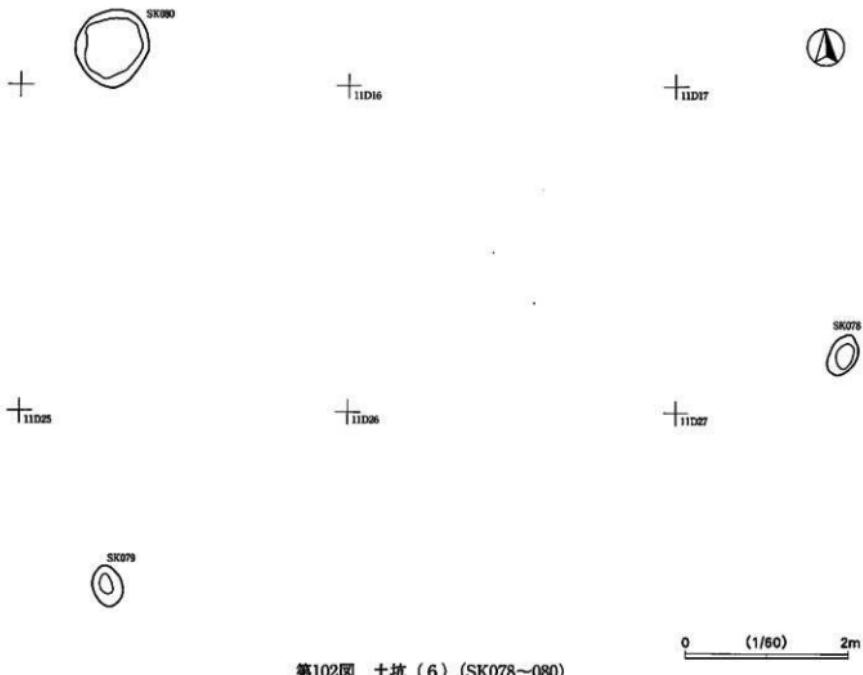
「L」字状舌状台地南部に所在する土坑である。

SK083～087は、大グリッド11D・11Eに所在する土坑グループで、グループの中心からやや南西に位置する。円形および精円形の土坑で、重複関係は無い。精円形はSK083・085・087である。

SK088～093は、大グリッド11D・11Eに所在する土坑グループの西に位置する大グリッド11Cに所在するグループである。後述の、SK094・095・115を含めて、規模はグループの中で最も小さく、土坑数9



第101図 土坑（5）(SK057・070~074・103・104)



第102図 土坑（6）（SK078～080）

Ⓐ



+_{IIID64}

+_{IIID73}

SK085

+_{IIID74}



+_{IIID82}

+_{IIID83}

+_{IIID84}

SK083



0 (1/60) 2m

SK083~087



+_{IIIC8}

+_{IIIC9}

Ⓐ

+_{IIID80}



+_{IIIC8}



+_{IIIC9}

SK090

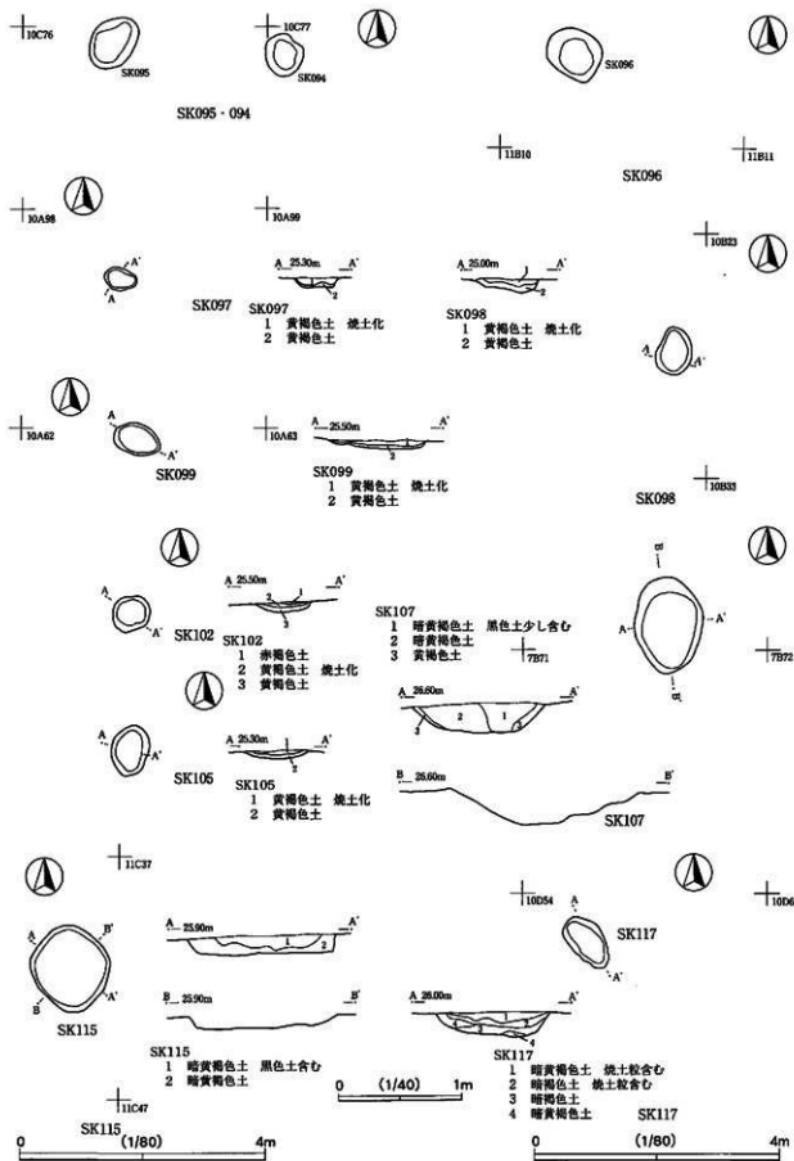
SK089

+_{IIID80}

SK088~093

第103図 土坑(7) (SK083~093)

0 (1/60) 2m



第104図 土坑（8）(SK094~099 · 102 · 105 · 107 · 115 · 117)

基である。平面形の分類では、円形が2基、橢円形は、不整形なものを含めて6基、長方形が1基である。橢円形の土坑が主体のグループで、比較的集中している。SK089以外に重複は無いと考えられる。

SK089は段を持つが、重複の可能性も考えられる。

SK094～099・102・105・107・115・117（第104図）

SK094・095・115は大グリッド11Cに所在するグループに所属する。

SK115は平面形が長方形で、底面にやや凹凸がある。覆土は底面付近の遺存ではあるが、黄褐色土主体で、埋め戻しと考えられる。

SK096は、「L」字状舌状台地南部西寄りに位置し、独立的な所在である。

SK097は、「L」字状舌状台地南部西寄りに位置し、独立的な所在である。小型の土坑である。覆土は底面付近の遺存ではあるが、黄褐色土主体で焼土を含み、埋め戻しと考えられる。

SK098は、「L」字状舌状台地南部西側やや中央寄りに位置し、独立的な所在である。小型の土坑である。覆土は底面付近の遺存ではあるが、黄褐色土主体で焼土を含み、埋め戻しと考えられる。

SK099は、「L」字状舌状台地南部西端に位置し、独立的な所在である。小型の土坑である。覆土は底面付近の遺存ではあるが、黄褐色土主体で焼土を含み、埋め戻しと考えられる。

SK102は、「L」字状舌状台地南部西端に位置し、独立的な所在である。小型の土坑である。覆土は底面付近の遺存ではあるが、黄褐色土主体で焼土を含み、埋め戻しと考えられる。

SK105は、「L」字状舌状台地南部西寄りに位置し、独立的な所在である。小型の土坑である。覆土は底面付近の遺存ではあるが、黄褐色土主体で、全体に焼土を含み、埋め戻しと考えられる。

SK107は、「L」字状舌状台地中央部西寄りに位置し、独立的な所在である。やや大型の土坑である。覆土はブロック状に分類され、黄褐色土主体で、全体に焼土を含む、埋め戻しと考えられる。

SK107は、「L」字状舌状台地南部ほぼ中央に位置し、独立的な所在である。小型の土坑である。覆土は、暗褐色土、暗黄褐色土で、全体に焼土を含み、埋め戻しと考えられる。

SK116（第112図）

11C-34に位置し、ほぼ独立的な所在である。SD110の西隣である。橢円形で、底面は平坦である。

2 溝状造構

8条検出された。野馬土手・猪垣に間連すると思われる造構も含まれると考えられるが、ここでは各々の規模、特徴等を記述し、野馬土手・猪垣との関係については、後述の、野馬土手・猪垣の記載で述べる。

SD025（第105図 図版23）

東部小舌状台地南西斜面に面して検出された。「コ」字状の溝である。

検出長は約38m、幅1.2m～1.8m、検出面からの深さ0.3m～0.7mである。20m×10mの範囲を跨む長方形である。方位はN-38°-Eである。斜面側はローム面まで掘り込みが達していなかったと考えられる。明瞭な内部施設は検出されなかったが、方形区画造構と考えられる。南側に土坑群が検出され、全体で一造構群を形成すると思われる。

SD004 (第106・107図 図版22)

遺跡調査区の北東部、大グリッド3Gに検出されたSD004の北側である。南北方向の溝状遺構で検出長は約63m、幅2.1m～2.7m、検出面からの深さ0.4m～0.6mである。方向が北側である。N-14°-E、中央で、N-18°-W、南側で、N-43.5°-Wと変化する。

SD005・006と重複し、土層断面からSD004が新しい。また、底面の標高から北に傾斜していることが確認される。

底面の両側に側溝状の溝が検出された。幅20cm～30cmで、深さは5cm～10cmである。ほぼ全体に所在すると考えられる。

形状から道路として機能していた可能性がある。

東部小舌状台地東端部にSD004の続きと考えられる溝状遺構が検出された。大グリッド6J・7Jに検出された南北方向のほぼ直線的な溝状遺構で、2条平行している。検出長は約70m、幅は、東側が2.1m～2.5m、西側が、1.2m～1.5m、検出面からの深さは、東側が36cm～50cm、西側が、38cm～48cm、である。方向はN-16°-Wで、東部小舌状台地東端の斜面に沿った形である。

SD005 (第108図)

遺跡調査区の北端部に検出された。北西から南東方向の直線状の溝状遺構で、検出長は約161m、幅1.6m～2.1m、検出面からの深さ0.4m～0.65mである。方位はN-50°-Wである。断面が逆台形で、底面は平坦である。SD004・SD006・SD007と重複し、SD005は、SD004・007よりも古く、SD006よりも新しい。底面の標高から北西に傾斜している。

SD006 (第109図)

遺跡調査区の北端部に検出された。ほぼ東西方向の直線状の溝状遺構で、検出長は約90m、幅1.1m～1.3m、検出面からの深さ0.3m～0.4mである。断面が逆台形で、底面は平坦である。SD004・SD005と重複し、SD006は、SD004・005よりも古い。底面の標高から、西側がやや低く、西に向かって緩く傾斜していると思われる。

SD007 (第110図)

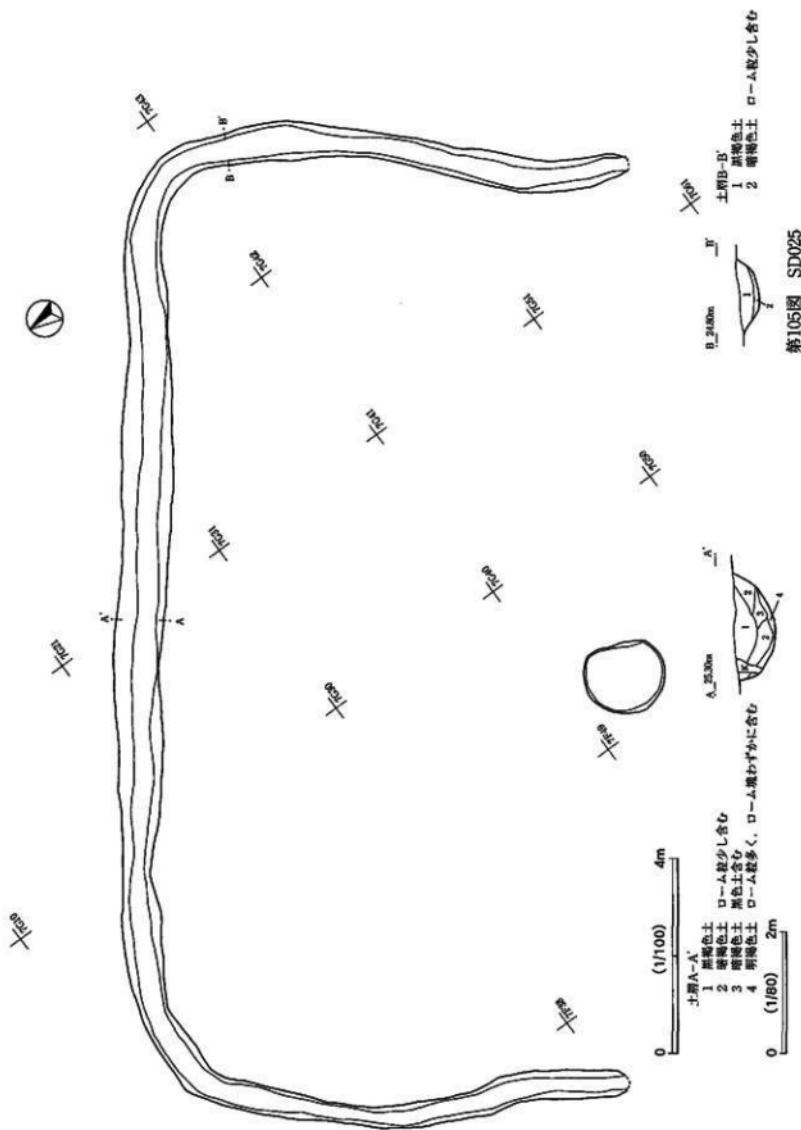
遺跡調査区の北西部に検出された。ほぼ東西方向の溝状遺構で、検出長は約53m、幅1.3m～1.6m、検出面からの深さ0.35m～0.6mである。底面は、中央がやや低くなる。南側半部で、ゆるやかに「S」字状に屈曲している。方位はN-63°-Eである。

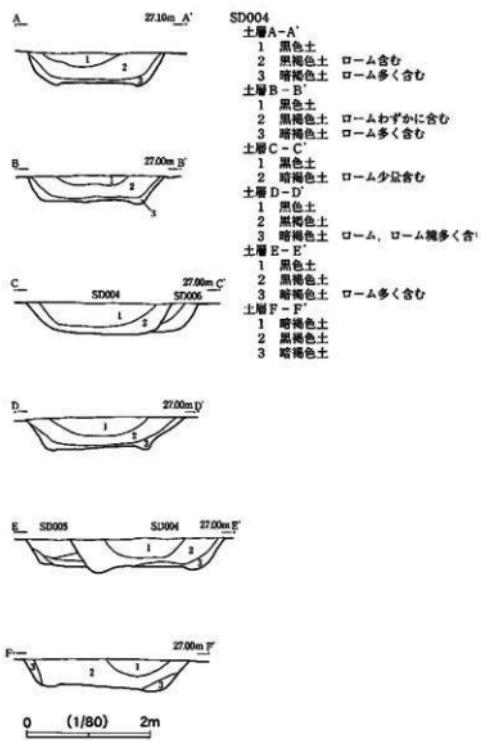
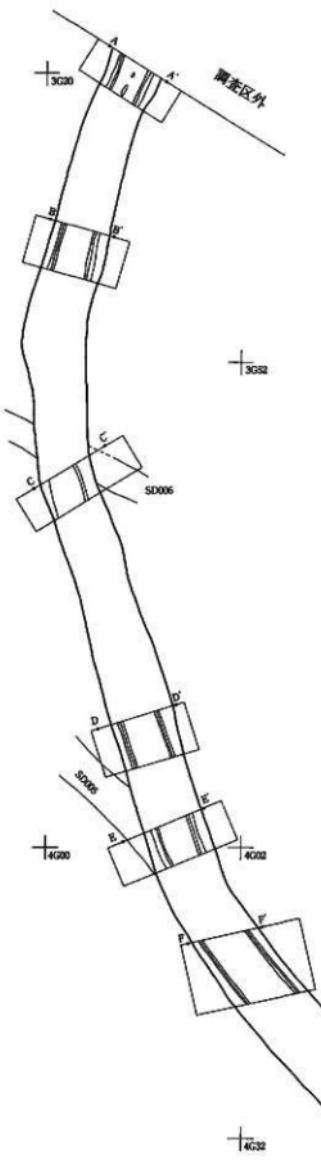
SD005と重複しSD007が新しい。底面の標高から、南に緩く傾斜している。

また、野馬土手 (SA001) のN1との重複がみられるが、N1下にSD007が検出されているので、SD007が古いことが確認された。

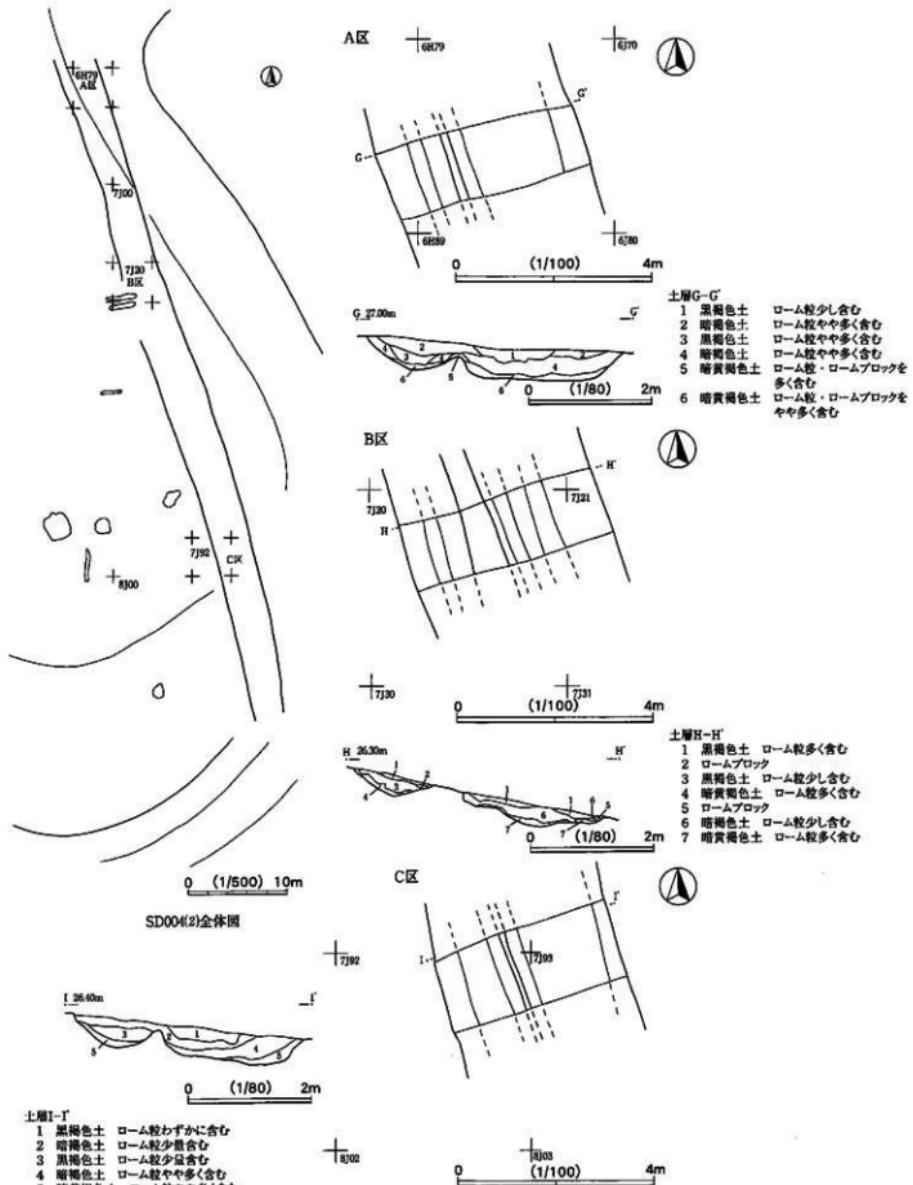
SD009 (第111図)

遺跡調査区の中央部に検出された。ほぼ東西方向の溝状遺構で、検出長は約56m、幅0.7m～1.4m、検

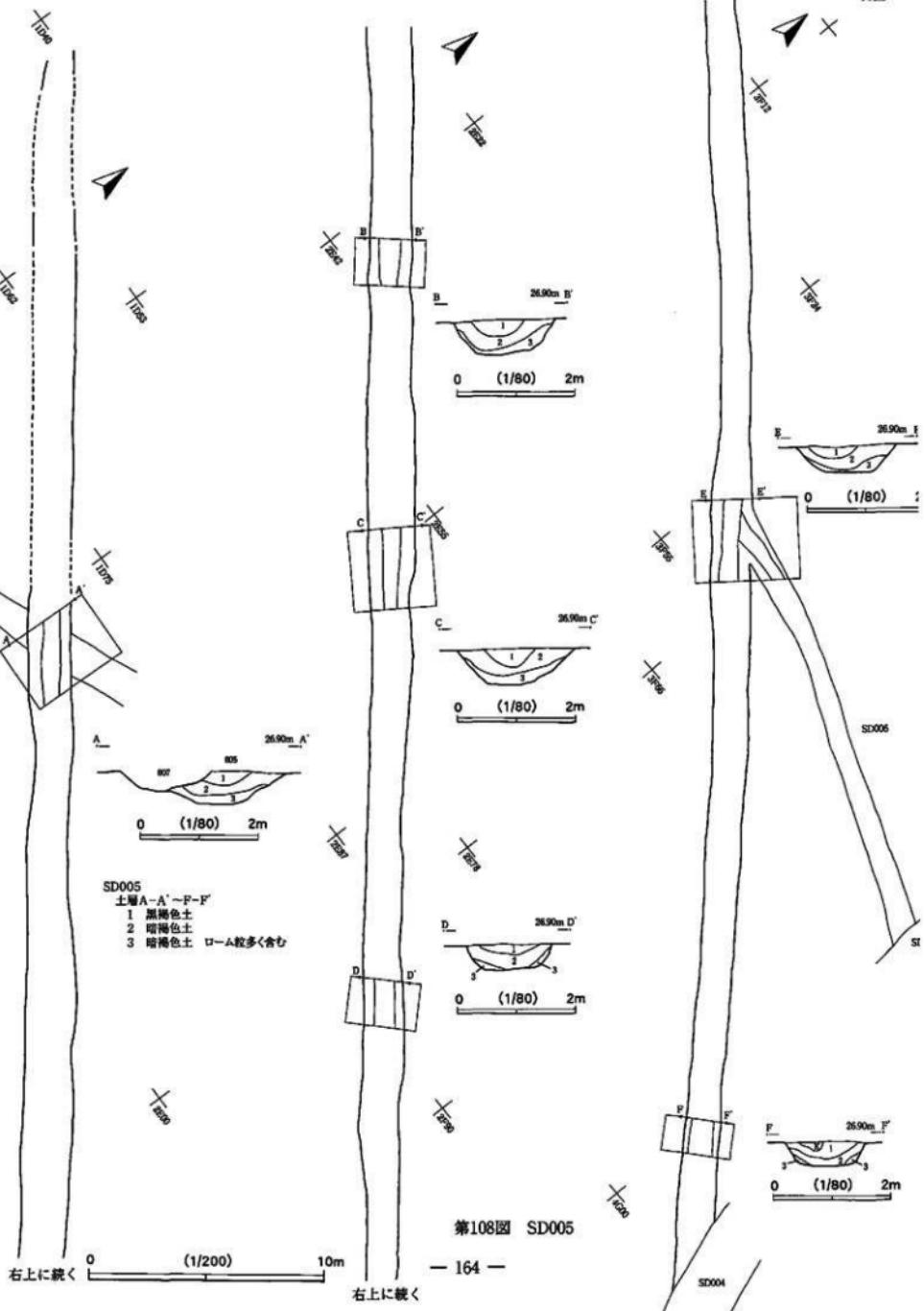


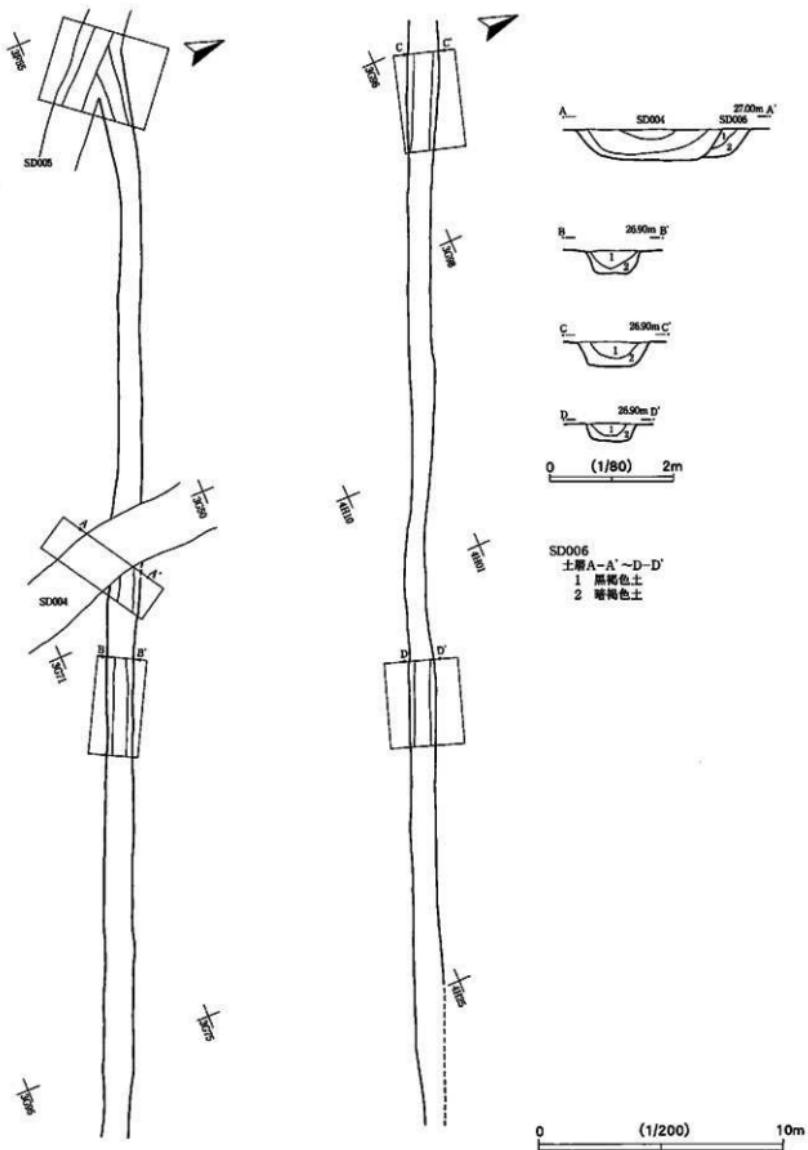


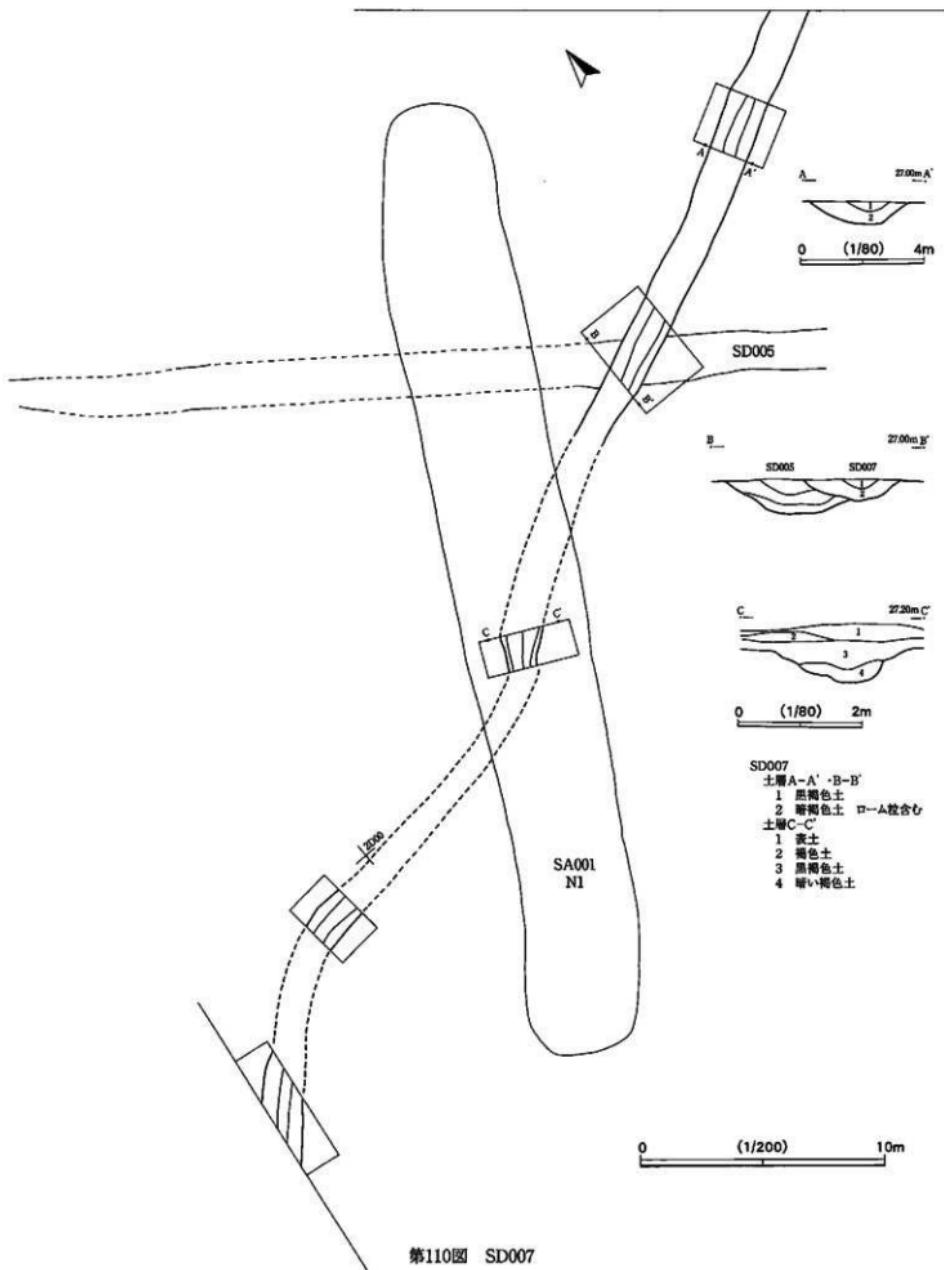
第106図 SD004 (1)



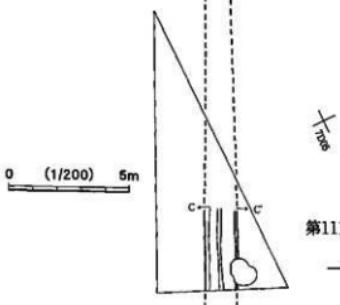
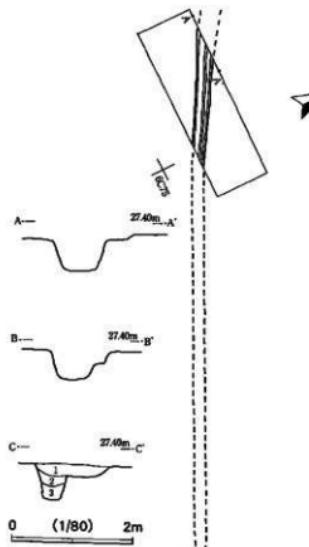
第107図 SD004 (2)



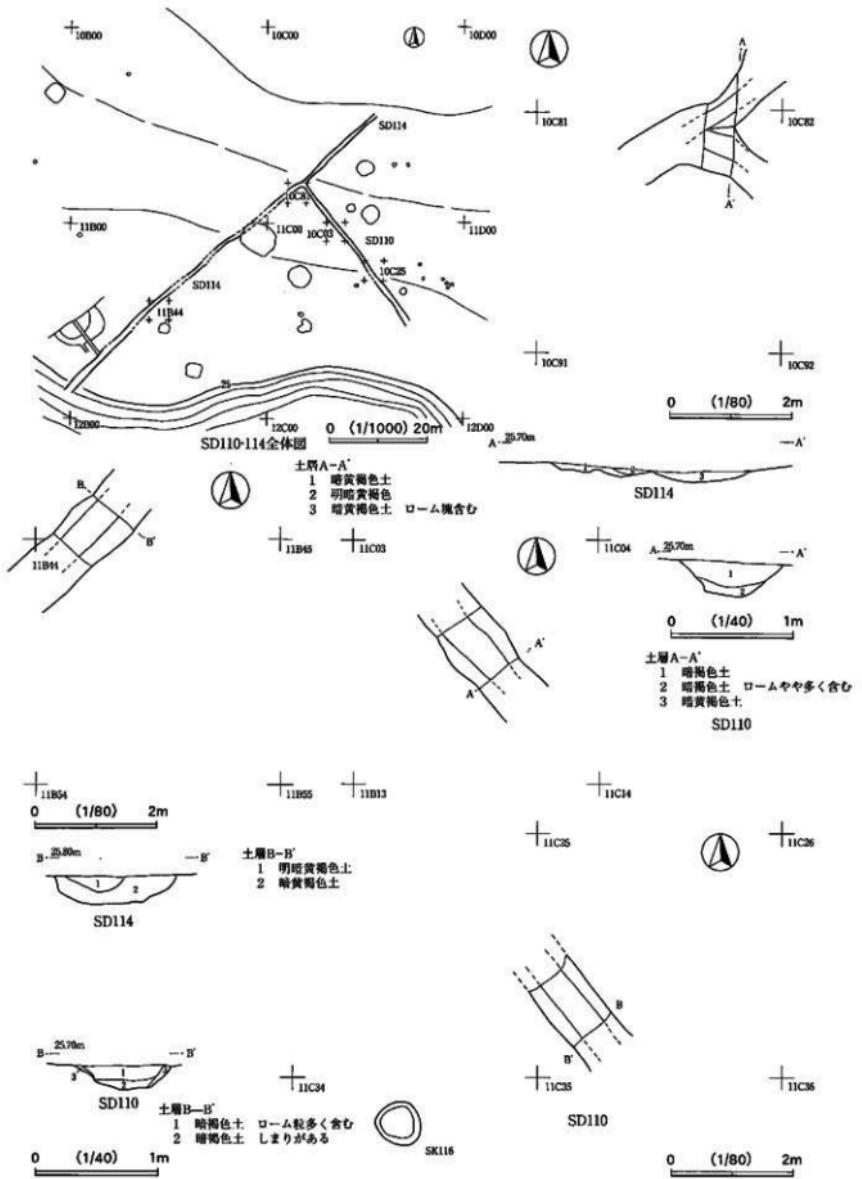




第110図 SD007



第111図 SD009



第112図 SD110・114

出面からの深さ0.6mである。北側に段があり、深さは0.2mである。方位はN-65°-Wである。底面の標高ほぼ一定である。

SD110（第112図）

遺跡調査区の「L」字状舌状台地南部ほぼ中央に検出された。北西から南東方向の溝状遺構で、検出長は約35m、幅0.9m～1.0m、検出面からの深さ0.18m～0.28mである。SD114から分岐した形である。方位はN-37°-Wである。底面の標高から南に傾斜している。道路として機能していたと考えられる。

SD114（第112図）

遺跡調査区の「L」字状舌状台地南部ほぼ中央に検出された。北東から南西方向の溝状遺構で、検出長は約67m、幅1.0m、検出面からの深さ0.24mである。方位はN-48°-Eである。底面の標高から南に傾斜している。道路として機能していたと考えられる。

SA001のN6南西端の盛土、溝と位置、方向がほぼ一致しているが、野馬土手の記述で、関係を述べる。

3 塚

本遺跡で見つかった唯一の塚は、野馬土手（野馬堀）と密接な関わりがあるかもしれない。（※雨宮論文 研究連絡誌第51号「北総の猪垣」参照。「千葉郡水砂野林場」入会境相論誓約書中に、「畑廻猪除土手」や「境土手」がわかり難くなっているのを再吟味しているという古文書。雨宮は、その同文書中に「目印塚」として登場する塚の存在について触れている。

SM047（第113図 図版24）

遺跡調査区の「L」字状舌状台地南西端の斜面際に検出された。現道路により北西側半分が削平されている。

平面形は、円形と考えられるが、周溝の形状から方形の可能性も考えられる。規模は周溝内径6m、周溝外径10m、盛土高は旧表土面から約1mを測る。周溝は幅1.7m～3.5m、検出面からの深さ0.2m～0.3mである。

塚が構築された遺跡での場所を考察すると、向辺田遺跡内を北北東から西南西方向へ向かって構築されるN6（SA001）に沿って、最南端である台地縁辺部に位置する。

千葉ニュータウン内の他の遺跡で見つかっている塚や塚群は、概ね台地平坦面に構築される例が多いのと対照的な位置である。更に、047（塚）の南側は急斜面で台地下へ降りる。また、N6（野馬土手6号跡）と並行するように、台地下の谷津と台地平坦面を結ぶ切通し（オープンカット）の道が存在する。この道の開削時期は不明であるが、野馬土手が平行して構築されていることから、野馬土手が構築される時は既にこの道路は存在した可能性が高い。おそらく谷津には谷津田が作られていたであろう。

※ 雨宮龍太郎 1 北総の猪垣 「研究連絡誌」第51号 平成9年11月 財團法人 千葉県文化財センター



4 野馬土手・猪垣 (SA001) (第114・120図)

向辺田遺跡の野馬土手・猪垣 (SA001) の概要

遺跡調査区内には台地を横断する土手および台地斜面に沿うように走る土手が確認された。総延長は1kmを超え、また、枝分かれ、囲い状などの形態がみられた。調査は、全体を一区画とし、土手の配置および枝分かれ等から、N1区からN11区に分けて、調査し、記録した。

台地の周辺部にあるものについては、断面観察の土層図等をみると、例えばN5区の西側土手に見られるように、土手として明瞭な盛土はほとんど認められず、内側に溝を掘ることによって、内外に見掛けの盛土状のものを見せているとしか考えられない状態である。溝と一体化して視界に入れれば、視覚的に土手に見えることがあるが、例えば目線の低い動物（例えば猪・鹿・狼など）が、溝の掘られていない外側から動物視線で見た場合、果たして見掛けの土手と見えるのかは疑問である。

古墳築造の場合、特に台地先端部に構築される古墳は、斜面部に台地整形気味に周溝を掘って、谷津もしくは台地の裾部から人間目線で見上げた場合、見掛けの盛土を立派に見せる効果があると考えられているが、その場合の目線は人間目線であり、対動物では効果については考慮が必要である。

しかし、この遺構は、土手単体では機能せず、溝とセットになり、見かけの高さを増す、あるいは見かけの深さを増すことによって、機能している遺構である。

また、N2・N3区は遺跡の東西両端で見つかった土手であるが、いずれも現在の本塙村と印旛村の村境と一致し、おそらく江戸時代以来の境となる部分と考えられる。二つの土手に付帯する溝は、いずれも本塙村側にあり、台地の平坦面側とは限らないことが分かる。構築する際の何かの配慮の結果の可能性がある。例えば、溝を強く意識するとすれば、両村の共通入会地であるこの付近の築造で、溝が本塙村側に取り付けられていることから、本塙村側主体の構築と考えられるかもしれない。

N1区 (第115図 図版25)

遺跡調査区北西端部に位置する。盛土の範囲の図面のみの記録で、土層は不明である。検出長は約39.5m、幅は4.5m～5.05m、地表からの高さは0.08m～0.2mで、かなり低い。断面観察調査は行っていないが、SD007の調査時に盛土が発掘されたと考えられる。SD007の記録図には他に溝状遺構が記載されないので、溝は伴わないと考えられる。また、SD007よりも新しく、近世以降の、かなり新しい時期の構築と考えられる。

N2区 (第118図 図版26)

SA001の最東端に位置する。南北方向のはば直線で、北端がN6区から分岐する。斜面に直交する形で、南端は斜面と一体化する。遺跡調査区の東境界にあたり、前述のように本塙村との境もある。検出長は約45mである。断面観察調査により、土手に伴う溝が確認された。

A-A'では、土手の両側に溝が検出された。西側が大きく、東側が小さい、西側は、幅4.5m、底面幅2.1m、深さ1.1mである。東側は、幅0.5m、底面幅0.3m、深さ0.2mである。土手は、基部幅4.05m、残高1.18mである。

B-B'では、N6区との重複が観察され、N6区の溝がN2区の溝と重複し、N6区が新しいと考えられる。

C-C'では、溝が東側のみになり、規模も大きくなる。幅4.6m、底面幅3.36m、深さ1.05mである。土手は、

基部幅5.38m、残高1.1mである。

なお、ここでの溝および土手の計測値は、土層断面図から計測した値で、基準線は断面に観察される溝の掘り始まり（平面図の溝上端）とした。これを基準に幅、深さ、高さを計測した。

N3区（第115図 図版25）

遺跡調査区の西北端に位置する。他の区とは独立している。検出平面形は、逆「L」字形で、遺跡が所在する、「L」字状舌状台地基部の斜面際に立地する。斜面に平行し、検出長は約90mで、北西から南東方向は約55m、北東から南西方向が約35mで、南西端は斜面と一体化する。また、N1区が北側に位置し、土手の方向がほぼ一致する。北東から南西方向は、遺跡調査区の西境界にあたり、前述のように本塁村との境でもある。

断面観察調査により、土手に伴う溝が確認された。北西から南東方向のA-A'では、土手の台地側に溝が検出された。溝は、幅1.8m、底面幅0.5m、深さ0.2mで、小規模である。土手は、基部幅4.4m、残高1.3mである。

北東から南西方向のB-B'では、溝がやや縮少し、幅1.3m、底面幅0.5m、深さ0.4mである。土手は、基部幅4.1m、残高0.55mである。北西から南東方向よりも斜面の傾斜が急になり、やや小規模でも効果があつと考えられる。

N4区（第116図 図版28）

遺跡調査区中央、「L」字状舌状台地基部付近を、ゆるやかに南にカーブしながら、ほぼ東西に横切っている。東端がN6区から分岐している。分岐部は、他に比べて規模が縮小する。通路として使用された可能性がある。検出長は約127mである。

断面観察調査により、土手に伴う溝が確認された。A-A'では、土手の北側に溝が検出された。溝は、幅2.5m、底面幅1.05m、深さ0.55mである。土手は、基部幅3.25m、残高0.95mである。

西側の斜面に近いB-B'では、溝は、幅1.8m、底面幅0.6m、深さ0.8mである。土手は、基部幅2.7m、残高0.56mである。土手については、西側の幅が狭く、高さも低くなると考えられる。これは、台地の傾斜を考慮した結果である。

西端部は斜面に直交する状況で、徐々に規模が小さくなり、斜面と一体化する。

N5区（第115図 図版25）

遺跡調査区中央、「L」字状舌状台地ほぼ中央に位置する。鍔の手状に曲がる土手で、検出長は約158mである。「L」字状舌状台地西側斜面に平行する部分と、台地を東西に横切る部分に分けられる。斜面平行部は長さ約80m、台地横断部は長さ約78mである。

中心的な土手N6区と平行して、西側斜面部を区画する部分から、90°直交してN6区方向に延伸する。N6区との境では、土手が明確に途切れ、明らかに木戸（出入口）と想定できる空間が存在する。N5区とN6区の間に存在する空間、すなわち木戸に相当する部分は、幅約20m。但し、N6区側は台地平坦面から斜面部にあたるため、1.2m程の比高が認められる。

土手に伴う溝は、断面観察調査で、区画の内側に存在することが確認された。

台地横断部のA-A'では、土手の南側に溝が検出された。溝は、幅0.45m、底面幅0.25m、深さ0.5mである。土手は、基部幅1.15m、残高0.62mである。

斜面平行部のD-D'では、台地側に溝が検出された。溝は、幅0.7m、底面幅0.3m、深さ0.5mである。土手は、基部幅1.7m、残高0.55mである。

N5区は、他に比べて、小規模であるが、溝は幅に比べて深く、掘りが明瞭である。また、台地を方形に区画する形状から、土地の区画溝と考えられる。

以上の他に、SD009の位置を照合した結果、同一の主軸方向を持つ溝であることが判明した。これによつて、N5区内に更に区画溝、もしくは消滅した土手に伴う溝があり、N5区内の区画が明瞭に二分割された。このことにより、N5区内は間違いなく畠（扇）地として使われていた証明となる。

N6区（第117～119図 図版26～29）

遺跡調査区平坦面全体を貫く土手である。中央部分は北々東方向から南々西方向に、北東部分では東西方向に構築される。総延長は約590mである。

中央部分は、途中の台地平坦面に抉り込むように北西方向に伸びる小規模な谷津の最奥部付近で、その谷津に添うようにS字状にやや屈曲する。また、台地南端付近でもやや屈曲するものの、ほぼ台地平坦面を継続するよう構築される。

北東部分は、前述した遺跡を二分する小規模な谷津の最億部で、谷津地形に添うように東南東方向に向かってヘアピン状に折れ曲がり、遺跡の境となるもうひとつの谷津方向に向かって築かれている。

N6区は野馬土手・猪垣（SA001）の中心骨格となる土手である。中心骨格となる土手とした理由は、本土手から枝分かれし、分岐した土手が多いことがあげられる。また、少ない事例ではあるが、確認できる範囲での土手同士の構築年代の新旧関係でも、N06が同時期かもしくは古いとい判断できることも、その理由である。

N6区は、分岐部分を基に6か所に区分できる。N2区分岐とN9区分岐間、N9区分岐とN8区分岐間、N8区分岐とN4区分岐間、N4区分岐とN7区分岐間、N7区分岐とN11区分岐間、N11区の分岐から南西端斜面までの地区である。

N2区分岐とN9区分岐間は、調査区の東部小舌状台地東側小支谷の最奥部斜面に平行する土手である。出検長は約80mである。現在の印旛村と本塙村の行政境と一致する。

断面観察調査により、土手に伴う溝が確認された。A-A'では、土手の北側に溝が検出された。溝は、幅2.0m、底面幅0.55m、深さ0.5mである。土手は、基部幅2.3m、残高0.9mである。

N9区分岐とN8区分岐間は、調査区の東部小舌状台地基部を横断する土手である。出検長は約60mである。現在の印旛村と本塙村の行政境と一致する。N9区分岐から西へ約20mのところで北西に屈曲し、直線的にN8区分岐に至る。地形的には小支谷の最奥部西端が屈曲部になる。

また、この区間は、角田台遺跡※で検出されたSD345の延長にあたり、N9区とともに、小支谷を馬蹄形に囲む溝（向辺田遺跡では土手を伴う）を形成する。

断面観察調査により、土手に伴う溝が確認された。B-B'は、屈曲部の調査で、土手の北側に溝が検出された。溝は、幅3.75m、底面幅2.55m、深さ0.58mである。土手は、基部幅2.3m、残高1.0mである。

N8区分岐とN4区分岐間は、調査区の東部小舌状台地西側小支谷の最奥部緩斜面に平行する土手である。

出検長は約65mである。斜面に沿ってゆるやかに南へカーブする。現在の印旛村と本塙村の行政境と一致する。

断面観察調査により、土手に伴う溝が確認された。C-C'は、N8区分岐寄りの調査で、土手の北側に溝が検出された。溝は、幅2.8m、底面幅1.25m、深さ0.38mである。土手は、基部幅3.6m、残高1.15mである。D-D'は、N4区分岐寄りの調査で、土手の北側に溝が検出された。溝は、幅1.4m、底面幅0.2m、深さ0.4mである。土手は、基部幅3.4m、残高0.9mである。

N4区分岐とN7区分岐間は遺跡調査区の「L」字状舌状台地東側小支谷の斜面に平行する土手である。検出長は約90mで、N7区、N8区およびN8区分岐とN4区分岐間で、「L」字状舌状台地東側小支谷最奥部に土手開いを形成する。

断面観察調査により、土手に伴う溝が確認された。E-E'は、N4区分岐寄りの調査で、土手の台地側に溝が検出された。溝は、幅1.6m、底面幅0.8m、深さ0.5mである。土手は、基部幅3.3m、残高0.7mである。

F-F'は、N7区分岐寄りの調査で、土手の両側に溝が検出された。台地側の溝は、幅1.5m、底面幅0.6m、深さ0.3mである。谷側の溝は、幅0.8m、底面幅0.25m、深さ0.8mである。土手は、基部幅2.9m、残高1.15mである。谷側の溝底面から土手頂部までは2.65mを測る。

N7区分岐とN11区分岐間は、N4区分岐とN7区分岐間に同様に、遺跡調査区の「L」字状舌状台地東側小支谷の斜面に平行する土手である。斜面に沿って「S」字状にカーブする。検出長は75mである。

断面観察調査のG-G'では、土手に伴う溝は検出されなかった。

G-G'は、N7区分岐部の調査で、土手は、基部幅2.8m、残高0.95mである。斜面部にあたり、溝は構築されなかったと思われる。

H-H'は、N11区分岐寄りの調査で、土手の両側に溝が検出された。台地側の溝は、幅1.7m、底面幅0.5m、深さ0.25mである。谷側の溝は、幅0.8m、底面幅0.25m、深さ0.3mである。土手は、基部幅4.1m、残高0.8mである。谷側の溝底面から土手頂部までは1.75mを測る。台地側の溝内に褚円形の土坑が検出された。連続する可能性があり、横列を伴う溝である可能性がある。

H-H'セクション付近に、溝中に土坑1基あり。溝の中央部にきちんとした掘り込みで掘られている。セクション部分のみの調査で、連続性や企画性があるかどうか不明ですが、連続性・企画性等があれば、いわゆるシシ（猪）穴としての機能した可能性がある。

I-I'は、N11区分岐部の調査である。土手の台地側に溝が検出された。また、土手の盛土下にも溝状の掘り込みがみられるので、野馬土手の作り直しの可能性がある。新と考えられる溝は、幅1.55m、底面幅0.64m、深さ0.22mである。土手は、基部幅3.5m、残高0.85mである。旧と考えられる溝は新よりも谷寄りに作られ、幅1.9m、底面幅0.8m、深さ0.3mである。土手は、基部幅2.65m、残高0.75mである。

N11区の分岐から南西端斜面までの地区は、「L」字状舌状台地の南部、東西に広がる台地を南北方向に横断する土手である。検出長は約220mである。

断面観察調査により、土手に伴う溝が確認された。J-J'は、台地中央の調査で、土手の両側に溝が検出された。西側の溝は、幅2.1m、底面幅0.96m、深さ0.24mである。東側の溝は、幅1.6m、底面幅1.0m、深さ0.48mである。土手は、基部幅3.1m、残高0.8mである。

K-K'は、台地中央やや南の調査で、土手の西側に溝が検出された。溝は、幅1.7m、底面幅0.4m、深さ0.55mである。土手は、基部幅2.1m、残高0.85mである。L-L'は土手南端の斜面際である。土手の西

側に溝が検出された。溝は、幅1.8m、底面幅0.62m、深さ0.48mである。土手はほとんど削平されているが、基部幅2.75m、残高0.5mである。

なお、「L」字状舌状台地の南部において検出されたSD114は、N6区に伴う溝の一部である。

N7区（第117図 図版27）

「L」字状舌状台地と調査区東部小舌状台地との間の小支谷に立地し、谷を横断する形状である。検出長は約27mである。

断面観察調査により、土手に伴う溝が確認された。A-A'では、土手の南側に溝が検出された。溝は、幅2.7m、底面幅1.2m、深さ0.5mである。土手は、基部幅1.9m、残高0.65mである。

N7区はN6区、N8区、N10区とともに、囲い状の区画を形成し、区画は緩い傾斜地に立地する。

N8区（第117図 図版27）

調査区東部小舌状台地西側斜面に並行し、斜面を下る土手である。南北方向で、北端はN6区から分岐する。検出長は約75mである。

断面観察調査により、土手に伴う溝が確認された。A-A'では、土手の台地側に溝が検出された。溝は、幅0.78m、底面幅0.26m、深さ0.27mである。土手は、基部幅2.95m、残高0.9mである。

斜面部のB-B'では、土手の台地側に溝が検出された。溝は、幅0.98m、底面幅0.2m、深さ0.45mである。土手は、基部幅1.95m、残高0.88mである。

斜面部のC-C'では、土手の谷側に溝が検出された。溝は、幅0.6m、底面幅0.22m、深さ0.3mである。土手は、基部幅3.65m、残高0.8mである。南端部の、やや西にカーブした部分である。

南端部のやや西にカーブした先は、N7区東端に向かうが、N7区との間には5mほど間隔がある。

N9区（第118図 図版26）

調査区東部小舌状台地東側斜面に平行する。南北方向で、北端はN6区から分岐する。斜面に沿って「く」字状にカーブし、検出長は約70mである。

向田遺跡と角田台遺跡の境界となる谷津を馬蹄形状に囲った土手の一部を形成する。ただし、N9区は斜面部を斜面に沿って、盛土ではなく台地斜面部の地山整形を施している。故に断面観察用のセクション図をみると、斜面を若干整形するようにフラットな面を構築し、盛り上げるのではなく平坦にする意図が観察される。また、伴うとされる溝も、幅は狭く、根切り溝状の構造であったかも知れない。

A-A'では、台地側に溝が検出された。溝は、幅0.4m、底面幅0.2m、深さ0.2mである。土手は、斜面整形で、基部幅2.0m、残高0.68mである。

B-B'では、台地側に溝が検出された。溝は、幅1.0m、底面幅0.33m、深さ0.28mである。土手は、斜面整形で、基部幅2.0m、残高0.45mである。

なお、東部小舌状台地上のSD004（溝）が、この土手に近接しており、主軸方向もぴったり合致することが判明した。よって、SD004は、N9区に伴う溝の可能性が考えられる。

SD004（溝）は遺跡の東側境となった谷津に添って構築される溝である。ちなみに谷津を隔てた東側には角田台遺跡が展開する。

N10区（第117図 図版27）

調査区東部小舌状台地西側斜面に平行する。N8区の延長上に立地する。南北方向で、北端はN7区から分岐する。斜面に沿って「く」字状にカーブし、検出長は約70mである。南東端は斜面を下って、斜面と一体化する。

断面観察調査により、土手に伴う溝が確認された。A-A'では、台地側に溝が検出された。溝は、幅1.08m、底面幅0.43m、深さ0.33mである。土手は、基部幅1.5m、残高0.64mである。観察調査区内に検出された溝の底部に連続すると思われる楕円形の土坑が検出された。構列を伴う溝の可能性がある。

B-B'では、台地側に溝が検出された。溝は、幅1.05m、底面幅0.4m、深さ0.28mである。土手は、基部幅1.76m、残高0.55mである。

C-C'は、斜面部で、盛土ではなく台地斜面部の地山整形を施している。両側に溝が検出された。台地側の溝は、幅2.1m、底面幅0.5m、深さ0.8mである。谷側の溝は、幅1.15m、底面幅0.4m、深さ0.48mである。土手は斜面整形で、盛土はないが、溝の間が土手状である。基部幅3.07m、谷側の溝からの高さは3.3mである。

これは、野馬土手の斜面部の構造を示す例と考えられる。

N11区（第117図 図版29）

調査区「L」字状舌状台地東側斜面に平行する。北西から南東方向で、北西端がN6区から分岐する。検出長は約135mである。南東端は斜面を下って、斜面と一体化する。

断面観察調査により、土手に伴う溝が確認された。斜面を整形して、見掛けの土手を形成している。A-A'では、台地側に溝が検出された。溝は、幅1.94m、底面幅0.75m、深さ0.5mである。土手は、基部幅2.37m、残高0.8mである。ただし、調査部分の斜面下からの比高は3.65mにおよぶ。

B-B'では、台地側に溝が検出された。溝は、幅1.48m、底面幅0.3m、深さ0.44mである。溝内に円形の土坑列が検出された。深さは、底面から0.2mである。構列を伴う可能性がある。土手は、基部幅2.9m、残高0.45mである。ただし、調査部分の斜面下からの比高は2.08mである。

前述のように、野馬土手の解説は、土手と溝との関係を明らかにして行うものである。SA001もこれに従って説明した。土手と溝からSA001内の土手を分類することが可能と考えられる。

土手の構造および機能については、前掲の雨宮論文※※に歴史的資料を踏まえた考察が述べられている。ここでは、土手が、牧関連の野馬土手の機能ではなく、農作業に関連して、害獣としての獣（鹿、猪）が、耕作地に進入することを防ぐ猪垣（シシガキ）として機能したことを述べている。規模的には、現存する残りの良い野馬土手と比較して、土手の高さ、溝の深さ、土手、溝を含んだ全体の幅から、現存の野馬土手には劣り、野馬土手としての機能が果たせなかつたと考えている。そして、猪垣として2種類の機能を考察している。

1つは、N6区・N7区・N8区で囲われた区画を、畑地を守るためにワチ形猪垣としている。

もう1つは、N6区・N7区・N10区・N11区およびN2区・N6区・N9区の、谷奥を囲う区画で、水田（小支谷に作られた谷津田）を守るために馬蹄形猪垣である。

馬蹄形猪垣遺構については、前述のとおり、東隣の角田台遺跡※において検出されている。SD300およ

びSD345で、溝のみが検出され、土手は確認されていない。特にSD345は、全側図で照合すると、N6区の東端につながり、N9区とあわせて、全体で、向辺田遺跡東端の小支谷の谷奥部を囲む馬蹄形になることが判明した。

土手と溝との関係を考慮した土手の分類としては、両溝土手、片溝土手、無溝土手の3種類になる。

両溝土手はN6区のN11区の分岐から南西端斜面までの地区で、舌状台地平坦面を横断する溝である。他にはN2区の北端部、N10区の南端部である。これらは、斜面部であり部分的なものと考えられる。片溝土手は他区のほとんどである。無溝土手は明瞭ではないが、N6区のN11区の分岐から南西端斜面までの地区的北部に部分的に存在すると推定される。また、N8区は途中で溝の位置が変わる可能性がある。断面図では、北半部では台地側に、南端部では谷側に溝が検出されている。これも斜面に構築されたためと考えられる。

片溝土手は斜面に沿ったものおよび台地上のものの両者に確認される。斜面沿いのものは、溝が台地側にあるものがほとんどである。見掛けの高さを増す効果があり、台地側を意識した構造と考えられる。

台地上のものは、谷部から谷部をつないだ、台地を横断する形に構築されている。N4区、N5区の台地を東西に横切る土手およびN6区のN9区分岐とN8区分岐間の土手である。斜面沿いの土手を考慮すると、これも、溝側を意識したものと思われる。N4区、N6区については舌状台地の北側に広がる広大な台地平坦部を、N5区については「L」字状舌状台地南部の平坦面を考慮したものと考えられる。

また、N2区、N6区のN2区分岐からN4区分岐間およびN3区の南北方向部が、現在の本塙村と印旛村の行政区境と一致している。行政区はN6区のN4区分岐から直線的にN3区の南北方向部南端につながっているが、行政区画以前の、いわゆる地域の区画としては、N4区の土手が機能していた可能性がある。

N2区については北側に延長していた可能性がある。この部分は、東隣する角田台遺跡が所在する大舌状台地の基部にあたり、台地幅が最も狭くなる部分である。仮にN2区が延長して、大舌状台地基部を横断していたとすると、向辺田遺跡北側の広大な台地平坦部と角田台遺跡が所在する大舌状台地を区画することになる。N2区の溝は、北部では両側に検出されているが、西側の規模が大きいことが確認されている。よって、向辺田遺跡北側の広大な台地平坦部を意識した土手と仮定できる。

以上から、SA001は、全体としては、猪垣として機能したことは明瞭であるが、N2区北端部、N6区のN2区分岐からN4区分岐間、N4区およびN3区については、台地を区画する機能が明らかであると考えられる。向辺田遺跡北側の広大な台地平坦部から向辺田遺跡の舌状台地および角田台遺跡の舌状台地を区画することから、N2区北端部、N6区のN2区分岐からN4区分岐間、N4区およびN3区の土手は、猪垣として機能する以前に、向辺田遺跡北側の広大な台地平坦部に所在したと考えられる牧の野馬土手として機能していたと考えられる。

* 香取正彦 千葉県教育振興財団調査報告第530集『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書 XⅧ - 本塙村角田台遺跡（弥生時代以降）-』 平成18年3月 財團法人 千葉県教育振興財團

※※ 前掲169頁

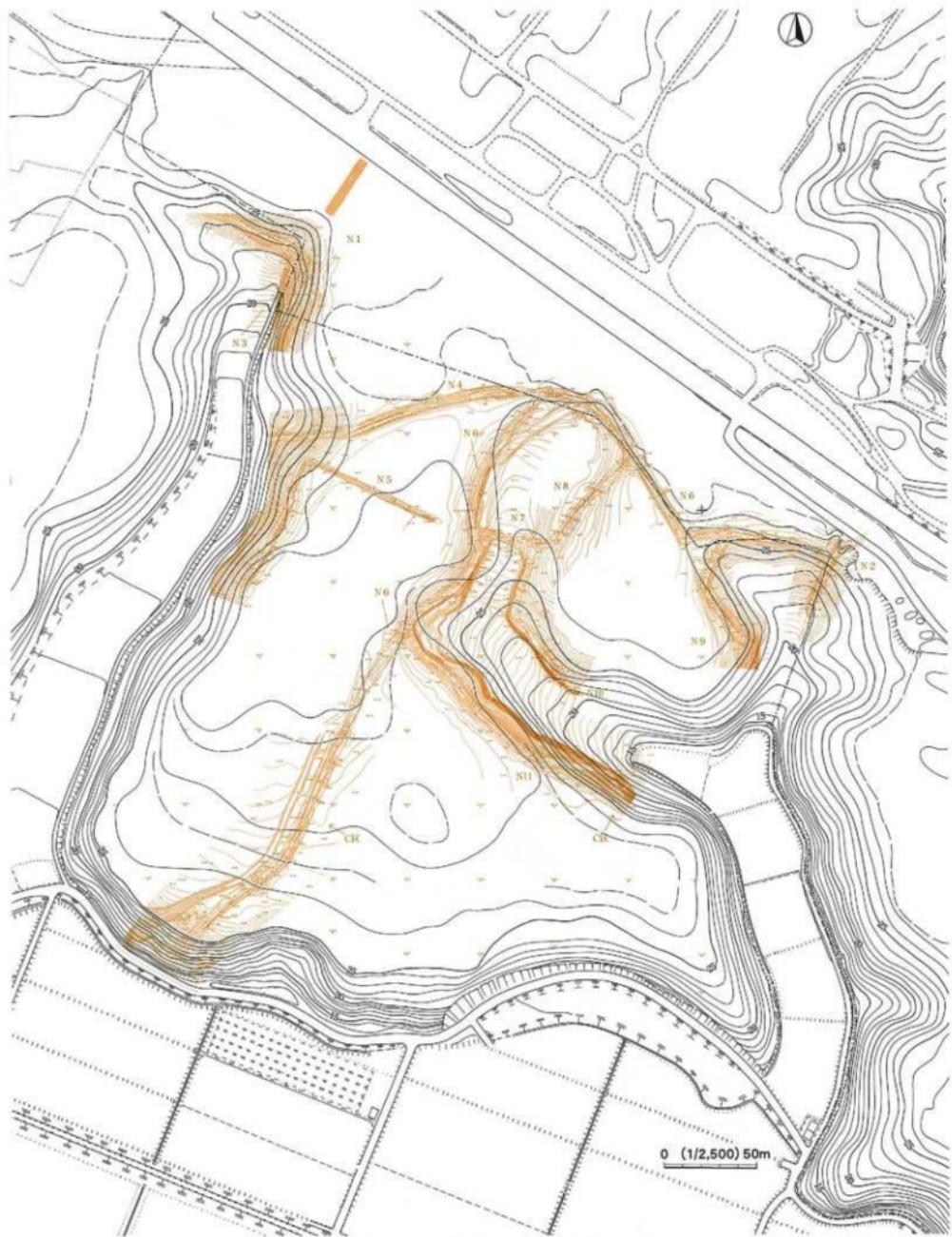
第2節 遺物（第121図）

中・近世の出土遺物は、陶磁器片、瓦質土器片、銭貨がある。陶磁器片、瓦質土器片については、細片が多く、染付磁器等近世以降と考えられる遺物がほとんどである。

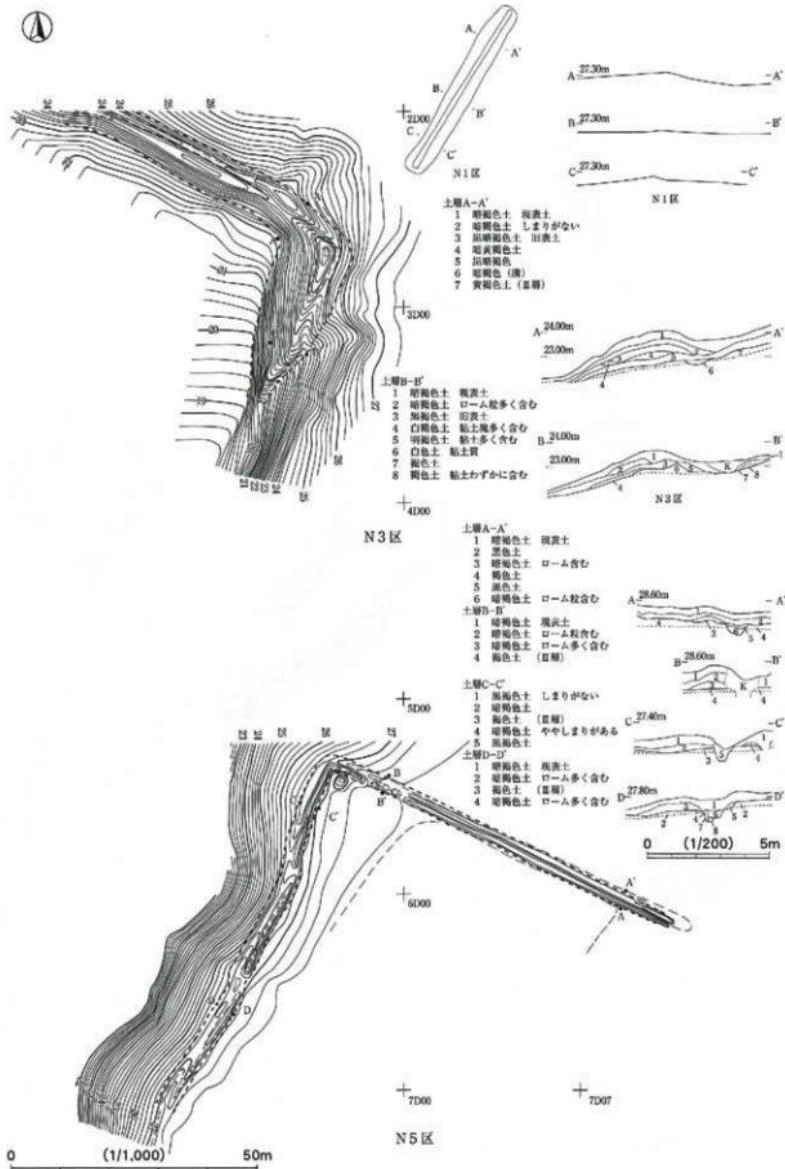
銭貨は寛永通宝および渡来銭が出土している。1～3は寛永通宝である。1・2はSM047塚の盛土出土で、1は重量2.46g、2は重量3.07gである。文字の形から、いわゆる「古寛永」と考えられる。

3はグリッド出土である。重量は1.97gと、1・2に比べて、軽く、全体に小ぶりである。いわゆる「新寛永」である。

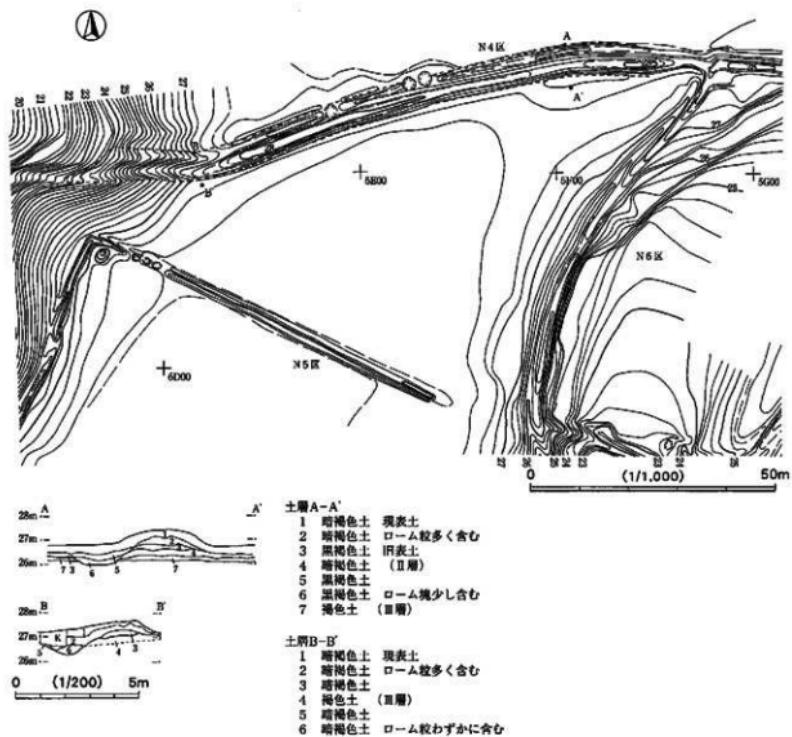
4は渡来銭である。銭名は篆書の「景祐元寶」である。重量は1.93gで、背面に鋳型のずれがみられる。



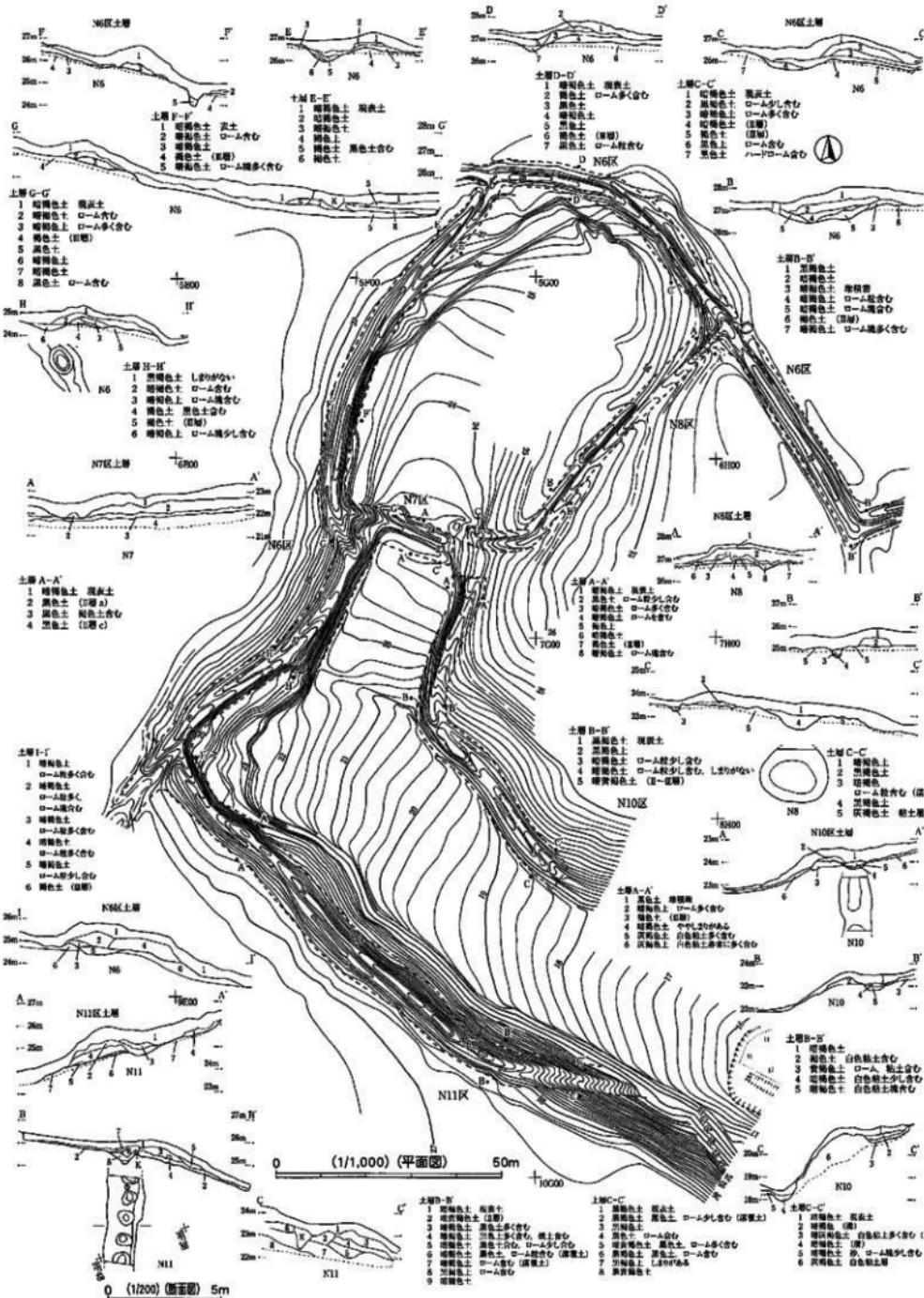
第114図 野馬土手・猪垣地形図



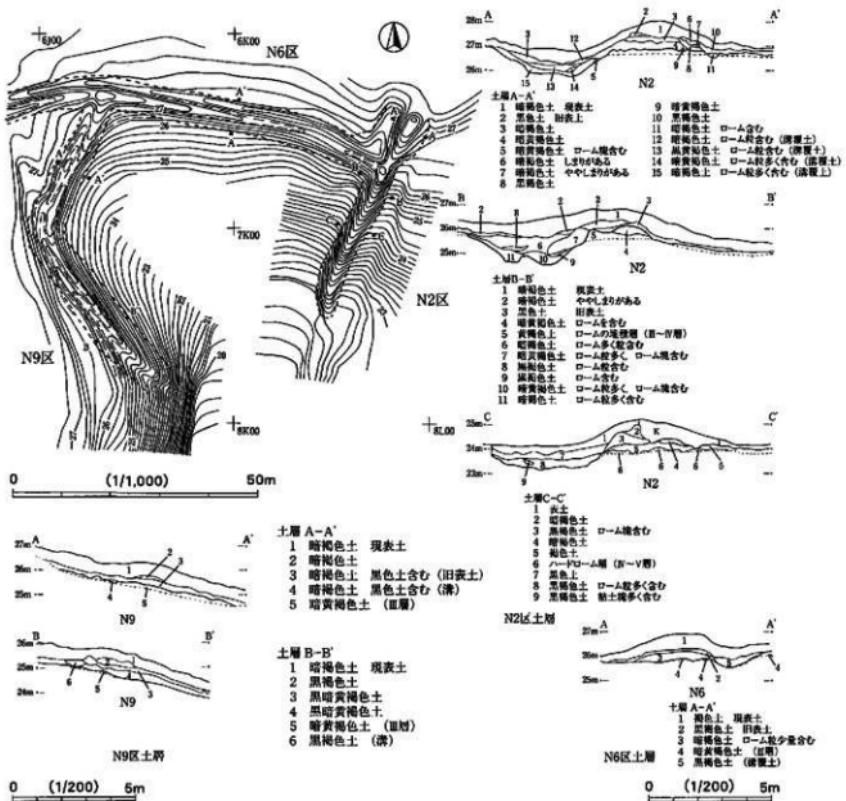
第115図 野馬土手・猪垣(1)(N1・3・5区)



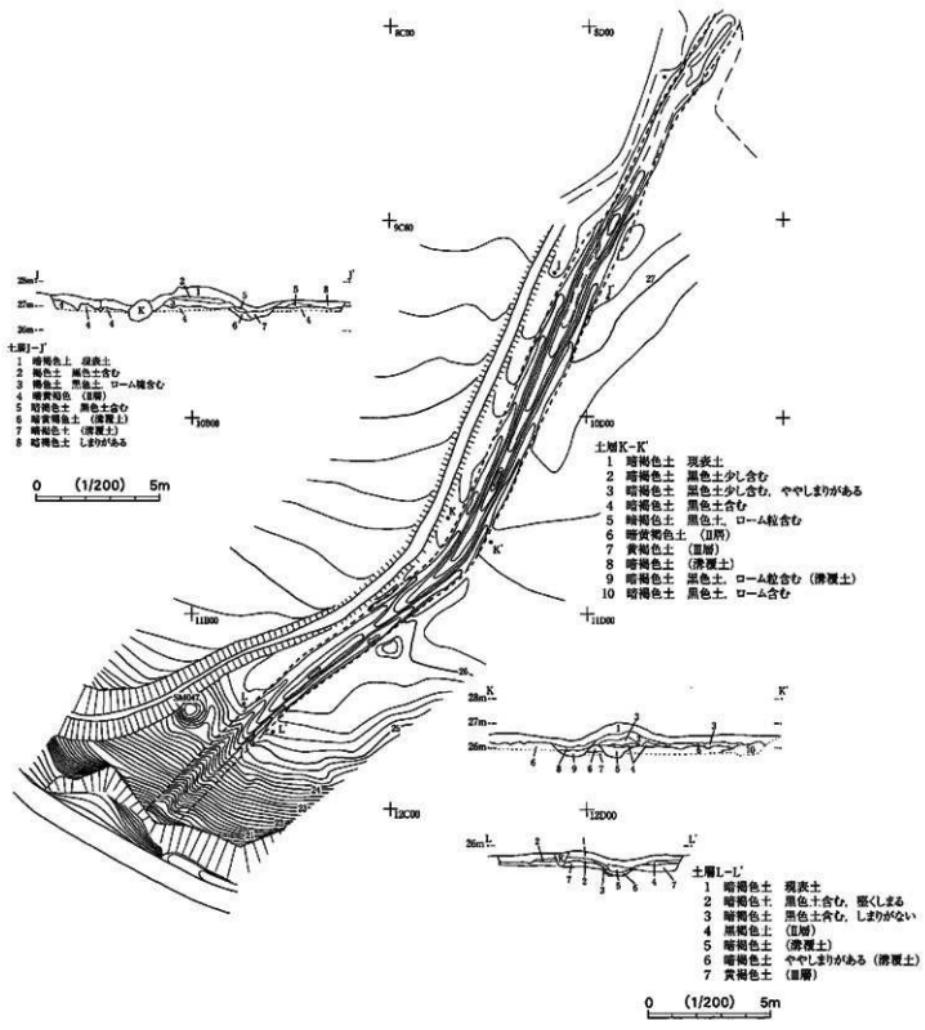
第116図 野馬土手・猪垣(2)(N4区)



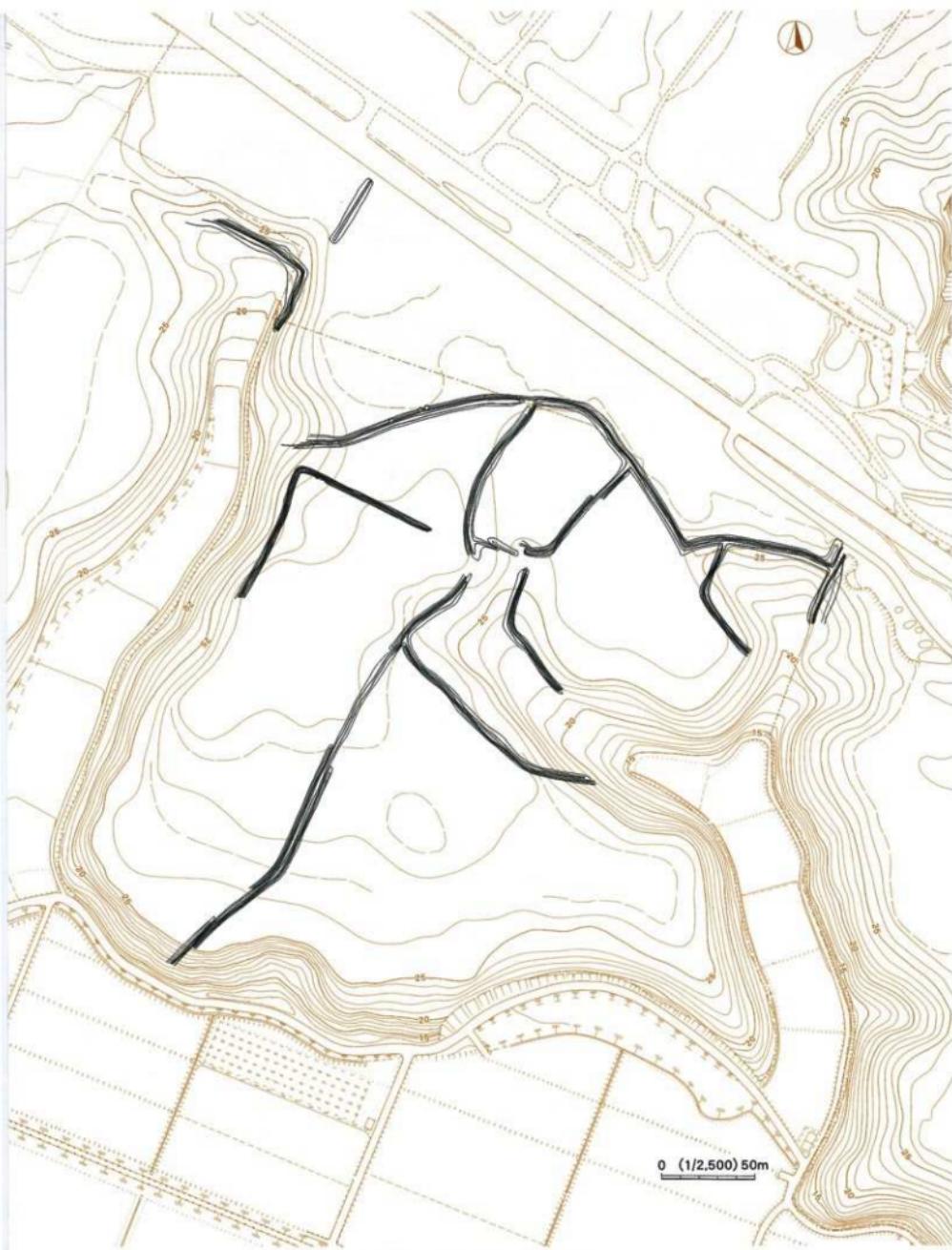
— 182 — 第117図 野馬土手・猪垣（3）(N6~8・10・11区)



第118図 野馬土手・猪垣(4)(N2・6・9区)



第119図 野馬土手・猪垣 (5) (N6区)



第120図 野馬土手・猪垣構造図



0 (1/1) 5cm

第121図 錢 貨

第15表 中世土坑一覧表

番号	調査 年度	グリッド (大)	グリッド (小)	平面形	規模(cm) 長軸(延) ×短軸(延)	方位 (反時計等)	深さ (cm)	内部施設 (計測値はcm)	土層	その他
SK010	7	TD	16	橢円	187×163	N-80°-W	58			底面に凹凸。SD019と重複。 木遺構が古いと思われる。
SK016	7	TJ	81	橢円 (玉子形)	211×112	N-62°-E	26		焼土少量発見。	底面に凸凹。
SK017	7	8J	20・30	橢円	72×56	N-4°-E	15		焼土散布は少。焼土ブロック 検出。	
SK018	7	6H	92・93	橢円	103×95	N-0°-E	43		ほぼ單一土層。埋め戻しと思 われる。	底面は皿状にくぼむが、凹 凸はない。
SK019	7	7G	24・25	橢円	114×87	N-87°-E	36		レンズ状の自然堆積。	床面平坦。
SK020	7	7G	05	ほぼ円	99×86	-	42		レンズ状の自然堆積。	底面が表面に片寄る。
SK021	7	7F	49	長方形	170×148	N-29°-E	18	ピット・円形・ 窓66-深13	窓一であるが、浅いため、埋 め戻し。	床面平坦。ピットを有する。
SK022	7	7G	81・91	長方形	176×141	N-15°-W	30		庭園埋戻しの土層。土壤層と思 われる。	床面平坦。
SK023	7	7G	60	ほぼ円	116×110	-	20		埋め戻し。	床面平坦。土壤層。
SK024	7	7G	90・91	ほぼ円	86×80	-	19		埋め戻し。	床面平坦。土壤層。
SK026	8	6H	76・77	長方形	126×67	N-15°-W	54		レンズ状の自然堆積。	床面平坦。
SK027	8	7G	63	ほぼ円	86×65	-	14		埋め戻し。	床面平坦。
SK028	8	7G	41	ほぼ円	76×68	-	21		床面平坦。	床面平坦。
SK029	8	7G	51	橢円	57×48	N-29°-W	11		床面平坦。	床面平坦。
SK030	8	8G	02	ほぼ円	76×52	-	18		床面平坦。	床面平坦。
SK031	7	7G	91	ほぼ円	76×68	-	19		床面平坦。	床面平坦。
SK032	7	7G	80	橢円	82×54	N-21°-W	9		床面平坦。	床面平坦。
SK033	7	7G	70・80	橢円	89×74	N-24°-E	8		床面平坦。	床面平坦。
SK034	7	7G	70・80	橢円	102×97	N-25°-E	8		床面平坦。	床面平坦。
SK035	7	7G	70	橢円	106×78	N-36°-W	20		床面平坦。	床面平坦。
SK036	7	7F	89	ほぼ円	76×70	-	8		床面平坦。	床面平坦。
SK037	8	7F	58・59	不定な橢円	105×76	N-45°-E	26		焼土充填。埋め戻し。	底面やや凹凸。(焼土遺構) 土壤層。
SK038	8	7F	79・89	橢円	104×68	N-48°-W	18		ブロック状の土層。埋め戻し。	床面平坦。
SK039	8	7G	72・82	橢円	168×103	N-57°-W	20		床面平坦。	床面平坦。
SK040	8	6C	60・61	橢円	140×117	N-39°-W	16		底面付近で、ほぼ單一層。	床面平坦。
SK041	8	6C	86	橢円	207×133	N-72°-E	32		埋め戻し。	床面平坦。
SK045	8	6C	75・76・ 85・86	橢円	180×125	N-21°-E	28		レンズ状の自然堆積。	底面やや凹凸。
SK046	8	11E	47	長方形	144×110	N-29°-E	13		僅く、單一土層。埋め戻し。	床面平坦。
SK055	8	11E	46	橢円	208×179	N-51°-W	16		後く、單一土層。埋め戻し。	床面平坦。
SK056	8	11E	92	橢円	143×129	N-75°-E	28		埋め戻し。	床面平坦。
SK057	8	11D	48	ほぼ円	76×25	-	33		埋め戻し。	床面平坦。
SK058	8	11E	20・30	長方形	168×158	N-14°-E	30		埋め戻し。ややしまりがない。	床面平坦。
SK067	8	10C	93・94	丸味がある長方形	166×148	N-85°-E	9		ブロック状の土層。埋め戻し。	床面平坦。
SK070	8	11E	90	円	76×44	-	17		埋め戻し。	床面平坦。
SK071	8	11D・ 11E	89・80	円	76×72	-	12		埋め戻し。	床面平坦。
SK072	8	11D	79	円	76×68	-	24		埋め戻し。	床面や盤状にくぼむ。
SK073	8	11D	59	円	76×62	-	17		埋め戻し。	床面平坦。
SK074	8	11D	59	円	76×42	-	13		埋め戻し。	床面平坦。
SK075	8	11E	10	円	76×55	-	14		床面平坦。	
SK076	8	11D	47	円	76×28	-	45		床面平坦。	
SK077	8	11D	46	円	76×56	-	21		床面平坦。	
SK078	8	11D	17	橢円	53×35	N-23°-E	14		床面平坦。	
SK079	8	11D	25	橢円	52×37	N-7°-W	33		床面平坦。	
SK080	8	11D	05	橢円	96×85	N-29°-E	27		床面平坦。	
SK081	8	11D	95	円	76×60	-	12		床面平坦。	
SK082	8	11D	95	円	76×58	-	21		床面平坦。	
SK083	8	11D	74	橢円	40×35	N-45°-E	22		床面平坦。	
SK084	8	11D	74	円	76×66	-	40		床面平坦。	
SK085	8	11D	64	橢円	36×31	N-67°-W	33		床面平坦。	
SK086	8	11D	53・63	円	76×76	-	12		床面平坦。	
SK087	8	11D	82	円	76×100	-	26		床面平坦。	
SK088	8	11D	72	橢円	68×52	N-69°-E	20		床面平坦。	
SK089	8	11C	39	円	76×54	-	25			
SK089	8	11C	39	橢円	90×63	N-73°-E	31	既に有り。深26		
SK090	8	11C	38・39	橢円	73×61	N-45°-E	26		床面平坦。	
SK091	8	11C	28	円	76×62	-	32		床面平坦。	
SK092	8	11C	27	橢円	75×63	N-65°-E	50			
SK093	8	11C	27	橢円	73×60	N-90°-E (W)	27			
SK094	8	10C	77	橢円	68×62	N-25°-W	19			

番号	調査 年度	グリッド (大)	グリッド (小)	平面形	規模 (cm) 基盤 (3D) × 基盤 (3D)	方位 (基盤等)	深さ (cm)	内部施設 (計測値 (2cm))	土層	その他
SK096	8	10C	76	楕円	95×72	N-40°-E	38			底面平坦。
SK096	8	11B	00	楕円	94×77	N-32°-W	21			底面平坦。
SK097	8	10A	98	楕円 (玉子形)	54×36	N-80°-W	9		全体に焼土。	浅い。(焼上遺構)
SK098	8	10B	22	楕円	79×59	N-0°-E (W)	11		全体に焼土。	浅い。(焼土遺構)
SK099	8	10A	62	楕円	79×50	N-64°-W	10		全体に焼土。	浅い。(焼土遺構)
SK102	8	10A	40・41・ 50・51	ほぼ円	62×59	-	10		全体に焼土。	浅い。(焼土遺構)
SK103	8	11D	77	楕円	53×45	N-3°-E	9			
SK104	8	11D	67	円	54×42	-	20			
SK105	8	10A	68・78	楕円	84×62	N-8°-E	8		全体に焼土。	浅い。(焼土遺構)
SK107	8	9B	61・71	楕円	157×115	N-3°-W	25		ブロック状。埋め戻し。	底面やや凹凸。
SK115	8	11C	27	長方形	127×120	N-49°-W	15		埋め戻し。	底面やや凹凸。
SK116	8	11C	34	楕円	74×70	N-45°-W	12			底面平坦。
SK117	8	10D	54	楕円	96×55	N-37°-W	20		ブロック状。焼土含。埋め戻し。	
SK118	8	11F	93	楕円 (玉子形)	35×33	N-13°-E	8		ブロック状。埋め戻し。	底面が北に片寄る。

第8章 おわりに

向辺田遺跡は、南側を東流する師戸川に向かって伸びる2つの舌状台地上およびその基部に立地する。1つは南に伸びる「L」字状で、南部の東西方向の台地が広く、師戸川の低地に面している。もう1つは、「L」字状舌状台地基部の東に位置し、師戸川の小支谷に臨む、南東に伸びる東部小舌状台地である。

旧石器時代としては、石器集中区として認められるものが、12か所検出された。出土層位としては、Ⅲ層、Ⅳ・V層、V・VI層、VII-X層がある。ここでは、各層位ごとの分布の特徴を述べる。

Ⅲ層の石器集中は、石器集中2・3の2か所である。石器集中2は遺跡調査区の北西端、「L」字状舌状台地基部西端の小支谷最奥部に臨む斜面際に位置する。また、石器集中3は遺跡調査区の北東端、東部小舌状台地東側の小支谷最奥部からやや北に離れた、台地平坦面に位置する。同じⅢ層出土でも、立地が異なることが分かる。

IV・V層の石器集中は、石器集中1・11の2か所である。石器集中1は、石器集中2と同様に、遺跡調査区の北西端、「L」字状舌状台地基部西端の小支谷最奥部に臨む斜面間に位置する。石器集中11は遺跡調査区の南西端、「L」字状舌状台地西側小支谷の師戸川低地への出口部分に臨む、台地上斜面間に位置する。斜面際の立地で共通すると考えられる。

V・VI層の石器集中は、石器集中4・10の2か所である。石器集中4は遺跡調査区の北東端、東部小舌状台地東側の小支谷最奥部に臨む斜面間に位置する。石器集中10は、石器集中11と同様に、遺跡調査区の南西端、「L」字状舌状台地西側小支谷の師戸川低地への出口部分に臨む、台地上斜面間に位置する。IV・V層の石器集中と同様に、斜面際の立地で共通すると考えられる。

VII-X層の石器集中は石器集中5・6・7・8・9・12の6か所で、遺跡調査区内で最も多い。石器集中5および石器集中7・8・9は、東部小舌状台地上に位置する。石器集中5は基部付近で、石器集中7・8・9は斜面際である。特に、石器集中7・8・9は斜面に沿うように分布し、見掛け上は、環状を呈すると思われる。石器集中6は「L」字状舌状台地西側の小支谷に臨む台地斜面間に位置する。西側小支谷の出口部と最奥部のほぼ中間である。石器集中12は「L」字状舌状台地南端中央やや東の、師戸川低地に臨む斜面際に位置する。小支谷に臨まない立地に特徴があると考えられる。

縄文時代は、遺構としては、竪穴住居跡1棟、炉穴5基、陥穴13基である。竪穴住居跡および炉穴はすべて「L」字状舌状台地南部、師戸川低地に臨む斜面際に位置する。炉穴は集中せずに、斜面際に点在する。陥穴は、分布の集中が3か所である。「L」字状舌状台地北部西側の斜面際に3基が分布する。東部小舌状台地斜面際に5基が分布し、「L」字状舌状台地南端斜面際に5基が分布している。陥穴は複数がセットで機能したことが分かる分布である。遺構はすべて縄文早期に属すると考えられる。

また、早期の土器が大グリッド11D・11Eに集中している。11Dには早期住居が所在しているので、斜面際も考慮して、ローム面までの掘り込みが無く、調査で検出されなかった住居跡が存在していた可能性がある。

グリッド出土土器も早期主体であるので、向辺田遺跡の縄文時代は早期の集落であったと考えられる。

弥生時代は、検出した遺構はすべて竪穴住居跡である。検出数は12棟で、「L」字状舌状台地南部に集中して分布し、重複関係はない。

分布の状況から3グループに区分できると考えられる。SI048・049・051・052の4棟は、「L」字状舌状台地南部東寄りに位置する、東グループである。SI050・053・059・060・061・064の6棟は、「L」字状舌状台地南部中央に位置する、中央グループである。SI065・068の2棟は、「L」字状舌状台地南部西寄りに位置する、西グループである。土器の様相から東グループと西グループはほぼ同時期と考えられる。中央グループは両者とやや異なると思われる。土器の様相から、両者よりもやや新しいと思われる。

古墳時代は竪穴住居跡1棟のみである。前期に属すると思われる。「L」字状舌状台地南部西端に位置している。

奈良・平安時代は、竪穴住居跡5棟、土壙墓2基である。竪穴住居は東部小舌状台地平坦面に3棟、「L」字状舌状台地南端部斜面際に2棟が分布する。土壙墓は2基とも東部小舌状台地上に分布する。東部小舌状台地の住居は奈良時代が2棟あり、土壙墓とほぼ同時期と考えられる。全体で小規模な集落を形成していたと考えられる。

中・近世の遺構は、土坑71基、溝状遺構8条、塚1基、野馬土手・猪垣（SA001）1区画である。

土坑はグループ化できると考えられ、独立的に所在するもの、「L」字状舌状台地南部にグループを形成するもの、および東部小舌状台地にグループを形成するものに分類された。特に、東部小舌状台地南西斜面に面して検出された「コ」字状の溝であるSD0025と遺構群形成すると考えられる。

溝状遺構8条のうち、野馬土手に関連すると思われる遺構は、SD004、SD114である。野馬土手に平行した溝であることが確認された。

塚は比較的小規模で、埋納遺構等の内部施設は検出されなかった。

SA001については、獣除けの猪垣として機能していた。ただし、当初から猪垣として構築されたのではなく、野馬土手として構築された土手に、猪垣の機能を持たせるために、土手を付け加えた可能性が考えられる。

写 真 図 版



航空写真

高麗川
河原・子・新村

図版 2





C区空撮（東から）



C区空撮（北から）



C区空撮（西から）



石器集中1
石器出土状況 (2D-30)



石器集中2
石器出土状況 (2D-64)



右 石器出土状況 (2D-64中心)
左 石器出土状況 (2D-64中心部)



石器集中3
石器出土状況
(5J-27)



石器集中4
左 石器出土状況
(5K-81)
右 石器出土状況
(5K-81中心部)



石器集中4
左 石器出土状況
(5K-81中心下部)
右 石器出土状況
(5K-81中心)





石器集中 5
石器出土状況 (6H-62)



左 土層断面 (6H-62)
右 土層断面 (7C-11)



石器集中 6
石器出土状況 (7C-11)



石器集中 6
石器出土状況 (7C-11)



石器集中7
石器出土状況(7H-53)



石器集中8
石器出土状況(7H-48)



石器集中9
石器出土状況(8H-07・17)



土層(7H-53)



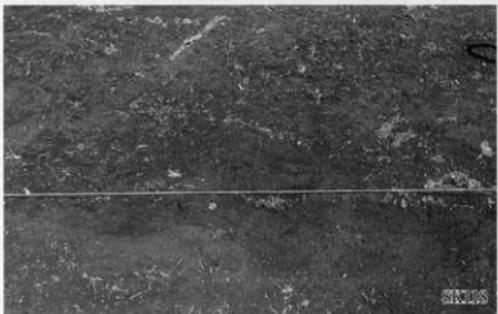
土層(7H-48)



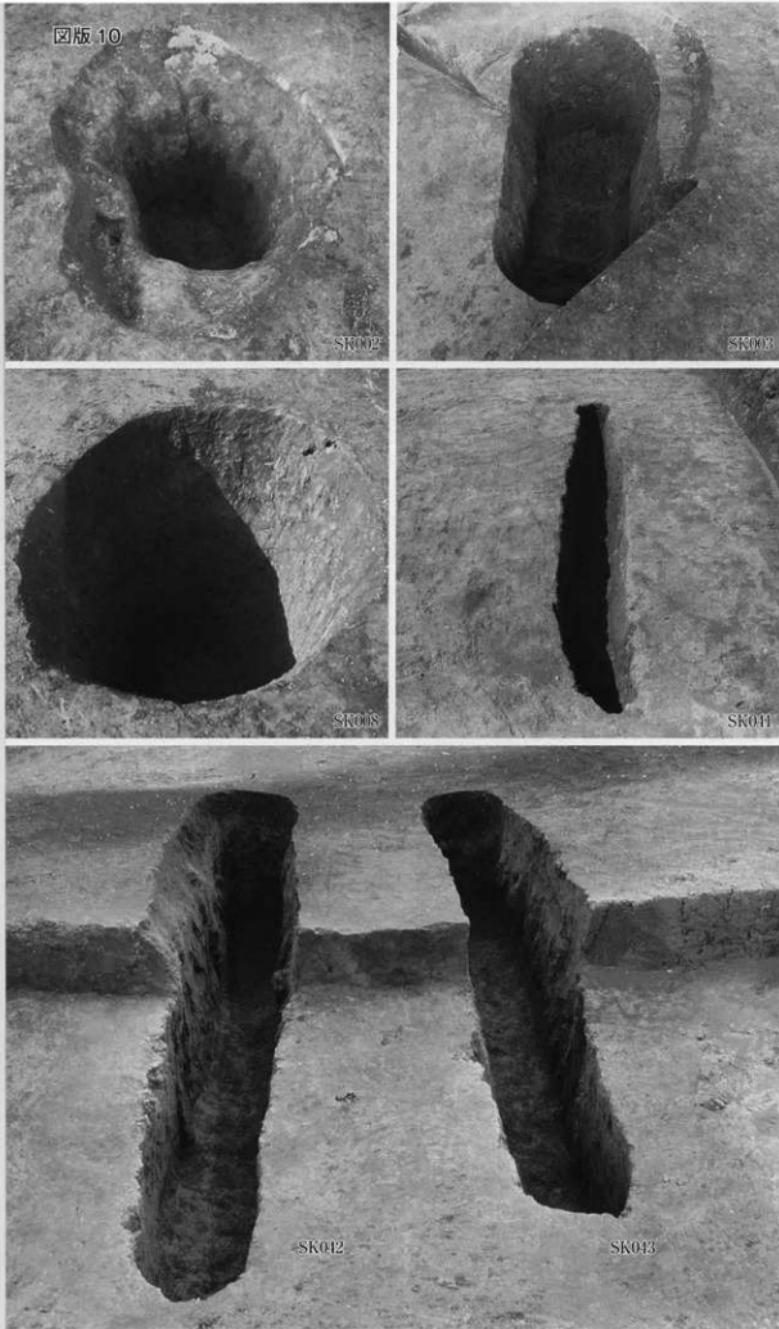
土層(8H-07・17)

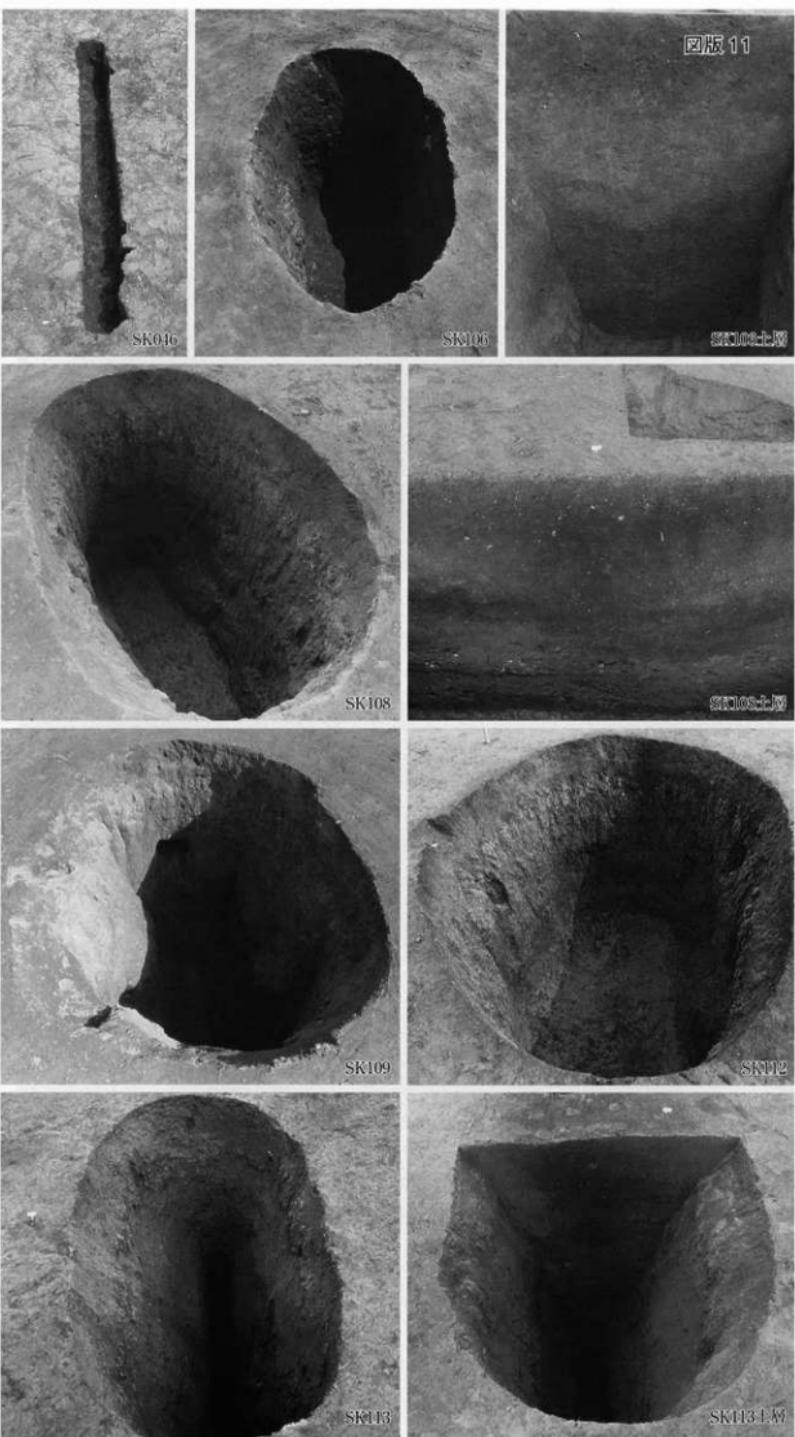
図版 8





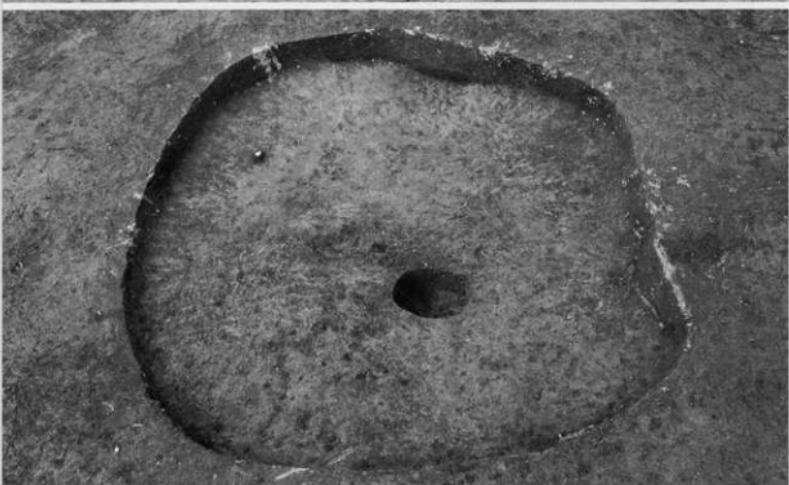
図版 10







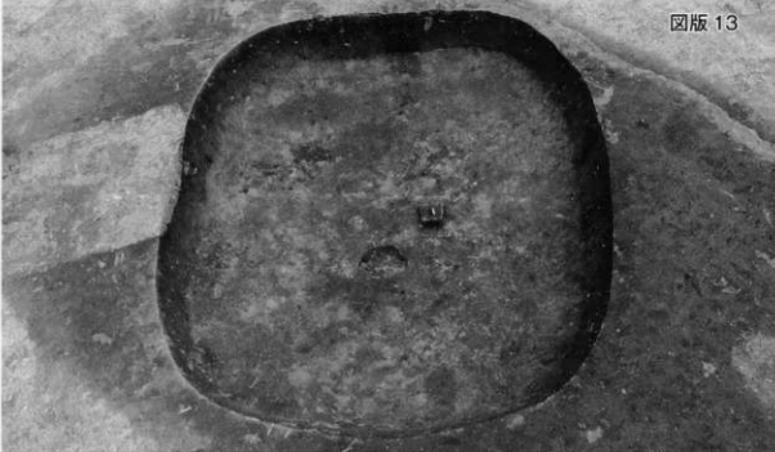
SI048



SI049



SI050



SI051



SI052

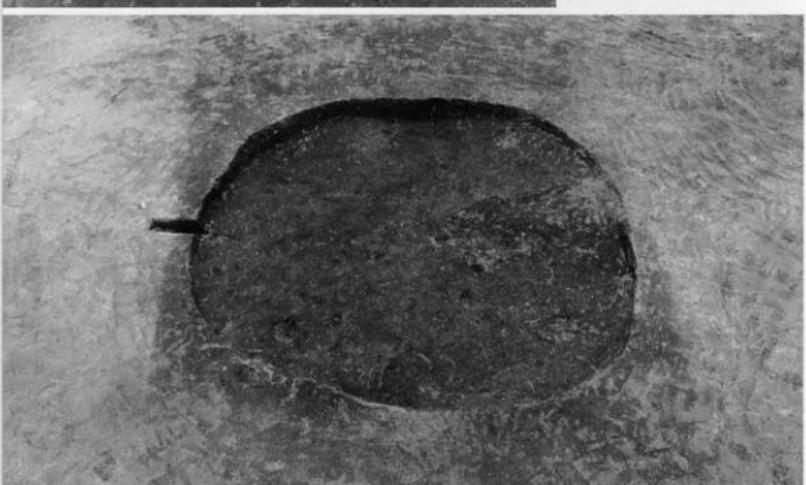


SI053

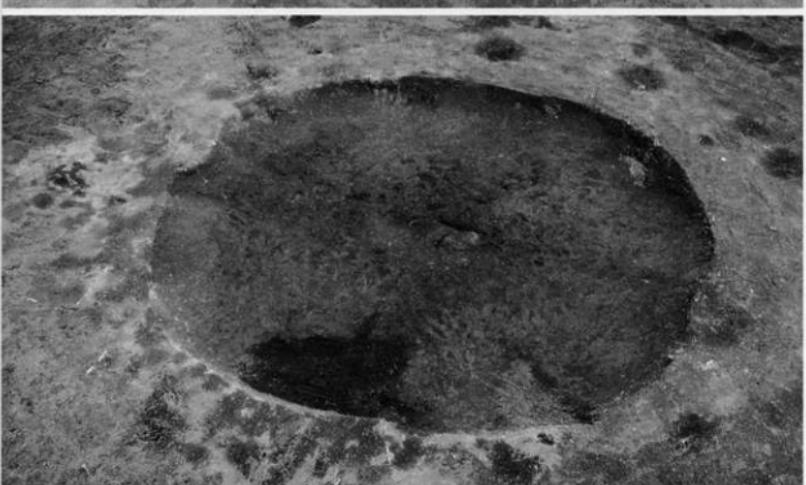


SI059遺土出土状況

SI059



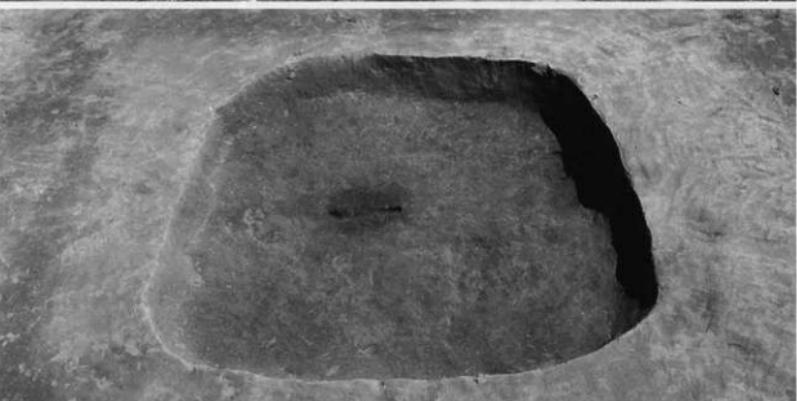
SI060



SI061



SI064



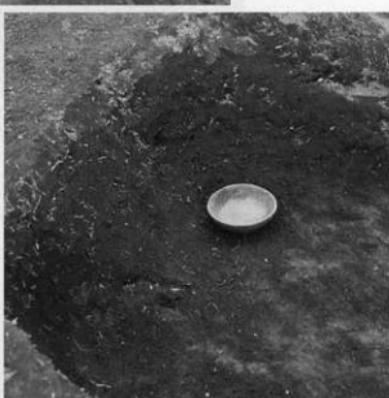
SI065



SI068



SI069



上 SI012遺物出土状況

左 SI012



SI013



SI04



SI013 遺物出土状況



SI010 遺物出土状況



SI011



上 SI062

右 SI062

遺物出土状況





上 SI063
左 SI063遺物出土状況



SK011



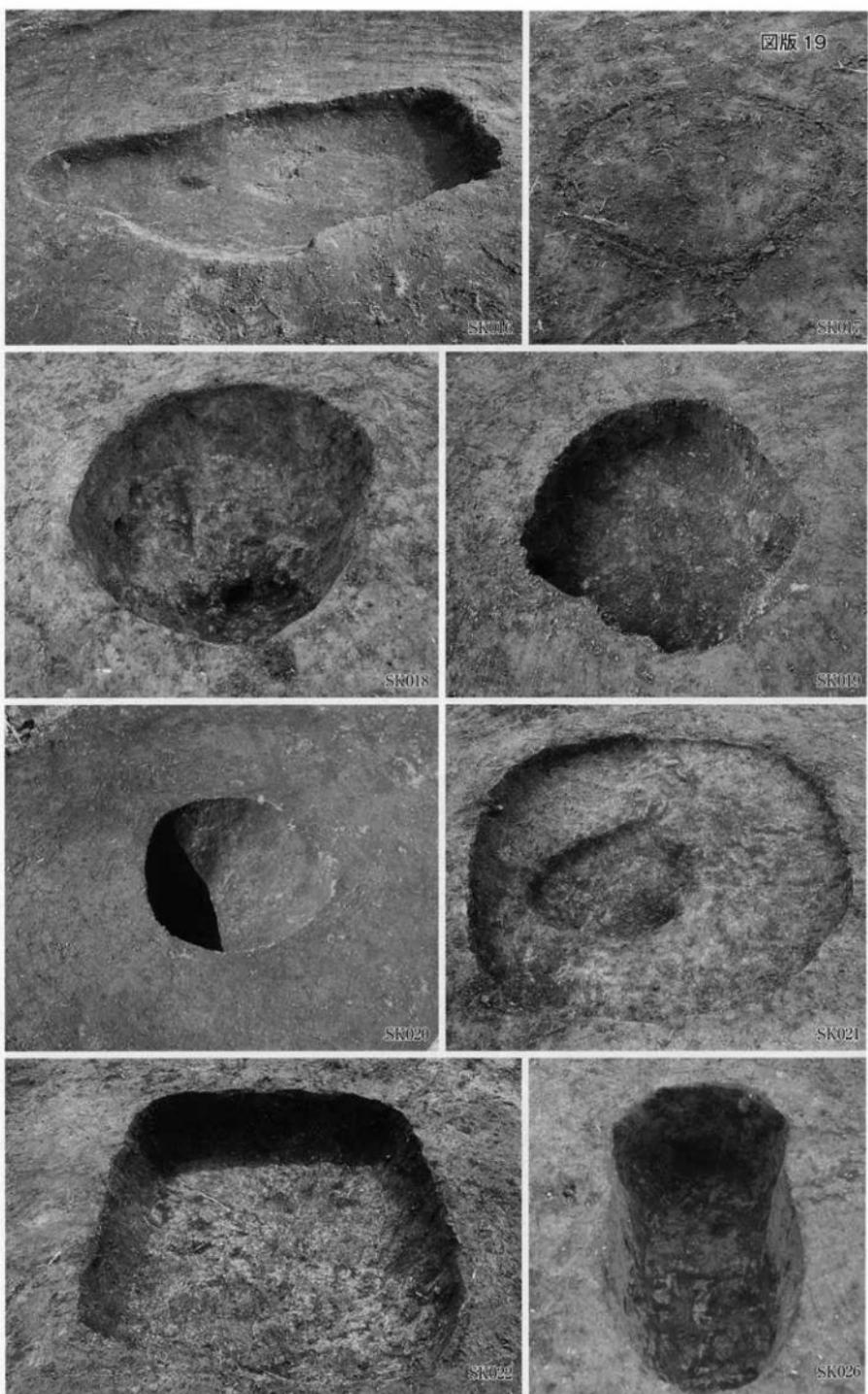
SK015

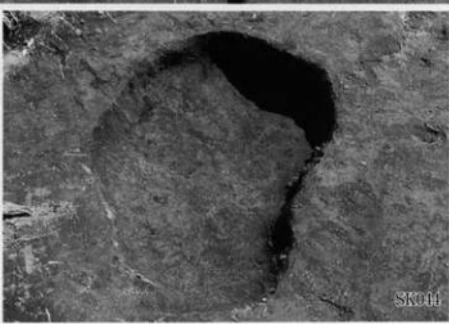
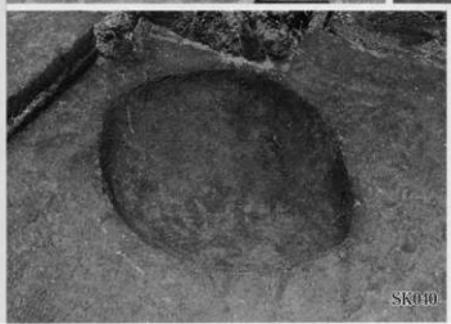
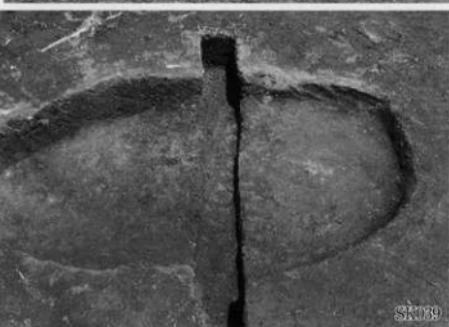
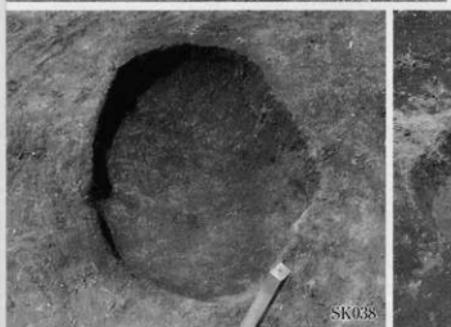
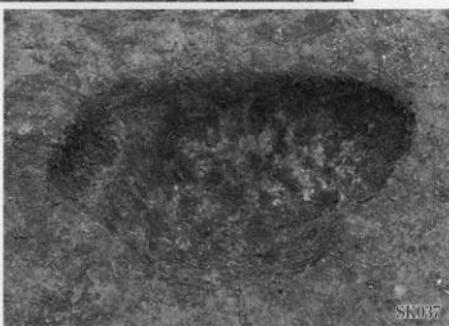
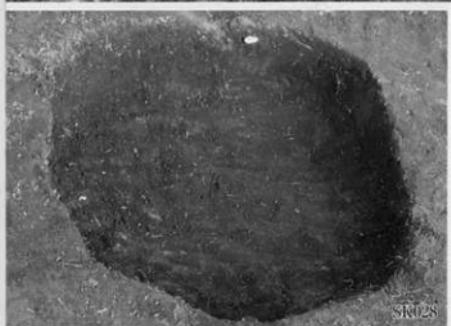


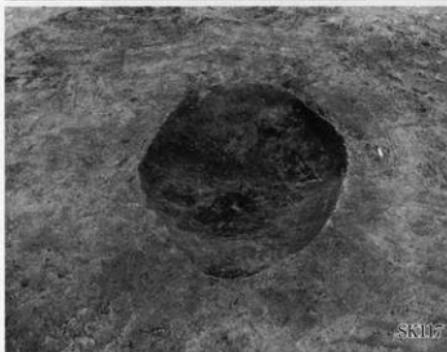
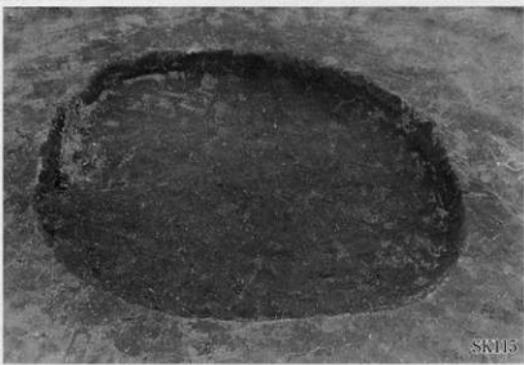
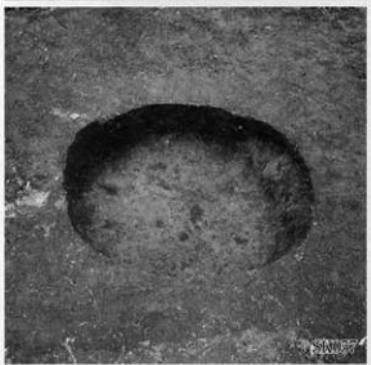
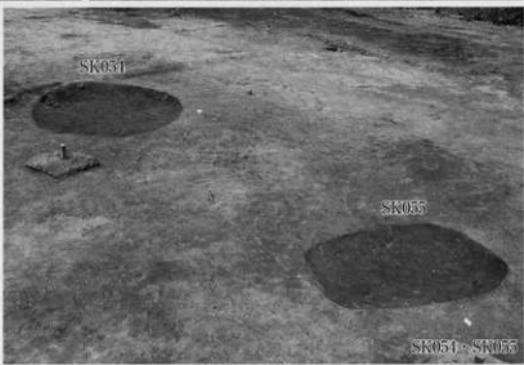
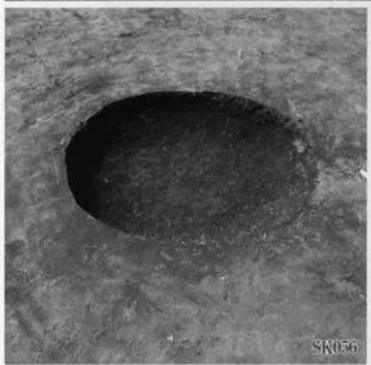
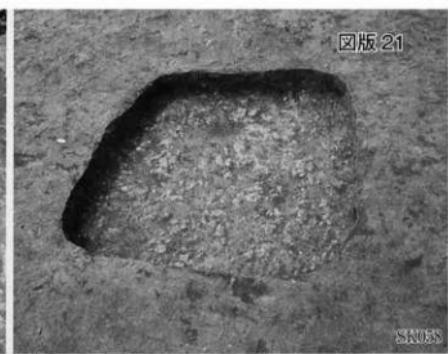
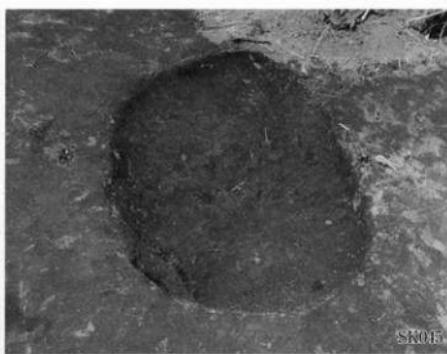
SK015遺物出土状況



SK015遺物出土状況









SD004



SD004
土層 (G-G')



SD004
土層 (H-H')



SD025



SM047調査前



SM047全景



SM047土層断面



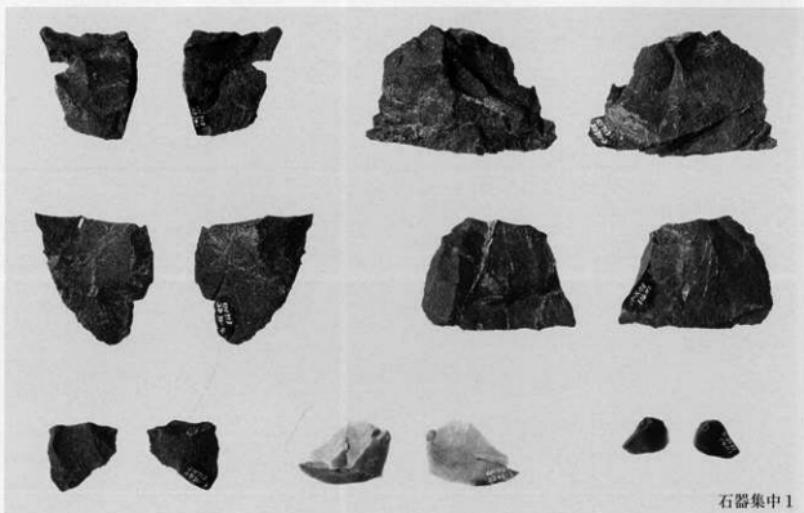




図版 28







石器集中 1



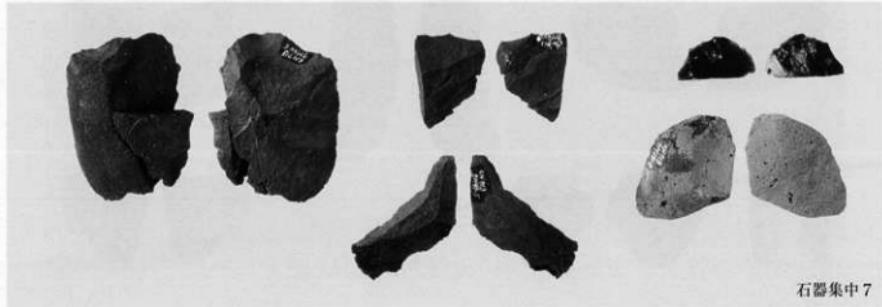
石器集中 2



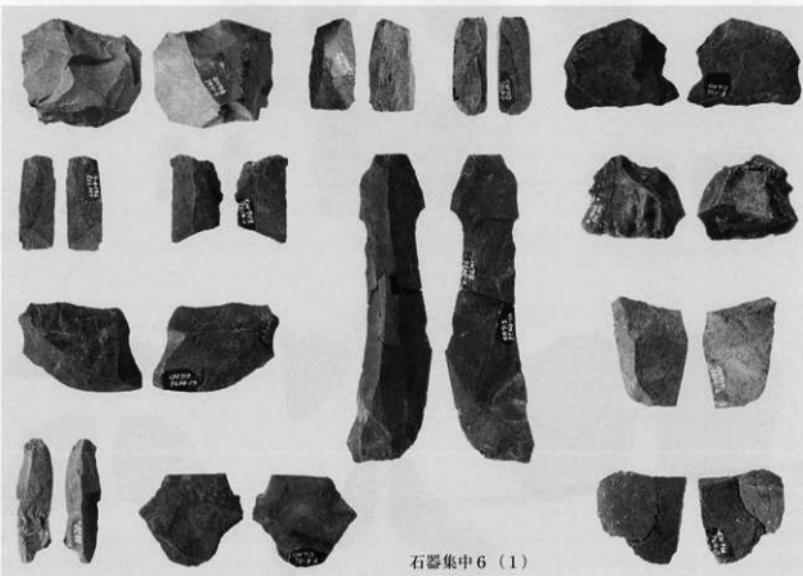
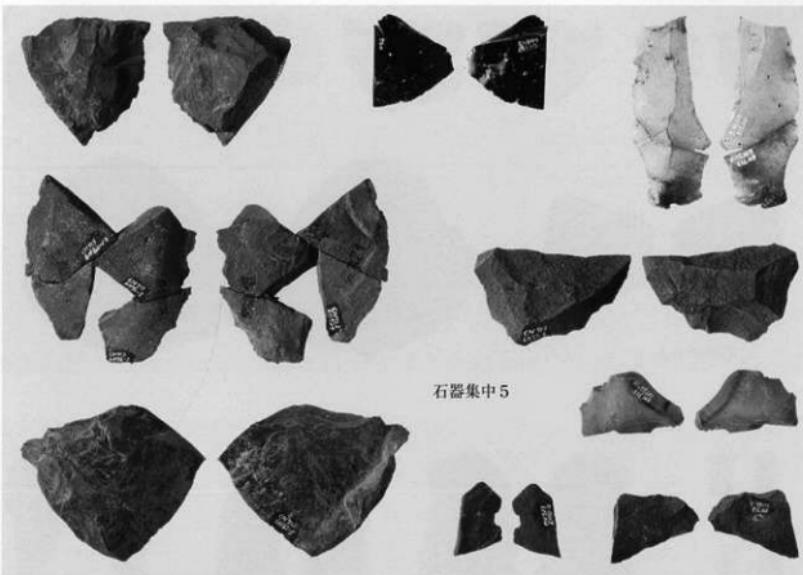
石器集中 3

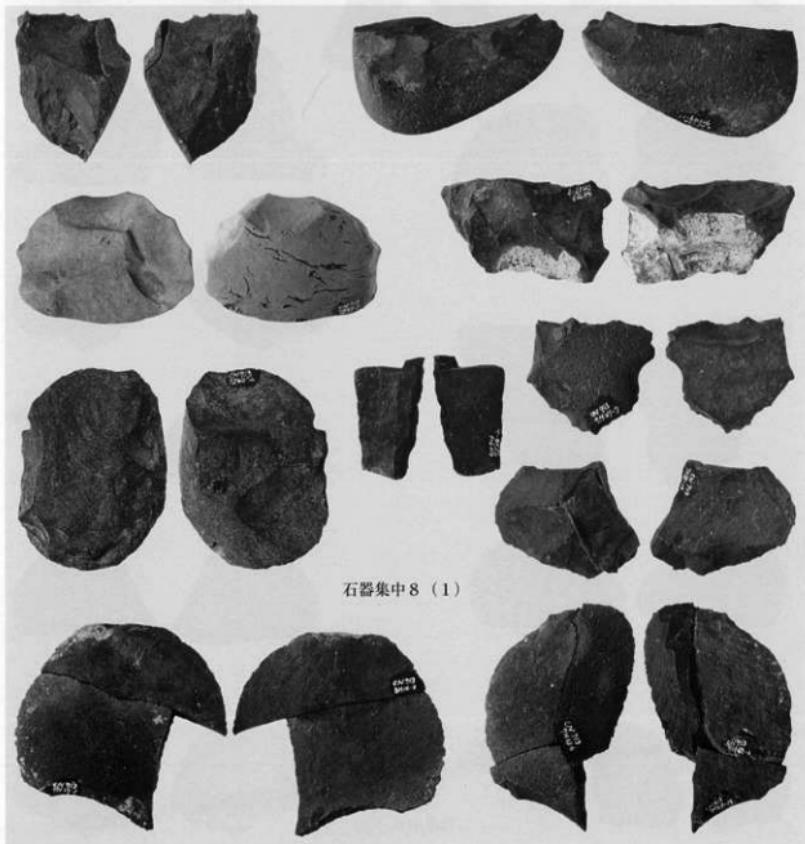


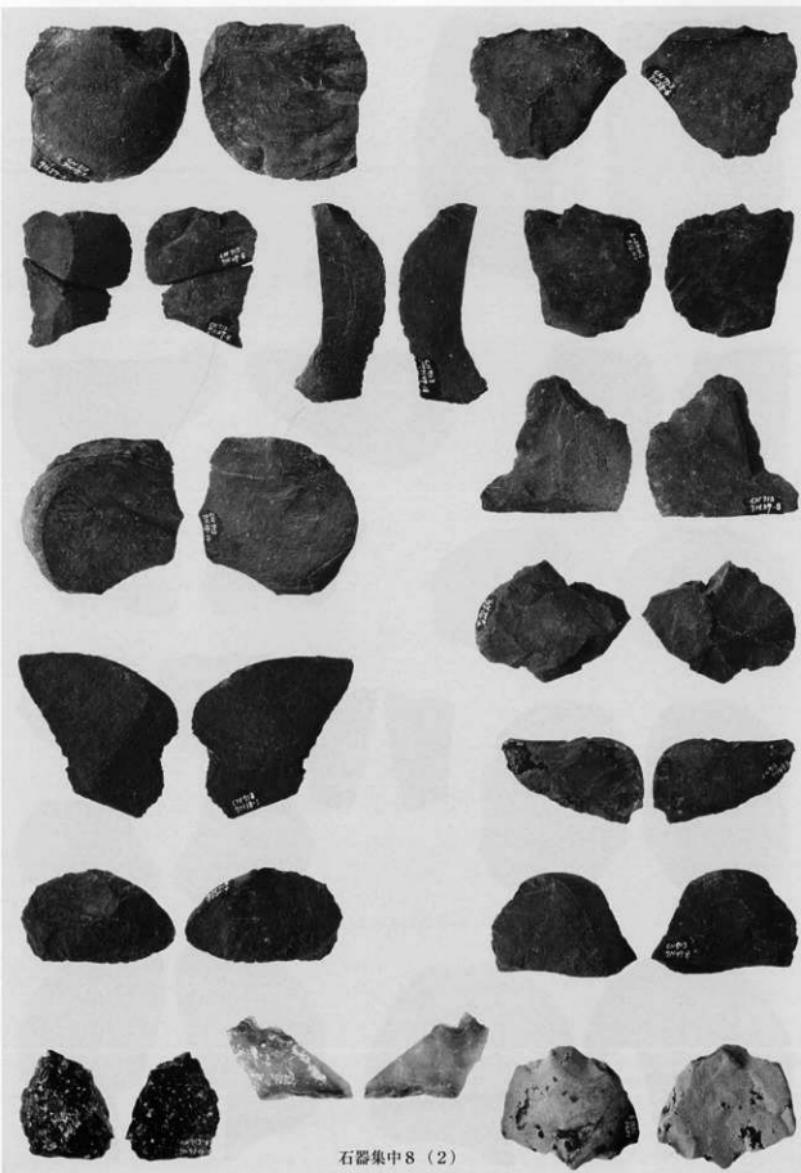
石器集中 4



石器集中 7



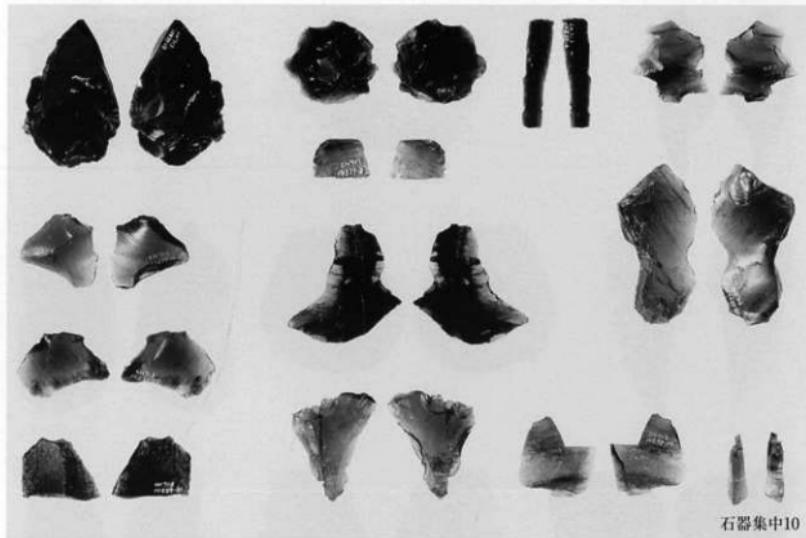




石器集中 8 (2)



石器集中 9



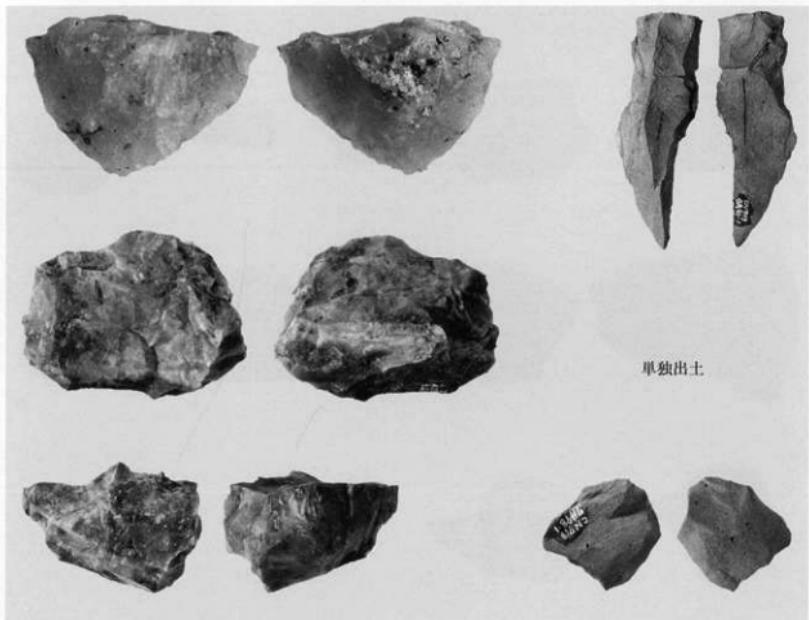
石器集中10

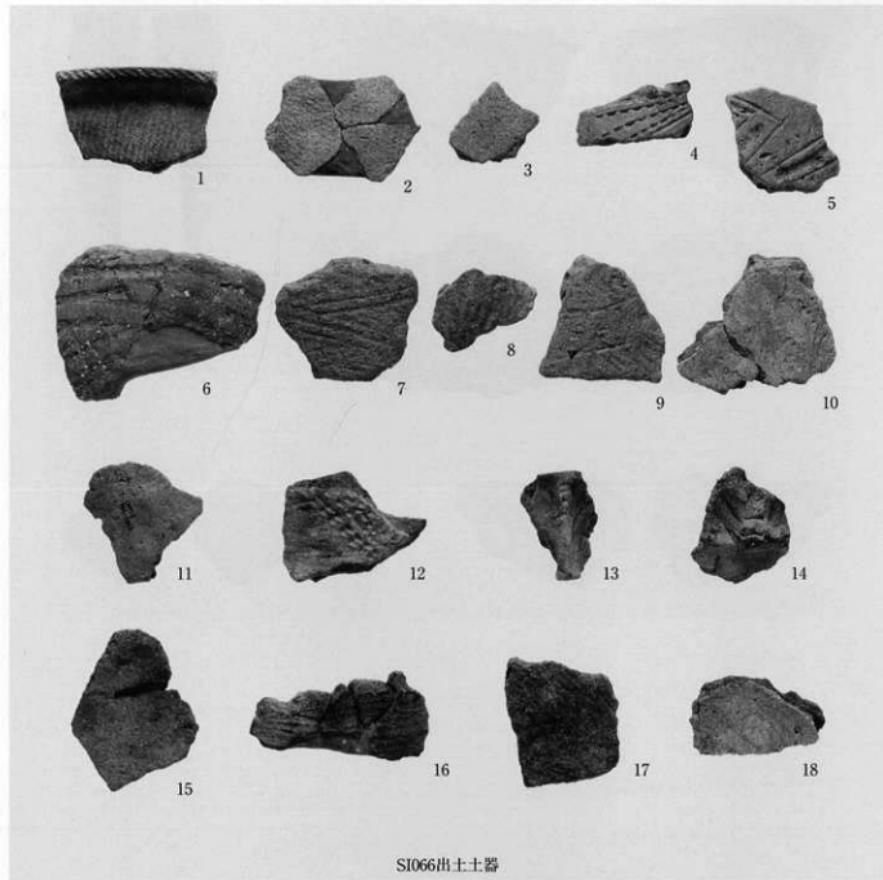


石器集中11

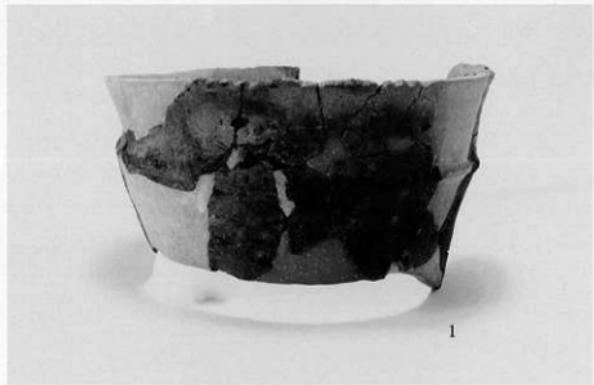


石器集中12





SI066出土土器



SK120出土土器

炉穴
SK101

1



2

SK119



4

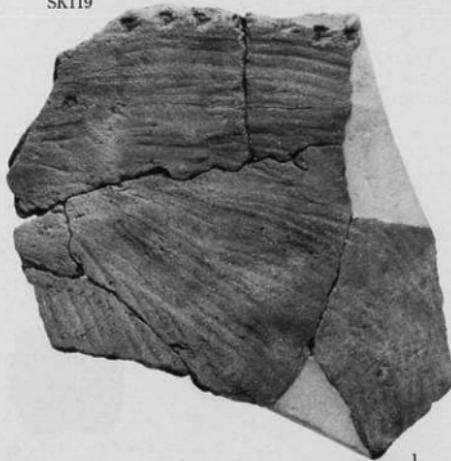


5

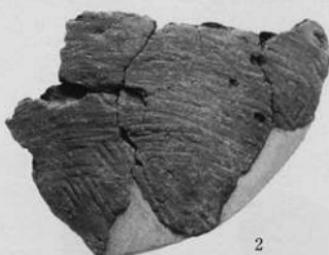


6

SK119



1



2



3

陥穴



1



2

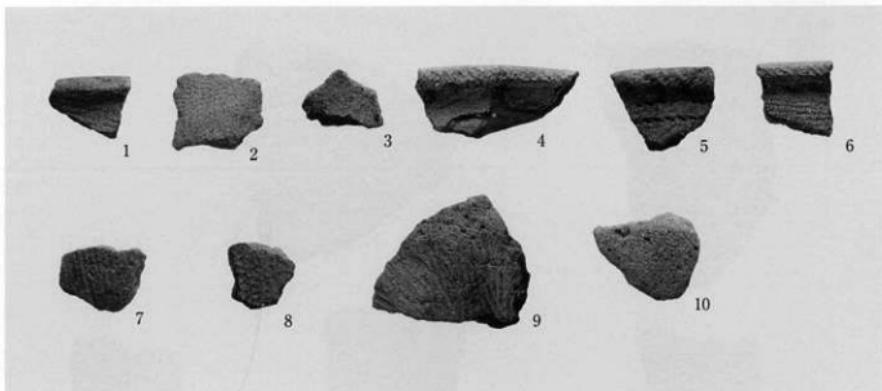


3

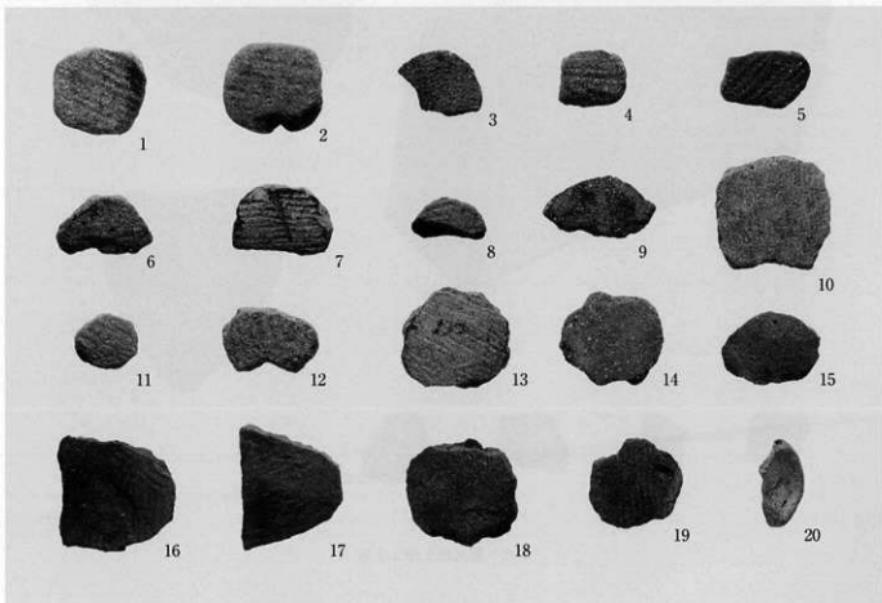


4

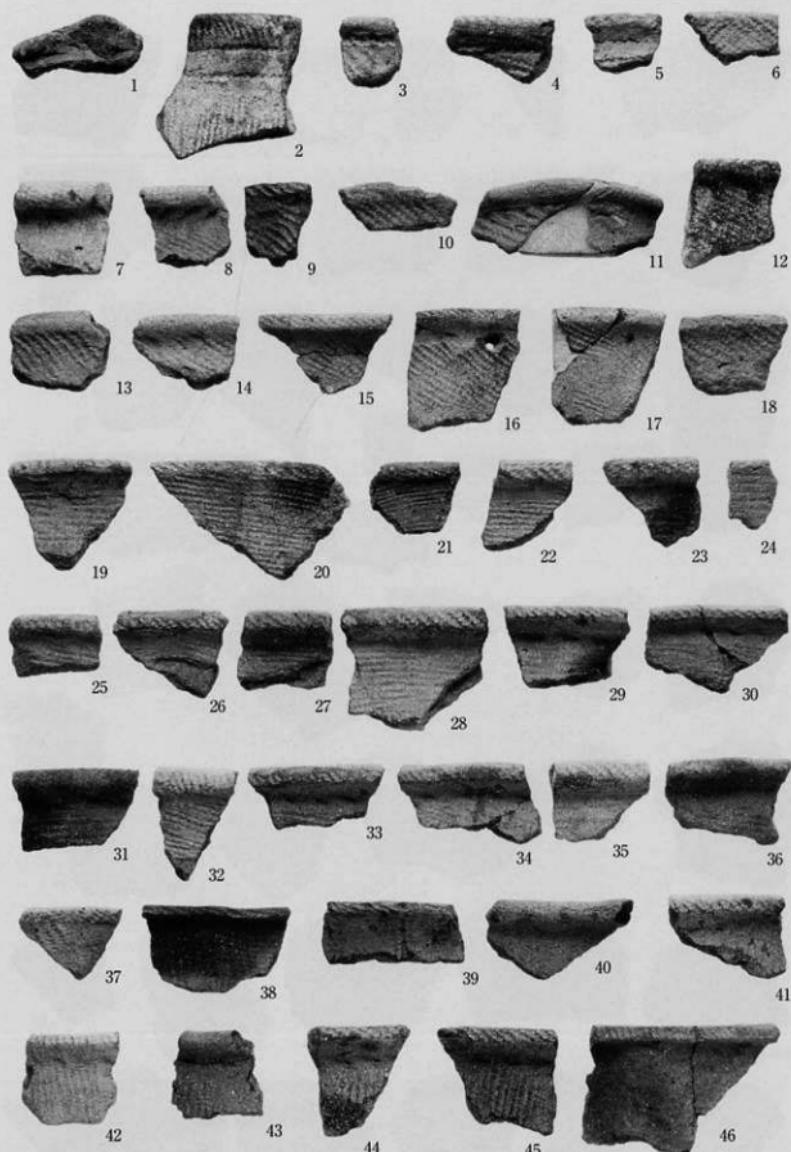
炉穴・陥穴出土縄文土器



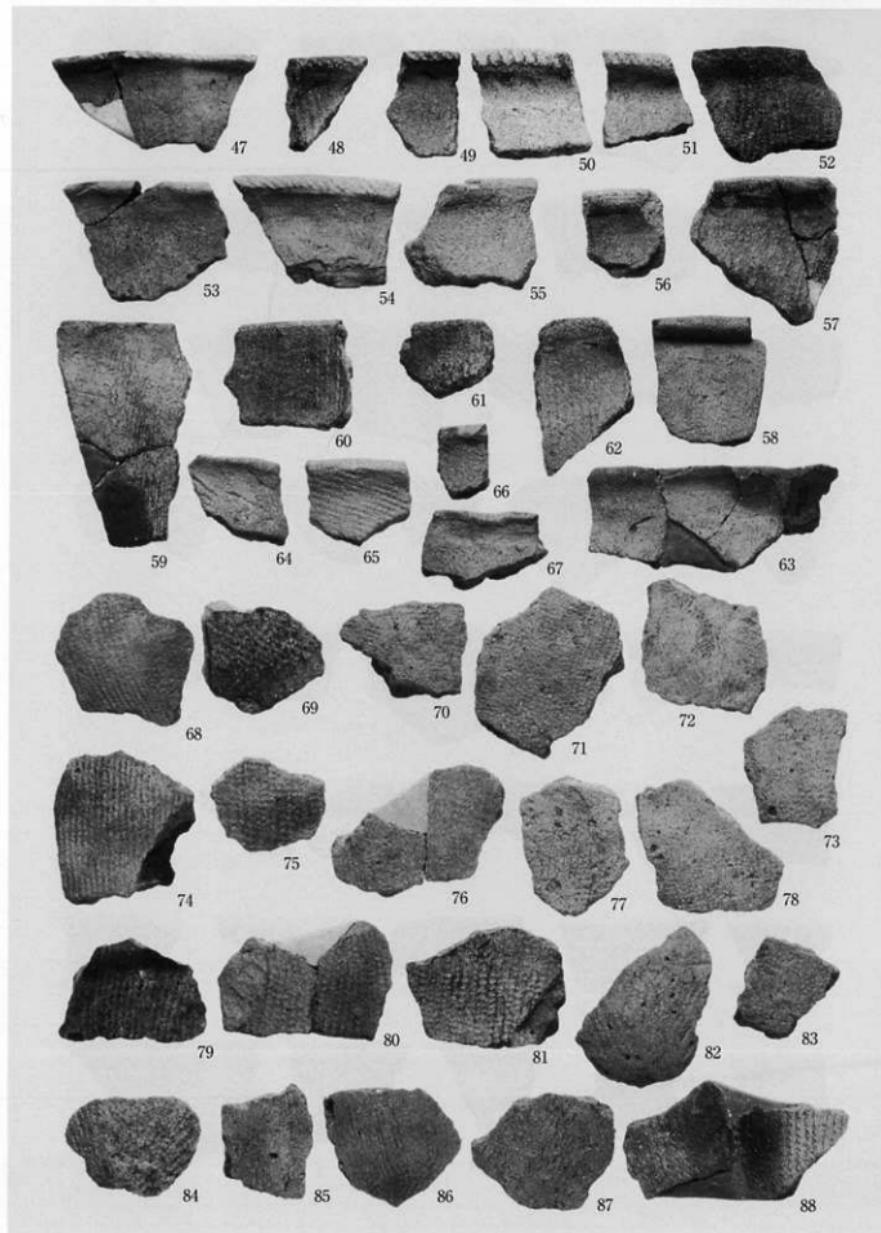
遺構外出土縄文土器（1）（別時代遺構出土）



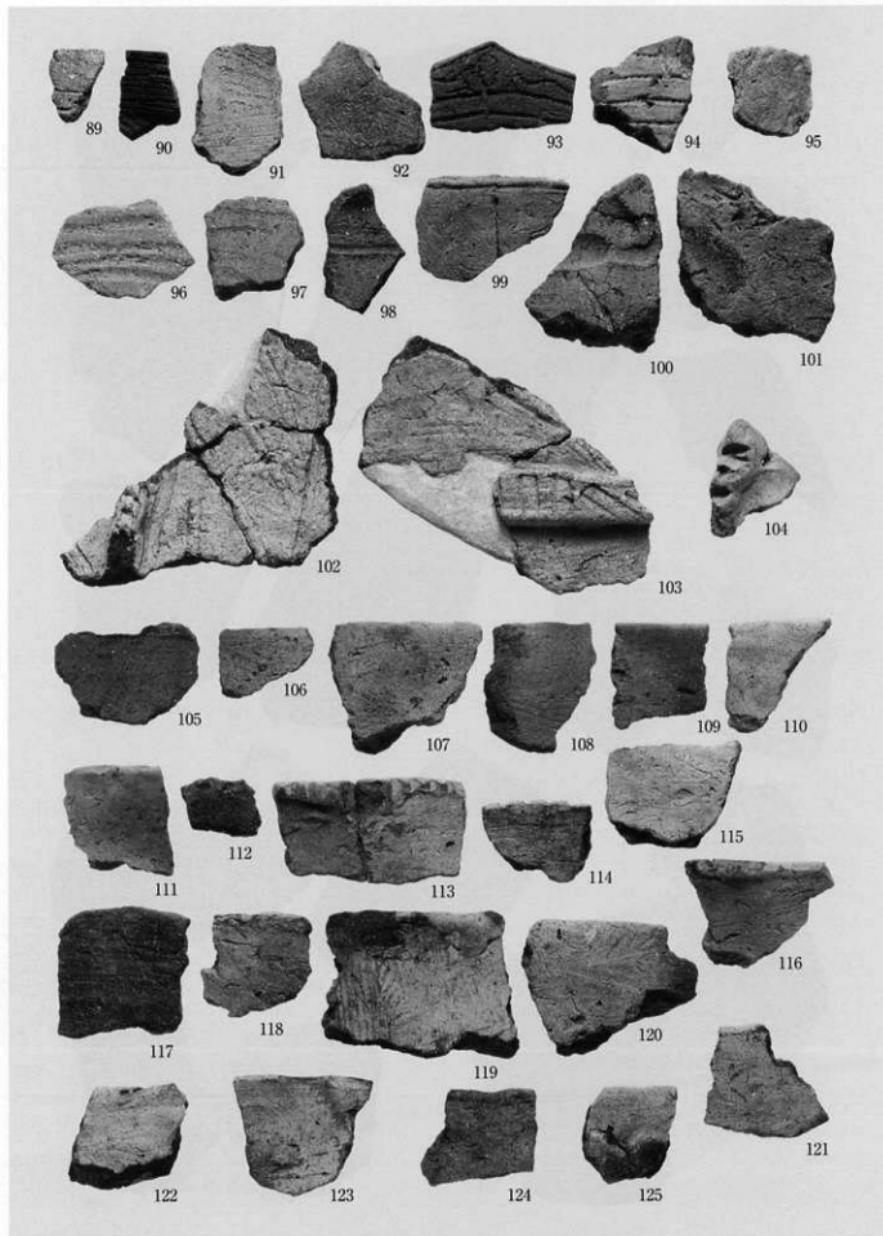
縄文時代土製品



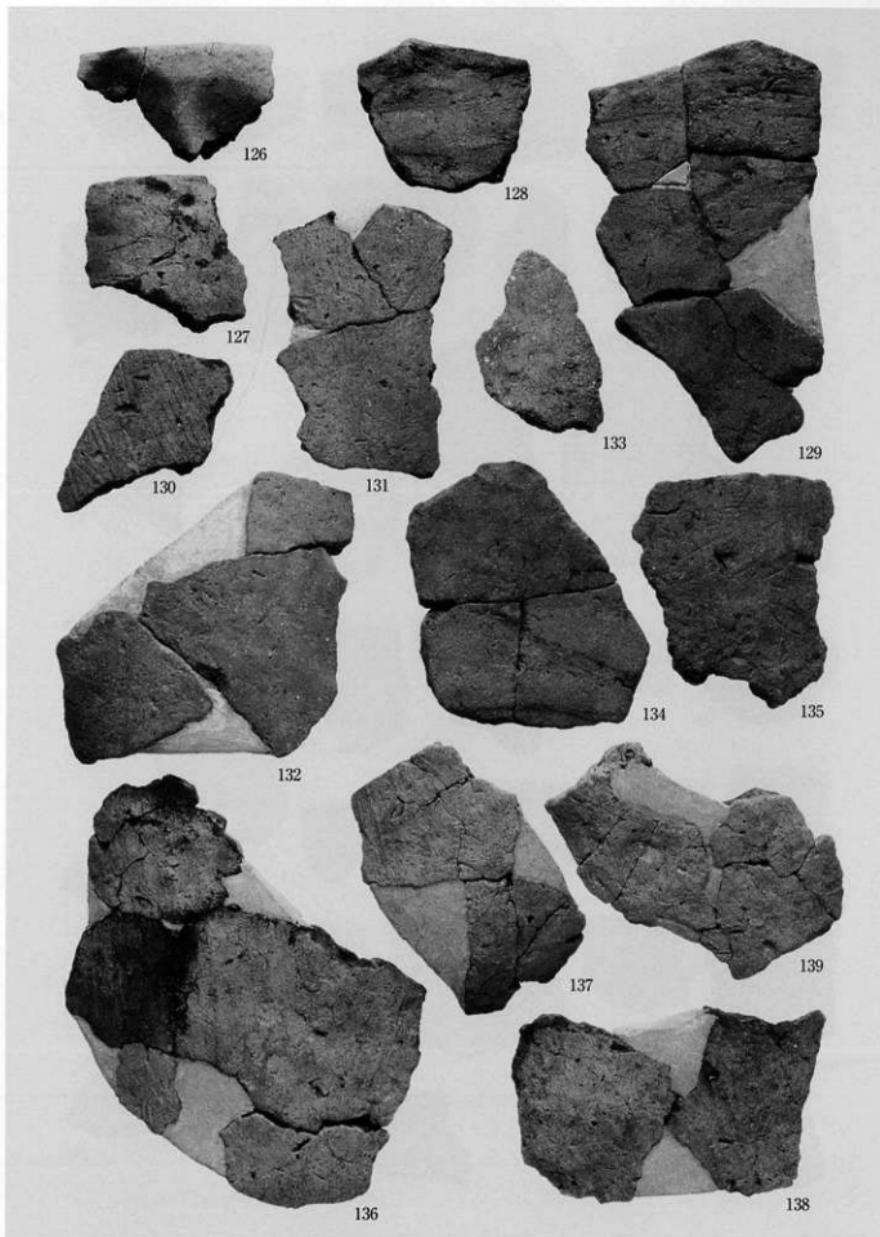
遺構外出土縄文土器（2）（グリッド出土）



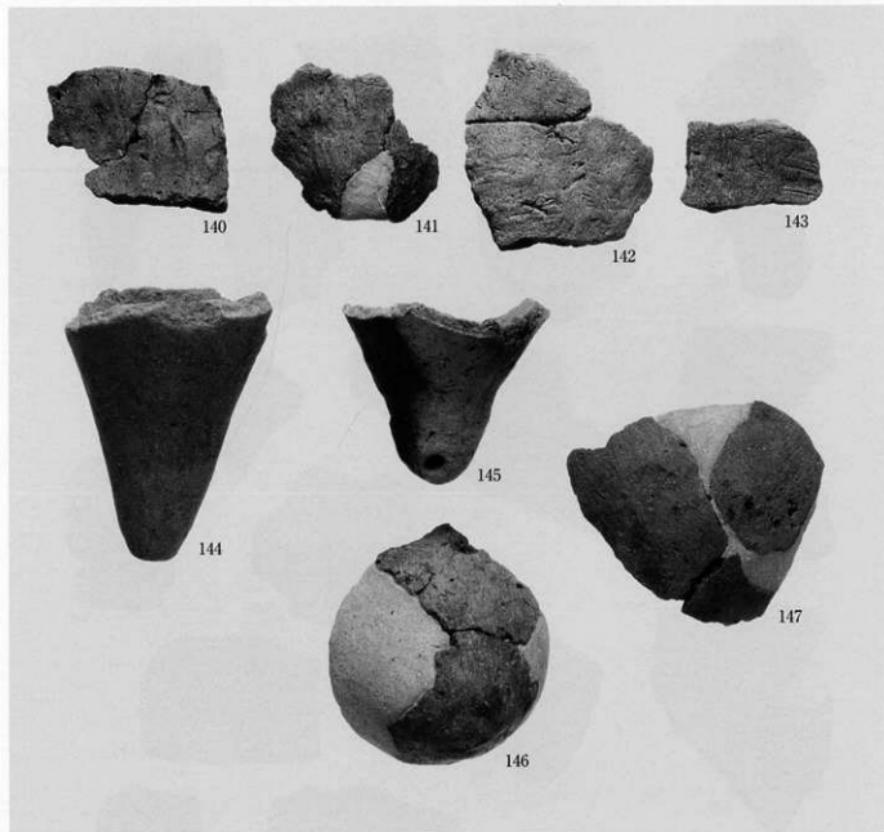
遺構外出土縄文土器（3）（グリッド出土）



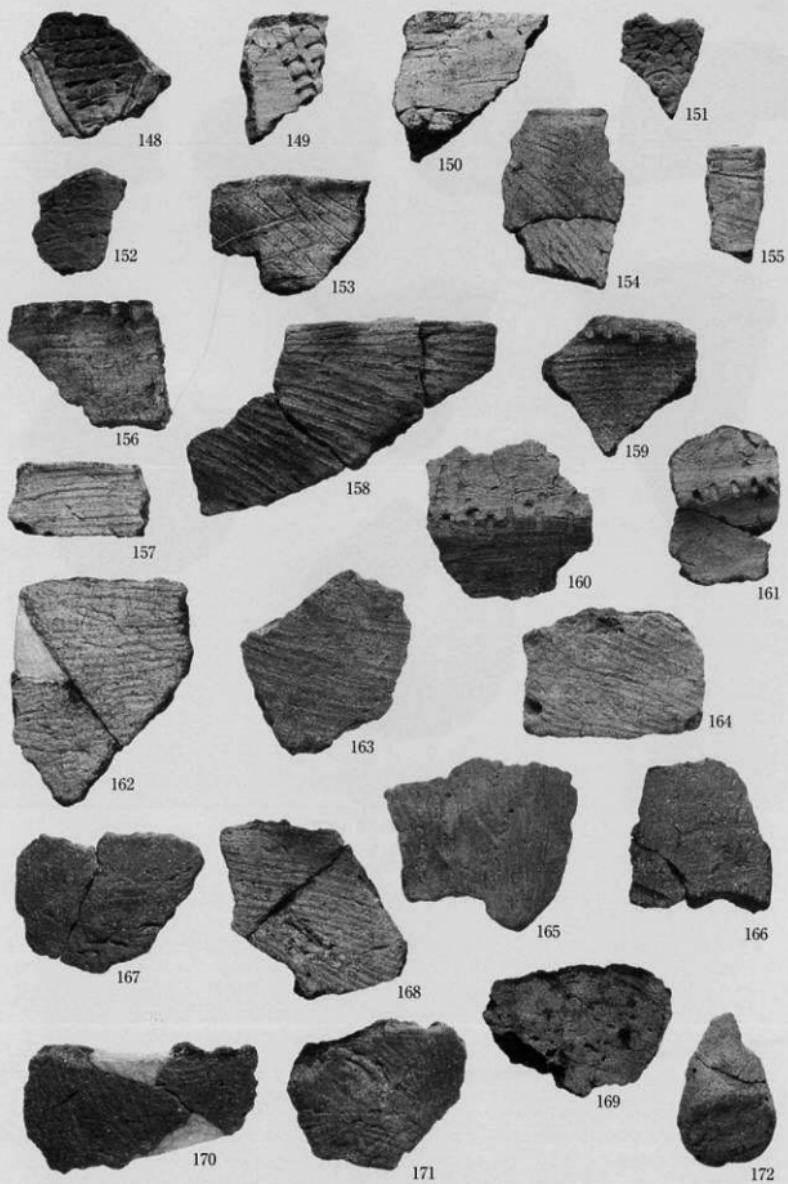
遺構外出土縄文土器（4）①（グリッド出土）



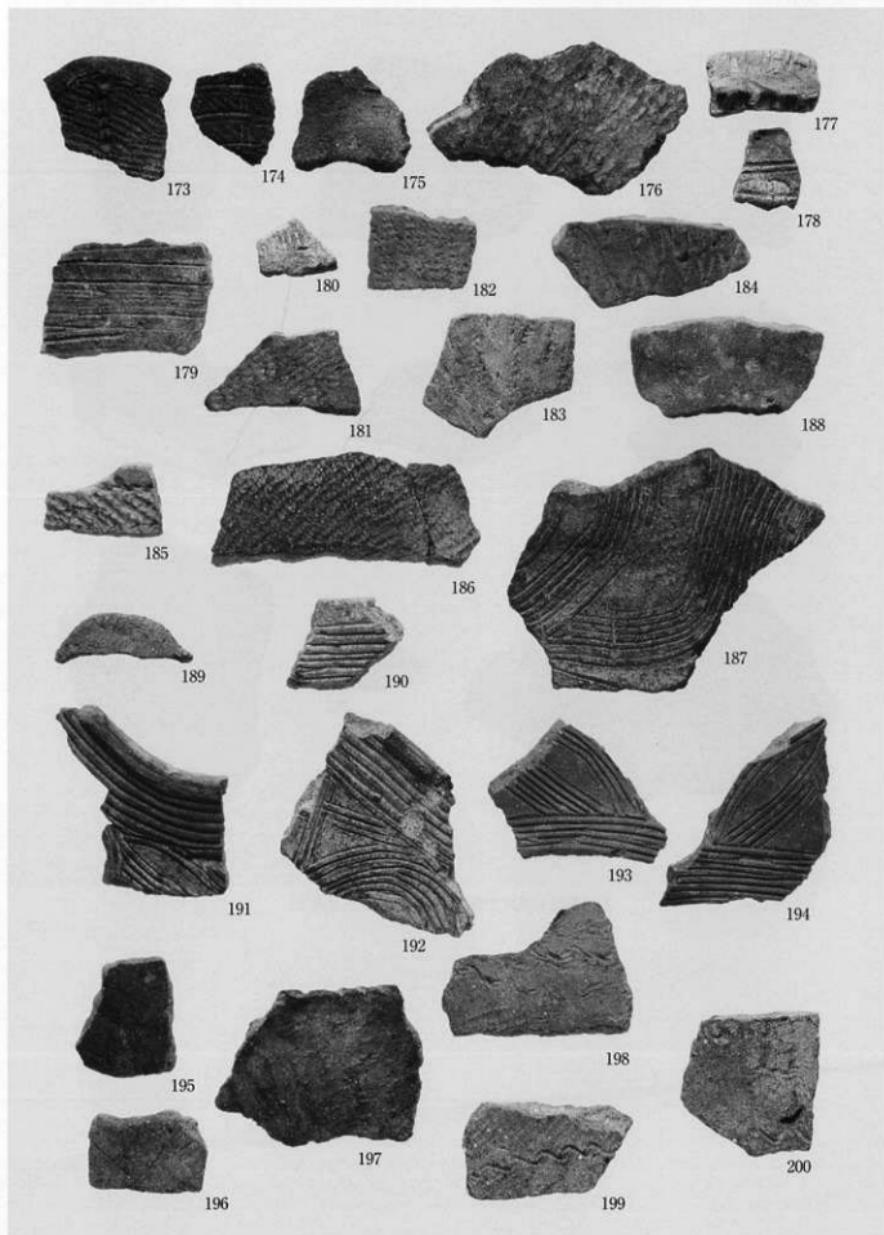
遺構外出土縄文土器 (4) ②・(5) ① (グリッド出土)



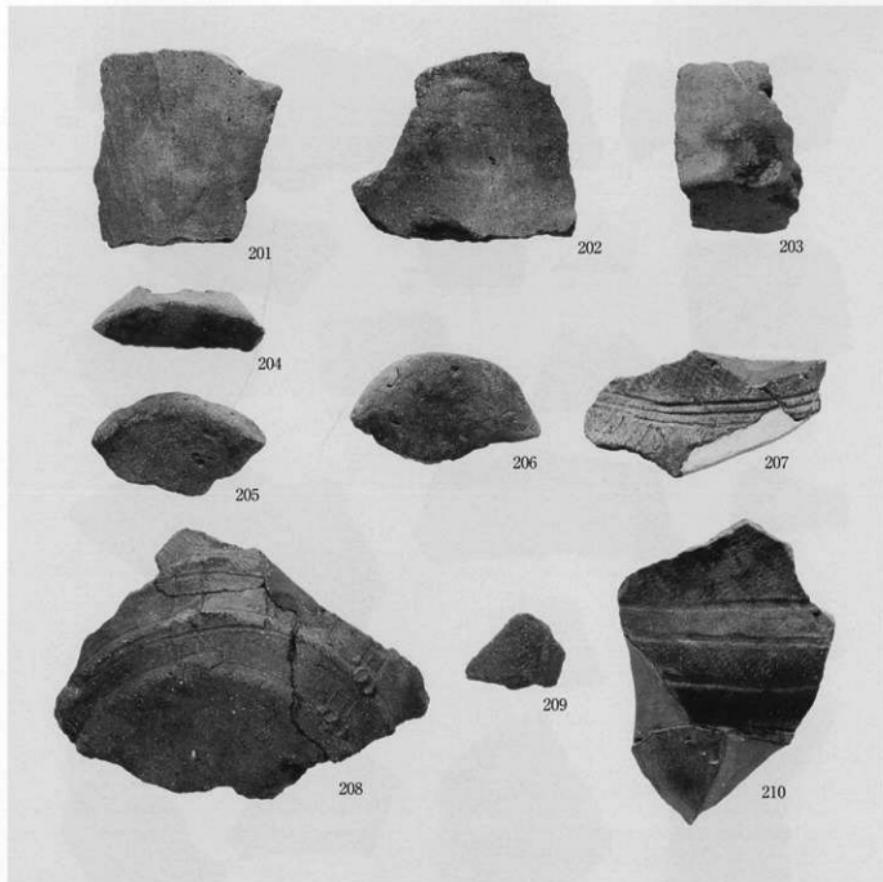
遺構外出土縄文土器（5）②（グリッド出土）



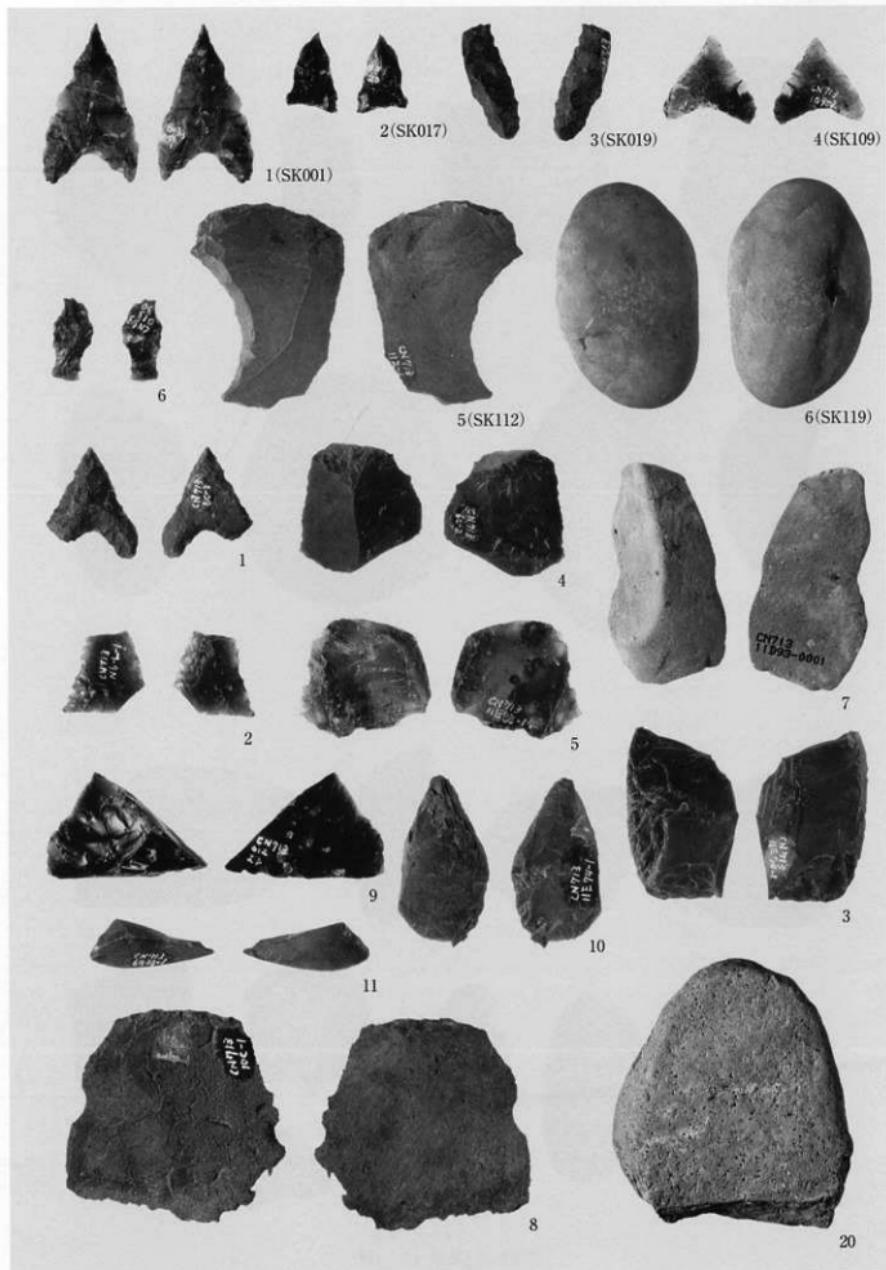
遺構外出土縄文土器（6）（グリッド出土）



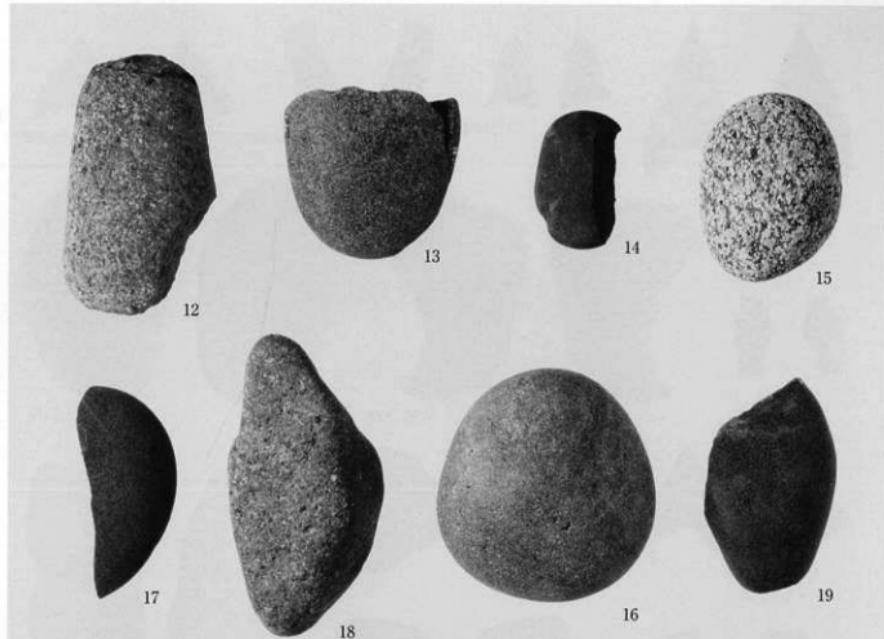
遺構外出土縄文土器（7）①（グリッド出土）



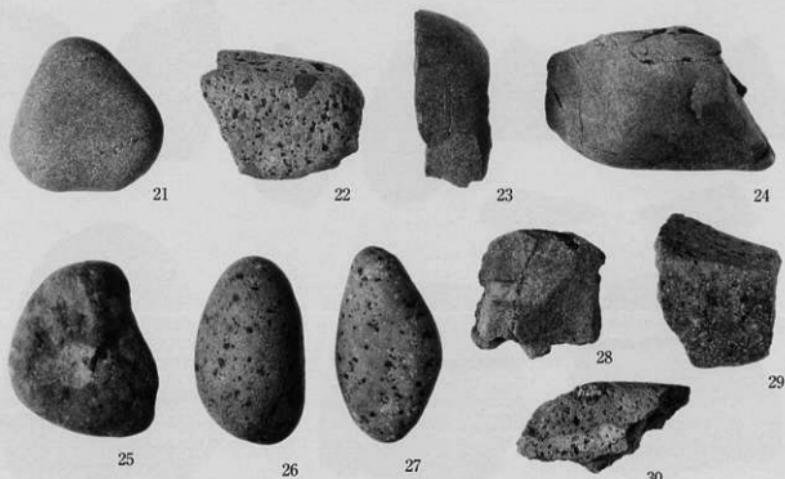
遺構外出土縄文土器 (7) ② (グリッド出土)



縄文時代石器（1）（造構出土・造構外出土（1））



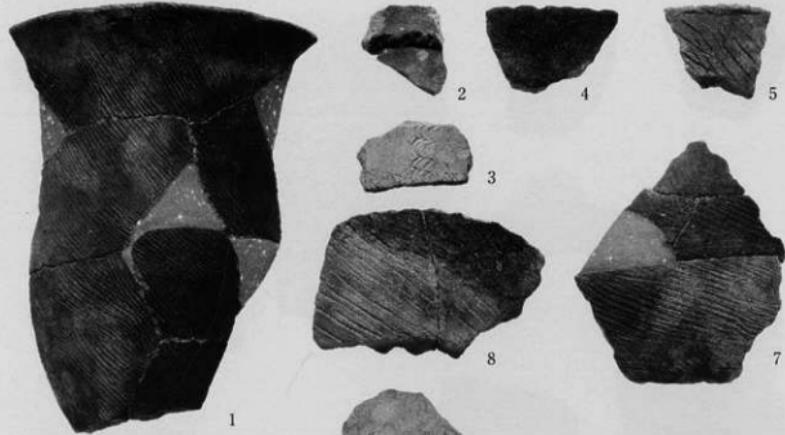
遺構外出土石器（2）



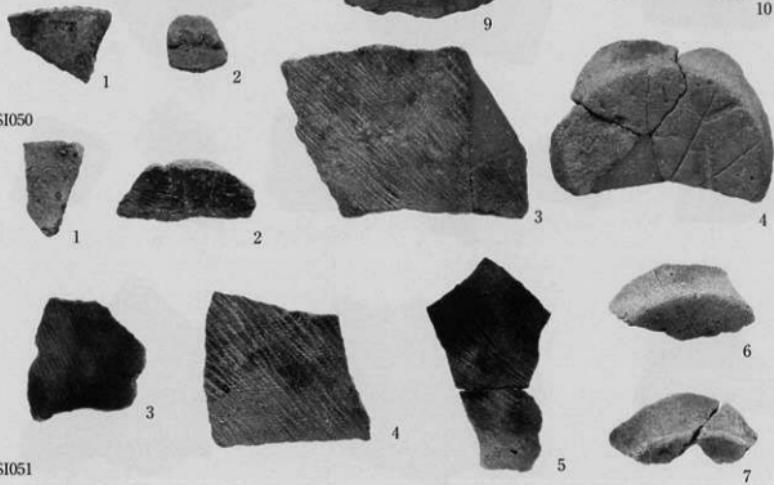
遺構外出土石器（3）（砾）

縄文時代石器（2）

SI048



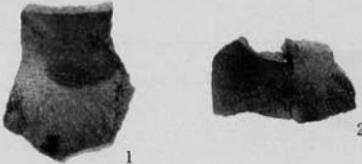
SI049



SI050

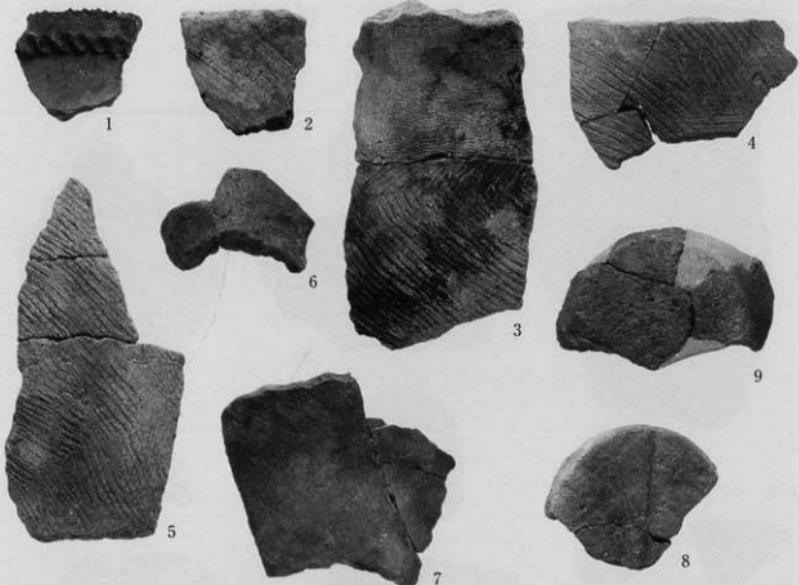


SI051

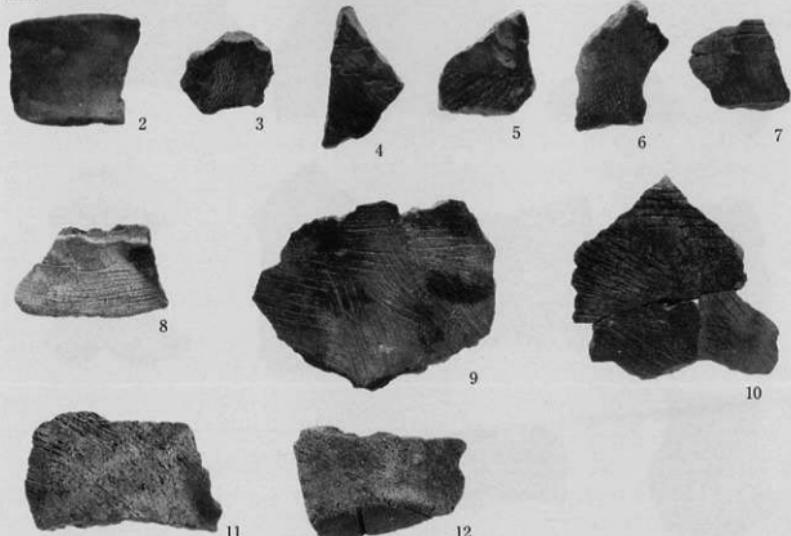


SI048・SI049・SI050・SI051出土土器

SI052

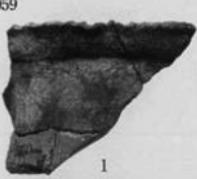


SI053



SI052・SI053出土土器

SI059



1

2

3

4

SI060



1

2

3

5

SI061



1

3

4

7

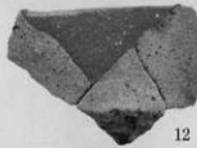


2

11

19

16



12

13

14

15



17

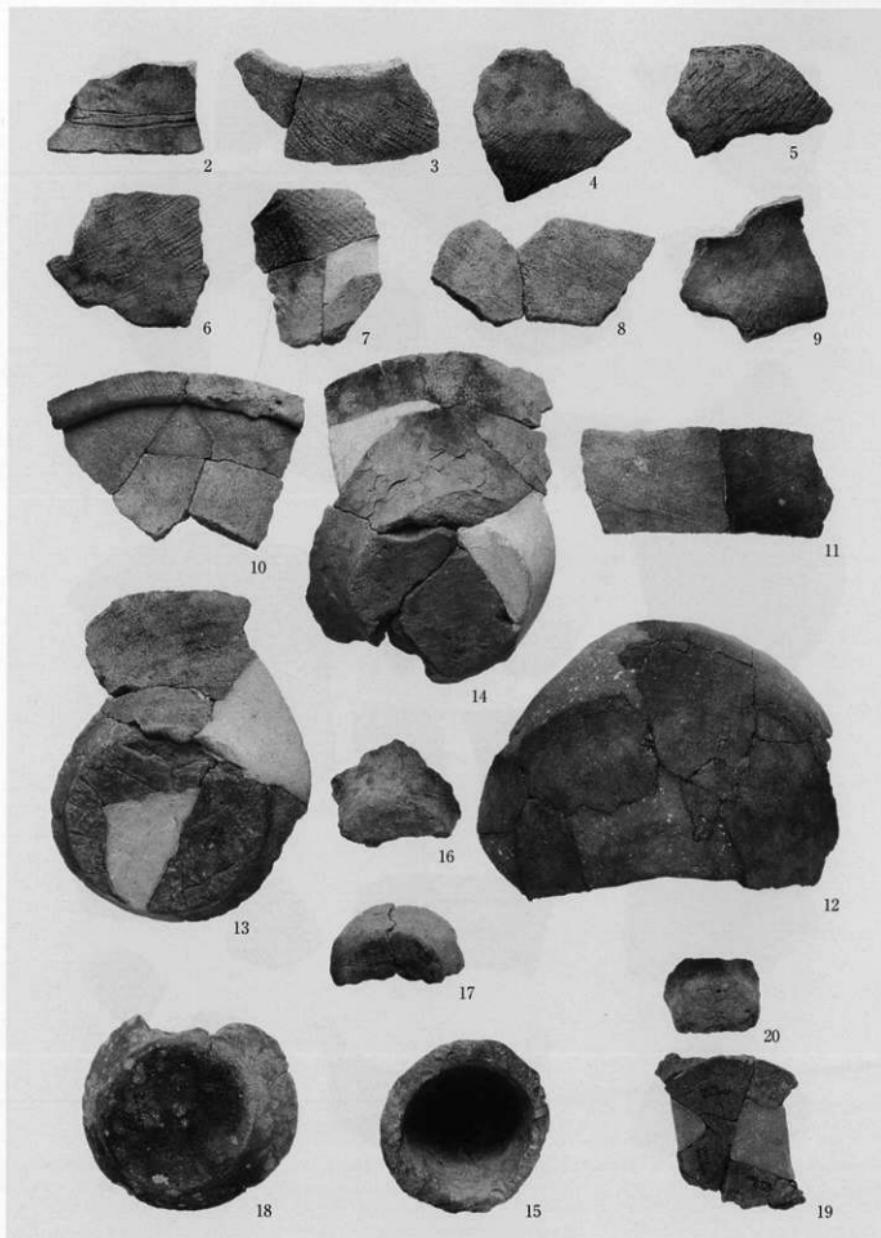
10

20

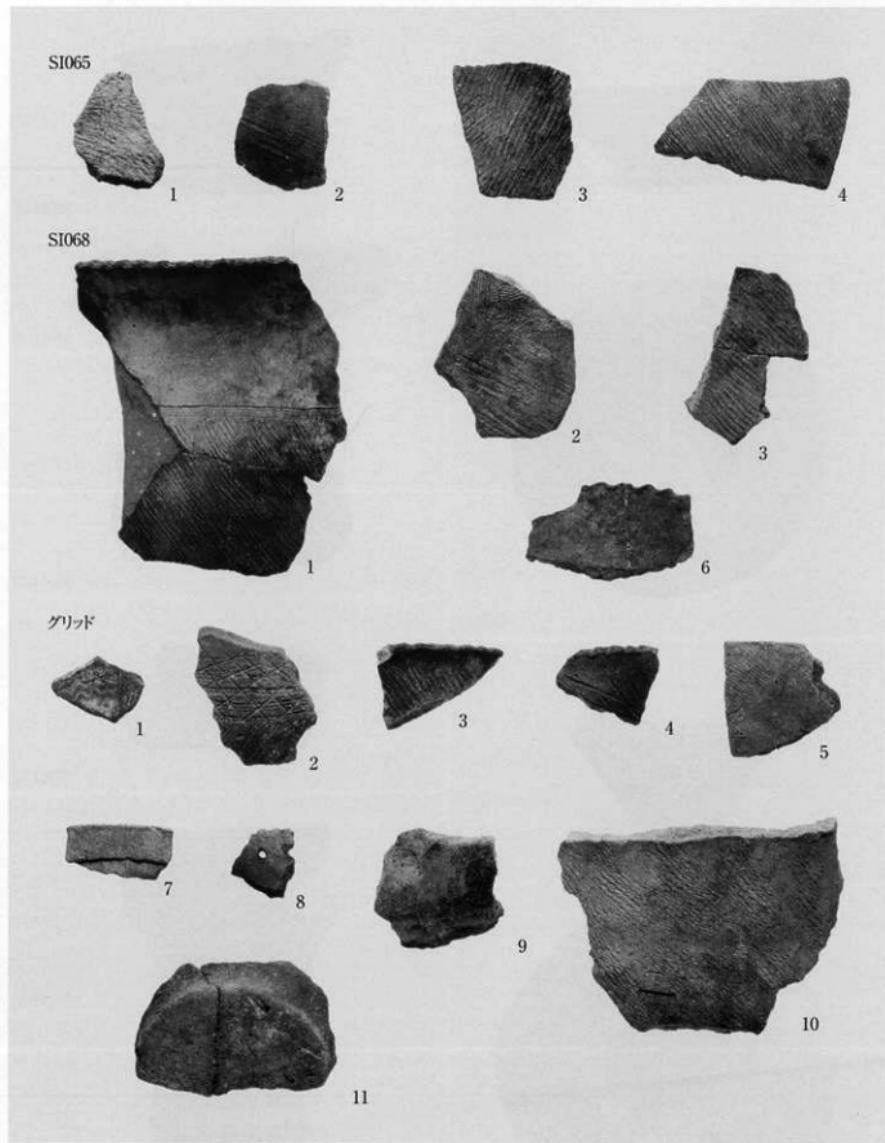


18

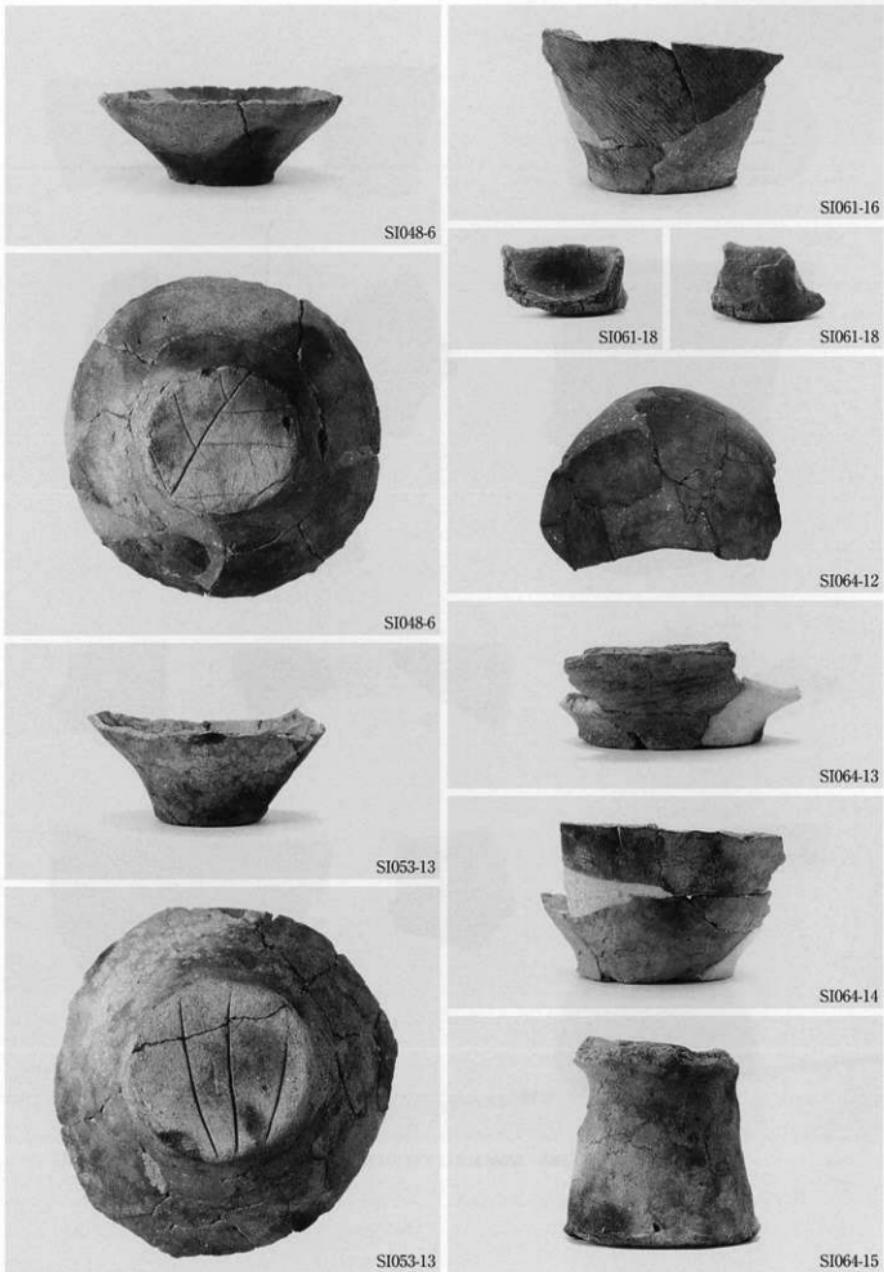
SI059・SI060・SI061出土土器



SI064出土土器



SI065・SI068およびグリッド出土土器



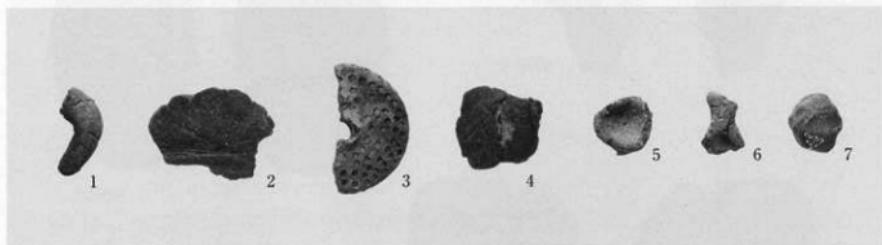


SI053-1

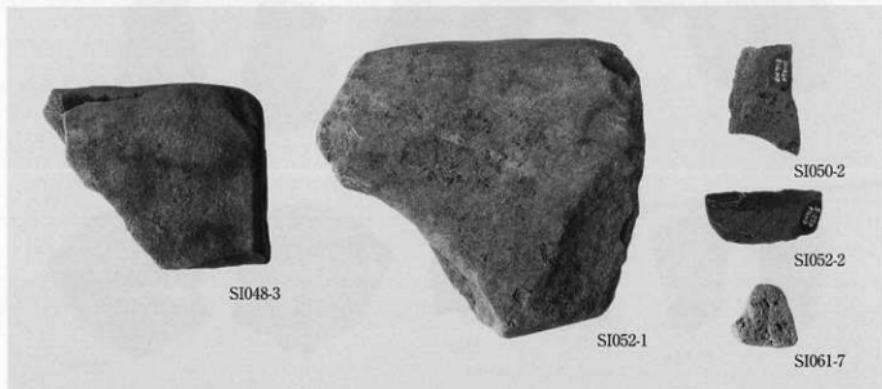


SI064-1

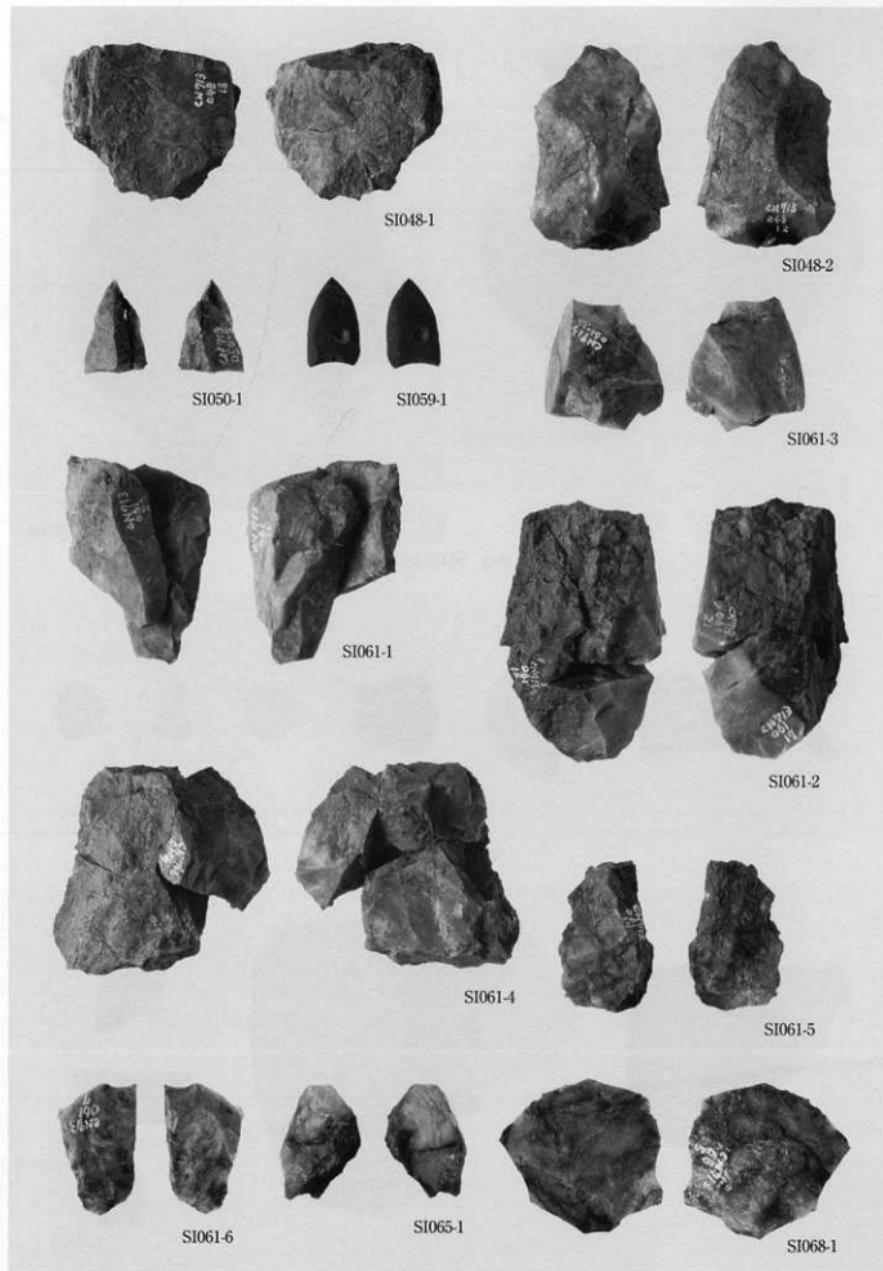
SI053・064出土土器



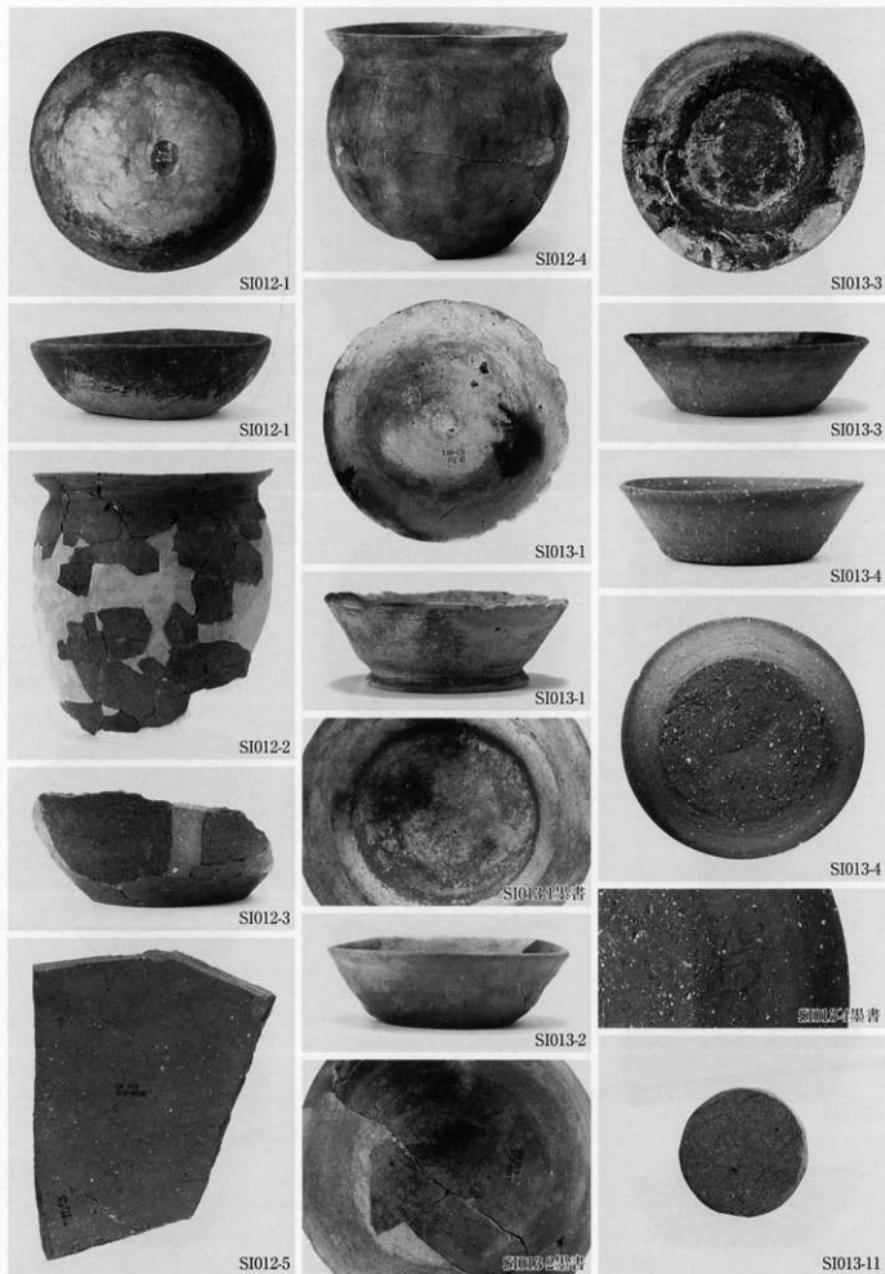
弥生時代土製品



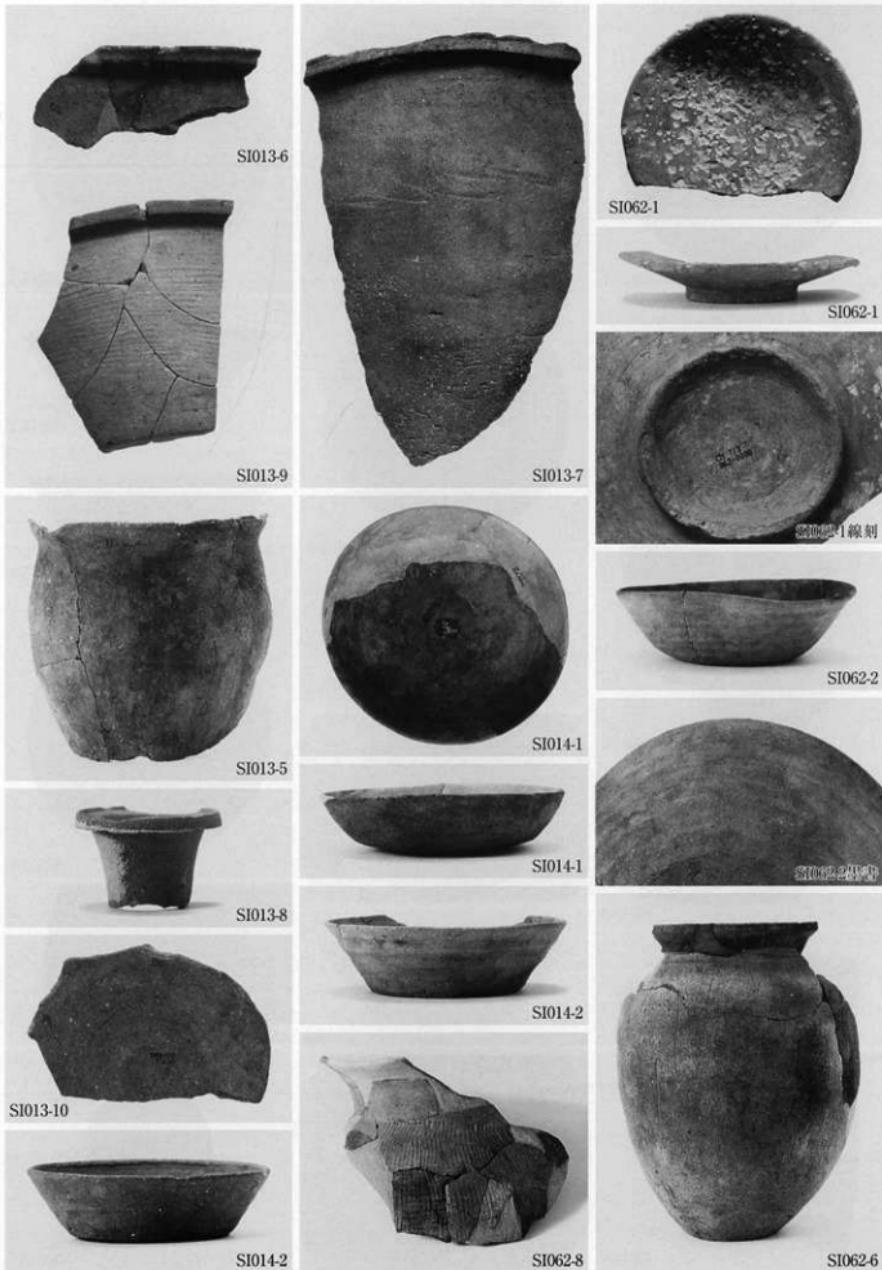
弥生時代石製品（2）



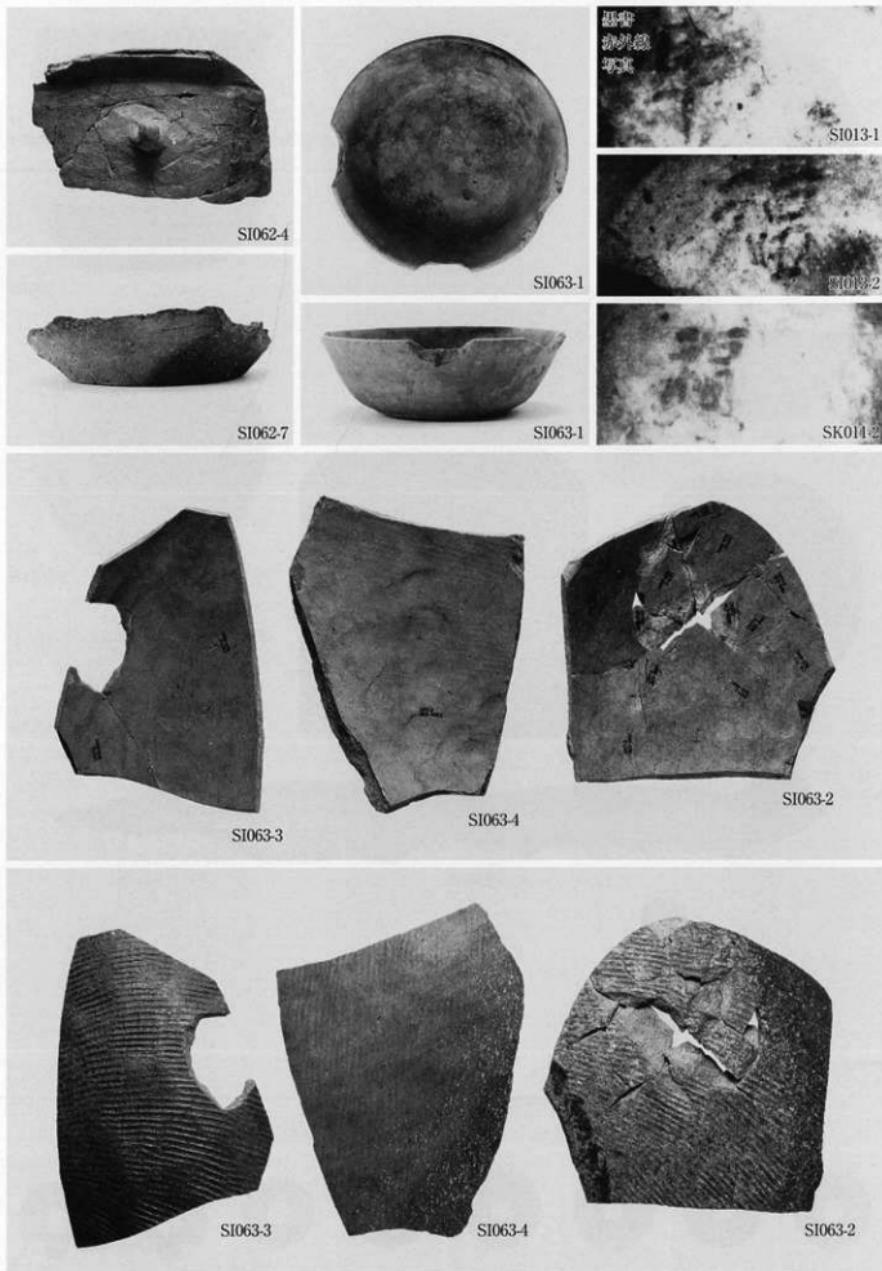
弥生時代石製品（1）



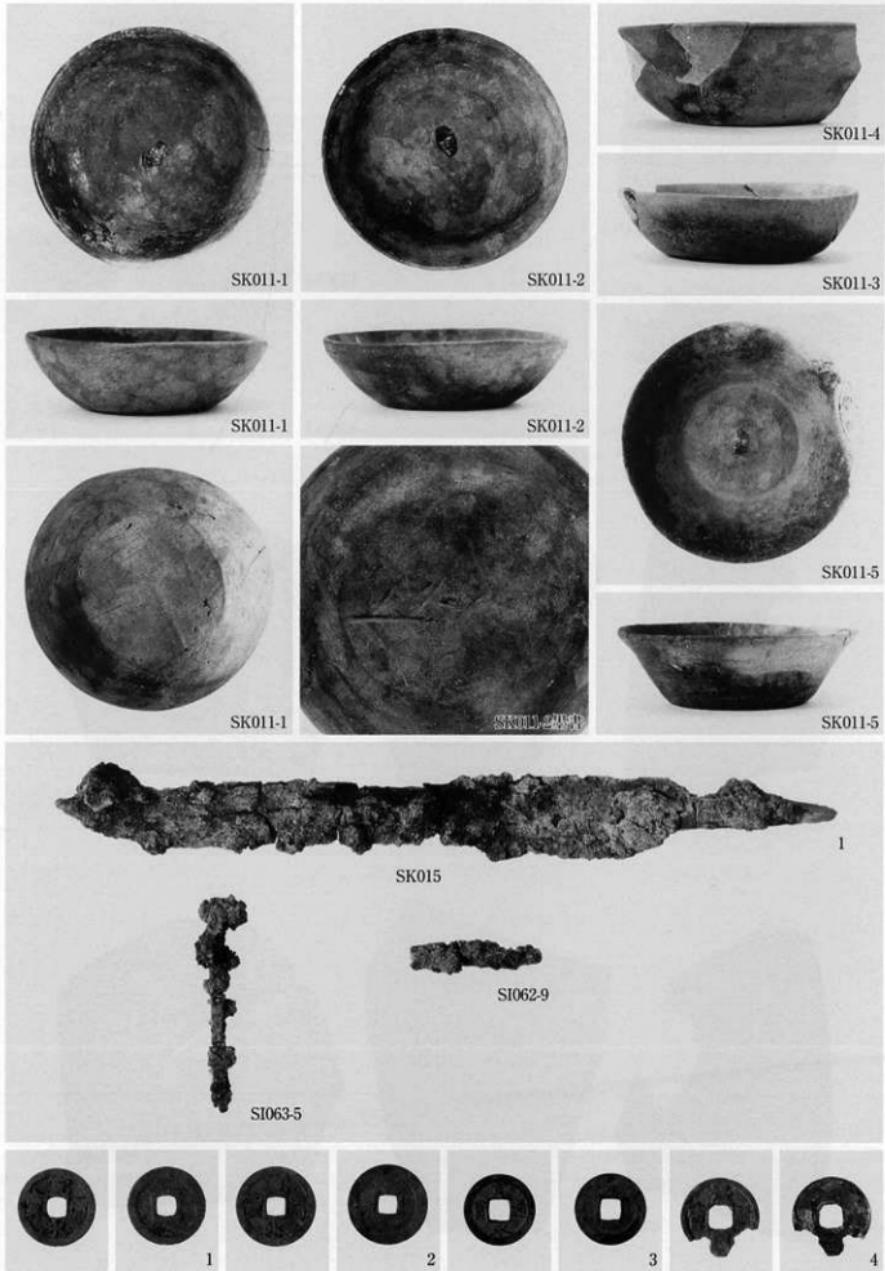
SI012・013出土遺物



SI013・014・062出土遺物



SI062・063出土遺物・墨書赤外線写真



報告書抄録

千葉県教育振興財団調査報告第621集

千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書 XX I

—印旛村向辺田遺跡—

平成21年3月25日発行

編集 財団法人 千葉県教育振興財団
文化財センター

発行 独立行政法人都市再生機構千葉地域支社
千葉ニュータウン事業本部
千葉県印西市中央南1-501

財団法人 千葉県教育振興財団
千葉県四街道市鹿渡809番地の2

印刷 株式会社 弘文社
千葉県市川市市川南2丁目7番2号
